

第7章 調査成果の整理とまとめ

矢田遺跡住居一覧表

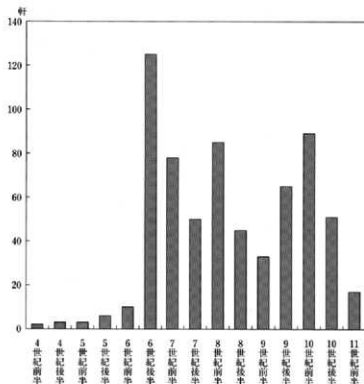
時期	住居番号	該当する住居番号および報告書番号	軒数
縄文時代	541-V 574-IV 578-IV		3
4世紀前半	638-V 643-IV		2
4世紀後半	43-IV 54-IV 591-IV		3
5世紀前半	359-IV 633-IV 659-IV		3
5世紀後半	325-VI 365-VIII 375-VIII 382-VI 394-VI 751-VIII		6
6世紀前半	31-VI 53-VI 326-VI 332-VI 442-V 548-VI 561-VI 610-IV 680-IV 669-V		10
6世紀後半	5-V 7-V 14-VI 15-VI 17-VI 38-V 39-V 56-V 58-V 59-V 62-V 65-V 68-V 77-VI 89-VI 100-V 102-V 105-VI 106-V 111-V 114-VI 117-VI 119-VI 127-VI 129-VI 148-VI 152-V 155-V 157-VI 160-VI 162-VI 164-VI 165-VI 167-VI 168-VI 171-VI 173-VI 193-VIII 199-VI 214-VI 217-VI 220-VI 239-VI 259-VI 262-VI 283-VI 291-VIII 295-VI 302-VI 305-VI 312-VI 333-VI 342-VI 346-VI 348-VI 350-VI 361-VIII 363-VI 368-VI 370-VI 387-VI 388-VI 389-VI 393-VI 395-VI 396-VI 397-VI 417-VI 419-IV 420-VI 443-V 444-V 445-V 453-IV 460-V 462-IV 467-IV 469-IV 471-V 478-IV 481-IV 489-V 492-V 498-IV 499-IV 500-V 505-IV 508-V 511-IV 518-V 521-V 523-V 524-V 528-V 529-V 539-VI 540-IV 553-IV 556-IV 558-IV 567-IV 580-V 581-VI 582-VI 588-VI 589-VI 592-IV 606-VI 607-VI 609-IV 619-IV 623-IV 642-IV 658-IV 668-VI 673-IV 678-V 683-V 691-VI 702-VI 703-VI 706-IV 719-VI 723-VI 725-VI	125	
6世紀	30-VI 178-VIII 544-VI 545-VI 573-VIII 602-VI 650-VI 685-VI 690-VI 693-VI 696-VI		11
7世紀前半	2-VII 34-V 41-V 44-V 45-V 49-V 104-V 107-VI 149-IV 150-V 153-V 156-VI 175-VI 194-VI 210-VI 238-VI 245-VI 251-VI 256-VI 258-VI 267-VI 278-VI 303-VI 319-VI 321-VI 327-VI 330-VI 338-VI 344-VI 345-VI 347-VI 371-VI 411-VIII 432-V 433-V 446-V 448-V 450-IV 456-V 466-IV 485-V 486-V 491-V 502-V 504-V 506-V 509-V 510-V 520-V 533-V 536-IV 564-IV 566-IV 575-IV 576-IV 584-VI 603-VI 613-IV 615-IV 620-IV 625-IV 626-IV 631-IV 632-IV 635-IV 637-V 666-V 674-IV 677-V 682-V 686-V 689-VI 692-VI 694-VI 695-VI 698-VI 699-VI 741-VIII	78	
7世紀後半	6-V 9-VII 10-VII 18-VI 26-VIII 93-VII 108-VI 128-VIII 147-VI 166-VIII 232-VI 286-VIII 307-VI 310-VI 328-VI 351-VI 360-VII 362-VI 369-VIII 412-VI 416-VI 440-VII 452-VII 463-VIII 468-VIII 470-VIII 472-VI 474-VIII 484-VIII 494-VI 501-VIII 503-VIII 537-VIII 538-VI 542-VIII 601-VI 636-VII 640-V 672-IV 680-V 681-V 714-VII 715-VIII 718-VI 722-VIII 724-VIII 726-VI 729-VIII 734-VII 738-VI	50	
7世紀	22-VI 28-VIII 35-VIII 161-VIII 255-VI 404-VI 414-VIII 547-VI 579-VI		9
6～7世紀	67-V 352-VI 385-VI 401-VI 423-VI 437-V 441-V 562-IV 587-VI 612-IV 644-IV 687-VI 700-VI 708-VI		14
8世紀前半	11-VIII 19-VIII 24-VIII 25-VIII 29-VIII 80-VIII 82-VIII 88-VIII 95-VIII 96-VIII 131-VIII 136-VIII 169-VIII 170-VIII 174-VIII 180-VIII 189-I 222-VIII 224-VIII 241-VIII 247-VIII 253-VIII 254-VIII 273-VIII 299-VIII 315-VIII 336-VIII 341-VIII 373-VIII 378-VIII 380-VIII 390-VIII 399-VIII 409-VIII 429-VIII 431-VIII 436-VIII 438-VIII 439-VIII 447-VIII 455-VIII 458-VIII 473-VIII 487-VIII 488-VIII 493-VIII 496-VIII 507-VIII 516-VIII 522-VIII 527-VIII 543-VIII 546-VIII 550-VIII 551-VIII 552-VIII 559-VIII 560-VIII 565-VIII 572-VIII 583-VIII 593-VIII 599-VIII 605-VIII 611-VIII 614-VIII 617-VIII 618-VIII 628-VIII 634-VIII 639-VIII 645-VIII 671-VIII 701-VIII 710-VIII 713-VIII 727-VIII 730-VIII 731-VIII 732-VIII 733-VIII 737-VIII 744-VIII 745-VIII	84	
8世紀後半	57-III 61-VIII 81-VIII 83-I 84-VIII 91-I 110-VIII 112-VIII 116-VIII 120-VIII 159-VIII 163-II 172-VIII 176-VIII 179-VIII 187-VIII 246-VIII 248-VIII 252-VIII 322-VIII 323-VIII 349-VIII 354-II 364-II 381-VIII 386-II 392-VIII 410-II 413-VIII 435-III 490-VIII 555-VIII 557-VIII 577-VIII 616-VIII 627-VIII 641-VIII 648-VIII 649-VIII 655-VIII 665-VIII 717-VIII 728-VIII 742-VIII 746-VIII	45	
8世紀	185-VIII 571-VIII 594-VIII 598-VIII 736-VIII 749-VIII		6
9世紀前半	20-VIII 52-III 63-III 75-I 86-I 98-I 145-I 158-II 186-I 188-I 225-I 288-II 296-II 331-I 355-II 357-II 358-II 366-VIII 405-VIII 406-II 415-II 418-II 451-III 459-III 465-III 480-VIII 513-III 622-III 670-III 675-III 688-VIII 704-III 705-II	33	

## 第1節 古墳～平安時代の住居について

時期	住居番号	該当する住居番号および報告書番号	軒数	
9世紀後半	1-II 3-II 23-II 37-I 42-I 46-I 51-III 66-III 69-III 87-I 118-II 143-I		65	
	201-I 216-II 244-III 260-I 261-I 270-I 272-I 287-II 289-II 297-II			
	298-II 309-I 337-II 340-II 343-II 353-II 356-II 372-II 391-II 402-II			
	421-II 425-II 430-III 461-III 476-III 477-III 482-III 495-III 526-III 535-III			
	549-III 554-III 563-III 568-III 570-III 585-III 590-III 595-III 596-III 600-III			
	624-III 646-III 647-III 651-III 652-III 654-III 656-III 657-III 676-III 679-III			
	697-III 711-III 716-III			
	146-II			
	9世紀			1
	10世紀前半	4-II 12-II 13-II 16-II 48-I 60-III 64-III 70-III 71-III 72-III 74-III 76-I		
78-I 99-II 113-II 123-I 124-II 126-II 132-II 134-I 139-I 140-I 151-III				
154-III 177-II 183-I 184-II 198-I 206-I 206-II 208-I 209-I 212-II 212-III				
218-II 219-II 223-III 227-I 231-I 235-I 236-I 237-I 234-II 249-II				
257-II 264-I 265-I 266-I 268-I 269-I 271-I 281-I 282-I 284-I				
285-I 293-II 306-I 317-I 335-I 367-II 374-II 377-II 384-II 400-II				
407-II 424-II 426-II 434-II 449-III 454-III 457-III 464-III 479-III 483-III				
512-III 514-III 515-III 517-III 519-III 531-III 532-III 534-III 608-III 661-III				
662-III 663-III 667-III 709-III 720-III 747-III				
10世紀後半		21-II 33-I 36-I 40-I 55-III 85-II 92-I 94-I 97-I 101-I 109-II		51
	115-II 122-I 125-II 138-I 144-I 181-III 182-I 205-I 211-II 213-VII			
	221-I 228-I 230-I 234-I 263-I 280-I 290-II 292-II 294-II 300-I			
	308-I 313-III 314-I 316-I 318-I 320-II 324-II 334-II 339-II 379-II			
	383-II 398-III 403-II 428-III 475-III 530-III 630-VII 653-III 664-III 684-III			
	47-I			
	73-III 142-I 190-VII 191-I 203-II 207-I 275-I 525-III 586-III 621-III			
	8-I 50-I 79-I 90-I 121-I 121-II 130-II 133-I 135-I 137-I 141-I 226-I			
	229-I 233-I 274-I 276-I 277-I 408-II			
	時期不明	27-VII 32-VII 103-VII 192-VII 195-VII 204-VII 215-VII 242-VII 243-VII 279-VII 301-VII		
422-VII 427-VII 497-VII 569-VII 597-VII 712-VII 721-VII 735-VII 740-VII 743-VII				
時期不明 (住居状態不)	1-VII 2-VII 4-VII 6-VII 7-VII 10-VII 11-VII 13-VII 14-VII 15-VII 17-VII 23-VII		13	
合計軒数			750	

時期別住居軒数

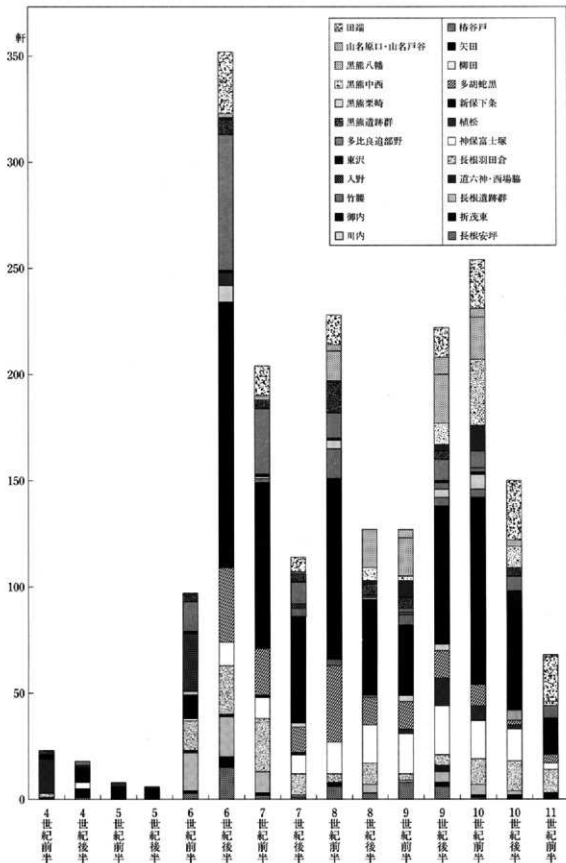
時期	住居軒数
4世紀前半	2
4世紀後半	3
5世紀前半	3
5世紀後半	6
6世紀前半	10
6世紀後半	125
7世紀前半	78
7世紀後半	50
8世紀前半	85
8世紀後半	45
9世紀前半	33
9世紀後半	65
10世紀前半	89
10世紀後半	51
11世紀前半	17
合計	662軒



第575図 時期別住居軒数



第1節 古墳～平安時代の住居について



第576図 吉井町+高崎市山名 (推定古代多胡郡内) 時期別・遺跡別住居数



紀後半に住居が集中しないように心掛けて編年を組み立ててみたが、やはり極端な住居数の増加という結果となっている。このような現象が他の周辺遺跡ではどのようになっているのかを調べたのが前の表と第576図である。表や図で明らかなように6世紀以降から集落が形成され始める遺跡が多く、それ以前より継続している集落においては6世紀を境に住居数が倍増していることが指摘できる。単純に住居数の増加が人口の増加を意味するならば、5世紀から6世紀にかけて爆発的な人口の増加があったことになる。このことは人口増に見合う経済的な発展がなければ不可能なことであり、そこに急激な生産力の増大が想定出来るのである。この問題については竈の導入や鉄製農具の普及、社会体制の変化等多くの要因が総合的に関係して始めて可能なことと思われる。この問題については別な機会に触れたい。7世紀になると住居数が減少し、その後8世紀前半と10世紀前半に住居数の増加が認められる。しかし10世紀前半まで住居は継続的に40～60軒前後作られているようである。

(単純に25年編年で分割して考えるなら、1時期に20～30軒が7世紀後半から約400年間にわたって造られ続けていたことになる。)

#### (1) 住居の出現と展開

矢田遺跡は縄文時代の3軒の住居が造られてからしばらくの間、人の住んだ形跡は認められない。古墳時代前期になるとわずかな住居が造られ始め、後期に爆発的に増加し平安時代に至るまで700軒以上の住居がほぼ途切れることなく造られてゆく。ここでは古墳時代前期の集落の開始段階から平安時代で竈穴住居が消滅するまでの矢田遺跡の歴史を大きく6段階に分けて考えてみたい。

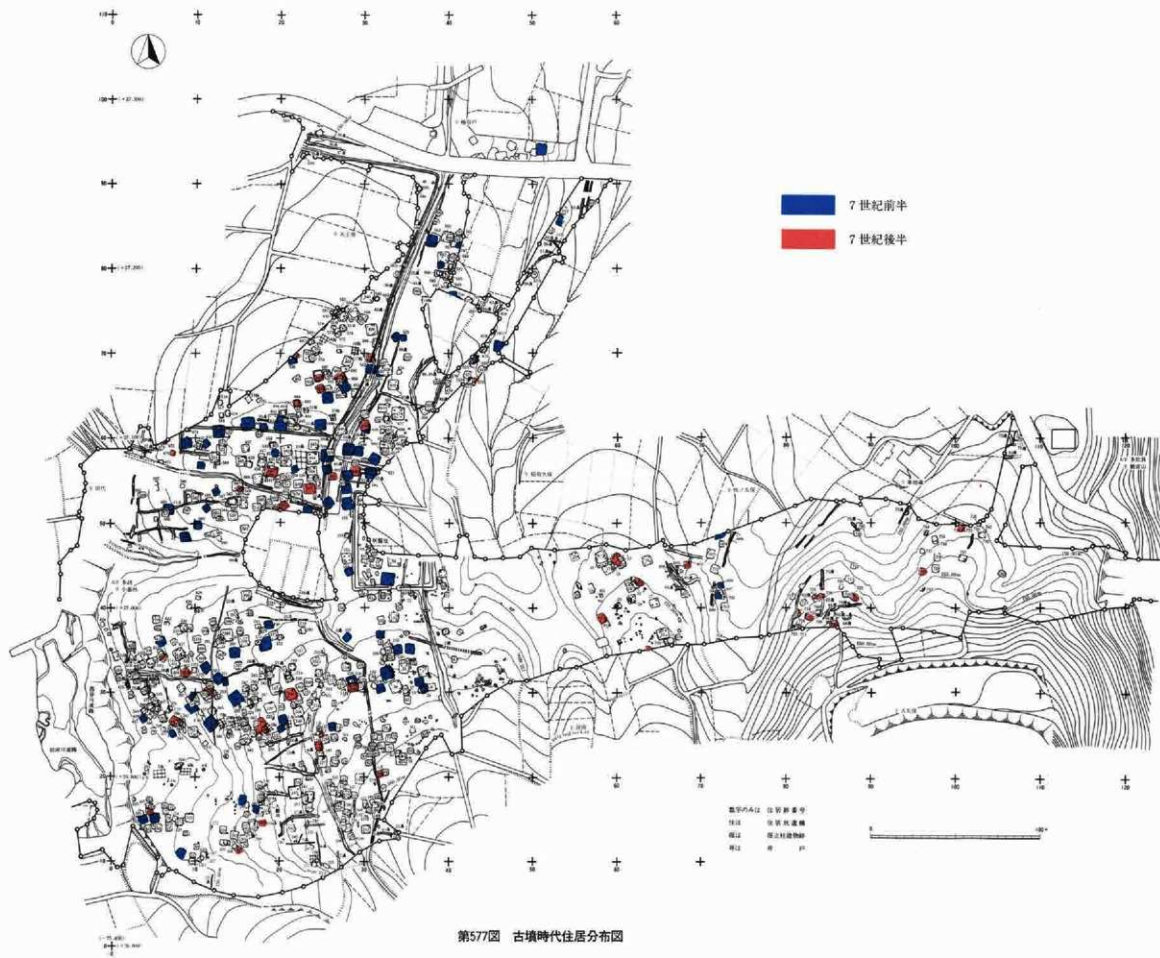
##### 1 居住開始段階(4～5世紀)

縄文時代以降矢田遺跡で住居が造られ始めたのは、古墳時代前期からであり弥生時代の住居は全く発掘されていない。古墳時代で最初に住居が造られたのは4世紀前半代の2軒であった。この2軒は調査区北側に位置し、ほぼ同時期と思われる。しかしなぜか約120mほど離れている。4世紀後半代の住居は3軒となりほぼ南北方向に並ぶ。3軒は前半代の2軒に近接して造られているが、3軒の間の距離は90mと180mとやはり遠く離れている。このように4世紀代の住居は近接することなく現在の道路にほぼ添った形で南北方向にほぼ一直線に配置されたかのような状態で造られていた。

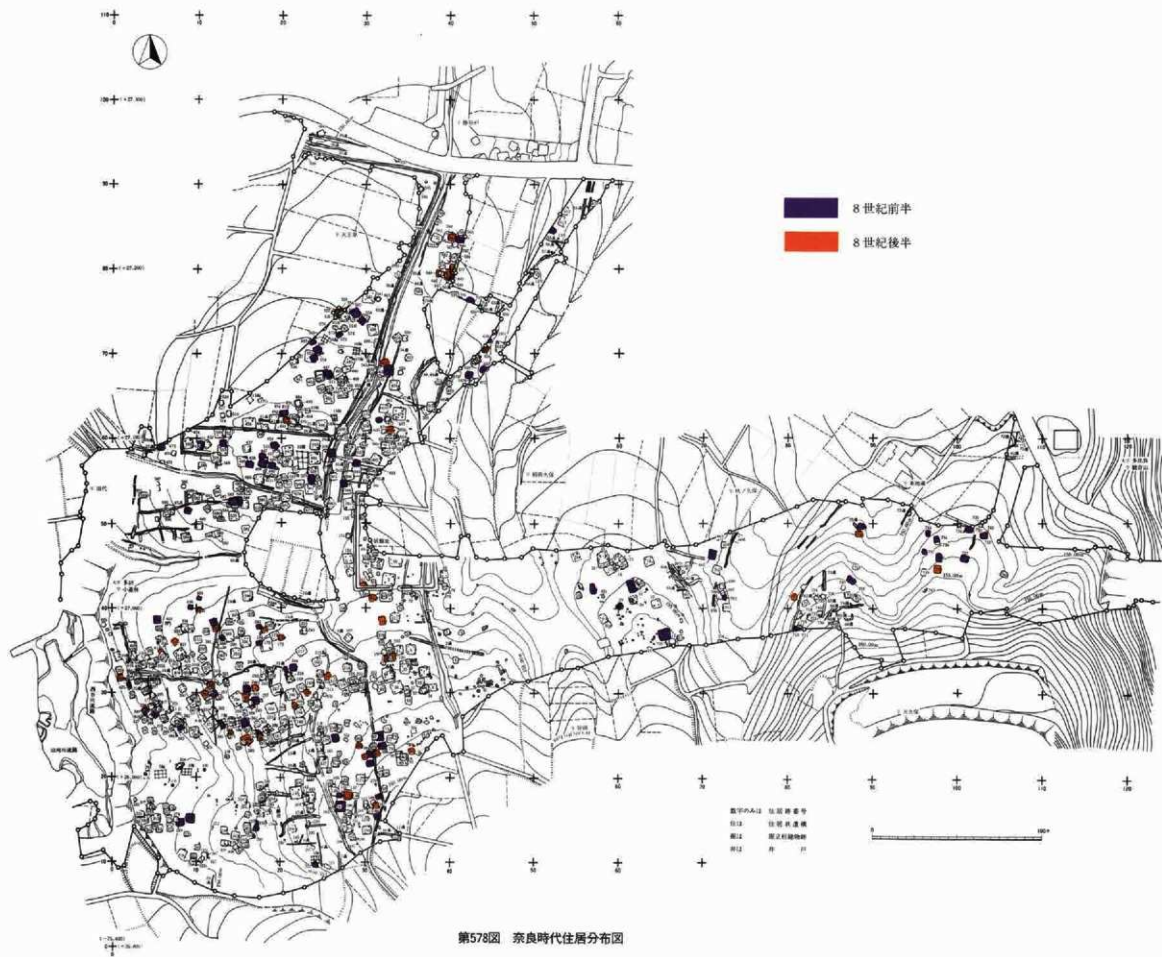
5世紀前半になると4世紀前半に造られた住居の近くに2軒の住居が20mという近い距離につくられるようになる。5世紀後半になると北に一軒と南西地区に近接して5軒造られる。5軒の距離は10m前後と近い。なぜか4世紀代の住居はお互いに遠く離れた場所に造られ、5世紀代になると近接して造られるようになる。

##### 2 居住地域及び住居の大規模展開段階(6世紀～7世紀前半)

わずかな住居が狭い場所に少数造られていた段階から、6世紀前半になると一定の面としての広い範囲に少数ながら12軒の住居が造られるようになる。それ以前の住居配置とは大きく異なってくる。6世紀後半になると一気に124軒の住居が造られるようになる。6世紀前半の約12倍の住居である。自然増加も多いと思われるが、あまりにも多いため他地域からの移住も考えられる。この段階の住居は狭い丘陵で傾斜のきつい11次調査区西側にもわずかながら進出し、11次調査区の東端部分以外のほぼ全域で造られている。しかしその大部分は4世紀以降6世紀前半まで住居の造られてきた遺跡の中心地区に集中しており、他の地区での住居数は少ない。7世紀前半の住居は78軒である。6世紀後半の住居と比較すると住居数が減少し、住居の密集の程度は薄くなるが造られている地区はほぼ共通している。

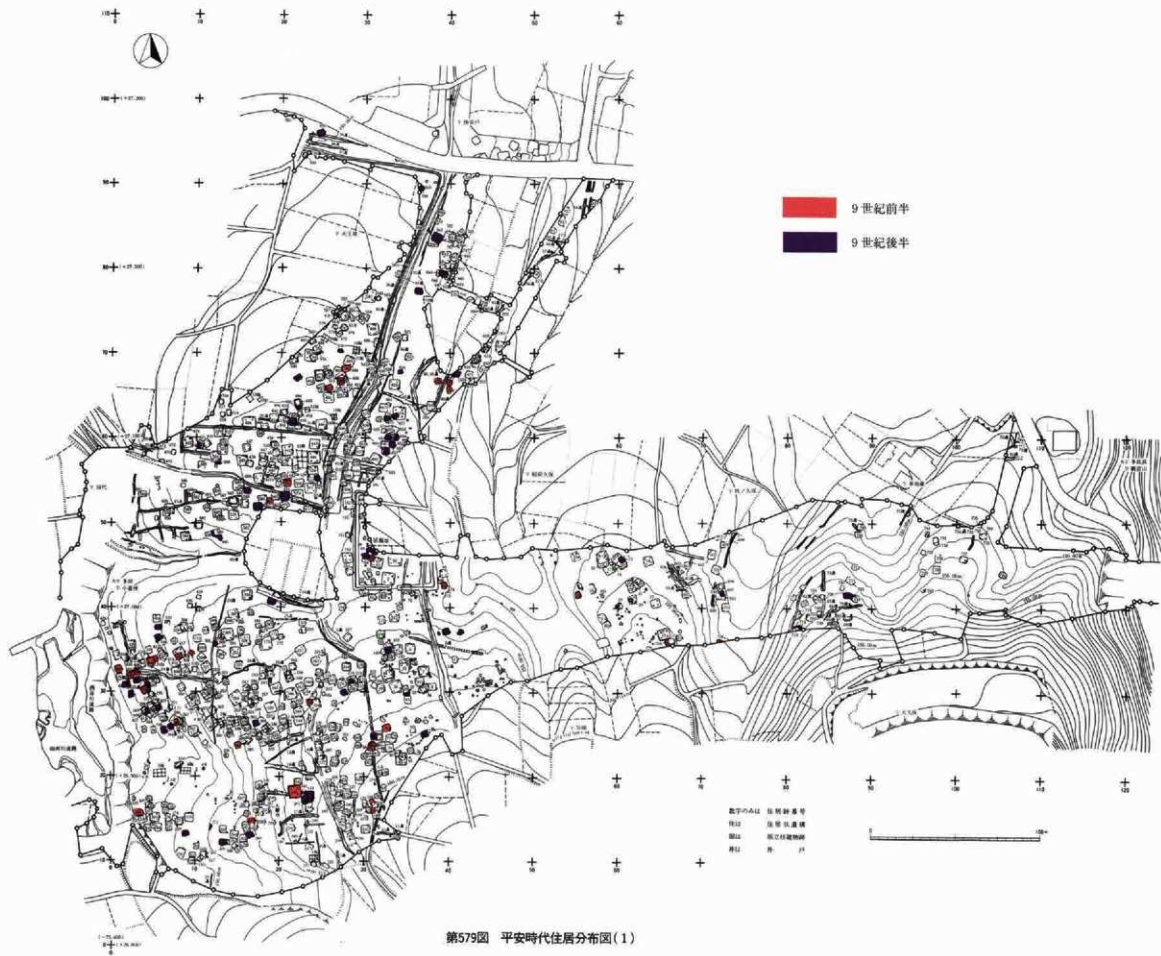






第578图 奈良時代住居分布图

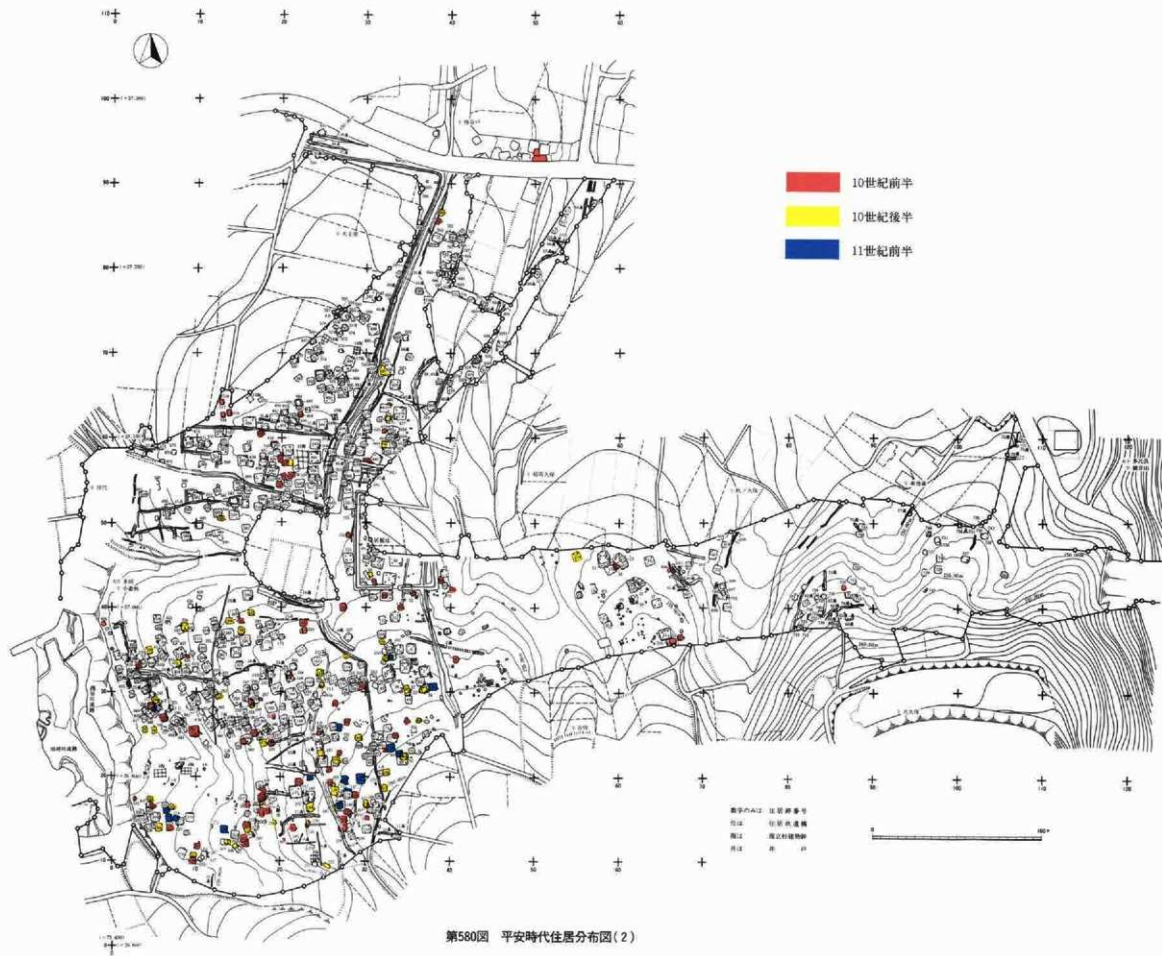




第579図 平安時代住居分布図(1)







第580図 平安時代住居分布図(2)





### 3 居住地域拡大段階（7世紀後半～8世紀前半）

今迄造られていなかった狭く傾斜のきつい丘陵上の11次調査区の東端部分にも住居が造られ、その結果ほぼ調査区全体に住居が造られるようになる。この段階において住居を造ることの可能な所であれば、どこでも造られていた様に思われる。この状態より推定するなら、開発の始まった地域の開拓が終了したために、より広い地域を求め周辺部まで開拓地域を拡張し、やがて条件の悪い地域であっても開拓が盛んに行われるようになった結果の反映と考えられないだろうか。矢田遺跡において最も開発のエネルギーを感じる段階である。

7世紀後半で50軒、8世紀前半で85軒の住居が造られており、その数は密ではないがいずれも調査区ほぼ全体に広がりを見せている。

### 4 居住地域定着段階（8世紀後半～9世紀後半）

前段階でほぼ全調査区に住居が造られるようになり、その地域において住居が定着していった段階と考えられる。住居数は8世紀後半が85軒、9世紀前半が33軒、9世紀後半が65軒と数の減少が認められる。

### 5 居住地域縮小段階（10世紀前半～10世紀後半）

調査区ほぼ全域に展開していた住居が、潮が引くように南東部分に集中してくるようになり、その地区以外ではわずかな住居しか造られなくなってゆく。狭く傾斜の強い東側の11次調査区においては住居はわずか1軒造られていただけである。住居数は10世紀前半が89軒・10世紀後半が51軒となっている。

### 6 居住地域及び竪穴住居最終段階（11世紀後半）

調査区南端部分に17軒の住居が造られているが、他の地区では住居は全く造られなくなっている。広い地域に造られていた住居が、狭い一定地域に限定されわずかに造られるだけになってしまったのである。この段階以降竪穴住居は造られなくなった。竪穴住居以外に他の住居形態の家も多く使われていたと思われるが、竪穴住居が狭い一定地域にしたいに限定されている状況から見て、矢田遺跡の地で集落はしたいに無くなって行ったと思われる。

#### (2) 住居の規模と住居数との関係

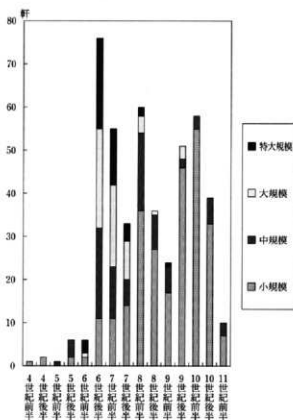
時期と住居規模が明らかな住居が全体で458軒存在している。それを表にしたのが次の表と第581図であり、多くの住居が発掘されている6世紀後半以降に限定して同時期の比率で現したのが次の表と第582図である。この表や図で明らかのように、6世紀後半から7世紀前半までの住居は面積が25㎡以上の大規模と特大規模の住居が60%近く存在していた。7世紀後半になるとその数は40%と減少し8世紀前半以降になると10%以下となりその後はほとんどつくりだなくなっていく。中規模の住居は9世紀前半まで約25%の比率でほぼ平均して造られたが、9世紀後半以降急激に減少している。小規模の住居は6世紀後半以降の14%から10世紀前半の95%までほぼ一直線に増加している。このように住居規模は時代と共に小規模化をたどっている。

県内においては南関東や他の地域で確認されている、竪穴住居確認面までを深く掘り込む掘立柱建物跡の発掘例は少なく、竪穴住居から掘立柱建物へと住居形態を変えていった事は考えられない。通常の発掘においては平地式住居が確認されない以上何ら根拠になるものはないが、中筋遺跡や黒井峯遺跡に見られるような平地式住居の例がひとつの考え方を提供しており、竪穴住居から掘り込みの浅い掘立柱建物跡又は平地式住居への転化をそこに想定出来るのではないだろうか。その住居形態をより早く人々が取り入れていった結果、特大規模と大規模の竪穴住居が消え、次に中小規模の住居が消えていったと考えられないだろうか。

時期別住居規模一覧表

	小規模	中規模	大規模	特大規模	軒数
4世紀前半	1	0	0	0	1
4世紀後半	2	0	0	0	2
5世紀前半	0	1	0	0	1
5世紀後半	2	4	0	0	6
6世紀前半	2	0	1	3	6
6世紀後半	11	21	23	21	76
7世紀前半	11	12	19	13	55
7世紀後半	14	6	9	4	33
8世紀前半	36	18	4	2	60
8世紀後半	27	8	1	0	36
9世紀前半	17	6	0	1	24
9世紀後半	46	2	3	0	51
10世紀前半	55	3	0	0	58
10世紀後半	33	6	0	0	39
11世紀前半	7	3	0	0	10
合計軒数	264	90	60	44	458

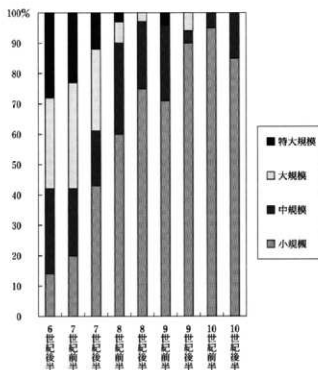
小規模 (0~16㎡未満)  
 中規模 (16~25㎡未満)  
 大規模 (25~36㎡未満)  
 特大規模 (36㎡以上)



第581図 時期別住居規模

時期別住居規模の比率一覧表

	小規模	中規模	大規模	特大規模
6世紀後半	14%	28%	30%	28%
7世紀前半	20%	22%	35%	23%
7世紀後半	43%	18%	27%	12%
8世紀前半	60%	30%	7%	3%
8世紀後半	75%	22%	3%	0%
9世紀前半	71%	25%	0%	4%
9世紀後半	90%	4%	6%	0%
10世紀前半	95%	5%	0%	0%
10世紀後半	86%	15%	0%	0%



第582図 時期別住居規模の比率

## (3) 柱穴と貯蔵穴と竈の問題について

## 柱穴の問題

柱穴を持つ住居と持たない住居が存在し、柱穴も深いものと浅いものがある。この問題を規模と時期差においてどのような関係にあるのか調べてみた。その結果が次の表と第583図である。小規模住居には251軒中16軒のわずか6%の住居に柱穴が掘られていた。その16軒の住居は時期別でみると6世紀後半・7世紀前半・8世紀前半と古い段階に多く、新しくなる8世紀後半以降になるとほとんど掘られていない。中規模住居では82軒中45軒の住居に掘られており、率としては約52%である。同じく時期別でみると6世紀後半・7世紀前半・8世紀前半と古い段階に多く、新しくなる8世紀後半以降になるとほとんど掘られていない。大規模住居では54軒中51軒と多くの住居に掘られており、率としては約94%である。特大規模住居では39軒の全ての住居に掘られていた。大規模住居と特大規模住居は8世紀後半以降住居自体がほとんど造られていないため時期別での変化は不明である。

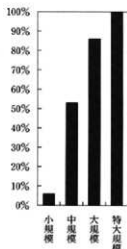
次に柱穴の深さの問題について調べてみる。仮に50cmをひとつのめどとして、それより深い柱穴を持つ住

規模別に見た柱穴を持つ住居一覧表

規模	柱穴を持つ住居	住居/住居総数
小規模	6%	16/251軒
中規模	52%	45/82軒
大規模	94%	51/54軒
特大規模	100%	39/39軒

柱穴を持つ住居の時期別一覧表

	小規模	中規模	大規模	特大規模
6世紀後半	5/11軒	17/21軒	21/23軒	20/20軒
7世紀前半	4/11軒	12/12軒	19/19軒	13/13軒
7世紀後半	0/14軒	5/6軒	6/7軒	4/4軒
8世紀前半	5/36軒	7/18軒	4/4軒	2/2軒
8世紀後半	0/27軒	3/8軒	0軒	0軒
9世紀前半	1/17軒	1/6軒	0軒	0/1軒
9世紀後半	1/47軒	0/2軒	1/1軒	0軒
10世紀前半	0/55軒	0/3軒	0軒	0軒
10世紀後半	0/23軒	0/6軒	0軒	0軒
対象軒数	16/251軒	45/82軒	51/54軒	39/39軒



第583図 柱穴を持つ住居

柱穴を持つ住居中深さ50cm以上の住居

規模	住居比率	住居数
小規模	50%	8/16軒
中規模	73%	33/45軒
大規模	76%	39/51軒
特大規模	85%	33/39軒

50以上の深さの柱穴を持つ住居の時期別住居数一覧表

	小規模	中規模	大規模	特大規模
6世紀後半	3	11	16	16
7世紀前半	3	9	15	13
7世紀後半	0	2	4	2
8世紀前半	2	7	4	2
8世紀後半	0	3	0	0
9世紀前半	0	1	0	0
9世紀後半	0	0	0	0
10世紀前半	0	0	0	0
10世紀後半	0	0	0	0
対象軒数	8軒	33軒	39軒	33軒

居は、小規模住居においては16軒中半分の8軒で50%、中規模住居においては45軒中33軒で73%、大規模住居においては51軒中39軒で76%、特大規模住居においては39軒中33軒で85%の住居の柱穴が50cm以上と深く掘られていた。時期別で見ると6世紀後半～8世紀前半と古い段階ほど深い柱穴を持つ住居が多い傾向を示している。

#### 貯蔵穴の問題

貯蔵穴を持つ住居と持たない住居が存在し、また深く掘られているものと浅いものがある。この問題について規模と時期差においてどのような関係にあるのかについて調べてみた。その結果が次の表と第584図である。小規模住居は251軒中110軒で44%の住居に掘られていた。その110軒の住居は時期別で見ると6世紀後半と7世紀前半で11軒中10軒と大部分の家に掘られていたが、8世紀以降次第に減少している。つまり時期の新しい住居は2軒に1軒以下の割合でしか貯蔵穴は掘られていないことになる。中規模住居には82軒中56軒で68%の住居に貯蔵穴が掘られていた。その56軒の住居は時期別で見ると小規模住居同様に6世紀後半と7世紀前半では大部分の家に掘られていたが、8世紀以降次第に減少している。大規模や特大規模の住居には83%と88%の割合で貯蔵穴が掘られていた。この規模の住居の多くに貯蔵穴が掘られていることや、8世紀以降この規模の住居は造られなくなっているために、時期別に見た変化は不明である。

次に貯蔵穴の深さの問題について調べてみる。仮に40cmをひとつのめどとして、それより深い柱穴を持つ住居は、小規模住居においては110軒中27軒で25%、中規模住居においては56軒中43軒で77%、大規模住居においては45軒中43軒で96%、特大規模住居においては35軒中33軒で94%の住居で貯蔵穴が深く掘られていた。時期別で見ると6世紀後半～8世紀前半と古い段階に深い貯蔵穴を持つ住居が多い傾向を示している。

#### (4) 電の造られる壁面の位置の問題について

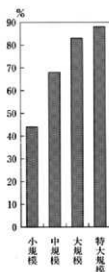
電は住居壁面の一部を掘込んで造られている。造られるのは東壁面が多いが、北や西壁面にも造られている。古墳時代から平安時代に至る矢田遺跡の636軒についてどの壁面に最も多く造られているのか、また時期別に分けるなら一定の時期にいずれの壁面に集中するような特長があるのか等について以下の表と第585・586図で示した。その結果、時期の明らかな636軒中496軒の東壁面に電が最も多く造られていた。次に多いのが北壁面の128軒であり、西壁面はわずかに18軒であった。電の位置は各時代で同一ではなく一定の変化をもって平安時代10世紀後半以降100%東壁面への電と変化しているようである。

電の造られ始めた6世紀から7世紀前半段階では、東電が60%、北電が33%、西電が7%であった。それが7世紀後半から8世紀後半の段階になると東電が75%と増加し北電が23%、西電は5%と減少している。西電はこの段階以降つくられなくなっている。9世紀から10世紀前半になると東電が95%となり大部分の電が東電となっている。北電はわずか5%で西電は造られていない。住居の小型化とともに圧倒的に東電へ集めて行くのである。

このように東電が多いのは、従来から言われていたように冬場に西方向から東方向に吹く風を考え、風上に向かって煙突が造られることを避け風下方向に煙突が位置するように造られたためと思われる。しかし、時代が新しくなるにしたがって考えられるのが住居規模による電の造られる位置の問題である。小・中規模と大規模住居における電の造られている位置について6世紀後半から8世紀前半間の時期で調べてみた。そうすると小・中規模の住居257軒のうちで東電を持つのは229軒で89%の住居となっている。一方大規模住居では59軒中31軒の住居が東電で率にして53%であった。この結果から推定すると小・中規模の住居に東電が多く、中規模以上になると東だけではなく北電も採用されている。大・特大規模の住居は8世紀後半以降ほと

## 規模別に見た貯蔵穴を持つ住居

規模	貯蔵穴を持つ住居	住居/住居総数
小規模	44%	110/251軒
中規模	68%	56/82軒
大規模	83%	45/54軒
特大規模	88%	35/40軒



第584図 貯蔵穴を持つ住居

## 貯蔵穴を持つ住居の時期別住居数一覧表

	小規模	中規模	大規模	特大規模
6世紀後半	10/11軒	19/21軒	20/23軒	18/20軒
7世紀前半	10/11軒	12/12軒	18/19軒	12/13軒
7世紀後半	0/14軒	4/6軒	4/7軒	4/4軒
8世紀前半	13/36軒	11/18軒	3/4軒	1/2軒
8世紀後半	13/27軒	3/8軒	0/0軒	0/0軒
9世紀前半	6/17軒	1/6軒	0/0軒	0/1軒
9世紀後半	18/47軒	1/2軒	0/1軒	0/0軒
10世紀前半	11/33軒	3/6軒	0/0軒	0/0軒
10世紀後半	11/33軒	3/6軒	0/0軒	0/0軒
対象軒数	110/251軒	56/82軒	45/54軒	35/40軒

## 貯蔵穴を持つ住居中深さ40cm以上の住居

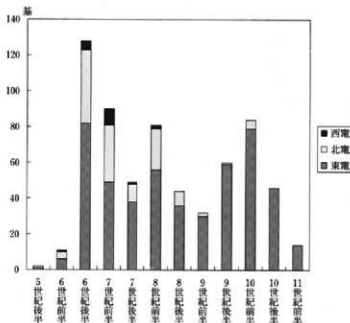
規模	住居比率	住居数
小規模	25%	27/110軒
中規模	77%	43/56軒
大規模	96%	43/45軒
特大規模	94%	33/35軒

## 40cm以上の深さの貯蔵穴を持つ住居の時期別住居数一覧表

	小規模	中規模	大規模	特大規模
6世紀後半	6	16	20	17
7世紀前半	10	12	17	11
7世紀後半	0	4	4	4
8世紀前半	4	9	2	1
8世紀後半	2	1	0	0
9世紀前半	0	0	0	0
9世紀後半	0	0	0	0
10世紀前半	4	0	0	0
10世紀後半	1	1	0	0
対象軒	27軒	43軒	43軒	33軒

## 時期別にみた竈の作られている壁面一覧表

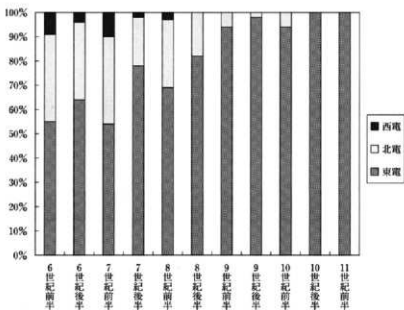
	東壁	北壁	西壁	合計棟数
5世紀後半	1	1	0	2
6世紀前半	6	4	1	11
6世紀後半	82	41	5	128
7世紀前半	49	32	9	90
7世紀後半	38	10	1	49
8世紀前半	56	23	2	81
8世紀後半	36	8	0	44
9世紀前半	30	2	0	32
9世紀後半	59	1	0	60
10世紀前半	79	5	0	84
10世紀後半	46	0	0	46
11世紀前半	14	0	0	14
合計軒	496基	127基	18基	641基



第585図 時期別にみた竈の作られている壁面

時期別に見た竈の作られている壁面の比率一覧表

	東竈	北竈	西竈
6世紀前半	55%	36%	9%
6世紀後半	64%	32%	4%
7世紀前半	54%	36%	10%
7世紀後半	78%	20%	2%
8世紀前半	69%	28%	3%
8世紀後半	82%	18%	0%
9世紀前半	94%	6%	0%
9世紀後半	98%	2%	0%
10世紀前半	94%	6%	0%
10世紀後半	100%	0%	0%
11世紀前半	100%	0%	0%



第586図 時期別に見た竈の作られている壁面の比率

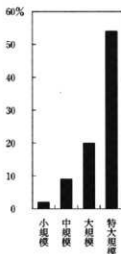
んど造られなくなって東壁面以外に竈の造られていた大規模の住居が減少してゆく中で、必然的に東竈が増加していった事をしめしているのではないだろうか。しかし小・中規模住居に東竈が何故多いかについては明らかでない。

#### (5) 作り替えの認められる竈について

竈は住居の大小にかかわらず、最低1基は造られているのが一般的な例である。しかし使用していた竈を壊して、新たに別な壁面に造り替えられている例が矢田遺跡では古墳時代～平安時代の住居で住居規模の明らかな残りの良い435軒中45軒で確認されている。それを示したのが次の表と第587図である。図で明らかのように、規模が大きい住居ほど複数の竈を持つ例が増えている。

新たな竈の新設のほかにも貯蔵穴の掘り直しや、火棚の作成または屋根の一部にも工夫が行われたとも考えられる。竈の補修で済むならこのような面倒な作業をしなくてよいわけで、なぜこのような造り替えが行われているのであろうか。

竈が造り替えられる場合、東壁面から北壁面またはその逆といったような一定の傾向が認められるだろうか。その問題について前回の報告書で分析しているのでそれを再度掲載する。以下の表はその点について調べたもので、造られる竈の壁面に一定の傾向は認められなかった。



第587図 複数の竪を持つ住居

複数の竪を持つ住居の時期別住居数一覧表

	小規模	中規模	大規模	特大規模
6世紀後半	0	0	5	8
7世紀前半	0	2	6	9
7世紀後半	1	1	0	2
8世紀前半	1	3	1	1
8世紀後半	1	1	0	0
9世紀前半	0	0	0	1
9世紀後半	1	1	0	0
10世紀前半	0	0	0	0
10世紀後半	0	0	0	0
対象軒数	4軒	8軒	12軒	21軒

規模別に見た複数の竪を持つ住居

規模	複数の竪を持つ住居	住居/住居総数
小規模	2%	4/251軒
中規模	9%	8/82軒
大規模	22%	12/54軒
特大規模	53%	21/40軒

造り替えの認められる竪の移動例一覧表

時期	北→東	東→北	北→西	東→西	南→東	北→北	東→北→西	西→東→北	北→東→北	東→北→東	合計
6世紀前半		1									1
6世紀後半	5	8	2			1	1		1		18
7世紀前半	7	5	1	1	1		1	1		1	18
7世紀後半		1				1					2
合計	12	15	3	1	1	2	2	1	1	1	39



## 第7章 調査成果の整理とまとめ

本報告書で対象とした貯蔵穴と柱穴の規模一覧（貯蔵穴と柱穴のいずれも持たない住居は除く）

住居 No.	貯蔵穴 (cm)						柱穴 (cm)								面積 (㎡)	面積区分
	貯蔵穴 1		貯蔵穴 2		数	柱穴 1		柱穴 2		柱穴 3		柱穴 4				
	数	径	径	深		径	深	径	深	径	深	径	深			
2	2	71	108	67	102	4	71	92	64	101	51	74	68	102	54.72	特 大
9	1	66	53			4	42	47	38	61	53	63	48	51	23.04	中
11	0					4	70	74	68	62	79	59	72	53	41.15	特 大
19	1	38	49													
24	1	60	43			4	48	70	63	74	54	39	54	63	20.77	中
27	0					4	65	83	66	63	60	58	70	77	26.64	大
28	0					4	57	53	62	55	52	44	49	49	22.18	中
29	1	24	31												12.13	小
35	1	68	75			4	64	84	56	56	48	44	68	75	32.40	大
61	2	78	31	70	26										15.30	小
81	1	50	25												17.21	中
84	1	82	24												11.34	小
88	2	76	52	28	46	4	54	67	42	68	53	78	43	77	24.16	中
95	1	28	46												15.41	小
120	1	76	31												15.34	小
128	1	58	68			4	62	77	63	78	68	95	64	74		
131	2	62	56	56	56	4	40	61	48	72	46	52	46	53	18.97	中
159	1	74	21												10.41	小
161	1	42	38			4	40	46	46	20	36	36	44	16	20.48	中
196	1	43	53			4	69	42	51	78	54	82	56	66	39.60	特 大
199	1	68	88			4	44	52	54	72	42	68	52	72	15.37	小
172	1	53	39												10.33	小
174	1	68	16												9.72	小
176	1	52	17												11.06	小
178	1	64	83												20.13	中
179	0					4	51	53	67	32	69	63	62	67	29.02	中
180	2	60	50	48	50	4	62	83	60	76	72	88	58	90	35.71	大
187	1	72	23												11.95	小
193	1	68	64			4	71	81	59	51	34	40	53	74	24.05	中
195	1	58	54													
241	1	70	38												7.81	小
242	1	66	55			4	50	51	42	63	44	49	42	42	25.92	大
246	1	76	19												11.49	小
247	1	82	28												15.70	小
248	2	40	44	60	45	4	62	68	48	62	48	71	62	64		
273	0					4	48	61	44	72	46	48	50	70	20.05	中
286	0					4	66	39	60	52	62	54	75	53	27.65	大
291	1	69	27													
315	1	46	24			4	36	51	40	31	36	49	54	81	25.20	大
322	1	62	53												15.81	小
345	1	30	46												9.79	小
365	1	62	66												19.44	中
366	1	72	26												12.31	小
369	2	66	65	64	71	4	68	79	72	69	68	46	60	79	53.43	特 大
378	1	69	20												16.63	中
380	1	82	51													
381	1	90	40													
411	1	48	46												15.09	小
414	1	56	52			4	48	64	46	77	36	83	32	67	25.53	大
431	1	48	32												18.58	中
439	1	72	24												13.50	小
440	2	74	58	72	75	4	72	73	50	39	60	96	68	85	42.48	特 大
447	1	72	24												10.98	小
452	1	50	50			4	50	43	52	64	44	83	50	67	20.16	中
458	1	64	89			4	40	68	55	54	51	56	62	72	22.86	中
468	1	56	61													
473	1	72	47			4	50	84	36	68	53	81	62	61		
488	1	42	48												17.93	中

## 第1節 古墳～平安時代の住居について

本報告書で対象とした貯蔵穴と柱穴の規模一覧（貯蔵穴と柱穴のいずれも持たない住居は除く）

住居 No	貯蔵穴 (cm)					柱穴 (cm)								面積 (m <sup>2</sup> )	面積区分	
	数	貯蔵穴 1		貯蔵穴 2		数	柱穴 1		柱穴 2		柱穴 3		柱穴 4			
		径	深	径	深		径	深	径	深	径	深	径			深
483	1	65	23												10.30	小
503	1	88	58			4	43	58	42	76	49	59	55	79	20.05	中
507	1	54	50			4	34	73	32	58	44	85	52	67	15.55	小
516	1	42	64												20.99	中
527	1	59	41												18.04	中
542	0					4	36	40	25	29	46	70	45	61	22.00	中
546	0					4	47	60	49	73	56	83	33	56	25.96	大
551	0					4	44	71	60	70	50	46	40	61	15.55	小
552	2	76	74	70	58										17.86	中
559	0					4	42	48	42	53	31	46	58	61	15.84	小
560	1	52	57			4	53	62	40	52	48	62	52	61	26.07	大
573	1	29	39												12.03	小
503	1	36	48												12.28	小
599	1	50	28													
605	1	45	53			4	48	57	38	45	36	46	34	69	24.59	中
627	1	46	79			4	44	71	42	62	35	69	51	63	17.68	中
628	1	68	79			4	59	80	42	82	62	78	42	71	36.00	特大
634	1	60	32												10.59	小
636	0					4	58	67	56	61	68	82	58	83	31.72	大
649	0					4	68	56	48	39	50	47	56	45		
655	1	68	32			4	52	90	44	68	40	90	46	71	17.50	中
671	1	56	37												15.16	小
712	1	41	27												8.14	小
713	0					4	72	70	48	51	42	76	33	51	18.04	中
717	1	55	20													
727	0					4	33	45	22	35	25	30	36	53	15.45	小
744	1	72	54													
751	1	58	21												10.87	小

750軒の住居一覽表 (矢田遺跡1～VII報告分)

住居 番号	時期	時期 コード	発掘 番号	グリップ	船腹(m) (m) <sup>2</sup>	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構 区分	主軸方向	電				貯蔵 穴数	整理型定 電		整理後物 電	整理 後計	船底 合計					
									数	位	置	材		石	土				石	土			
1	9 C後	062	VI	38-42	2.90×3.20	9.63	小	N-130°-E	1	東	1	石	0	9	4	1	18	3	11	4	32	18	
2	7 C後	071	VII	44-33-34	7.29×7.40	54.72	特大	N-90°-E	2	東・北	—	石	2	4	6	10	0	3	8	0	16	11	-5
3	9 C後	062	VI	38-40	3.25×3.70	11.48	小	N-85°-E	1	東	—	—	0	10	7	2	11	0	5	19	16	-3	
4	10 C前	101	II	35-40	3.75×2.85	11.21	小	N-70°-E	1	東	石	1	—	16	3	0	11	1	1	19	13	-6	
5	6 C後	062	V	37-38-35	2.80×2.80	7.75	小	N-39°-E	1	東	—	—	2	0	1	2	0	1	0	3	1	-2	
6	7 C後	072	V	36-35-36	5.68×5.80	31.44	大	N-91°-E	1	東	—	—	1	4	6	6	1	4	1	13	6	-7	
7	6 C後	062	V	33-37-38	5.82×5.78	33.44	大	N-85°-E	2	東・北	—	石	2	4	10	4	0	9	0	14	9	-5	
8	11 C前	111	I	31-32-38	—	8.475	—	N-87°-E	—	—	—	—	0	—	6	1	0	12	0	0	7	12	5
9	7 C後	072	VII	39-59	6.50×5.32	23.94	中	N-30°-E	1	東	—	—	1	4	9	18	0	8	10	0	27	18	-9
10	7 C後	072	VII	36-64	—	—	—	N-70°-E	—	—	—	—	0	—	6	0	1	4	0	0	7	4	-3
11	8 C前	081	VII	37-38-66	6.96×6.09	41.15	特大	N-14°-E	1	北	—	—	0	4	7	7	1	1	15	9	4	-6	
12	10 C前	101	II	39-37-66	4.10×3.40	12.47	小	N-85°-E	1	東	—	—	1	—	22	5	4	15	2	5	31	22	-9
13	10 C前	101	II	37-67	3.05×3.25	9.54	小	N-80°-E	1	東	—	—	0	—	3	0	3	0	0	3	3	0	0
14	6 C後	062	VI	46-64	5.40×5.25	28.32	大	N-18°-W	1	北?	—	—	0	4	4	7	0	2	0	1	11	3	-8
15	6 C後	062	VI	46-47-58	6.45×6.40	42.62	特大	N-70°-E	2	東・北	—	—	2	4	14	41	0	8	32	0	58	40	-15
16	10 C前	101	II	46-59	3.40×3.10	10.22	小	N-80°-E	1	東	—	—	1	—	10	8	1	8	0	1	19	9	-10
17	6 C後	062	VI	45-59-60	6.54×6.18	39.38	特大	N-30°-W	2	北・東?	—	—	2	4	8	5	0	4	0	13	4	-9	
18	7 C後	072	VI	46-47-60	6.03×6.01	35.93	大	N-43°-W	1	北	—	—	1	4	13	32	0	10	11	1	45	22	-23
19	8 C前	081	VII	42-43-58	—	—	—	N-85°-E	1	東	—	—	1	—	6	1	0	3	1	0	7	4	-3
20	9 C前	091	VIII	42-56	2.78×3.56	9.94	小	N-97°-E	1	東	—	—	0	—	5	10	1	3	0	1	16	4	-12
21	10 C後	102	II	47-54	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	12	0	4	2	0	17	6	-11
22	7 C	070	VI	46-61	5.18×—	—	—	N-65°-E	1	東	—	—	1	4	2	8	0	1	0	0	10	1	-9
23	9 C後	062	VI	46-60	3.50×3.30	11.43	小	N-70°-E	1	東	—	—	1	—	12	6	0	4	2	0	18	6	-12
24	8 C前	081	VII	43-62	4.52×4.62	20.77	中	N-70°-E	1	東	—	—	1	4	5	4	0	4	0	0	9	4	-5
25	8 C前	081	VII	43-44-62	3.69×—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	1	0	2	0	0	4	2	-2
26	7 C後	072	VI	43-44-63	5.51×4.75	16.09	中	N-90°-E	1	東	—	—	0	—	1	6	0	3	0	0	7	3	-4
27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
28	7 C	070	VII	41-65	5.43×5.13	26.64	大	N-15°-W	—	—	—	—	0	4	1	0	0	1	0	0	1	1	0
29	8 C前	081	VII	41-60-61	4.80×4.95	22.18	中	N-15°-W	—	—	—	—	0	4	2	0	0	1	0	0	2	1	-1
30	6 C	060	VI	39-59	3.50×3.22	12.13	小	N-35°-E	1	東	—	—	1	—	5	11	0	4	10	0	16	14	-2
31	6 C前	061	VI	46-58-59	—	—	—	N-73°-E	1	東	—	—	1	—	0	0	0	1	0	0	1	1	1
32	—	—	—	—	—	—	—	N-12°-W	1	北?	—	—	1	4	1	16	0	1	14	0	17	15	-2
33	10 C後	102	I	39-31-35	3.40×4.20	13.01	小	N-27°-E	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34	7 C前	071	V	31-37-38	—	—	—	N-36°-W	1	北	—	—	—	—	3	2	0	3	1	0	5	4	-1
35	7 C前	071	V	33-34-35	5.76×5.78	32.40	大	N-9°-W	1	北	石	1	4	3	4	1	1	0	0	8	1	7	-7
36	10 C後	102	I	39-31-35	4.72×3.25	12.94	小	N-61°-E	1	東	—	—	0	—	14	6	3	19	1	0	23	20	-3
37	9 C後	062	I	39-31-35	3.65×3.38	—	—	N-80°-E	1	東	—	—	0	—	12	7	0	11	0	0	19	11	-8



第7章 調査成果の整理とまとめ

77	6 C後	062	V1	25-34	5.95×4.62	26.96	大	N-94-E	1	東	石	-	-	-	1	0	24	7	1	20	6	1	32	27	-1	
78	10C前	101	I	23-24-33	2.60×3.75	9.07	小	-	-	-	石	-	-	-	-	-	4	0	0	3	0	0	4	3	-1	
79	11C前	111	I	24-33-34	4.58×4.64	18.82	中	N-66-E	2	東・東	石	0	-	-	0	-	12	1	2	16	2	0	13	18	3	
80	2 C前	081	Ⅱ	24-32-33	4.68×3.60	17.07	中	N-8-W	1	北	石	0	-	-	8	0	0	5	1	0	8	6	-2	-2	-2	
81	8 C後	082	Ⅱ	23-24-32	4.58×3.52	17.21	中	N-79-E	2	東・北	-	-	-	-	1	-	10	7	1	5	1	1	18	7	-11	
82	8 C前	081	Ⅱ	22-31	4.02×3.52	13.56	小	N-89-E	1	東	-	-	-	-	0	-	4	4	4	7	0	0	12	7	-5	
83	8 C前	082	Ⅱ	30-31	3.30×3.20	8.74	小	N-84-E	1	東	-	-	-	-	0	-	4	2	1	3	2	2	7	0	0	
84	8 C後	082	Ⅱ	24-30	3.52×3.32	11.34	小	N-96-E	1	東	-	-	-	-	1	-	7	0	0	0	11	0	0	0	11	11
85	10C後	102	Ⅱ	24-25-29	3.90×3.60	13.46	小	N-96-E	1	東	-	-	-	-	1	-	7	0	0	5	1	1	7	7	0	
86	9 C前	091	I	24-31-32	3.60×3.54	10.11	小	N-82-E	1	東	-	-	-	-	0	-	14	0	0	7	0	0	14	7	-7	
87	9 C後	082	I	24-25-30-31	3.65×3.70	13.75	小	N-94-E	1	東	-	-	-	-	0	-	17	6	1	9	0	1	24	10	-14	
88	8 C前	081	Ⅱ	25-26-32	4.73×5.42	24.16	中	N-87-E	1	東	-	-	-	-	2	4	33	24	0	13	17	0	57	30	-27	
89	6 C後	062	V1	22-23-35	6.62×7.14	46.51	特大	N-95-E	1	東	-	-	-	-	1	4	7	0	0	7	0	0	7	0	0	
90	11C前	111	I	23-24-30-31	3.60×3.30	12.97	小	N-81-E	1	東	-	-	-	-	0	-	24	3	2	17	1	2	29	20	-9	
91	8 C後	082	I	23-24-36	3.50×3.30	9.16	小	N-95-E	1	東	-	-	-	-	1	-	6	3	0	12	0	0	6	12	-4	
92	10C後	102	I	23-35	3.50×3.85	12.97	小	N-85-E	1	東	-	-	-	-	1	-	26	0	0	17	0	0	9	12	3	
93	7 C後	072	Ⅱ	21-32	3.86×3.34	13.03	小	N-19-W	1	東	-	-	-	-	0	-	9	2	0	7	0	0	11	7	-4	
94	10C後	102	I	21-33	4.40×3.50	14.26	小	N-89-E	1	東	-	-	-	-	1	-	14	1	1	10	1	1	16	12	-4	
95	8 C前	081	Ⅱ	23-31	4.08×3.80	15.41	小	N-3-E	1	東	-	-	-	-	1	-	8	16	1	6	12	1	25	19	-6	
96	8 C前	081	Ⅱ	18-32	3.48×3.18	11.13	小	N-76-E	1	東	-	-	-	-	0	-	16	0	0	12	0	0	16	12	-4	
97	10C後	102	I	19-20-33	3.10×4.40	11.28	小	N-117-E	1	東	-	-	-	-	1	-	0	0	0	2	0	0	1	2	-1	
98	9 C前	091	I	23-24-31	3.50×4.50	15.88	小	N-80-E	1	東	-	-	-	-	1	-	0	0	0	0	0	0	1	0	-1	
99	10C前	101	Ⅱ	27-27	4.00×3.60	11.79	小	N-103-E	1	東	-	-	-	-	1	0	23	4	1	9	0	3	28	12	-16	
100	6 C後	062	V	35-33	3.30×3.30	9.94	小	N-101-E	1	東	-	-	-	-	1	0	4	0	0	2	0	0	4	2	-2	
101	10C後	102	I	34-35-33	2.80×3.65	8.49	中	N-90-E	1	東	-	-	-	-	1	-	5	1	0	6	0	0	6	6	0	
102	5 C後	062	V	36-31	4.55×4.34	19.25	中	N-37-W	1	北	-	-	-	-	1	-	4	5	1	0	3	0	0	6	3	-3
103	-	-	-	Ⅱ	32-31-32	3.50×4.20	14.04	小	N-5-W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
104	7 C前	071	V	37-32-33	4.43×4.65	20.69	中	N-85-E	1	東	-	-	-	-	1	4	10	3	0	3	0	0	0	0	0	0
105	6 C後	062	V	34-30	-	-	中	N-12-W	0	-	-	-	-	-	0	4	3	0	0	2	0	0	3	2	-1	
106	6 C後	062	V	32-33-33	6.50×6.30	41.15	大	N-24-W	2	北・東	石	-	-	-	2	4	18	6	0	9	0	0	24	9	-15	
107	7 C前	071	V	37-27-26	4.15×4.51	18.25	中	N-47-E	1	北	石	1	4	9	2	0	9	2	0	9	0	0	11	9	-2	
108	1 C後	072	V	31-29	5.88×5.58	30.28	大	N-85-E	1	東	-	-	-	-	1	4	81	67	0	37	57	0	168	114	-34	
109	10C後	102	Ⅱ	26-27-31	3.50×2.85	8.33	小	N-96-E	1	東	-	-	-	-	1	-	4	4	0	4	0	0	8	4	-4	
110	10C後	082	Ⅱ	32-30	3.00×3.64	12.78	小	N-81-E	1	東	-	-	-	-	0	-	8	1	0	4	0	0	9	4	-5	
111	6 C後	062	V	39-40-34	5.43×5.25	28.56	大	N-89-E	1	東	-	-	-	-	1	4	15	4	0	14	0	0	19	14	-5	
112	8 C後	082	Ⅱ	39-32-33	3.99×4.45	17.64	中	N-74-E	1	東	-	-	-	-	0	-	26	10	2	21	0	2	28	23	-15	
113	10C前	101	Ⅱ	31-29	4.33×3.80	16.56	中	N-82-E	1	東	石	1	-	-	11	1	0	4	0	4	0	0	12	4	-8	
114	5 C後	062	V	33-24-28	5.03×4.71	22.90	中	N-3-W	1	北	-	-	-	-	1	4	6	7	0	5	0	0	13	5	-8	
115	10C後	102	Ⅱ	35-27	-	-	-	-	-	-	石	0	-	-	3	1	0	4	0	4	0	0	4	4	0	0
116	8 C後	082	Ⅱ	32-33-26	4.29×3.51	14.29	中	N-66-E	1	東	-	-	-	-	0	-	16	10	2	10	0	0	28	10	-18	
117	6 C後	062	V	32-26-27	4.72×4.83	23.29	中	N-77-E	1	東	-	-	-	-	1	4	15	9	0	7	7	0	24	14	-10	





第1節 古墳～平安時代の住居について

住居名	時期	時期 調査 コード	グリッド	規模(m) 東西×南北	面積 (㎡)	掘削 部分	主軸方向	敷			敷			敷 瓦敷	柱穴数	敷			敷 瓦敷	敷 瓦敷	敷 瓦敷	
								敷	位置	敷	位置	敷	位置			敷	位置	敷				位置
200 10C前	101	I	29-22+23	3.53×4.20	12.96	小	N-80°-E	1	東	—	石	—	6	4	3	12	0	0	13	12	—	—
201 5 C後	092	I	17-18-25	3.47×5.40	16.04	中	N-95°-E	1	東	—	石・土層	—	9	2	0	8	3	0	11	11	0	0
203 9-10C	069~100	II	29-20	3.60×—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
204 —	—	—	18-19+20	4.56×3.98	17.46	中	N-66°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
205 10C後	102	I	19-25	2.78×—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
206 10C前	101	I	15+16-21	—	—	—	N-90°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
207 9-10C	069~100	I	12+13-27+28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
208 10C前	101	I	13+14-27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
209 10C前	101	I	24-19	3.63×3.00	11.16	小	N-87°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
210 7 C前	071	VI	32-29	5.73×—	30.85	大	N-69°-E	1	東	石	—	4	8	3	0	7	0	11	7	—	—	
211 10C後	102	II	33-24	4.20×3.85	15.75	小	N-90°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
212 10C前	101	II	32-24	—	—	—	N-90°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
213 10C後	102	VI	31+32-25+26	2.39×3.19	7.06	小	N-75°-W	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
214 5 C後	062	VI	29-21+25	6.43×6.25	38.92	特大	N-66°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
215 —	—	—	35-25+26	—	—	—	N-89°-W	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
216 5 C後	092	II	32-28	3.35×2.80	9.45	小	N-90°-E	1	東	石	—	1	17	2	0	14	0	19	14	—	—	
217 6 C後	062	VI	35+36-23	5.34×5.37	29.75	大	N-55°-E	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
218 10C前	101	II	32-21	4.20×3.00	12.98	小	N-90°-E	1	東	石	—	1	—	9	4	1	7	2	0	14	6	—
219 10C前	101	II	29-22	3.50×4.10	14.22	小	N-95°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
220 6 C後	062	VI	29-19+20	—	—	—	N-20°-W	1	北	石	—	1	0	3	3	0	1	0	6	1	—	—
221 10C後	102	I	10-25+26	3.86×—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
222 8 C前	081	VI	10-25	3.01×—	—	—	N-88°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
223 10C前	101	III	27+28-20	—	—	—	N-84°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
224 8 C前	081	VI	15-18	—	—	—	N-87°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
225 5 C前	091	I	14+15-17+18	—	—	—	N-85°-E	1	東	石	—	1	—	4	2	0	3	0	6	3	—	—
226 11C前	111	I	14+15-14	4.13×4.36	16.00	中	N-100°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
227 10C前	101	I	14+15-16+17	4.20×—	—	—	N-100°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
228 10C後	102	I	14-17	3.37×3.10	9.44	小	N-70°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
229 11C前	111	I	14+15-8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
230 10C後	102	I	15+16-20+24	—	—	—	N-83°-E	1	東	石	—	0	—	3	0	0	3	0	3	2	—	—
231 10C前	101	I	15+17-19	—	—	—	N-90°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
232 7 C後	072	VI	15-19	—	—	—	N-90°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
233 11C前	111	I	20+21-24	3.50×—	—	—	N-90°-E	1	東	石	—	1	0	1	1	0	1	0	0	2	1	—
234 10C後	102	I	15-20	—	—	—	N-70°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
235 10C前	101	I	15-24	—	—	—	N-80°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
236 10C前	101	I	13-21	—	—	—	N-33°-E	1	東	石	—	0	—	3	0	0	3	0	3	0	—	—
237 10C前	101	I	16+17-18+19	—	—	—	N-90°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
238 7 C前	071	VI	16+17-18	—	—	—	N-98°-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
239 6 C後	062	VI	16-17	3.38×3.47	—	—	N-18°-E	1	北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	



## 第7章 調査成果の整理とまとめ

240 10C前	101	II 38-22	3.70×2.80	9.41	小	N-90-E	1	東	—	—	—	1	—	10	1	0	6	0	1	11	7	-4
241 8C前	681	Ⅲ 38-18	3.08×2.54	7.81	小	N-61-E	1	東	—	石	—	1	—	8	3	0	7	0	0	11	7	-4
242	—	Ⅲ 32-33-19	4.68×5.20	25.92	大	N-16-W	—	—	—	—	—	—	—	1	4	0	0	0	0	0	0	0
243	—	Ⅲ 32-18-19	3.82×3.10	11.95	小	N-69-E	1	東	—	—	—	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0
244 9C後	692	III 41-19	2.91×—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
245 7C前	671	Ⅲ 38-29-19	4.67×4.75	11.49	小	N-18-W	0	1	東	石	—	1	—	32	23	2	34	3	1	57	36	-19
246 8C後	682	Ⅲ 31-17-18	3.40×3.59	15.70	小	N-68-E	1	東	—	—	—	—	—	17	21	0	11	13	0	38	24	-14
247 8C前	681	Ⅲ 31-16-17	4.00×4.00	15.70	小	N-66-E	1	東	—	—	—	—	—	2	4	16	15	0	15	11	1	33
248 8C後	682	Ⅲ 30-16	—×5.01	—	—	N-86-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
249 10C前	101	II 29-19	3.20×3.10	9.26	小	N-74-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
250 7C前	671	Ⅲ 35-19-16	5.94×5.96	34.89	大	N-89-E	2	東・北	—	—	—	—	—	11	2	0	6	0	1	13	7	-6
251 8C後	682	Ⅲ 30-11-12	4.32×4.46	17.28	中	N-31-W	1	北	—	—	—	—	—	4	10	23	1	9	18	0	34	27
252 8C前	681	Ⅲ 30-31-12-13	3.53×3.68	13.11	小	N-27-W	1	北	—	—	—	—	—	0	3	8	0	3	1	0	11	4
253 8C前	681	Ⅲ 29-30-17-18	4.23×4.12	18.51	中	N-86-E	3	東・北	—	—	—	—	—	0	—	8	10	0	13	0	18	13
254 7C	670	VI 29-30-17	4.37×4.62	—	—	N-19-W	1	北	—	—	—	—	—	0	—	17	15	2	11	3	2	34
255 7C前	671	VI 31-32-14	3.47×3.94	13.54	小	N-16-W	1	北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
256 10C前	101	II 30-16	2.40×1.90	—	—	N-90-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	2	0	0	2	0	2	2
257 6C前	671	VI 29-30-15-16	7.36×7.15	53.73	特大	N-40-W	1	北	—	—	—	—	—	1	4	8	1	0	5	0	0	9
258 6C後	682	VI 30-12	—×3.22	—	—	N-26-W	2	北・東?	—	—	—	—	—	2	4	3	4	0	3	0	0	7
259 9C後	692	I 13-14-17-18	—×3.22	—	—	N-76-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
260 9C後	692	I 13-14-17	—×3.70	—	—	N-76-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
261 9C後	692	I 13-14-15	4.40×5.62	22.46	中	N-95-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	23	1	0	17	0	24	17
262 6C後	682	VI 12-13-14-15	3.60×2.85	—	—	N-120-E	1	東	—	—	—	—	—	1	4	3	6	0	2	0	0	9
263 10C後	102	I 12-13-14-15	3.38×3.14	8.08	小	N-89-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	5	1	0	5	0	0	6
264 10C前	101	I 16-17-20	4.67×4.50	16.65	中	N-81-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	2	3	0	2	1	0	5
265 10C前	101	I 13-14-16-17	3.70×—	—	—	N-79-E	1	東	—	—	—	—	—	1	—	15	0	2	9	0	1	17
266 10C前	101	I 12-13-16-17	3.70×—	—	—	N-79-E	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
267 7C前	671	VI 11-12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
268 10C前	101	I 10-11-10-11	3.32×3.60	11.50	小	N-30-E	1	北	—	—	—	—	—	0	—	2	1	1	2	0	4	2
269 10C前	101	I 12-13-10-11	3.35×3.10	9.61	小	N-7-E	1	北	—	—	—	—	—	0	—	3	0	0	3	0	3	3
270 9C後	692	I 13-14-9-10	3.35×2.60	7.61	小	N-80-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	2	0	0	0	0	2	0
271 10C前	101	I 14-15-7-8	2.83×3.62	9.82	小	N-80-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	2	1	0	1	0	0	3
272 9C後	692	I 14-15-12-13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	0	0	0	0	0	0	0
273 8C前	681	Ⅲ 15-6-9	4.72×4.42	20.05	中	N-89-W	1	東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
274 11C前	111	I 14-15-8	2.77×3.20	7.72	小	N-110-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	4	11	29	3	13	15	2
275 9-10C	690-100	I 15-7-8	2.57×—	—	—	N-85-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	9	9	0	4	0	0	18
276 11C前	111	I 15-16-7-8	3.50×4.36	12.82	小	N-80-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	2	0	0	2	0	0	2
277 11C前	111	I 16-17-7	3.40×3.32	9.12	小	N-80-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	19	2	0	0	0	0	21
278 7C前	671	VI 11-12-9	4.85×—	—	—	N-24-E	2	北・東	—	—	—	—	—	7	11	0	6	0	0	0	16	6
279	—	Ⅲ 20-32	—	—	—	N-24-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	8	3	0	2	0	0	11
280 10C後	102	I 17-18-18-19	3.26×3.22	9.32	小	N-90-E	1	東	—	—	—	—	—	0	—	6	0	6	3	0	0	12
281 10C前	101	I 18-18-19	—	—	—	N-80-E	1	東	—	—	—	—	—	1	—	5	2	0	4	0	0	7











第7章 調査成果の整理と検討

485	7 C 節	071	V 56-31+32	35.06	大	N-21-E	2 北・東	-	-	2	4	19	1	0	16	1	0	20	17	-3
486	7 C 節	071	V 56-31	6.02×5.88	36.06	特大	N-95-W	1 西	-	1	4	15	1	0	10	17	0	16	27	11
487	8 C 節	081	VI 66-26	2.87×3.28	9.18	小	N-88-W	1 東	-	0	-	3	2	0	1	2	0	5	3	-2
488	8 C 節	081	VI 66-26	3.96×4.86	17.93	中	N-76-E	1 東	-	-	7	6	0	1	7	0	0	13	7	-6
489	8 C 節	062	VI 63-22	5.65×6.4	17.93	中	N-95-E	2 東・北	右	2	4	15	3	1	12	0	1	19	13	-6
490	8 C 節	062	VI 62+63-21	3.19×3.40	10.69	小	N-89-E	1 東	右	0	-	15	19	2	15	16	4	36	33	-14
491	7 C 節	071	V 62-20+21	7.74×8.40	62.38	特大	N-91-E	2 東・北	右	1	4	42	5	0	33	0	47	47	35	-14
492	6 C 節	062	V 63-19+20	3.14×5.12	26.26	大	N-90-E	1 東	-	1	4	6	8	0	5	0	1	14	6	-8
493	8 C 節	081	VI 63+64-21	1.11×3.40	10.39	小	N-89-E	1 東	-	右	1	3	17	1	3	11	1	21	15	-6
494	8 C 節	072	VI 63+64-20+21	4.56×3.30	14.32	小	N-76-E	1 西	-	0	-	9	5	1	1	1	1	15	3	-12
495	9 C 節	092	III 62-22+23	4.11×3.60	14.32	小	N-89-E	1 東	右?	1	-	33	5	0	26	3	0	38	29	-5
496	8 C 節	081	VI 72-24	3.05×2.62	8.01	小	N-99-E	1 東	右?	1	-	2	3	1	2	1	1	6	4	-2
497	-	-	VI 72-24	3.90×3.1	12.11	中	N-46-E	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
498	6 C 節	062	IV 73+74-31+32	6.51×6.60	36.77	特大	N-7-W	1 北	右	1	4	53	24	0	44	21	0	77	65	-12
499	6 C 節	062	IV 72-32	4.83×5.16	21.11	中	N-94-E	1 東	-	1	4	2	0	0	3	0	0	2	3	1
500	6 C 節	062	V 30-25	5.38×4.70	25.06	中	N-89-E	1 東	右	1	4	9	6	0	4	0	0	12	4	-8
501	7 C 節	071	V 54+55-21	6.90×6.00	40.38	特大	N-3-W	1 北	右	1	4	3	4	0	6	0	0	7	6	-1
502	7 C 節	072	V 57-26	5.04×5.03	25.06	大	N-12-W	1 北	右	1	4	4	12	4	1	9	1	0	17	0
503	7 C 節	072	VI 56-26+27	4.40×4.66	20.05	中	N-87-E	1 東	右	1	4	11	10	0	5	1	0	21	6	-15
504	7 C 節	071	V 54+55-26	5.58×5.95	32.88	大	N-8-W	1 北	-	-	1	4	7	5	0	6	6	0	12	12
505	6 C 節	062	IV 64+65-38	-×5.04	14.32	小	N-9-E	2 東・北	-	1	4	9	1	0	3	0	0	10	3	-7
506	7 C 節	071	V 30+69-26	7.46×7.52	55.25	特大	N-1-W	2 北・北	-	-	0	4	8	14	0	7	12	0	22	19
507	8 C 節	081	VI 52-28	3.90×4.32	15.55	小	N-88-W	1 東	右	1	4	10	4	0	5	0	0	14	5	-9
508	6 C 節	062	V 61+62-28	6.62×6.76	44.38	特大	N-77-W	1 東	-	1	4	13	11	0	9	10	0	24	19	-5
509	7 C 節	071	V 50-28+29	6.35×6.72	43.44	特大	N-93-E	2 東・北	-	1	4	13	21	0	8	14	1	34	23	-11
510	7 C 節	071	V 57-22	3.80×3.82	14.0	小	N-72-E	1 東	右	1	0	10	16	5	8	16	0	31	24	-7
511	6 C 節	062	IV 65+68-27+28	4.08×3.63	11.88	小	N-68-E	1 東	-	0	0	15	2	0	7	0	0	17	7	-10
512	10C 節	101	III 56-21+22	2.87×4.05	11.80	小	N-93-E	1 東	-	0	-	23	5	1	24	0	0	29	24	-5
513	9 C 節	091	III 55-21	5.07×4.11	18.82	中	N-95-E	1 東	右	0	-	11	1	0	9	1	0	12	10	-2
514	10C 節	101	III 63-13+14	2.49×3.03	7.11	小	N-91-E	1 東	-	0	-	2	0	0	4	0	0	2	4	2
515	10C 節	101	III 56-21	2.97×4.02	11.62	小	N-95-E	1 東	-	右	1	-	5	3	0	11	0	8	11	3
516	8 C 節	081	VI 59-26+27	4.52×4.60	20.99	中	N-89-E	1 西	-	1	-	8	10	0	5	0	0	18	5	-13
517	10C 節	101	III 63-13+14	2.70×3.09	8.01	小	N-95-E	1 東	-	-	1	-	9	2	0	10	1	0	11	1
518	6 C 節	062	V 65-13	-	-	-	N-89-E	1 東	-	1	0	3	1	0	3	0	0	4	3	-1
519	10C 節	101	III 63-14	2.64×3.75	9.45	小	N-91-E	1 東	右?	1	-	11	0	0	8	0	0	11	8	-3
520	7 C 節	071	V 61-13	7.00×6.90	46.94	特大	N-88-E	2 東・北	-	2	4	24	33	0	16	23	0	57	39	-18
521	6 C 節	062	V 61-14	-×5.40	14.04	小	N-100-E	1 東	右+壁	1	4	13	9	0	12	8	0	22	20	-2
522	8 C 節	081	VI 60-13+14	3.65×3.75	14.04	小	N-1-E	1 北	-	右	0	-	5	14	0	4	14	0	19	13
523	6 C 節	062	V 39-14	6.00×6.10	36.56	特大	N-3-E	1 北?	-	1	4	7	11	0	5	8	0	18	15	-5
524	6 C 節	062	V 58-13	6.10×6.00	36.06	特大	N-10-W	3 北・東・北	右	2	4	22	7	0	15	1	0	29	16	-13
525	9~10C	090~100	III 53-25	2.34×2.82	5.85	小	N-73-E	1 東	-	0	-	1	0	2	0	2	0	2	2	0





## 第7章 調査成果の整理とまとめ

565	8 C 線	081	Ⅷ 84-42	-	8.4.75	-	N-1-E	1	北	-	石	0	-	9	0	0	5	0	0	0	9	5	4	0
566	7 C 線	071	Ⅳ 83-42	-	-	-	N-19-E	-	-	-	-	-	-	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
567	6 C 線	062	Ⅳ 85-84-41	-	-	-	N-72-E	-	-	-	石	-	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2	2
568	9 C 線	092	Ⅲ 57-58-13	-	3.00 x	-	N-117-E	1	東	-	-	0	-	5	0	0	4	0	0	5	4	1	0	
569	-	-	Ⅷ 75-73-24+25	-	x	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
570	9 C 線	092	Ⅲ 71-27-28	2.37 x 2.19	4.77	小	N-85-E	1	東	-	石	1	-	29	2	0	25	2	0	31	27	4	4	
571	8 C 線	080	Ⅷ 73-74-27	2.63 x 2.35	6.22	小	N-63-W	1	東	-	-	0	-	7	0	0	3	0	0	7	3	4	1	
572	8 C 線	081	Ⅷ 72-73-27-28	2.36 x 3.98	9.15	小	N-48-E	1	東	-	-	0	-	5	0	0	4	0	0	5	4	1	1	
573	6 C 線	060	Ⅷ 72-27-28	3.50 x 3.55	12.03	小	N-75-W	1	東	-	-	1	-	9	0	0	4	0	1	9	5	4	1	
574	調査中線	990	Ⅳ 72-74-28	4.08 x 3.93	11.59	小	-	-	-	-	-	7	0	11	0	27	5	0	1	32	21	1	1	
575	7 C 線	071	Ⅳ 77-78-41	-	-	-	N-59-E	1	東	-	-	0	-	3	0	0	3	0	0	3	3	0	0	
576	7 C 線	071	Ⅳ 81-30-40	3.75 x 3.78	11.84	小	N-92-W	1	西	-	石	1	-	6	0	0	8	0	0	6	8	2	2	
577	8 C 線	082	Ⅳ 81-41	3.18 x 2.96	9.61	小	N-89-W	1	東	-	-	0	-	18	0	0	7	0	0	18	7	11	1	
578	調査中線	990	Ⅳ 72-74-26	-	4.28	小	-	-	-	-	-	-	-	0	4	0	13	3	0	4	16	12	1	
579	7 C 線	070	Ⅵ 64-30-31	4.73 x 4.86	22.28	中	N-5-W	2	北・西	-	-	-	2	4	2	0	1	0	0	2	1	1	1	
580	6 C 線	062	V 53-18	5.25 x 5.30	27.56	大	N-81-E	2	東・北	-	-	-	2	4	7	0	0	3	0	0	7	3	4	
581	6 C 線	062	Ⅵ 48+49-15	4.86 x 4.56	22.25	中	N-87-E	1	東	-	-	-	0	0	40	3	0	36	0	0	43	36	7	
582	6 C 線	062	Ⅵ 53-54-11	5.42 x 5.20	27.83	大	N-2-E	2	北・東	-	-	-	2	4	5	13	0	4	13	0	18	17	1	
583	8 C 線	081	Ⅶ 52-9+10	3.87 x 3.74	14.15	小	N-18-E	1	北	-	-	-	0	-	2	0	0	1	1	0	2	2	0	
584	7 C 線	071	Ⅵ 49-9+10	5.62 x 5.51	31.32	大	N-79-E	2	東・北	-	-	-	2	4	7	3	0	5	0	0	10	5	5	
585	9 C 線	092	Ⅲ 78-36-37	4.20 x 3.69	15.40	小	N-95-E	1	東	-	-	-	1	-	6	0	0	4	1	0	6	5	1	
586	9-10C	090-100	Ⅲ 52-9	-	-	-	N-95-E	1	東	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
587	6-7C	060-070	Ⅵ 53-6	-	-	-	N-87-E	1	東	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
588	6 C 線	062	Ⅵ 49-12	5.35 x	-	-	N-73-E	1	東	-	-	-	-	0	0	4	0	0	2	0	0	4	2	
589	9 C 線	092	Ⅲ 46-49-14	4.68 x 3.52	-	-	N-75-E	1	東	-	-	-	-	0	16	0	0	25	0	0	16	25	9	
590	9 C 線	092	Ⅲ 46-49-14	3.21 x 4.08	12.52	小	N-115-E	1	東	-	石	1	0	16	0	0	10	0	0	2	10	8	9	
591	4 C 線	042	Ⅳ 85-42	3.84 x 3.12	9.77	小	N-34-W	-	-	-	-	0	-	2	0	0	3	0	0	2	3	1	1	
592	6 C 線	062	Ⅳ 84+85-40+41	6.72 x 6.30	24.89	中	N-15-E	1	北	-	石	1	4	13	19	0	15	16	1	32	34	2	2	
593	8 C 線	081	Ⅳ 84-41-42	3.62 x 3.42	12.28	中	N-74-W	1	東	-	-	1	-	12	9	0	12	0	1	21	21	8	8	
594	8 C 線	080	Ⅲ 86-37	-	2.80	-	N-89-W	1	東	-	-	-	-	2	0	0	1	0	0	2	1	1	1	
595	9 C 線	092	Ⅲ 96-37	3.30 x	-	-	N-129-E	1	東	-	-	-	-	8	0	0	0	8	0	1	8	9	1	
596	9 C 線	092	Ⅲ 96-37	2.91 x 3.00	8.15	小	N-129-E	1	東	-	-	-	0	-	26	1	0	23	0	1	27	24	3	
597	-	-	Ⅷ 93-34	-	2.68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
598	8 C 線	080	Ⅷ 91-92-43+44	4.40 x	-	-	N-37-E	1	北	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
599	8 C 線	081	Ⅷ 94-23	-	3.40	-	N-25-E	1	北	-	-	-	-	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	
600	9 C 線	092	Ⅲ 96-97-25	4.23 x 3.63	14.90	小	N-82-E	1	東	-	-	1	-	8	0	0	6	0	0	8	6	2	2	
601	7 C 線	072	Ⅵ 45+46-69	2.70 x 3.93	-	-	N-87-E	1	東	-	石	1	-	8	1	0	8	1	0	9	9	0	0	
602	6 C 線	060	Ⅵ 46-69-70	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	4	11	0	2	8	0	15	10	5	5	
603	7 C 線	071	Ⅵ 49-72-73	4.82 x	-	-	N-1-E	1	北	-	-	-	-	1	4	1	0	0	1	0	0	1	0	
605	8 C 線	081	Ⅳ 46+47-71+72	4.72 x 5.56	24.59	中	N-82-W	1	東	-	-	-	-	6	0	0	4	0	0	6	4	2	2	
606	6 C 線	062	Ⅵ 49-74	-	5.28	-	N-67-W	1	東	-	-	-	1	4	10	20	0	5	12	0	39	17	13	
					-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	8	0	1	5	0	1	9	6	3





## 第1節 古墳へ平安時代の住居について

住居番号	時期	時期コード	墓室番号	グリッド	東西(m)	面積(m <sup>2</sup> )	面積割合	主軸方向	礎		貯蔵穴数	柱式数	壁面形状		敷瓦	敷瓦	敷瓦							
									位置	天井材			土壁	石				土壁	石					
688	9 C前	091	VI 54-10	—	—	—	—	N-7-W	石	—	0	—	—	2	0	0	2	0						
689	6 C	071	VI 50-11	—	4.52×4.50	20.16	中	N-89-E	石	—	1	4	10	1	0	11	1	0	11	12	1			
690	6 C	060	VI 54-4	—	3.71×3.35	12.13	小	N-88-E	1 東	—	—	—	—	3	0	0	3	0	0	3	0			
691	6 C後	082	VI 54-4	—	3.28×3.43	10.72	小	N-86-E	1 東	—	—	—	—	4	0	2	0	3	0	2	3	1		
692	7 C前	071	VI 54-13	—	4.04×4.00	15.76	小	N-110-W	1 西	—	2	4	22	0	0	23	0	0	22	23	1			
693	6 C	060	VI 52-12	—	3.82×3.80	14.65	小	N-89-E	1 東	—	—	—	—	2	4	2	0	2	0	2	2	0		
694	7 C前	071	VI 52-12	—	4.04×4.02	15.84	小	N-56-E	1 東	—	—	—	—	1	4	8	17	0	8	12	0	25	20	—
695	7 C前	071	VI 52-7-8	—	5.06×5.80	34.13	大	N-95-E	2 東・北	—	—	—	—	2	4	5	14	0	4	10	0	19	14	—
696	6 C	060	VI 52-7	—	4.15×4.10	17.28	中	N-98-E	1 東	—	—	—	—	1	4	1	0	0	1	0	0	1	1	0
697	9 C後	092	III 42-73	—	2.09×3.06	7.24	小	N-90-E	1 東	—	—	—	—	0	—	7	0	0	4	0	0	7	4	0
698	7 C前	071	VI 43-73	—	3.44×3.42	11.26	小	N-80-E	1 東	—	—	—	—	1	—	13	11	0	11	0	0	24	11	—
699	7 C前	071	VI 42-72	—	—	—	—	N-90-W	1 西	—	—	—	—	1	—	13	3	0	8	0	0	16	8	—
700	6-7C	060-070	VI 43-72	—	—	—	—	N-103-W	1 西	—	—	—	—	1	—	2	0	0	0	0	2	1	0	—
701	8 C前	081	III 42-73	—	—	—	—	N-71-W	1 東	—	—	—	—	0	—	5	3	0	2	0	0	8	2	—
702	6 C後	062	VI 45-72	—	4.86×4.92	23.65	中	N-115-E	1 東	—	—	—	—	1	4	9	2	0	9	0	0	11	9	—
703	6 C後	062	VI 41-73	—	4.13×4.42	17.60	中	N-91-W	1 西	—	—	—	—	1	4	20	2	0	15	1	0	22	16	—
704	9 C前	091	III 36-37-72-73	—	—	—	—	N-7-E	—	—	—	—	—	0	—	11	0	0	2	0	0	11	2	—
705	9 C前	091	II 36-65	—	4.90×—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	9	0	1	0	10	10	—
706	6 C後	062	IV 77-42	—	—	—	—	N-10-E	—	—	—	—	—	—	2	0	0	1	0	0	2	1	—	
708	6-7C	060-070	VI 76-77-44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	6	0	0	3	0	0	6	3	—
709	10C前	101	II 26-6	—	3.00×—	—	—	N-69-E	1 東	—	—	—	—	1	—	0	0	0	1	0	0	0	1	—
710	8 C前	081	III 38-81-82	—	4.06×—	—	—	N-76-W	—	—	—	—	—	—	—	7	0	0	2	0	0	7	2	—
711	9 C後	092	III 38-82	—	3.12×—	—	—	N-29-E	—	—	—	—	—	—	30	0	0	24	0	2	30	26	—	
712	—	—	III 46-46-88-89	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
713	8 C前	081	VI 44-88	—	5.12×2.60	8.14	小	N-87-W	1 東	—	—	—	—	1	—	2	2	0	0	0	4	0	—	
714	7 C後	072	III 42-88-89	—	3.78×2.90	11.27	小	N-32-E	1 北	—	—	—	—	0	4	7	0	2	2	0	11	4	—	
715	7 C後	072	III 42-88	—	—	—	—	N-27-E	—	—	—	—	—	0	—	5	4	0	6	1	0	9	7	—
716	9 C後	092	III 42-87-88	—	3.83×3.48	12.43	小	N-93-E	1 東	—	—	—	—	0	—	18	0	1	20	0	1	19	21	—
717	8 C後	082	III 42-81	—	—	—	—	N-27-E	—	—	—	—	—	1	—	13	0	0	10	0	0	13	10	—
718	7 C後	072	VI 40-82	—	—	—	—	N-108-E	1 東	—	—	—	—	—	2	0	0	2	0	2	2	2	0	—
719	6 C後	062	VI 40-82	—	—	—	—	N-49-E	1 東	—	—	—	—	1	0	12	9	0	10	9	0	21	19	—
720	10C前	101	III 43-87	—	2.10×2.97	6.17	小	N-129-E	1 東	—	—	—	—	0	—	2	0	0	0	0	2	0	—	
721	—	—	III 39-40-83	—	2.29×—	—	—	N-50-W	—	—	—	—	—	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	—
722	7 C後	072	VI 40-83	—	3.12×3.00	10.80	小	N-67-W	2 東・北	—	—	—	—	0	—	11	0	0	6	0	0	11	6	—
723	6 C後	062	VI 41-82-83	—	3.08×3.14	11.41	小	N-68-E	1 東	—	—	—	—	1	0	6	0	0	3	0	0	6	3	—
724	7 C後	072	VI 41-82-84	—	2.20×2.06	3.75	小	N-83-W	1 東	—	—	—	—	0	—	2	0	0	1	1	0	2	2	—
725	6 C後	062	VI 42-85	—	4.24×—	—	—	N-53-E	1 東	—	—	—	—	0	4	4	0	0	4	1	0	4	5	—
726	7 C後	072	VI 42-85	—	2.80×2.46	6.90	小	N-103-E	1 東	—	—	—	—	0	—	12	0	0	7	0	0	12	7	—
727	8 C前	081	III 46-47-101-102	—	4.45×3.75	15.45	小	N-74-W	1 東	—	—	—	—	0	4	13	12	0	7	1	0	25	8	—



## 第2節 矢田遺跡における6世紀後半集落の成立

小林 昌二

### 1 はじめに

6世紀から9世紀にかけての東国の集落遺跡には、これまでに大略二つのタイプがあるとされている<sup>110</sup>。それによると、①継統型集落（古墳時代から奈良・平安前期時代を通じて営まれたもの）、②廃絶型集落（7世紀末から8世紀に突如出現し、9世紀には消滅する）とであるという。これに従えば矢田遺跡は当然①の継統型集落ということになる。否むしろ10世紀後半や11世紀の前半の荘園体制成立の前夜にまでも及んでいる点では「超」継統型とも言うべきかもしれない。

その①に良く該当する矢田遺跡にも、軒数や規模において第581図のような消長が見られる。とくに6世紀後半を最盛期としながら、7世紀代に縮小し、8世紀前半に大規模、特大規模の住居の比率を激減させながら、住居軒数ある程度回復する。ここに律令制の成立が及ぼした影響を見いだすことができるであろう。また同時に、②の廃絶型集落の出現期の7世紀後半に軒数や住居規模の縮小を見ている。このことは継統型集落における、廃絶型集落の形成への影響を意味しているかもしれない。

「超」継統型ともいえる矢田遺跡集落の消長は、日本古代史のおよそ全期間にわたり、地方に及んだ歴史的影響を反映してきた貴重なデータでもある<sup>111</sup>。そうした意味において言えば、継統型集落こそ律令国家の基盤的集落であるといっても良いのではないか。そうであればなおのこと、問題が多岐にわたることは明らかであるが、ここでは問題を次の点にごく限定せざるを得ない。

その第581図の中にあってもやはり6世紀前半から後半への変化は劇的である。第575図・588図に見るように、判明した矢田遺跡における6世紀前半の住居数10に対して後半の住居数125では、12.5倍を数え、これまでの報告書において指摘されたように「一気に多くの住居が造られ」という事態の生起していたことが直ちに読みとれよう。しかもその分布状況を比較してみると、前半の住居の単体分散傾向に対して、複数住居による集団的接近居住の傾向も読みとることができるのである。しかし、かかる観察ではアバウトにすぎるのであって、なおこの6世紀の前半と後半の相違を読み解くことが、「一気に多くの住居が造られ」た意義を理解する上で不可欠の作業となろう。

そこで、まず「2」において、6世紀前半の特徴を把握して、「3」で後半の特徴を理解し、これらを対比して検討する必要があるであろう。言うまでもなくこのデータは、半世紀という長期間を単位にしており、分類された竪穴住居が、常に、同時に、存在していることを意味できるほど精密ではない。前半も後半も、もつとまばらな分布が通常の景観であったと、バイアスをかけて理解する必要がある。他方、集落が全掘されたわけではなく、もとより判明しているのは一部にすぎないことも当然のことである。これらの制限された条件の下での検討であることをあらかじめ自戒し、各位への断りをしておきたい。

### 2 矢田遺跡における6世紀前半の居住形態

第588図のように調査区域内では、6世紀前半の竪穴住居として表1の10棟が判明している。

これらの竪穴住居は、その建物面積に規模の大きさに差がありながら、住居として消費生活の独立的機能を有していたことは、北(660のみは後に西にも竈)ないしは東にいずれも竈をもち、また竈の右に貯蔵穴(660の後の西竈は左、また332は不明であるが、有していた可能性は高い)を有していたことから明らかである。

これら6世紀前半の住居に分類できる竪穴住居10棟に限ってみると各棟の分布は、442号と669号との間が

表1 六世紀前期住居跡番号

番号	報告書	電	貯蔵穴	面積 m <sup>2</sup>	出土物	備考
31	VI	北壁面	右	37.9		住居跡→15→17
53	VI	北壁面	右	40.3		住居跡→52
326	VI	北壁面	右	38.4		
332	VI	東壁面	不明	12.6		
442	V	東壁面	右	40.2	こも編石12	
548	VI	東壁面	右	23.7		
561	IV	東壁面	右	32.7		
610	IV	北壁面	右	13.0		
660	IV	旧北新西壁面	北右、西左	52.5	石製白玉4、刀子1	
669	V	東壁面	右	33.3	磨石	

14m程度、また442号と548号との間が10mと若干近接しているが、他は50m程度ないしはそれ以上の間隔をおいている。しかしなお6世紀代の住居ではあるが、前半か後半か明らかではないものが、12ある。これに加えて見てみると分布の特徴は、669号の西側に4棟が加わり、561号の西南に1棟が割に接近して存在するようになるが、他の位置はなお50m程度の間隔にとどまるものとなっている。

表1の660号住居は52.5m<sup>2</sup>の最大規模の面積を有し、石製白玉4個、刀子1個を出土する有力戸と見られるが、他の住居とは判明する限り、いずれも50m以上離れている(但し東南部分が未調査である)。この傾向は326号住居(38.5m<sup>2</sup>)の周囲70m～120mに他の住居が存在していない点からも明快となろう。

従って、6世紀前半の竪穴住居の分布は、その単位住居が1棟で、電・貯蔵穴をもって消費生活の単位をなし、その周囲50m程度に相互の住居を置かない居住形態を基本にしていたことを伺わせる。

表2 六世紀前・後期不明住居跡

番号	報告書	電	貯蔵穴	面積 m <sup>2</sup>	出土物・備考
30	VI	東壁面	右	東西不明南北3.6m	他に小穴4、奈良時代9号に重複
178	Ⅷ				
544	VI	北壁面焼土	不明	東西不明南北2.5m	544→547古→545古→543(8c後)
545	VI	東壁面推定	南東部	東西4.6m南北不明	544→547古→545古→546(8c前)→543(8c後)
573	Ⅷ				
602	VI	北壁面推定	北東部	東西南北不明	
650	VI	不明	不明	不明	708→650
685	VI	東壁	右	24.4	
690	VI	東壁	右	12.4	691古→690
693	VI	東壁	左右2	14.5	
696	VI	東壁	右	17.0	695古→696

以上のように6世紀前半の各住居が相互に50m程度、ないしはそれ以上の間隔を置いて占地をしていることを基本に据えると、次にこの基本にそぐわない前掲の442号(40.2m<sup>2</sup>)と669号(33.3m<sup>2</sup>)との間は14m程度、442号と548号(23.7m<sup>2</sup>)との間が10mと近接していることが問題として残る。さらにまた表2における六世紀前・後期不明住居跡についても考慮する必要がある。その考慮の必要なケースとして、①561号住居に対する前後不明の573号住居との間が6m程度、②548号住居に対する前後不明の544号との間は5m程度、③544号と同じく前後不明の685号(24.4m<sup>2</sup>)、693号(14.5m<sup>2</sup>)との間がそれぞれ4m、6m程度、④693号の西方にある同じく前後不明の696号(17.0m<sup>2</sup>)との間が20m程度、⑤696号の西北方の同前後不明の690号(12.4m<sup>2</sup>)との間は10m程度、とそれぞれ接近した間隔となる。

さて、14m程度の近接した442号(40.2m<sup>2</sup>)と669号(33.3m<sup>2</sup>)の場合、10m程度に接近している442号住居と548号住居(23.7m<sup>2</sup>)の場合にはそれぞれの住居規模からみて独立的であり、また接近していても数メートルという近さにはない。表2における前後が不明の住居跡①～⑤の場合について見ると、4～6mと接近している場合がある。これらの中にはむしろ後半の密集・接近の事例である場合もあり、前半の例にできないかもしれないが、しかし6世紀前半の事例における竪穴住居の近接する傾向は、後半の密集・接近への過渡的事例との解釈も可能であろう。従って、6世紀前半の各住居が相互に50m程度、ないしはそれ以上の間

隔を置いて占地をしていることを基本に据えることを妨げるものではないと考える。

こうして判明している10棟の6世紀前半の竪穴住居は、その規模の特大(36㎡以上)5棟、大(25~36㎡未満)2棟、中(16~25㎡未満)1棟、小(0~16㎡未満)2棟の分布に関わりなく、相互に50m程度かそれ以上の間隔を取って居住域を有していた。しかし、住居内にはそれぞれ竈と貯蔵穴を有して、自律的な消費生活を行いつつも、倉庫や付属家屋、井戸等を伴ってはいない。また居住域には、垣根や畑等の痕跡は確認されていない。

次に、6世紀前半の住居を建て替えながら後半にも継続的に居住していったと考えられるか、それとも逆に断絶したか、という問題への解答である。

① 継続を示すであろう31号住居は、ほぼ1~2m北側に重なり合うように同じ方向の同規模の15号住居に建て替えられたと見られ、さらに31号の南部分に重なり、15号住居に接するように17号住居が作られていったことが指摘されている。② 6世紀前半の住居に接近して、後半の住居が存在する例として326号住居と389号住居とであり、また548号住居と544号、545号住居とがある。しかしこの②の場合が建て替えであるかどうかは明らかではない。③ 調査区域の境界付近にあって判然としないものに332、610号住居がある。従って10例中建て替えによる継続を示しているものは1例にとどまり、判然としないものが4例あり、以外の53、442、561、660、669号住居の5例においては、その周辺に6世紀後半の住居跡の近接をまったく見ないと行ってよい。このことはまた、6世紀後半の住居は、その付近を避けて営まれたことを示しており、あるいはその併存期間やある種の観念上の併存意識が作用していたものと見られる。

以上から、6世紀前半の集落は、一部が継続しながら大半は断絶して、後半集落に移行していったことが理解できるのである。その大半が断絶をして一季に成立する後半の集落は一転して竪穴住居が密集した形態を採っていく。それはどのようなものか節を替えて検討する。

### 3 矢田遺跡における6世紀後半の居住形態

6世紀後半段階の住居数は第575図・588図のように125棟が検出されている。他に前掲表2の前半後半不明の11棟がある。これらの居住形態を分析する視点をまず述べておきたい。

6世紀後半段階の半世紀間の住居分布は、判明した限りでは第588図ようになるが、半世紀にわたる長期間にこれらの竪穴住居が同時に併存していたかどうか、またその展開も一気に行われたものかどうかなど、もとより疑わしい。

① 6世紀後半とされる489と495、523と524、588と589、388と389、117と119、164と148の各号の住居の6例の重なり合いはそのすべての併存を否定することを示している。この6例の数値は、同時期の125棟内の10%弱にとどまるが、なお意味するところは同時期の住居と重なり合っていない場合においても、この半世紀間の早い時期の住居においてはなお1度程度の建て替えの行われたことを示唆するものである。逆に建て替えを示さないものは、六世紀の第4四半期以降の建設のために建て替えを必要としなかったことを示唆しているともとれる。

② 6世紀の後半のはじめに、一気に住居が展開したとの前提で考えれば、125棟の半数を間引いて半数の60余棟が、およそ当時存在したことになろうが、半世紀間における自然増やその第4四半以降などの二波、三波などの移住があったために、建て替えを要しなかった部分を機械的に半数として考慮すると90余棟、これに前半後半不明の半数を加えて、最盛期には100棟前後の竪穴住居が展開していたものと想定しておきたい。



## 第7章 調査成果の整理とまとめ

③ 以上のような前提に立つと、第588図の竪穴住居の分布形態は若干まばらにはなるとはいえ、住居数棟が相互に数mおきに接する区域がいくつも生じていたことに間違いなく、あたかも東京都八王子市の中田遺跡の場合と類似する、いくつかの住居が群を成したいわゆる単位集団の形態が想定される。しかし中田遺跡のように各住居を集団に区分してみることはここでは容易ではない。

④ 各住居の方位を見ると、その多数が、ほぼ南北方位の群と、南北に40度程度西に傾斜した方位の群とのあること、また少数であるが東40度程度傾斜した方位のあることに気がつく。その分布は第589図のようになるが、建て替えの場合が同方位であるので、集団関係の相違である可能性がある。

以上の点を前提に、いくつかの竪穴住居を集団関係を把握するように区分けを行ってみたのが第589図の円内のA～Zの26集団である。もちろん複数住居として納まりきれなかったものもかなりでっており、異論も当然あり得るであろう<sup>13)</sup>。

以上、6世紀後半の居住形態は、前述の6世紀前半における単一の住居が相互に50m程度かそれ以上の間隔をとっていた場合は逆に、2～3棟程度の住居を接近して30～50m内外の範囲に、中庭をもつよう居住する形態を想定できなくもないが、方位を揃え、南側が空いたコ字型のような事例を見いだすことは殆どできなかった。よくて「く」字型になりそうなものがいくつか指摘できるにとどまる。

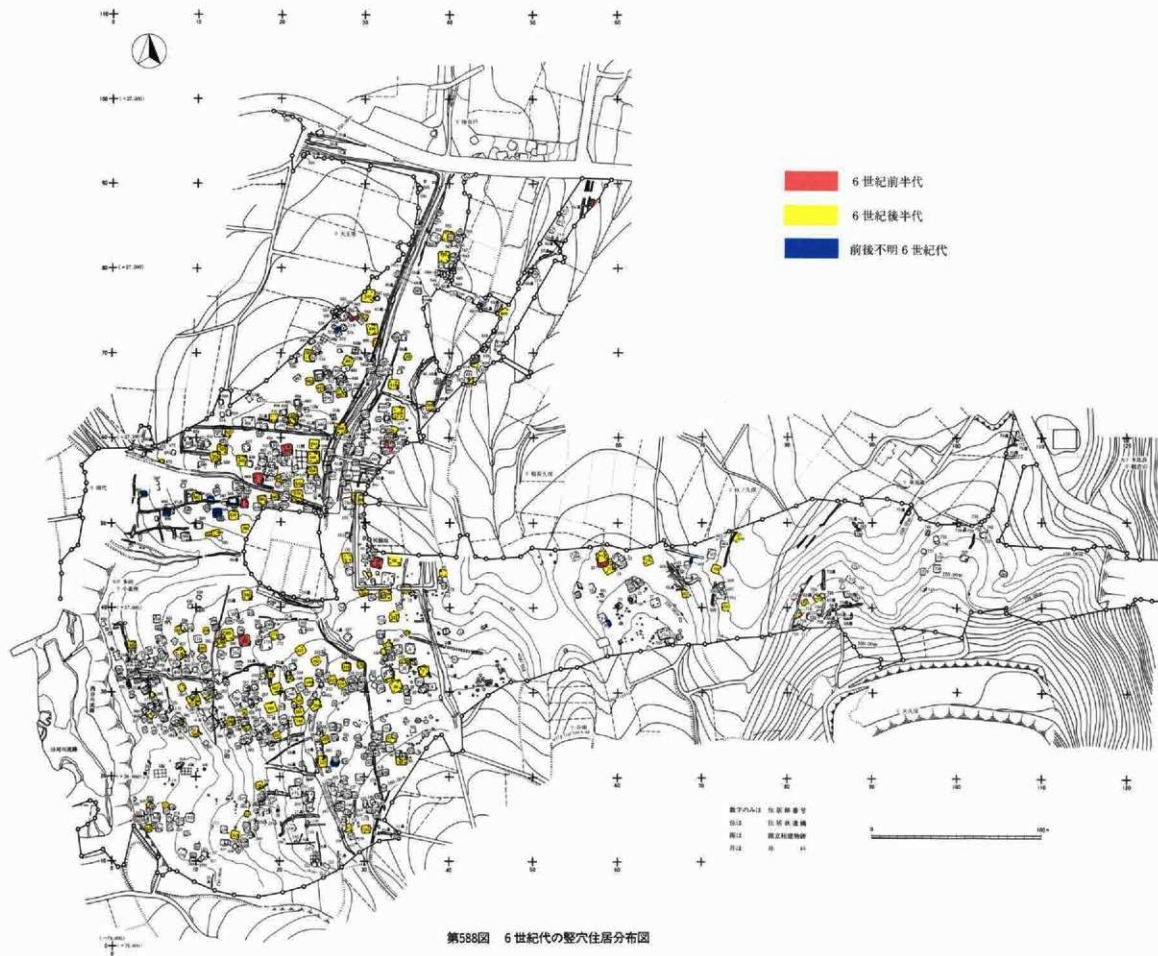
このように単位集団を抽出することにはなお明確さを欠くことに問題を残していることにはなるが、そのやや雑然とした居住における接近した集団的な居住形態には、6世紀前半の孤立した居住形態とは異質な集団的關係、すなわち単位集団的な形態が明らかに指摘できる。むしろそれはその125棟余の竪穴住居のそれぞれには、一部の不明な住居の場合を除き、すべてに竈や貯蔵穴が伴っており、消費生活の自律を達成した住居の集合した居住形態なのである。これは6世紀前半の住居形態が達成していた消費生活の自律性の達成を継承した姿においてである。

### 4 若干の歴史的考察

矢田遺跡における6世紀前半の集落の住居には、倉庫や付属家屋、井戸や垣根等を伴っていない点で、本県の黒井峯遺跡の場合とは大きく異なっている。山口英男は「農耕生活と馬の飼育」<sup>14)</sup>において、黒井峯遺跡が馬牧の白井地区遺跡群の北西約3kmの位置にあり、また西組遺跡の家畜小屋や垣根の存在から、馬牛の牧の可能性を指摘して有益である。しかし同時に黒井峯遺跡の住居単位が、相互に80m程度の間隔をとっていることを無視することはできない。テフラHr-I層に埋没した6世紀中ごろまでの黒井峯遺跡の占地と矢田遺跡における6世紀前半の集落の住居の占地の共通性を見いだすことができるからである。その意義は、矢田遺跡においても消費生活の自律を実現した分散住居の周辺に区画の垣根を設け、倉庫や付属家屋、井戸や園の畑を所有して発達する可能性を考えさせるものではあったが、発達した黒井峯遺跡と比べると相当に未熟であったといえる。6世紀後半に入るとそれまでの集落の住居の殆どは、確かな1例を除いて廃絶していった模様である。

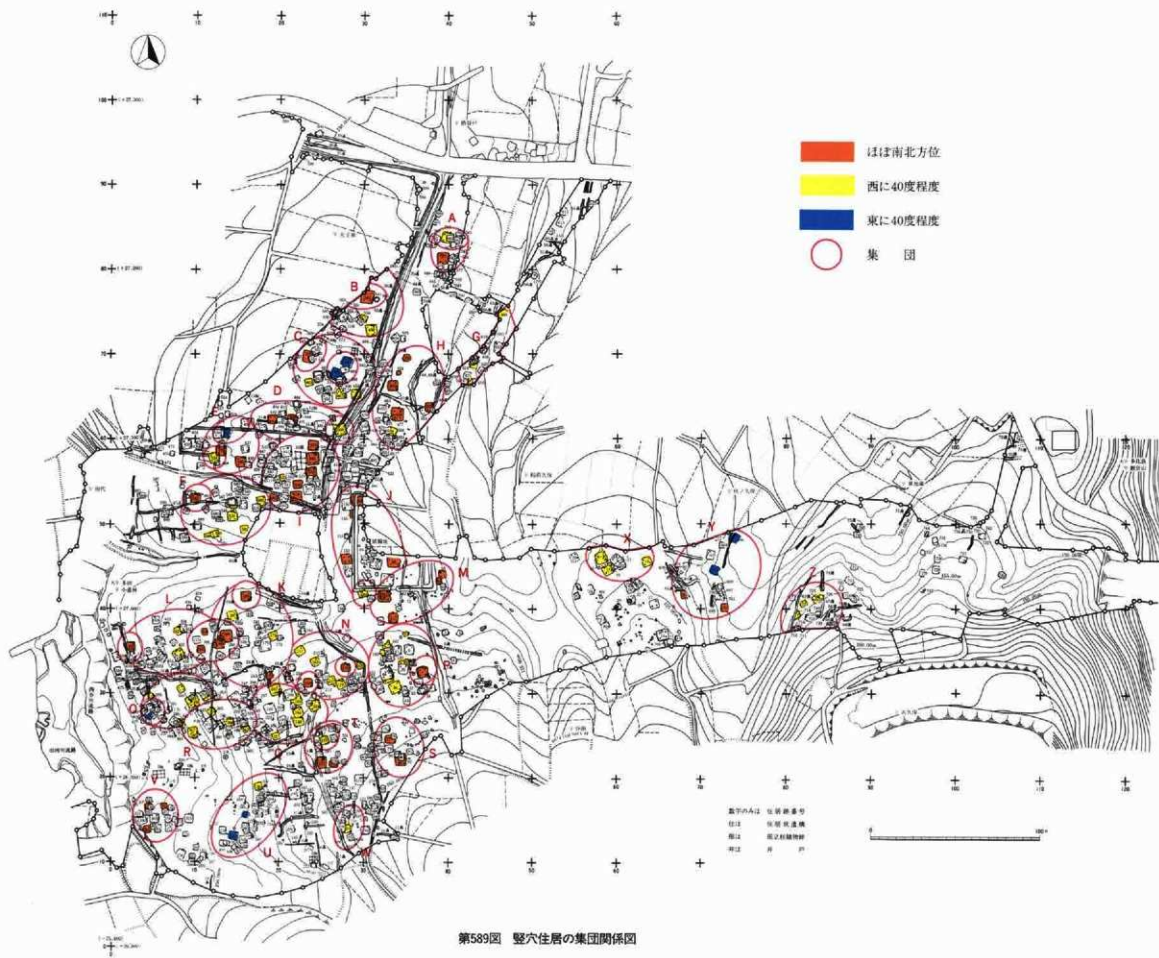
6世紀後半の消費生活の自律を実現した住居によりながら単位集団的な近接した居住形態を探った、前半の分散的な居住形態とは、居住形態の原理を異にした集団の居住に取って代われ、前半までの居住者はここから離れていったか、または婚姻などによって新たな集団に吸収された模様である。その後半の居住集団の単位集団的な居住形態の集落が、これまでの報告書において述べられているように、以後長く維持され、律令制集落の母体になっていったと考えられる。

この集落には、10世紀前半の12号住居から出土した石製紡錘車に刻書された「物部郷長」や9世紀前半の



第588図 6世紀代の竪穴住居分布図





第589図 竪穴住居の集団関係図



697号住居から出土したやはり石製紡錘車に刻書された「物マ 八田」の文字資料など<sup>(1)</sup>から、その集落が物部郷長を擁する物部集団や、八(矢)田郷の名称につながる八(矢)田、ないしは八(矢)田部集団、あるいはまたは天平13年調布墨書銘の「上野國多古郡八口郷上毛野朝臣甥」に見られる上毛野朝臣の一族<sup>(2)</sup>などが居住していた。これら後の文字資料から確認される物部や八(矢)田部がいつから居住したかは定かではないが、緑野屯倉の成立ないしは当然屯倉の設置と関係する東山道の交通の要衝や辺境の軍事的確保と強化の課題を大和王権が追求した6世紀後半からの武装集団の移住による可能性の高いことを改めて指摘しておきたい<sup>(3)</sup>。なぜならば、その居住の密集した形態的な特色は、武装集団の居住に似つかわしいからである。この矢田集落の6世紀後半の傾向は、周辺の遺跡にも同様の傾向としても指摘されている。矢田集落の限られた現象ではなく、この地域を広く巻き込んだ変動であった。この地域の墓地は南の丘陵沿いの群集墳において、また生活基盤となる水田などは北側の鍋川に広がる低地を農地に開発したことなどはすでにこれまでも指摘されたとおりである<sup>(4)</sup>。いつからかは明らかではないが、この水田には糸里が検出もされ、古代律令制の基盤的農地であったことも明らかである。こうして「超」継続型の矢田遺跡が、律令制のより基盤的集落であることを示すと共に、11世紀に至るまで継続したものと思われる。

## 注

(1) 山口英男「農耕生活と馬の飼育」(新版「古代の日本」8開巻、角川書店1992年)。ここではそれまでの成果を総括してきた鬼頭明「律令国家と農民」(1979年)や高橋一夫「計開村落について」(「古代を考える」20、古代を考える会1979年)などをふまえて、なお「公権力」の具体的内容の解明が課題であると指摘して注目される。

(2) そのような意味において、矢田遺跡の歴史的背景の理解は重要である。かかる見地からすでに「矢田遺跡をとりまく歴史的環境」(「矢田遺跡—平安時代住居跡編」(1)(1990))や、「古代生産と在地社会—矢田遺跡訪査の分析を通して—」(1)、などで示されるとともに、「矢田遺跡」II、IIIにおいて各第4章の「若干の考察とまとめ」の部分にもいくつかの考察がある。

これまでの報告において、本遺跡が6世紀前半の小規模集落の断絶の後に、「6世紀後半代より一気に多くの住居が造られ集落が形成された」と、一気に多くの住居が造られた、というように、小規模の居住が順次に規模を拡大したのではなく、集団的な移住・定着した事態を想定させる。またその移住後の定着・継続が4世紀後半の長期間にわたったことは、集団のこの地における居住を支える生産・生活基盤が実現したことも当然である。私でもしたがって、この移住と定着には密接な関連があり、6世紀後半の矢田遺跡集落の成立期には大いに注目する必要があると考え、「矢田遺跡II」の第4章第1節に「矢田遺跡集落成立の前後」として、本遺跡に密接する周辺地域に現われたミナケの問題を手探りにし、またこれを全国的な史的動向のなかに位置づけしてみた。また「矢田遺跡III」の第4章第1節「物部の分布とその意味について」においては、痕跡と推する辺境とその間を結ぶ交通の要衝に物部の展開が見られ、それが6世紀の後半である可能性を指摘してきた。

ようやく今回において、6世紀代の住居跡データの整理が終了しつつある中で、本文のように6世紀前半と後半の相違と比較に興味深いデータが出てくることに注意を向けてみた。

(3) すでに関和彦「矢田遺跡と賚塞」(「矢田遺跡」III、第4章第2節)において10世紀前半の住居跡104軒のデータにより、黒井峯遺跡の帯状空白地や微地形を基に、それらを11集団に区分した仕事がある。この場合も結果は、説得的で決定的な、また明快な形を有するものであるとはいえなかったが、妥当で有益な結果と考える。本編においてもなお厳密には、7世紀以降9世紀代の検討を経て関氏の10世紀の提唱に及ぶべきではあったが、時間的制約のために果たし得なかったことをお断りしておかなければならない。

(4) 山口英男注(1)論考。

(5) 高島英之「矢田遺跡出土の平安朝における文字資料について」(「矢田遺跡III」第四章第3節)

(6) 中沢信・春山秀幸・関口一夫「矢田遺跡」とその周辺—天平一三年に多古郡に居た「上毛野朝臣甥」—(「信濃」第一四一巻第三号)

(7) 拙稿注(2)に同じ。

(8) 「矢田遺跡」・同IIの第2章「地理的環境および歴史的環境」

### 第3節 矢田遺跡周辺における古墳時代後期から 平安時代の土器について

〔矢田遺跡VI〕において、古墳時代の前期から後期までの約400年間で9段階に区分し土器編年を試みた。平安時代に関してはすでに〔矢田遺跡〕・〔矢田遺跡II〕・〔矢田遺跡III〕において大部分の住居は報告を終了しているが、土器編年に関しては提示していない。本年度は奈良時代の住居を主な対象として報告書を作成しており、本年度をもって全ての報告書の作成は終了する。そこで本報告書において、奈良時代・平安時代の土器編年を提示し、遺跡を理解するための時間軸を明らかにしたい。なお昨年〔矢田遺跡VI〕の中で提示した古墳時代の土器編年において後期の8・9段階、特に9段階の住居の多くを本年度に報告することとなったために不備が多かった。そこで前回と重複するが今回8・9段階から報告を行なう。また今回は各段階を前半と後半に細分し約25年の時間軸を想定し報告を試みた。

編年図に使用した土器は矢田遺跡の出土土器を中心に、吉井町出土の土器を使い周辺に出土しない土器に関しては参考資料として、甘楽町・前橋市・高崎市の資料を用いた。住居出土の一括資料を基本としたが、良好な資料が少ないことに加え一括資料の中には新旧の土器も含むために、多くの共存遺物の例からこの時期に存在するであろうと考えた代表的な土器も用い、理解しやすい編年図の作成に努めた。

以下の土器編年は環類の変化を主に、壺・羽釜・土師質土器の変化や土師器と須恵器の使われ方等の問題に注目し、昨年提示した1から7段階の後半に当たる8段階から17段階までの11段階を区分したものである。昨年度報告した、1段階を弥生時代終末期（3世紀後半）、2・3段階を古墳時代前期（4世紀前・後半）、4・5段階を古墳時代中期（5世紀前・後半）、6～9段階を古墳時代後期（6世紀前・後半、7世紀前・後半）と想定している。本年度報告する、8・9段階を古墳時代後期（7世紀前・後半）、10・11段階を奈良時代（8世紀前・後半）、12～17段階を平安時代（9世紀前・後半、10世紀前・後半、11世紀前・後半）と考えている。

時代や時期区分また実年代の扱いには多くの問題を含むと思うが、そのことについて触れる力量は無いため、土器理解のための便宜的な区分とする。

本遺跡の東に近接した「多比良追部野遺跡」、甘楽町の「白倉下原遺跡・天引原遺跡」をはじめ多くの遺跡で、報告書の刊行が行なわれる。今後それらの成果を取り入れた状態で、より良い土器研究が行われてゆくことを期待する。

#### 8段階（矢田遺跡では78軒確認されている。）

土師器の坏や坏蓋の変化をもって、古墳時代後期の7段階と8段階（6世紀後半と7世紀前半）を区分するのは非常に難しい問題である。研究の進んでいる須恵器坏身や坏蓋の編年観を、土師器に当てはめて同じような器形（高崎市小林山台遺跡2号古墳や榛名町奥原古墳群53号古墳出土のような坏身や坏蓋）を探してみると矢田遺跡周辺だけでなく県内からもほとんど出土していない。さらに土師器坏身や坏蓋だけでなく、須恵器自体もわずかな量でしか出土していないのである。須恵器生産が急激に減少している時期である。これまで須恵器坏蓋を主に模倣してきた土師器の坏類は、模倣すべき坏類をほとんど持つことなく、全国的な小型化の傾向を示しながら、従来からの形を受け継ぎ生産され続けてきた事が考えられる。そのために須恵器坏類の変化をもって土師器坏類の年代観を与えると7段階から8段階を飛ばしていきなり9段階になってしまうような状態である。では坏類は変化していないかといえば変化しており、その変化を捉えることは可能である。

環は環G・F・H・Iと高環Hが使われている。坏身である環Gの出土は前段階同様に少ない。主体を占める環Fは稜から上の口縁部までの高さがさらに低くなり、1.5~2.2cmの範囲の中にほぼ集中するようである。また稜径も小さくなる傾向を示し全体に小型化する。この環Fは黒斑がほとんど無く、橙色を呈しているものが多い。中には胎土が粉状を呈し手に付着するものも含む。またこの段階になると稜の部分で口縁部が内屈しその後直立する環Iが多く出土する。環Gのように口縁部が内屈はしていないが、この環Iは坏身の範囲で考えている。環Iの中には黒色の漆が塗布されたものが多く、1住居跡の出土遺物中大部分を占める場合も出現するようになる。炭素の吸着による黒色の土器環Iも少量ながらこの時期でも使用されている。この環Fと環Iが大部分を占めて、少量の有段口縁の環Hと坏身の環Gが使用されている。後半になると環Iと環Fと環Gの全てが小型化しており、また環Iは底部がより丸底になってゆく。環Hはほとんど出土しなくなるようである。高環Hはさらに長脚となり脚部が筒状を呈し、脚内側の輪轡跡はヘラ削りにより大部分が削り取られて残っていない物が多い。そのため脚部の器内も薄くなっている。口縁部は湾曲しながら大きく外側に開いている。そのため環部の器高はさらに低くなり、口径と稜径の差はさらに大きくなっている。後半になると高環は三角鉢に近い脚部が次第に筒状に近くなり、口縁部と脚部下端の外反は少なくなるようである。この段階をもって長脚の高環はほぼ終了する。

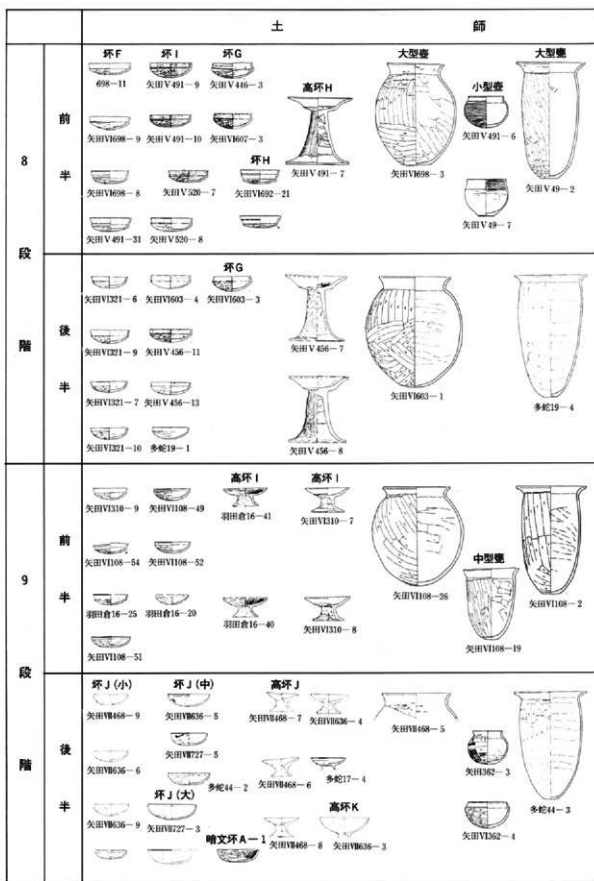
大型甕はこの段階でも多く使用されている。口縁部は緩やかに外反し、前段階に多く認められたやや厚い底部は僅かとなり、底部は丸く削られて薄くなっている。しかし胴部とは削りが違うためにその境は確認できるものが多い。胴部から胴上部のヘラ削りは縦方向を主に持つものと横方向を主とするものが存在する。小型甕はこの段階でも使われている。

甕は大型甕と小型甕が存在する。大型甕はさらに長胴化が進みこの段階でピークを迎える。高さが35cm以上の物が多く、38cm以上のもも登場してくる。ヘラ削り等により器内はしだいに薄くなり、輪轡跡はほとんど残らない。底部は薄くなり、底部と胴部下端との境に明瞭な段は認められなくなる。口縁部の外反の傾斜は大きくなる。7段階と8段階においては胴部外面の整形方法も異なっているようである。それはヘラ無でヘラ削りの差と思われる。7段階においてはヘラで表面を撫でることにより器面を整えている例が多い。時にはヘラを用いずに指により器面を整えていると思われる例も認められる。そのためかヘラの単位が明瞭に残らない物が多い。また3~7mmの多くの大きな石を含んでいることが多いが、それらの石の移動は少ない。8段階以降に認められる強いヘラ削りが行われたなら、これらの石の多くは移動しているはずである。8段階以降器内を薄く削るようになってゆくと、それに伴い胎土中に含む砂粒の量は次第に小さくなってゆく。胴上部のヘラ削りは、底部方向からほぼ垂直に口縁部に向かい削られている。ヘラ削りは「く」の字状に外反する口縁部に当たったところで止まり、削られない口縁部との境に段差を持つ。あるいは、ヘラが口縁部に当りその痕跡が口縁部に残る。この段差またはヘラの工具痕が残るのがこの第8段階からであり、深いヘラ削りが行われてくることを物語る。

小型甕Cの口縁部は短くなっている。この段階以降出土しなくなる。小型甕Dは頸部がやや狭くなりくびれが大きくなるものもある。大きな甕と共通して底部が薄くなり、底部と胴部下端との境に明瞭な段は認められない。大型甕は大型甕に似て、胴上部は直線的になり胴下部が胴下端に向かい緩やかに内傾する。そのため底部の孔の大きさは相対的に大きくなっている。口縁部はしだいに短くなり強く外反する。この段階頃から数は少ないが大型甕を小型化したような中型甕が存在する。小型甕は底部が広くなり、穿孔は1つでなく10個以上の小穴を持つものも使われている。

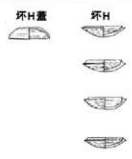
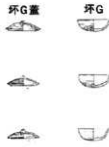
須恵器は前段階と異なりこの段階からの出土量は少ない。出土したとしても前段階の製品であり、8段階





第590図 矢田遺跡を中心とした古墳時代土器編年図(1)

第3節 矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について

器	須 恵 器
<p>小型甕D 矢田I 491-4</p> <p>大型甕 矢田I 491-1</p> <p>中型甕 矢田V 526-1</p> <p>小型甕C 矢田V 692-12</p> <p>鉢 矢田V 692-20</p> <p>小型甕 矢田V 491-51</p>	<p>参考</p> <p>环H蓋 环H</p>  <p>(高崎市少林山台遺跡2号墳)</p>
<p>矢田V 456-3</p> <p>矢田V 456-4</p> <p>矢田V 821-11</p>	<p>資料</p> <p>环G蓋 环G</p>  <p>(榑名町奥原古墳群5号墳)</p>
<p>矢田IV 108-40</p> <p>矢田VI 108-47</p> <p>矢田VI 108-42</p> <p>矢田VI 108-46</p>	<p>矢田VI 108-57</p> <p>矢田VI 286-27</p> <p>矢田VI 108-56</p> <p>矢田VI 286-28</p>
<p>矢田IV 468-3</p> <p>鉄鉢型 矢田IV 452-6</p> <p>羽田倉62-2</p> <p>羽田倉62-5</p> <p>中型甕 羽田倉62-6</p>	<p>高环 蓋</p> <p>矢田IV 93-7</p> <p>矢田VII 732-5</p> <p>矢田IV 452-10</p> <p>矢田VII 468-15</p> <p>矢田IV 93-6</p> <p>矢田VII 732-4</p> <p>矢田IV 452-13</p> <p>矢田VII 468-16</p> <p>矢田IV 468-14</p> <p>矢田VII 727-7</p> <p>矢田IV 636-15</p> <p>矢田VII 636-15</p> <p>矢田IV 452-7</p> <p>多岐17-5</p> <p>环A-1</p> <p>矢田VII 727-6</p> <p>矢田VII 732-3</p>

第591図 矢田遺跡を中心とした古墳時代土器編年図(2)

で生産されたと思われる製品は全くといっていいほど出土していない。おそらく県内での生産が著しく減少していたものと思われる。

#### 9段階（矢田遺跡では50軒確認されている。）

この段階の中で模倣杯が消滅し、内湾口縁の杯が主体を占めてゆく。畿内で生産されていた暗文土器がわずかながらこの段階から出土してくる。前段階でほとんど出土しなかった須恵器が、この段階前半に少し出土し、後半になると一気に器種と出土量が増加してくる。土師器の杯も大中小と種類が多くなる。このことは律令社会の進展とともに律令土器生産が本格的に稼働し、その結果が集落の中にも反映されてきた時期といえる。時代区分として奈良時代でないために古墳時代として扱っているが、実態は律令社会である。後半段階では多胡碑「純日本紀」の記載内容・矢田遺跡出土の「八田郷」と記された訪鍾車から矢田遺跡周辺は「上毛国甘菜評八田里」として編成され、律令社会の中に組み入れられていたことがほぼ確実視されている。

杯Fは口径・稜径・器高とも小さくなり、全体に小振りとなっている。口縁部は短く僅かに外反しており、稜から上の口縁部までの高さは低く、大部分が1.7cm以下となっている。この段階の中で杯Fは消えてゆく。内湾口縁の杯Jが新たに出現し杯の主体を占めてゆく。後半になると底部から口縁部外面ほぼ全面にわたりにへら磨き、口縁部内側に暗文を持つ暗文杯A-Iが出土している。

高杯Hは姿を消して小型で短脚の高杯Iが出現する。脚部分は短くへら削りの幅が広く、8段階の高杯の脚部と大きく異なる。そのため前段階からの変化により出現した高杯ではなく、他の高杯の影響下で出現したものである。羽田倉遺跡では内面に暗文の認められる高杯が出土しており、古墳時代の高杯の出現は暗文土器同様に畿内からの影響で出現したものと思われる。短い脚部の内側は8段階と異なりへら削りはなく指による整形痕が残っている。

大型壺の口縁部はさらに短くなり外反する。底部は丸く薄く削られており、厚い底部を持つ壺は使われていない。小型壺が少量ではあるがこの段階でも使われており、大型壺同様に奈良時代まで使われている。

壺の長胴化は前段階で終了する。大型の壺は口縁部の外反傾斜がますます大きくなり、胴部はへら削りで薄く仕上げ、口縁部は削らないため厚い。へら削りの行われている胴部と行われていない口縁部との境に明瞭な段を持つ壺が多く認められる。大きな壺を小型化した壺が少量ながら出現する。この壺は器形や整形方法が大型壺とほぼ共通し、一時的に使用されたものであり次の10段階ではほとんど使用されていないようである。前段階に大型の壺を小さくしたような中型壺が出現しているため、中型壺も前段階に存在が想定されるが、現在のところ確認されていない。

小型壺Dは大型壺や大型壺同様に底部が薄く丸底となる。大型壺は大型壺に似て、口縁部の器肉が厚く胴部は薄く仕上げている。しかし壺のようにへら削りの行われている胴部と行われていない口縁部との境に明瞭な段差は認められない。胴上部から下端にかけて僅かに内湾するがほぼ直線的になっている。

口縁部はしたいに短くなり外反する。壺と同様に大きな壺を2/3程にした中型の壺も使われている。小型壺は底部の穿孔が1つのものが確認されているが、多孔の物も存在していると思う。しかしいずれにしても壺は大・小とも出土量が極端に少なくなり明らかでない部分が多い。次の奈良時代では壺はほとんど出土しなくなる。

前段階でほとんど出土していない須恵器が、この段階の前半からわずかに出土するようになり、後半になると一気に多くの器種が登場し出土量も増加してくる。杯Gと杯Hの蓋が前半に、後半になると杯Gと杯Hの蓋に加えて高杯・杯Aが登場してくる。前半段階の杯Gと杯Hの蓋は土師器杯の共伴例から後半段

階に近い時期とおもわれる。口径で比較するなら、坏Gは10cm前後、坏Aは12・16・18cm前後、高坏は22・25cmと大きな違いがある。口径の大きな坏Aは多く出土するようになるが、なぜか畿内で出土する高い高台を持つ坏Bはほとんど出土しない。

10段階（矢田遺跡では84軒確認されている。）

土師器においては、古墳時代後期を代表する模倣坏および器内の厚い縦方向へら削りの壺・高坏・甕が消えて、暗文を持つ暗文坏AとC・口径16cm前後の皿・肩部に横方向へら削りを持つ器内の薄い壺が登場してくる。この段階後半には小型台付壺も登場してくるようである。須恵器では、9段階後半で見られた口径の異なる多くの器種は同様であるが、使われる器種は変化している。

暗文を持つ暗文坏AとCは、県内において前段階の後半には少量ながら出土していることが報告されている。矢田遺跡周辺にもそれと思われる製品が出土しており、前回の報告書の中では、[多胡蛇黒遺跡]17号住居出土の坏を9段階後半として提示した。しかし数は少なく、集落において多く使われてくるのはこの段階の後半から次の11段階にかけてである。

坏Jは前段階において口縁部が短くやや内湾していたものが、次第に長くなりわずかに外傾してくる。口径16cm前後の皿が出現する。この皿Aは須恵器の坏A-I同様に口径が大きくこの段階から出現し、次第に口径が小さくなりこの段階の後半で消えてゆく。土師器の高坏は出土していない。

大型壺はこの段階でも使用されているが、良い資料がない。

























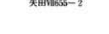
























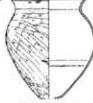



大型壺は口縁部を含めて全ての器内が薄くなっている。最大径が口縁部にあったものが、肩部が張り出しにくくなるために次第に肩部になってゆく。器高は次第に低くなる。へら削りは従来は口縁部に向かう縦方向であったが、肩部に横方向のへら削りが行われるようになっていく。このへら削りの違いは9段階と10段階を区別する重要な指標のひとつである。小型壺がこの段階でも少量ながら使用されている。後半になると台付も出現するようである。この小型台付壺は平安時代の12段階まで使われている。甕はこの時期と次の11段階では使用されていない。須恵器の甕は次の11段階では生産されているが、矢田遺跡からは出土していない。

前段階後半で多くの器種が登場した須恵器は、坏Gと坏Gの蓋は消えて、口径18cm以上の坏Aと高台を持つ坏B-1が多く使われるようになる。坏B-1の高台は削りだし又は貼り付けたもので低く、特に削りだし高台は底部中央より低く、高台としての機能を果たしていないものが多い。坏A-1同様に後半段階ではほとんど消えて出土しなくなる。蓋は環状のツマミが付き、宝珠ツマミの製品はほとんど姿を消している。環状ツマミの蓋にカエリを持つものと持たないものがある。前段階ではカエリを持たなかったが、この10段階になるとカエリを持つものと持たないものが存在し、これを観察するとツマミの大きさに大小の2種類あることが指摘出来そうである。大は径5cm前後で小は径3cm前後である。一概に言えないが、小の環状ツマミにはカエリは付かないで大の環状ツマミの多くにはカエリの付く例が、県内の月夜町町村主遺跡や群馬県保原田東遺跡等では多いようである。しかし藤岡窯跡群SY-1窯跡に見られるように小のつまみにもカエリの付く例も多く、現状では不明である。

11段階（矢田遺跡では45軒確認されている。）







































































国分寺造営に伴う瓦生産が、土師器や須恵器生産にどれだけの影響を与えたかに付いては明らかでない。しかしこの頃から上野型短頸壺蓋や大中小の短頸壺、また口径が小さく器高の高い高台を持つ坏B、さらに高台を持つ盤等の新しい器種が生産され始め、やがて集落の中からも一部が出土するようになる。このように11段階（8世紀後半）には9段階（7世紀後半）に似た新たな土器生産の動きがそこに認められる。

暗文坏A-Iは、この段階でも多く使用されている。この段階から従来では確実に暗文が描かれていた暗

		土	篩			器
10	前 半	<p>暗文環A-I</p>  <p>矢田VR254-6</p>  <p>矢田VR95-1</p>	<p>環J</p>  <p>矢田VR628-7</p>  <p>矢田VR744-2</p>  <p>矢田VR253-6</p>  <p>矢田VR254-5</p>	<p>皿A</p>  <p>矢田HV828-5</p>  <p>矢田VR744-4</p>  <p>矢田VR95-4</p>  <p>矢田VR95-3</p>	<p>大型蓋</p>  <p>矢田VR744-1</p>	<p>大型甕</p>  <p>矢田VR507-1</p>
		<p>暗文環C</p>  <p>矢田HV248-6</p>  <p>矢田VR390-5</p>  <p>矢田VR390-6</p>  <p>矢田VR248-7</p>	 <p>矢田VR655-6</p>  <p>矢田VR655-5</p>	 <p>矢田VR248-8</p>  <p>矢田HV248-9</p>  <p>矢田HV390-4</p>  <p>矢田VR336-6</p>	 <p>矢田VR48-11</p>  <p>矢田VR48-11</p>  <p>矢田VR655-2</p>	 <p>矢田VR248-1</p>  <p>矢田HV390-1</p>  <p>小型甕 矢田VR336-3</p>
11	前 半	 <p>多蛇63-4</p>  <p>矢田VR552-6</p>  <p>矢田VR552-5</p>  <p>矢田VR577-3</p>	 <p>矢田HV336-6</p>  <p>矢田VR112-13</p>  <p>矢田VR112-8</p>  <p>矢田VR112-9</p>	 <p>矢田VR112-13</p>	 <p>多蛇63-14</p>  <p>矢田VR577-1</p>  <p>矢田VR577-2</p>	
		<p>暗文環A-II</p>  <p>矢田VR246-20</p>  <p>矢田VR246-14</p>  <p>矢田VR61-7</p>  <p>矢田VR246-18</p>	 <p>矢田VR246-17</p>  <p>矢田VR179-17</p>  <p>矢田VR246-21</p>  <p>矢田VR490-7</p>	 <p>矢田VR246-4</p>  <p>矢田VR246-5</p>	 <p>矢田VR179-2</p>  <p>矢田VR490-5</p>  <p>矢田VR490-6</p>	

第592図 矢田遺跡を中心とした奈良時代土器編年図(1)

第3節 矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について

		須 恵 器					
<p>小型甕</p>  <p>矢田VR254-3</p>	<p>鉢</p>  <p>矢田VR628-4</p>	<p>杯A-I</p>  <p>矢田VR628-10</p>	<p>杯A-II</p>  <p>矢田VR628-14</p>	<p>杯B-I</p>  <p>矢田VR628-13</p>	<p>蓋</p>  <p>矢田VR95-5</p>		
		 <p>矢田VR180-13</p>	 <p>矢田VR628-12</p>	 <p>矢田VR253-11</p>	 <p>矢田VR744-6</p>		
	<p>鉄鉢型</p>  <p>矢田VR254-4</p>	 <p>矢田VR180-14</p>	 <p>矢田VR744-5</p>	 <p>矢田VR253-12</p>	 <p>矢田VR254-11</p>		
		 <p>矢田VR628-11</p>	 <p>矢田VR254-8</p>		 <p>矢田VR253-13</p>		
 <p>矢田VR336-4</p>	 <p>矢田VR390-3</p>	 <p>矢田VR248-13</p>			 <p>矢田VR655-13</p>		
		 <p>矢田VR248-12</p>			 <p>矢田VR248-15</p>		
		 <p>矢田VR390-10</p>			 <p>矢田VR248-14</p>		
		 <p>矢田VR390-9</p>			 <p>矢田VR655-12</p>		
 <p>矢田VR112-7</p>		 <p>ヌカリ甕184</p>	 <p>ヌカリ甕183</p>	<p>杯B-II</p>  <p>矢田VR349-16</p>	<p>盤A</p>  <p>ヌカリ甕139</p>	<p>短頸壺</p>  <p>ヌカリ甕247</p>	
		 <p>ヌカリ甕253</p>	 <p>ヌカリ甕251</p>	 <p>ヌカリ甕2034</p>	 <p>ヌカリ甕162</p>	 <p>ヌカリ甕140</p>	 <p>ヌカリ甕250</p>
	 <p>矢田VR112-6</p>	<p>鉄鉢型</p>  <p>矢田VR552-7</p>	 <p>ヌカリ甕2029</p>	 <p>矢田II177</p>	 <p>ヌカリ甕149</p>	 <p>矢田VR577-7</p>	
		 <p>矢田VR349-17</p>	 <p>矢田VR178</p>	 <p>ヌカリ甕147</p>	 <p>多蛇63-8</p>		
 <p>矢田VR246-6</p>	 <p>矢田VR246-10</p>	 <p>矢田VR246-24</p>	 <p>矢田VR246-31</p>	 <p>矢田VR246-32</p>	 <p>矢田VR490-10</p>	 <p>矢田VR490-12</p>	
		 <p>矢田VR246-27</p>	 <p>矢田VR246-34</p>		 <p>矢田VR490-13</p>		
		 <p>矢田VR61-11</p>	 <p>矢田VR61-18</p>	 <p>矢田VR246-33</p>		 <p>矢田VR490-14</p>	
 <p>矢田VR61-1</p>	 <p>矢田VR61-5</p>	 <p>矢田VR179-24</p>	 <p>矢田VR179-29</p>	 <p>矢田VR179-31</p>		 <p>矢田VR61-21</p>	

第593図 矢田遺跡を中心とした奈良時代土器年図(2)

文環A-Iに暗文の描かれていない暗文環A-IIが登場してくる。環Jは底部が次第に平底に近付き口縁部が次第に長くなり直立気味に立ち上がっている。大型壺はこの段階でも使用されているが、この段階をもって消えてゆく。大型壺は口縁部を含めて全ての器肉が薄くなっている。肩部が張り出してくるために最大径が肩部になっており、器高は次第に低くなる。肩部横方向のヘラ削りの範囲が多くなっている。台付と平底の小型壺も多く使われている。須恵器の甗はこの段階で生産されているが、矢田遺跡からは出土していない。鉢と鉄鉢型の鉢が使われている。

須恵器は、口径16~18cm以上の大きな環A-Iと環B-Iは消えて、口径12cm前後の環Aが多く使用されている。この段階から口径は13cm前後と小さく器高が5cm前後と深い環に、0.5cm前後の高い高台を持つ環B-IIと口径18cm前後の浅い盤に大きな高台の付く盤Aが登場する。また群馬県を中心に出土し、県外ではほとんど出土しない独特の特徴を持つ上野型短頸壺蓋が登場してくる。蓋はつまみが次第に高くなり持ちやすくなる。ほかにも鉢や長頸壺や短頸壺等が出土している。集落遺跡でなく須恵器を生産したヌカリ沢A窯址が矢田遺跡の対岸にあり、近年調査され報告書が刊行されている。その結果から見るとこの11段階前半頃には大中小の短頸壺とそれに伴う蓋・口径が小さく器高の高い高台を持つ環B-II・高台を持つ盤・多くの甗等が焼かれている。これらの製品の一部はやがて集落の中にも持ち込まれるようになる。

#### 12段階（矢田遺跡では33軒確認されている。）

土師器はこの段階まで供膳具と煮沸具としての役割を果たしているが、次第に存在価値が薄れ、次の段階以降になると出土量が減少してゆく。須恵器環類は従来日常の供膳具としての役割を次第に強めていたが、前段階までは盤や短頸壺や高杯の存在に見られるように、祭祀的な所で使用される機能も多く持っていたようである。それがこの段階になると一部の地域を除いて、ほぼ日常の供膳具の生産に主体が移ってゆき、土師器の環を圧倒し大量に出土するようになる。煮沸具に関しては、ほぼ独占的に土師器の甗が担っていた。

暗文を持つ暗文環A-Iはこの段階でも使用されているが、ほぼこの段階の前半で消えてゆく。前段階から出土した暗文を持たない環A-IIがこの段階の主となっている。環Jは底部がほとんど平底になり、この段階前半でほとんど出土しなくなる。後半になると、口縁上半部が外反し器肉が薄く硬質の焼成の環Kが出現してくる。この環Kは全体に雑なつくりとなっている。口縁部は横ナデ、体部外面は指で押された程度、底面はわずかなヘラ削りとなっており、ヘラ削りされる部分はわずかである。大型壺の口縁部はこの段階の後半から次の段階前半に見られるような典型的ではないが、いわゆるコの字状を呈している。肩部が張り出してくるために最大径が肩部になっており、器高はさらに低くなっている。台付と平底の小型壺も使われている。

須恵器の長頸壺は県内では前段階の11段階後半には出土しているが、矢田遺跡ではこの12段階から出土している。出土量がわずかであり、次の段階以降はほとんど出土しなくなるようである。環B-IIはこの段階の前半後半とも少量ながら使用され、この段階の中で消えてゆく。高台が付いてはいるが器形の異なる環B-IIIが次の段階から登場してくる。環B-IIは金属器模倣の系統を引くものであり、環B-IIIはこの段階より出土してくる灰軸陶器の影響から出現したもので、系統が異なる。蓋は環B-IIと共に少量出土するが、環B-IIと共にこの段階で消えてゆく。高台を持たない皿がわずかに出土している。皿は基本的に次の13段階から出土してくる。この皿も灰軸陶器の影響から出現したものと考えている。

#### 13段階（矢田遺跡では65軒確認されている。）

土師器は、煮沸具としての役割を果たしているが、供膳具としての環の出土はわずかとなり、その役割は大部分須恵器に取って代わられる。須恵器の供膳具は灰軸陶器の影響を受けた皿・環B-III・環A-III

が登場してくる。この段階から登場する土器として、坯の内面を研磨した後に炭素を吸着させた内黒土器が出土するようになる。県内では8世紀段階から出土する遺跡もあると考えられているが、矢田遺跡周辺ではこの13段階から出土するようである。前半から存在したであろう灰釉陶器が、後半になると具体的に出土するようになる。

杯Kは底部がほとんど平底になり、口縁上半部が外反してくる。出土量が少なくこの段階で土師器の杯は消滅する。大型甕は口縁部がこの段階前半で最もコの字状が明瞭となり、内外面とも区画が明瞭となる。後半になると全体に器肉が厚くなり、コの字状の区画もやや明瞭でなくなる。台付と平底の小型甕もほぼ同じような特徴を以て変化している。

須恵器は坯類の生産が最もピークをわかれた段階であり、集落の中から大量に出土する。硬く焼締められてはいるが、作りは雑でなく曲線美を持ち端正に作られているものが多い。高台を持つ皿がこの段階から多く出土する。甕がこの段階から出土するようになる。須恵器の甕は11段階から生産されており、12段階頃より集落遺跡において出土するようになるが、矢田遺跡ではこの13段階後半から出土している。鈿を持ち鈿から上の口縁部が長い為、次の段階に出土する羽釜との区別は可能である。胴下端部が平で肉厚になっている。この形は15段階に出土する甕と大きく異なる。


































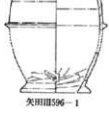

#### 14段階（矢田遺跡では89軒確認されている。）

この段階の大きな特色は煮沸具として羽釜が出現してくることにある。県北においては一段階早く羽釜が出土するようであるが、矢田遺跡周辺ではこの段階から出土する。羽釜の出現に伴い、煮沸具として同じ機能を持つ、統一規格と技術のもとで器肉が1mm前後という従来から長期間にわたり使用され続けてきた大型の甕は、この段階を以て消滅する。土師器の甕としては、次の段階に土釜と呼ばれる甕がわずかに残るだけとなっている。前段階に盛況を極めた須恵器の杯A-IIIや杯B-IIIは全体に作りが雑になり、出土量も減少しており、後半段階でほとんど出土しなくなる。

土師器の大型甕は全体に器肉が厚くなり、コの字状の区画も明瞭でなくなる。台付と平底の小型甕もほぼ同じような特徴を以て変化している。














































羽釜が突然この時期に出現してくる。還元炎焼成の製品が初期の段階に多く、須恵器窯跡から須恵器と同時に出土している例も存在することより、土師器ではなく須恵器製作集団により作られた製品であることにまちがいはないと思われるが、その系譜については未だに不明である。従来土師器の甕は口縁部が外反して口唇部が丸く仕上げている。それに対し羽釜は口縁部が内傾し口唇部を内側に傾斜して平に削っている。この2者の違いは用いられる蓋の違いを反映しているのではないだろうか。土師器の甕の蓋は内側に落とし込む蓋であり、羽釜の蓋は口縁部に載せる被せ蓋である。実際発掘により、甕の蓋として土師器の杯が使われている例が何例か確認されている。被せ蓋の場合蓋と羽釜の口唇部を密着させるためには、接点部分は狭いほうが隙間が少なくなる。そこで口唇部を内側に傾斜して削り、口唇部外側と蓋が接するように工夫したものと思われる。また口唇部を厚くして割れにくい様な工夫も行われている。口唇部を削ることは16段階（11世紀前半）まで行われているが、その16段階の中で口唇部が丸くなる羽釜が出現し、次の17段階（11世紀後半）になると造りが雑になり水平でなくなる。鈿を持つ甕がこの段階でも使用されており、回転によるナデが主でヘラ削りにより整形は行われていない。耳皿がこの段階に出土しているが、灰釉陶器の模倣で出現する杯A-IIIの出現段階には同様に登場しているものと思われる。皿Bはこの段階の中でほぼ消滅してゆく。杯B-IIIは造りが雑で端正に作られているものではなく、高台も雑に貼り付けている。従来還元炎で焼成されていたものが、この段階から酸化炎のものが多く出土するようになる。この段階の後半になると口徑



		土 師 器					
12 段	前 半	暗文環A-I  矢田Ⅲ216-14  矢田Ⅲ366-9  矢田Ⅲ366-8  矢田Ⅲ366-7  矢田Ⅲ366-6	環J  矢田Ⅲ175-11  多蛇16-1  多蛇116-2	大型壺  矢田Ⅲ366-1	小型壺  矢田Ⅲ175-6  矢田Ⅲ175-8		
	後 半		環K  矢田Ⅲ465-28  矢田Ⅲ465-30  矢田Ⅲ465-29  矢田Ⅲ465-32  矢田Ⅲ465-31	 矢田Ⅲ465-1		 矢田Ⅲ465-7	長頸壺  矢田Ⅲ465-8
13 段	前 半	 多蛇52-3  多蛇52-2  多蛇52-5  多蛇52-4	 矢田Ⅲ647-2  多蛇52-39	 矢田Ⅲ535-5  多蛇127-7  多蛇52-37		 矢田Ⅲ535-4	
	後 半		 矢田Ⅲ596-2  矢田Ⅲ716-3	 矢田Ⅲ570-4  矢田Ⅲ477-4	 矢田Ⅲ596-1  黒中10-9		

第594図 矢田遺跡を中心とした平安時代土器編年図(1)

第3節 矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について

須 恵 器				内黒土器	灰釉陶器	
<p>环B-II</p>  <p>多蛇116-14</p>  <p>多蛇116-15</p>	<p>环A-II</p>  <p>矢田175-15</p>  <p>矢田175-20</p>  <p>矢田175-21</p>  <p>矢田175-16</p>	<p>蓋</p>  <p>多蛇116-4</p>				
<p>皿A</p>  <p>多蛇50-5</p>  <p>多蛇50-16</p>	 <p>矢田皿665-9</p>  <p>矢田皿665-11</p>  <p>多蛇50-7</p>  <p>多蛇50-8</p>	 <p>矢田皿665-33</p>  <p>多蛇50-3</p>				
<p>皿B</p>  <p>多蛇52-25</p>  <p>多蛇52-28</p>  <p>多蛇52-30</p>  <p>多蛇52-27</p>	<p>环B-III</p>  <p>矢田皿535-12</p>  <p>矢田皿647-20</p>  <p>矢田皿647-19</p>  <p>矢田皿535-13</p>	<p>环A-III</p>  <p>矢田皿535-10</p>  <p>矢田皿647-16</p>  <p>矢田皿535-9</p>  <p>多蛇52-11</p>	 <p>矢田皿647-24</p>			
 <p>矢田皿563-7</p>  <p>矢田皿563-11</p>  <p>矢田皿477-31</p>  <p>矢田皿477-33</p>	 <p>矢田皿563-18</p>  <p>黒中10-8</p>  <p>矢田皿716-14</p>  <p>矢田皿477-13</p>	 <p>矢田皿570-9</p>  <p>矢田皿570-10</p>  <p>黒中10-1</p>  <p>矢田皿596-10</p>	 <p>矢田皿596-17</p>  <p>矢田皿596-8</p>	 <p>矢田皿563-21</p>  <p>矢田皿563-20</p>  <p>矢田皿477-15</p>		

第595図 矢田遺跡を中心とした平安時代土器編年図(2)

がやや小さくなり、比較的造りがいいものが登場してくる。新たな影響をうけているようである。坏A—IIIも造りが雑になり酸化炭のものが多くなる。後半になると同じように口径がやや小さくなり、比較的造りがいいものが登場してくる。内黒土器は出土していない。灰軸陶器はこの段階から多く出土するが矢田遺跡での出土量は少ない。

#### 15段階（矢田遺跡では51軒確認されている。）

この段階の大きな特色は土師質土器の出現である。土師器の坏を駆逐して、盛る器としてほぼ独占的に使われていた須恵器の坏が前段階をもって殆ど消滅している。その坏類に替わって登場してきたのがこの土師質土器である。土師質土器はおそらく須恵器工人集団が新しい社会の変化に対応した結果、登場してきた製品であると考えられる。器肉が厚くていい造りであり、基本的に酸化炭焼成であるが還元炭の物も多い。以前木器椀の模倣を出現の契機に求めたことがある。その段階において実体が明らかでなかった内黒土器も土師質土器の中に入れて考えようとしたが、今日ではこの土器は9世紀段階（一部では8世紀段階）ですでに出現している事が明らかであるため、土師質土器の中を含めなくて考えている。統一的な規格のもとで製作されてきた土師器の壺が前段階で消えているが、この段階から不統一な土師器の壺が登場してくる。土釜と呼称しているものである。

土師器の大型壺は消滅し土釜が出現してくる。土釜は従来から指摘されているように、器形や胎土また材質について従来の土師器壺に見られた様な統一制は認められない。

須恵器の壺がこの段階で出土しているが、量は少ないようである。羽釜は前段階の細長い形から口径や胴上部の径が大きくなり、太くなっている。整形の特色としては、ヘラ削りの範囲が胴下半からしだいに鉦に近い部分まで拡大している。還元炭焼成の製品はほとんどなく、大部分が酸化炭焼成となっている。鉦を持つ瓶がこの段階でも使用されており、回転によるナデが主でヘラ削りによる整形は行われていない。13段階での瓶と異なる大きな点は胴部下端の作りである。13段階の瓶はその部分を肉厚にし、下端部を水平に仕上げているが、この段階の瓶は肉厚にしないで外側に大きく曲げている。この違いは、瓶とセットとして使われる壺又は羽釜の違いを反映しているのだろうか。耳皿がこの段階でも出土している。土師質土器の坏・坏A・坏Cがこの段階から登場する。従来の須恵器坏と異なり胎土が密で作りが非常に丁寧である。壺の高台は高く丁寧に貼り付け、その後高台端部を削り込んでいるものも多い。内黒土器は出土していない。灰軸陶器はこの段階でも多く出土するが、矢田遺跡での出土量は全体に少ない。

#### 16段階（矢田遺跡では17軒確認されている。）

この段階の大きな特色として、かつて土師質土器皿の出現を指摘したことがある。地域が異なるためかあるいは前回の認識が間違っていたのか不明であるが、今回は土師質土器皿の出現を次の17段階（11世紀後半）に設定する。この段階の大きな特色は、坏や壺の器高と同じかそれ以上高い高台を持つ足高台坏・足高台壺の出現としたい。羽釜も従来の大きなものに加えて小型羽釜が出現してくる。

土師器の土釜が引き続き使われている。

羽釜は前段階まで胴部が底部から口縁部まで一定の曲線を描いていたが、この段階になると口縁部が直立気味に立ち上がり、従来の羽釜と異なっている。また小型の羽釜がこの段階より出土してくる。この羽釜は口径より器高が低く、底部は平底となっている。整形は鉦の下までヘラ削りが行われており、口唇部は肉厚で平らにヘラ削りされている。完形品での出土例は少ない。この段階の後半になると大小の羽釜とも作りが雑になって、口唇部が丸くなっているものも登場してくる。鉦を持つ瓶がこの段階でも使用されており、回転によるナデが主でヘラ削りによる整形は行われていない。15段階での瓶と異なる所は胴部下端の先端の作

りである。15段階の甕はその部分を須恵器の蓋のように下方向に折り曲げているか、または上に折り曲げている。しかしこの段階になると、無造作に丸く仕上げている。前段階に出現した土師質土器はあらたに足高台・足高台境が加わってくる。しかしこの時期の住居数が少なく、さらにこの足高台境・足高台境も全ての住居から出土するものではないため、出土量は少ないようである。なお土師質土器境A・境Cも従来の須恵器境Bと比較するなら高台は高いが、坯身の高さと比較するならばはるかに低いために足高台とはここでは呼称しない。土師質土器境は口縁上端部付近が細くなり、緩やかに外反している。後半段階になると、口縁部の器内はほぼ一定し口縁部の外反は認められなくなる。内黒土器の出土が目立つようになる。境Cや境Aが僅かしか出土しない中で、高い比率でこの内黒土器が存在しているが、盛器として主体を占める訳でなく、おそらく盛器として主体を占めているのは出土例の少ない木器製の坏・埴類であると思われる。それは次の17段階でこの内黒土器が消えてゆくことより明らかであろう。灰釉陶器はこの段階でも出土するが、量は少ない。
















#### 17段階（矢田遺跡では確認されていない）

この段階の竪穴住居は数が極端に減少し、おそらく県内全体でも百軒を大きく越えない数しか現在のところ確認されていないであろう。そのため住居や土器の特色はほとんど明らかにされていない。今回始めてこの段階と思われる土器を提示する。しかし提示することの出来た住居は僅か2軒である。この時期の土器の大きな特色は土師質土器皿の出現である。

土師器の土蓋が出土している。この土蓋は底部が砂底になっており、胴部表面は細かなへら磨きで全体に丁寧な作りとなっている。羽蓋は前段階同様に小型と大型が存在する。しかし作りが雑になり、口縁部が波が打つ様に曲がっており口唇部が丸く、蓋を被せても多くの透き間ができる状態となっている。鈿の貼り付けも雑となり、口縁部同様に曲がっている。甕は出土していないため不明である。土師質土器は現在のところ皿が出土しているだけであり、他の存在は不明である。おそらく坏や埴の役割は出土例の少ない木器製の坏・埴類であると思われる。内黒土器や灰釉陶器も出土していない。後半段階の矢田遺跡周辺の住居資料は不明である。参考資料として前橋市の鳥羽遺跡SK332出土の皿を図示した。















































編年図で使用した土器については、実測図の下に遺跡名・遺構番号・遺物番号を記入した。使用した報告書名は以下のとおりである。

【矢田遺跡】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1990
【矢田遺跡Ⅱ】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1991
【矢田遺跡Ⅲ】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1992
【矢田遺跡Ⅳ】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1993
【矢田遺跡Ⅴ】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1994
【矢田遺跡Ⅵ】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1996
【矢田遺跡Ⅶ】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1997
【小林山台遺跡】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1993
【奥原古墳群】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1983
【長根羽田倉遺跡】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1990
【多胡蛇黒遺跡】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1993
【天引向原遺跡Ⅴ】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1997
【黒熊中西遺跡(1)】	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	1992














		土 師 器		須 罎			
14 段	前 半	<p>大型甕</p>  <p>矢田田663-3</p>	<p>小型甕</p>  <p>矢田田512-11</p>	<p>羽釜 A</p>  <p>矢田田532-1</p>	<p>甗</p>  <p>矢田田482-1</p>		
		 <p>矢田田482-4</p>		 <p>矢田田532-2</p>			
15 段	前 半	<p>土甕</p>  <p>矢田 I 122-11</p>	<p>甕</p>  <p>矢田田644-9</p>	 <p>矢田田475-1</p>	 <p>矢田 I 122-8</p>		
		 <p>矢田 I 144-1</p>	<p>甕</p>  <p>矢田139-17</p>	 <p>矢田田344-1</p>	 <p>矢田 I 139-18</p>		
	後 半			 <p>矢田 I 139-11</p>			

第596図 矢田遺跡を中心とした平安時代土器編年図(3)

第3節 矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について




























恵		器		内黒土器	灰釉陶器
 耳皿 矢田 I 281-4	 皿B 矢田Ⅲ512-23	 杯A-III 矢田Ⅲ667-7	 杯A-III 矢田Ⅲ661-9		 矢田Ⅲ661-10
	 矢田Ⅲ482-10	 矢田Ⅲ667-5	 矢田Ⅲ482-7		 矢田Ⅲ667-4
		 矢田Ⅲ667-6	 矢田Ⅲ512-19		
		 矢田Ⅲ667-9	 矢田Ⅲ532-12		
	 矢田 I 183-46	 杯B-V 矢田183-16	 矢田 I 183-16		 矢田 I 183-51
	 矢田 I 183-49	 矢田 I 183-36	 矢田 I 183-12		
		 矢田 I 183-29	 矢田 I 183-13		
		 矢田 I 183-35	 矢田 I 183-11		
	(土師質土器)				
 矢田Ⅲ475-16	 埴C 矢田 I 140-13	 埴A 矢田Ⅲ664-12	 杯 矢田 I 140-9		 矢田Ⅲ475-17
	 矢田Ⅲ684-4	 矢田Ⅲ684-2	 矢田 I 140-10		
	 矢田Ⅲ664-11		 矢田Ⅲ475-15		
			 矢田 I 122-6		
		 矢田 I 94-7	 矢田 I 144-8		 矢田 I 300-7
		 矢田 I 36-16	 矢田 I 94-8		 矢田 I 36-17
		 矢田 I 300-5	 矢田 I 94-5		
		 矢田 I 139-4	 矢田 I 139-5		 矢田 I 144-14

第597図 矢田遺跡を中心とした平安時代土器編年図(4)

		土 師 器	須		
16 段	前 半		<p>小型羽蓋 A</p>  <p>矢田II130-5</p>	<p>羽蓋 B</p>  <p>矢田II130-1</p>	
			 <p>多紀89-8</p>		
階	後 半	<p>土蓋</p>  <p>矢田I121-1</p>	<p>羽蓋 B</p>  <p>矢田I90-1</p>	<p>甔</p>  <p>矢田I276-7</p>	
			<p>小型羽蓋 B</p>  <p>矢田II290-2</p>	<p>羽蓋 C</p>  <p>矢田I276-1</p>	 <p>矢田I277-6</p>
17 段	前 半	 <p>多紀15-5</p>	 <p>天引向原V113住-5</p>	 <p>天引向原V113住-1</p>	
				 <p>天引向原V113住-2</p>	
階	後 半				

第598図 矢田遺跡を中心とした平安時代土器編年図(5)

第3節 矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について

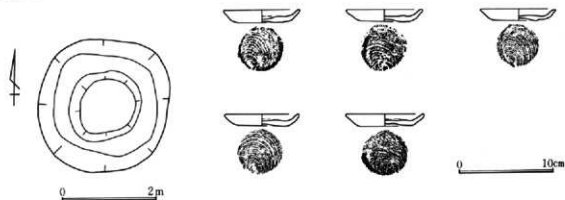
意	器	内黒土器	灰軸陶器
	<p>(土師質土器)</p> <p>足高高台埴  矢田 II 130-11</p> <p>埴 C  矢田 II 130-14</p> <p>坏  矢田 II 130-23</p> <p> 矢田 II 130-28</p> <p> 矢田 II 130-27</p>	<p> 矢田 II 130-15</p> <p> 矢田 II 130-19</p> <p> 矢田 II 130-16</p>	
<p>足高高台皿  矢田 I 90-10</p>	<p> 矢田 I 90-5</p> <p> 矢田 II 290-3</p> <p> 矢田 I 276-10</p> <p> 矢田 I 90-16</p> <p> 矢田 I 276-11</p>	<p> 矢田 I 276-15</p> <p> 矢田 I 90-7</p> <p> 矢田 I 90-8</p>	<p> 矢田 I 276-13</p> <p> 矢田 I 90-9</p>
	<p>皿</p> <p> 多15-2 天引向原 V 113住</p> <p> 多15-1 天引向原 V 113住</p> <p> 天引向原 V 113住</p> <p> 10天引向原 V 113住</p>		
	<p>参考資料</p> <p> 鳥羽SK332-2</p> <p> 鳥羽SK332-1</p> <p> 鳥羽SK332-4</p> <p> 鳥羽SK332-3</p> <p>前橋市鳥羽遺跡 S K 332</p>		

第599図 矢田遺跡を中心とした平安時代土器編年図(6)

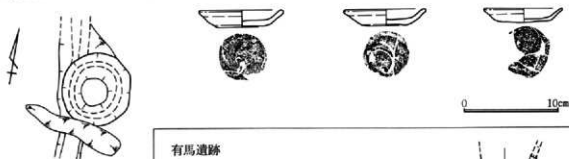


第7章 調査成果の整理とまとめ

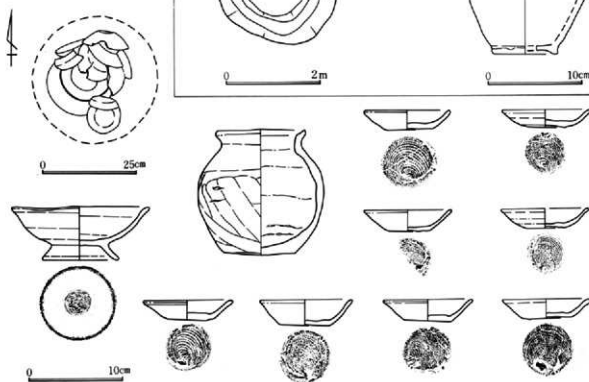
鳥羽遺跡



日高遺跡



矢田遺跡



第600図 土師質土器皿を出土する土坑実測図

### 第3節 矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について

整理作業最終年度にあたり、日々追われる中でこの本文と編年図の作成は短期間で仕上げた。そのために充分検討を加える事が出来なかった。今後この地域の報告書が本報告書とほぼ同時期に刊行される。それらの成果を加えて今後修正しつつ、矢田遺跡を中心としたこの地域の土器編年を再検討したい。

なおこの編年図や本文の作成にあたり、次の方々から多くのご教示を得た。

飯田陽一 大江正行 大木紳一郎 神谷佳明 岸田治男 木村 収 板岡正信  
友廣哲也 服部敬史 綿貫邦男

#### 参考文献

- 松橋 「土師質土器について」「平安時代を中心とした土器群について」『清里・陣場遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981  
板岡正信 「群馬県内出土の暗文土師器について—在地理を中心として—」『群馬県史研究』第30号 1989  
神谷佳明 「律令的土器標相の検討」—古代の高塚について—『群馬考古学手帳』4 群馬土器観会 1994

本報告書で対象とした古墳時代住居跡出土遺物一覧表

住居 No	遺 物										土 版 組 数	石 版 組 数	土 版 数	石 版 数	出 土 数		
	土		器		環		環		環							其 の 他	
	環	部	環	部	環	部	環	部	環	部							
2	27	13	10	7	21	579	6	2	7	1	25	700	3	0	8	11	711
9	33	39						1	1			378	8	0	10	18	395
10	6				4	50		2				62	4	0	0	4	66
26	12	5			23	215	5	1	1		7	270	3	0	0	3	273
28	3	10			2	49		1			1	66	1	0	0	1	67
35	51	47			40	537	2	1	2	5	7	696	13	1	39	53	749
90	9	7			6	89	4				1	121	7	0	0	7	128
128	53	49			2	33	368	4			3	532	4	1	1	6	538
161	28	25			12	249					1	323	5	0	0	5	328
166	226	273			117	1,052	14	1	3	7	1	1,715	19	3	25	47	1762
178	39	19			6	126	5	1	1		1	159	2	0	13	15	214
193	8	36				22	1				2	69	3	0	0	3	72
286	122	137			2	84	678	19	2		33	1,065	28	2	10	40	1,125
291	2	6			2	1					2	13	3	0	0	3	16
345	16	13			20	176	7	6	3	1	1	244	4	0	0	4	248
390	1				1	7	3					12	1	0	0	13	13
365	14	7			20	146	8				5	260	10	0	1	11	211
369	174	193			140	1434	36	2	10		1	2,035	20	1	17	36	2,064
375	4				4	49		2	1	1	2	63	3	0	0	3	69
411	35	35			44	317	4	10	7	1	3	458	5	0	1	6	461
412	7				1	11	46	2	2		2	76	3	0	2	8	81
414					1	6	1				1	9	4	1	0	5	14
440	137	127			156	168	20	13	14	1	15	651	14	0	21	35	686
452	56	58			61	669	5				3	878	10	1	11	22	200
463	28	25			38	316	4	7	3	1	3	439	1	0	2	3	442
488	203	232			2	1,194	29	6			1	1,874	17	0	10	27	1,901
470	7	2			3	63	1				2	81	1	0	0	1	82
472	1				1	16	1				1	20	3	0	1	4	24
474	2	2			4	16	1				2	28	1	0	0	1	29
484	30	51			2	7	53	304	11	3	2	466	12	0	2	14	489
494	6				7	32					2	47	1	1	1	3	50
503	96	88			5	4	45	508	7	19	14	821	5	0	1	6	827
537	27	32			15	246	3	2	2		2	343	3	0	0	3	346
542	35	40			5	22	75	4	1	1	5	202	5	0	0	5	207
573	26	19			1	14	140	4			4	210	4	1	0	5	215



第7章 調査成果の整理とまとめ

住居 No	土 地										建 物										出 入 組 数						
	宅 地		宅 地		宅 地		宅 地		宅 地		宅 地		宅 地		宅 地		宅 地		宅 地			宅 地					
	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積	口 数	延 床 積 算 面 積			
179	16	207	363	2,538	1	146	13	14	5	1	32	2	3	9	長須原口隣1	3,553	34	2	27	63	3,616	4	1	0	1	5	
180	63	98	81	648	9	17	15	3	32	2	32	2	32	3	32	1,371	30	2	13	35	1,406	3	1	0	4	332	
187	83	80	135	932	26	39	32	9	2	2	2	2	2	2	2	348	3	1	0	4	362	56	2	0	2	60	
222	27	33	4	23	240	9	4	4	1	1	1	1	1	1	1	218	7	0	7	275	218	7	0	7	275	218	
224	3	3	6	43	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	56	2	0	2	60	56	2	0	2	60	56	
246	23	5	241	16	6	12	173	2	2	2	2	2	2	2	2	695	34	1	3	38	1,003	695	34	1	3	38	
247	51	42	67	780	8	7	10	2	6	55	1	8	1	8	1	629	11	0	13	21	653	629	11	0	13	21	
248	71	98	64	559	11	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	829	15	0	1	4	274	829	15	0	1	4	
252	25	35	28	172	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	299	3	0	1	4	274	299	3	0	1	4	
253	16	27	57	508	23	3	5	2	3	1	4	4	4	4	4	635	13	0	13	648	635	13	0	13	648	635	
254	70	54	98	598	23	15	14	8	1	9	12	3	3	3	3	888	11	2	3	16	904	888	11	2	3	16	
273	89	118	192	1,524	36	12	14	8	1	9	12	3	3	3	3	2,021	13	2	15	30	2,051	2,021	13	2	15	30	
299	214	107	1	94	960	20	3	38	14	1	7	18	1	18	1	1,479	10	0	1	11	1,489	1,479	10	0	1	11	
315	116	63	138	1,672	13	10	21	4	2	13	2	17	2	17	2	2,077	11	0	21	32	2,109	2,077	11	0	21	32	
322	8	11	1	38	302	5	3	4	3	4	1	1	1	1	1	373	6	0	13	19	392	373	6	0	13	19	
323				8												10	1	0	0	1	11	10	1	0	0	1	11
336	12	5	1	11	210	36			1	5	1	1	1	1	1	296	7	1	1	9	295	296	7	1	1	9	
341	8	3		27	4	2										44	2	0	1	3	47	44	2	0	1	3	
349	42	20	134	906	33	15	1	2	3	35	4	4	4	4	4	1,181	21	0	23	1,204	1,181	21	0	23	1,204	1,181	
373	26	22	7	27												86	1	0	14	15	101	86	1	0	14	15	
378	22	19	21	198	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	267	5	0	5	272	267	5	0	5	272	267	
380	37	43	34	295	2	1	2	3	3	5	5	5	5	5	5	422	2	0	2	424	422	2	0	2	424	422	
381	43	133	139	763	18	32	33	5	1	3	23	2	2	2	2	1,199	9	1	10	20	1,219	1,199	9	1	10	20	
390	18	17	22	198	9	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	254	10	0	10	20	274	254	10	0	10	20	
392	23	32	80	732	11	1	2	1	1	13	13	13	13	13	13	897	11	0	12	969	897	11	0	12	969	897	
399	13	6	21	231	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	289	5	0	5	294	289	5	0	5	294	289	
409	22		64	525	11	18		2	15	6	6	6	6	6	6	663	2	0	15	17	680	663	2	0	15	17	
413	3	1	3	31	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	47	4	0	4	51	47	4	0	4	51	47	
429			3	23		1		1	1	1	1	1	1	1	1	29	2	0	2	31	29	2	0	2	31	29	
431	6	9	5	30	2	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	57	4	0	1	5	62	57	4	0	1	5	
436	1			1												2	0	0	0	2	2	2	0	0	0	2	
438	21	14	25	155	4	5	1									233	3	0	3	236	233	3	0	3	236	233	
439	39	63	48	520	2	6		1	1	11	11	11	11	11	11	702	9	0	1	10	712	702	9	0	1	10	
447	16	31	1	25	387	3	5	7	1	22	2	2	2	2	2	567	5	1	6	573	567	5	1	6	573	567	











## 第4節 矢田遺跡における紡錘車の所有形態について

矢田遺跡では古墳時代の6世紀後半から平安時代の11世紀前半までの約450年間にわたり、住居から95個の紡錘車が出土している。これらの紡錘車はどの時期でもほぼ同じような出土率を持つのではなく、一定の時期に多く出土している。また出土する住居を調べてみると、一定の範囲の住居群からまとまって出土しており、一軒の住居から複数の紡錘車を出土している住居もその住居群の中に含まれることが多い。このことは自らの生活に必要な糸生産だけでなく、一定の目的のため具体的には調布布に関係した糸や布生産に関係して多くの紡錘車が使われた事を示すのではないだろうか。そのことについて図と表を用いて述べてゆきたい。

なおこの問題に関してはかつて 中沢 悟・春山秀幸・関口功一「古代布生産と在地社会」『群馬の考古学』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 のなかで触れており、矢田遺跡の整理終了に伴い再度検証を試みたものである。

### 1. 時期別にみた所有率の変化

紡錘車は表で明らかのように、6世紀後半段階から出土し、この段階では7%であった。7世紀前半では6%となり、7世紀後半になると16%と急増加する。8世紀前半になると28%とさらに増加し、8世紀後半で33%となりピークを迎える。つまり3軒に1軒の割合で紡錘車を所有しているのである。平安時代の9世紀前半になると僅か9%になり、急激に減少している。9世紀後半になると11%、10世紀前半になると3%、10世紀後半になると2%となり、さらに急激に減少している。

このように7世紀後半から8世紀後半の約150年間で16~33%と多く、前後の時期ではほとんど10%以下である。出土率の多い時期の平均所有率は26%であり、少ない時期の所有率はわずか7%である。この2者の間に約4倍の差が存在している。この差は余りにも大きく、そこにこの一定に時期に社会変化の中で多くの紡錘車の必要性が存在した事を物語っている。

またこの紡錘車の数が多くなる要素のひとつとして、一軒の住居から複数の紡錘車が出土している住居の存在をあげることが出来る。住居より複数の紡錘車が出土する例は県内において弥生時代から存在するが、矢田遺跡においては出土率の多い7世紀後半から8世紀後半の時期に数多く認められる。つまりこの時期では出土率が高いことに加え、一軒の住居から複数個出土する住居が多く存在している事が指摘できるのである。

### 2. 紡錘車を多く出土する住居群とわずかしか出土しない住居群

7世紀後半から8世紀後半の一定の時期に、特に多くの紡錘車が出土していることが明らかとなった。ではそれらの紡錘車は全体にはほぼ均一に出土しているのか、又は特定の住居集団に集中して出土しているのかについて調べてみる。

6世紀後半 9個出土しておりその中で5個が近接した4軒の住居から出土している。(467・469・498・558号住居)他の4個中2個が近接した住居(168・164号住居)とやや離れた住居(38・62号住居)から出土している。しかし同時期の住居全体から見ると比較的一定の住居群から出土していることが指摘できる。

7世紀前半 5個出土しておりその中で3個と2個がいずれも近接した3軒(150・486・682号住居)と2軒(411・286号住居)の住居から出土している。同時期の住居全体から見ると2箇所から集中して出土していることが指摘できる。

7世紀後半 8個出土しておりその中で3個が近接した2軒の住居から出土している。(440・503号住居)他の5個は、近接した住居からは出土していない。(412・108・6・18号住居)

8世紀前半 24個出土しており矢田遺跡中で最も出土量が多い。その中で4つの住居群中の10軒から15個が出土している。(497・551・552号住居)(458・473・474号住居)(247・254号住居)(88・80号住居)他の9個中4個が近接した住居(299・341号住居)(136・189号住居)から出土しており、他の4個は一軒の住居から各2個と複数個出土している。残りの1個は単独で出土している。このように大部分が一定の住居群からまとまって出土しており、住居群でないもの多くは一軒の住居から複数出土している。つまり紡錘車の集中的な所有形態を示している。

8世紀後半 15個出土しており前半に続いて出土量が多い。その中で2つの住居群中の7軒から9個が出土している。(83・179・187号住居)(349・322・364・248号住居)他の6個中2個が61号住居から出土しているが、他の4個は離れた住居から散在的に出土している。このように一定の住居群からまとまって出土している例もあるが、そうでない例も認められる。

9世紀前半 僅か3個の出土であり、傾向の指摘は無理である。結果として3個とも離れた住居から出土しているために、一定の住居群での集中的な所有形態の指摘はできない。

9世紀後半 7個出土している。その中で3個が2軒の住居から出土している。(201・143号住居)この2軒は重複しているため同時期ではないが、同じ家の作り替えが考えられる。他の4個は離れた住居から散在的に出土している。

10世紀前半・後半 前半で3個後半で1個出土している。その中で2個が近接した2軒の住居から出土している。(134・264号住居)他の2個は離れた住居から散在的に出土している。

11世紀前半 6個出土している。その中で5個が近接した3軒の住居から出土している。(79・90・135号住居)他の1個はやや離れた住居から出土している。このように一定の住居群からまとまって出土している例と、そうでない例が認められる。

以上の出土状態から、多くの紡錘車を一定の住居群で所有する形と少量の紡錘車を散在的に所有する形の2つの所有形態の存在が、おぼろげながら見えてくる。

このような2つの所有形態が、時代とともに変化しているかについて十分な資料の蓄積と分析はおこなわれていない。また一軒の住居から複数の紡錘車が出土する場合、数が増えて集中所有と考えられるが、県内出土例からみた次の表で明らかのように、各時代とも認められ、大きさや重さの違う紡錘車をセットとして使用していたことによる複数所有として存在する。矢田遺跡より出土している14軒30個の同一住居内より出土している紡錘車を以下に表で示した。14軒中5軒がほぼ重量が近く同じ重量区分となっているが、9軒は重量が異なり別な重量区分となっている。つまり多くの住居の場合別な重量の紡錘車を選んで所有していたことになる。このことについて色々な解釈も可能であるが、これらの住居は異なった種類の重量を必要とするほど、専門的な糸生産に携わっていたことが考えられる。

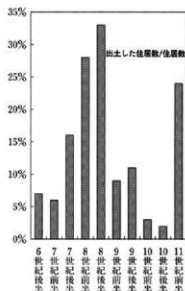
7世紀後半から8世紀後半の段階に、全体として他の時期の約4倍の所有が認められる、その違いはどのような所有形態の違いから起こることなのだろうか。それは、核となる複数所有の住居の存在とそれを取りまく少量出土の住居が、ほぼ遺跡全域から出土していることによる。7世紀後半から8世紀後半の期間矢田遺跡では、どの住居群でも紡錘車を用いてひたすら糸生産を行っていた状況である。

## 時期別に見た紡錘車所有率

	住居数	紡錘車出土住居数	出土しない住居数	出土した住居数/住居数
6世紀後半	125	9	116	7%
7世紀前半	78	5	73	6%
7世紀後半	50	8	42	16%
8世紀前半	85	24	61	28%
8世紀後半	45	15	30	33%
9世紀前半	33	3	30	9%
9世紀後半	65	7	58	11%
10世紀前半	88	3	85	3%
10世紀後半	51	1	50	2%
11世紀前半	17	4	13	24%
合計	637軒	79軒	558軒	

## 時期別に見た紡錘車総数と住居数との比率

	出土紡錘車数	複数出土住居数	紡錘車総数/住居数
6世紀後半	10	1	8%
7世紀前半	5	0	6%
7世紀後半	10	2	20%
8世紀前半	29	4	34%
8世紀後半	18	3	40%
9世紀前半	3	0	9%
9世紀後半	8	1	12%
10世紀前半	5	1	6%
10世紀後半	1	0	2%
11世紀前半	6	2	35%
合計	95個	14個	



第601図 時期別に見た紡錘車出土率

## 同一遺構内複数出土紡錘車一覧表（群馬県内）

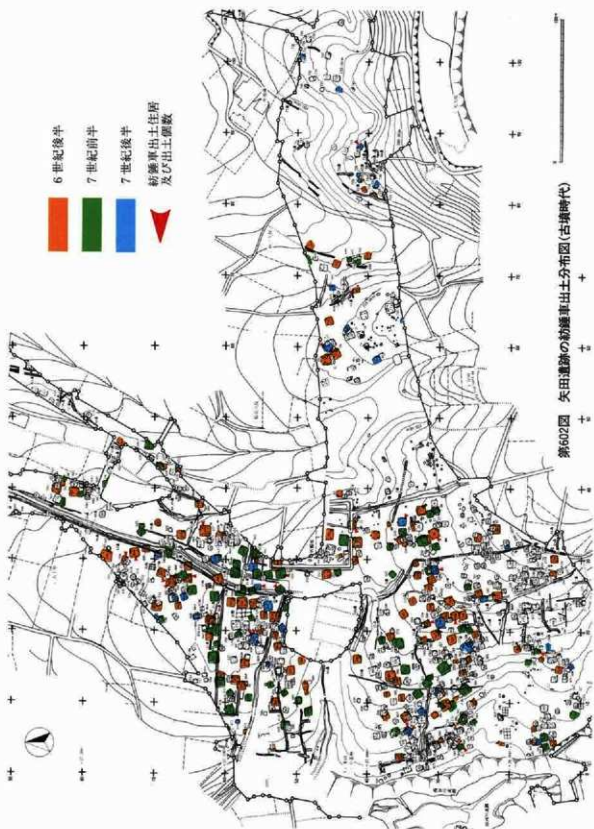
	2個	3個	4個	6個	複数出土総数	単体+複数出土総数	複数出土総数/単体+複数出土総数	複数出土住居数+複数出土住居数
弥生時代	24個 12軒	3個 1軒	0	0	27個 13軒	80個	34%	20%
古墳時代	38個 19軒	18個 6軒	8個 2軒	6個 1軒	70個 28軒	272個	26%	12%
奈良時代	26個 13軒	9個 3軒	4個 1軒	0	39個 17軒	129個	30%	16%
平安時代	42個 21軒	15個 5軒	8個 2軒	0	66個 28軒	281個	23%	12%
合計	130個 65軒	45個 15軒	20個 5軒	6個 1軒	201個 86軒	762個	26%	13%

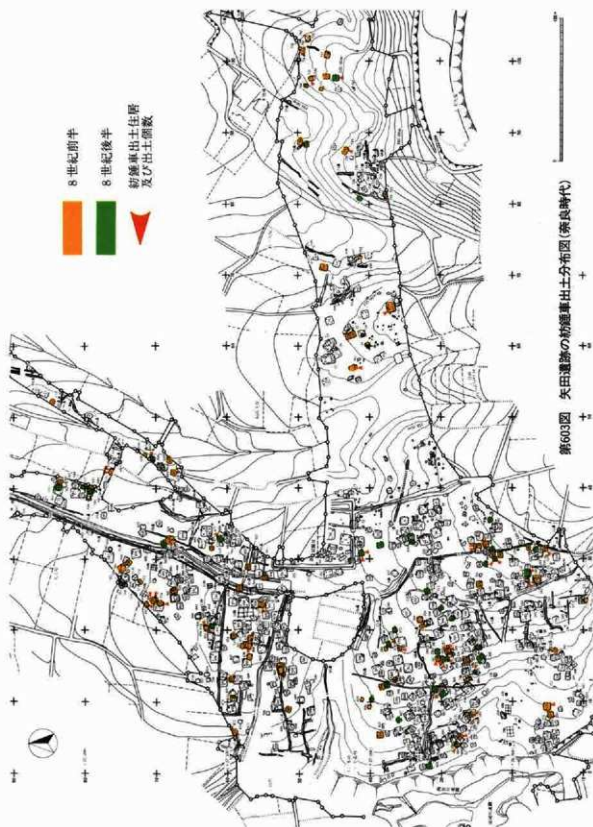
## 同一遺構内複数出土紡錘車の材質と大きさの比較一覧表（群馬県内）

	同一材質	異質材質	同一の大きさ	異質の大きさ	同一の重さ	異質の重さ
弥生時代	11	1	9	3	3	2
古墳時代	26	1	18	9	8	6
奈良時代	11	1	7	4	1	5
平安時代	17	9	7	8	3	4
合計	65個	12個	41個	24個	14個	18個

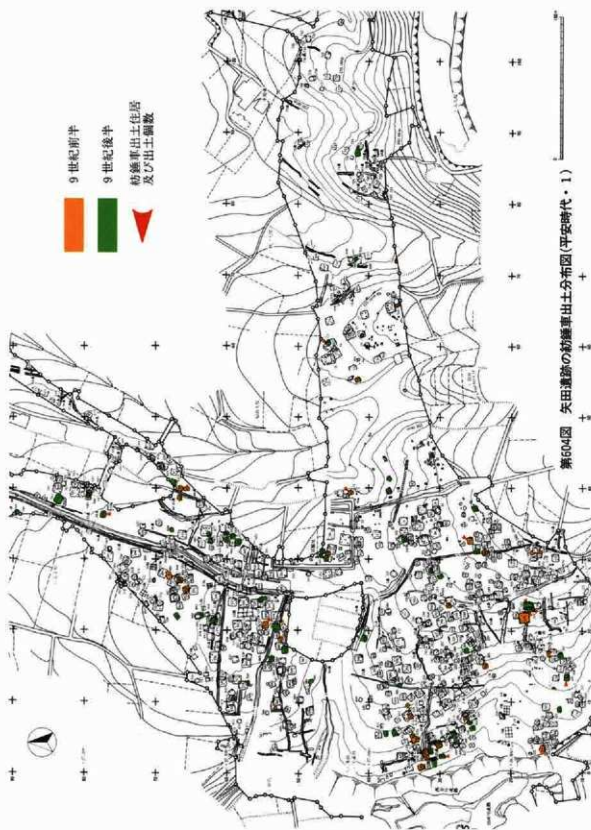
同一住居内より複数出土した幼蓮車一覽表

市町村名	遺跡名	出土遺構	材	質	形状	遺構 上層	層大 小	広さ cm	長さ cm	高さ cm	孔径 cm	重量g	重量区 分	残存形態	時期	備考	遺跡番号
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅳ	469号住居	石(滑石片岩)		薄台形	2	小	3.9	2.7	1.3	0.7	31.6	中量	完形	6世紀後半		0100402
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅴ	469号住居	石(滑石片岩)		厚台形	2	小	3.9	2.0	1.8	0.6	37.1	中量	完形	6世紀後半		0100403
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅵ	412号住居	石(燧岩)		厚台形	2	中	4.2	2.5	1.7	0.6	46.2	中量	完形	7世紀後半		0100726
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅶ	412号住居	石(燧岩)		厚台形	2	中	4.3	2.4	1.9	0.7	45.2	中量	完形	7世紀後半		0100727
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅷ	440号住居	石(滑石)		薄台形	2	中	4.1	1.6	1.6	0.6	34.0	中量	完形	7世紀後半		0100728
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅸ	440号住居	石(滑石)		厚台形	2	中	4.4	2.9	1.9	0.5	64.0	重量	未製品	7世紀後半	中心の穴は上と相通かと思われているが、その間に土が溜まっていた	0100729
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅹ	347号住居	石(滑石)		薄台形	2	中	5.0	2.9	1.4	0.7	44.9	中量	完形	8世紀前半	側面に多くの浅い線刻あり	0100713
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅺ	354号住居	石(滑石)		薄台形	3	中	4.7	3.6	0.7	0.7	13.3	軽量	約1/2	ほとんど使用されていないのではないかと推定	0100743	
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅻ	354号住居	石(滑石)		薄台形	3	大	5.4	3.6	0.8	0.5	36.7	中量	完形	8世紀前半	ほとんど使用されていないのではないかと推定	0100718
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅼ	552号住居	石(燧岩)		厚台形	2	大	5.0	2.6	2.0	0.7	71.5	最重量	完形	8世紀前半	磨面し彫刻のない段階の磨かい面目	0100738
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅽ	552号住居	石(滑石)		厚台形	2	中	4.6	2.3	1.9	0.7	59.3	重量	完形	8世紀前半		0100739
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅾ	617号住居	石(滑石)		薄台形	2	中	4.8	2.8	1.5	0.8	51.0	重量	完形	8世紀前半	表面中央に同心円状の浅い溝、縦溝あり	0100743
多野郡吉井町	矢田遺跡Ⅿ	617号住居	石(滑石)		厚台形	2	小	3.4	2.8	1.5	0.6	33.4	中量	完形	8世紀前半	少し磨んだ不定形脈を呈する	0100744
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅰ	83号住居	石(燧岩)		薄台形	2	小	3.9	3.2	1.1	0.7	27.6	軽量	完形	8世紀後半		0100104
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅱ	83号住居	石(燧岩)		薄台形	2	特大	7.1	5.0	1.8	0.8	145.9	最重量	完形	8世紀後半	「牡馬車加藤名」の文字彫あり	0100105
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅲ	83号住居	土(土師器)		長方形	2	中	4.0	4.0	1.5	0.6	35.1	中量	完形	8世紀後半		0100703
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅳ	61号住居	石(滑石)		薄台形	2	中	4.4	2.6	1.6	1.0	41.5	中量	完形	8世紀後半	表面に多くの線刻あり	0100704
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅴ	248号住居	石(燧岩)		長方形	2	特大	9.0	8.5	1.4	1.1	124.5	最重量	完形	8世紀後半	「土」と磨かれた文字の痕跡あり	0100714
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅵ	248号住居	石(滑石)		薄台形	2	中	4.4	3.2	1.2	0.6	36.1	中量	完形	8世紀後半	幼蓮車ではないと思われる	0100715
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅶ	201号住居	石(燧岩)		薄台形	2	中	4.7	3.1	1.0	0.7	35.2	中量	完形	9世紀後半		0100114
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅷ	201号住居	石(燧岩)		厚台形	2	中	4.2	2.8	1.7	0.7	25.8	軽量	約1/2	9世紀後半		0100115
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅸ	12号住居	石(燧岩)		薄台形	3	中	4.6	3.4	1.4	0.9	51.3	重量	未製品	10世紀前半	「物出藤良」の文字彫あり	0100201
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅹ	12号住居	石(千枚物)		厚台形	3	中			0.8		63.3	重量	未製品	10世紀前半	未製品	0100202
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅱ	12号住居	鉄		鉄	3	特大	6.2		0.3		51.1	重量	鉄片欠+鉄軸	10世紀前半		0100203
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅲ	90号住居	石(燧岩)		厚台形	2	中	4.3	2.7	2.1	0.7	55.4	重量	完形	11世紀前半		0100106
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅳ	90号住居	鉄		鉄	2	中	4.2		0.2		9.9	軽量	鉄片欠のみ	11世紀前半		0100107
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅴ	135号住居	鉄		鉄	2	中	4.1		0.2		6.1	軽量	鉄片欠のみ	11世紀前半		0100109
多野郡吉井町	矢田遺跡ⅵ	135号住居	石(燧岩)		薄台形	2	中	4.1	3.5	0.7	0.6	9.2	軽量	約1/2	11世紀前半		0100110

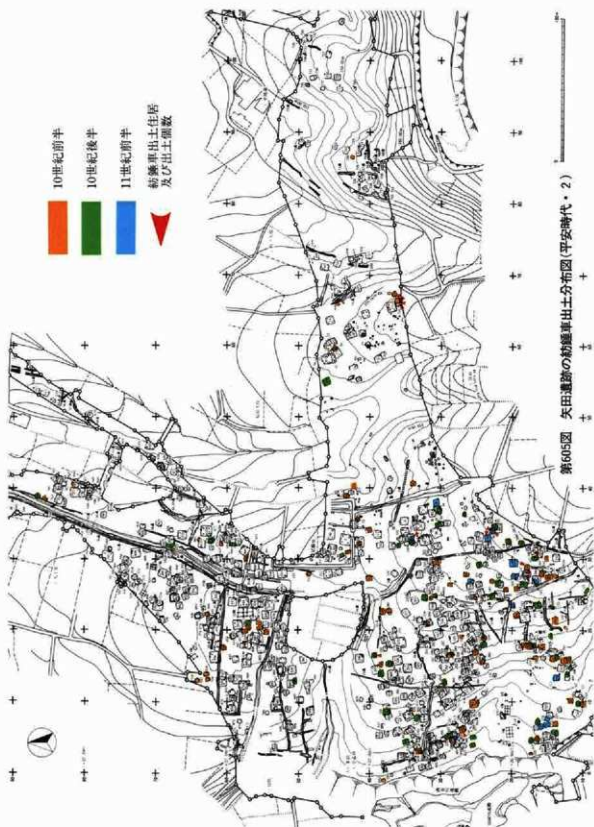




第4節 矢田遺跡における紡錘車の所有形態について







## 第5節 群馬県内出土紡錘車の編年

### はじめに

矢田遺跡では、県内最高の100個以上の紡錘車が出土している。詳しい研究が行われていないこの紡錘車を理解するために、これまでに県内の遺跡を対象として1100個以上を資料収集し分析や若干の考察も行ってきた。その成果により矢田遺跡では特別に多くの紡錘車を使い、糸生産をおこなってきたかが次第に明らかになってきた。<sup>(注)</sup>このことは当遺跡の最も大きな特徴のひとつである。整理事業最終年度にあたり、ここに紡錘車の理解を深めるために編年図と簡単な説明文を掲載し、今後の遺跡理解のための研究の一助としたい。

### 1 年代観の問題

出土した紡錘車がどの時代や時期に属しているのかを知るのには、最も基本となることである。しかし紡錘車自体に独自の年代観が確立されているわけではないため、伴出する土器を中心とした遺物から年代観を与えることとなる。この遺物の年代観は時代や研究者により必ずしも一致していないことも多い。そこで基本的には報告書に記載されている年代観を採用し、記載されていないものについては筆者が決定した。筆者の年代観は、古墳時代の前期から後期までは「矢田遺跡VI」1996、奈良時代・平安時代については従来のものに加え、本報告書第7章第3節「矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について」の中で明らかにしている。

### 2 形の問題

古来より、紡錘車の形については外形の特徴から円筒形・截頭円錐形・円盤形・偏平円盤形・饅頭形・笠形・算盤玉形・碁石形等区別され呼称されてきた。どのような呼称が最も適当なのかはわからないが、ここでは新たな試みとして比較的わかりやすい断面形態での違いに注目し、以下の名称で呼称することとした。紡錘車の中で最も多い截頭円錐形は断面形が台形である。厚いものと薄いものがあるため、薄台形と厚台形とに分けた。円筒形や偏平円盤形は断面形が長方形と思われる。饅頭形と笠形は断面形が三角形と思われる。算盤玉形は断面が菱形である。台形の狭い面の径と広い面の径を広径・狭径とし、厚さの違いを分類の基準として三角形・長方形・厚台形・薄台形・菱形の5種類とした。以下使用する形態とは断面形態を意味する。なお菱形は近畿と九州の一部しか現在のところ出土していない。形の決定は視覚では一定性に欠けるため、次のような数式をパソコンに条件設定し自動的に決定できるようにした。

If ((広径 ≤ 0) or (狭径 ≤ 0), "", If ((広径-狭径) ≤ 広径/10, "長方形", If ((広径-狭径) ≥ 0.7 × 広径, "三角形", If (厚さ/広径 ≥ 0.4, "厚台形", If (厚さ/広径 < 0.4, "薄台形", "E"))))

### 3 紡錘車の編年

出土する紡錘車に伴伴する土器から年代観を与え、形の良好に残っている215個を選択し、編年図を作成した。紡錘車の区分としては材質と形態の違いを用い、石製品は緑色・土製品は橙色をもって表現し視覚的に紡錘車の変化が理解できるように試みた。

そこから導きだされた結論はこれまで詳しく述べてきたことと当然ながら一致している。<sup>(注)</sup>そのため内容的に重複するが、編年図から見た紡錘車を中心として、簡単に説明する。

## 第7章 調査成果の整理とまとめ

### 弥生時代

前期の遺跡は極めて少ない。安中市注連引原遺跡で環濠集落が確認されているが、紡錘車の出土は報告されていない。

### 中期

一部前期後半の要素を持つ中期前半の遺跡として吾妻町岩瀬遺跡・藤岡市沖II遺跡・群馬郡倉沢村上ノ久保遺跡がある。いずれの遺跡からも紡錘車の出土は報告されていない。中期前半の前橋市庚申塚遺跡・富岡市小塚遺跡では紡錘車の出土は報告されておらず、県内において紡錘車が出土するのは集落遺跡の増加する弥生時代の中期後半からである。勢多郡柏川村西迎遺跡で3個（その中の32号住居からは2個）と高崎市新保遺跡114号住居の計4個が出土しており、その形態はすべて長方形で、材質は土製である。長方形を呈する石製の紡錘車と三角形を呈する土製と石製の紡錘車はいまのところ確認されていない。

中期前半以前の調査例は少なく、県内でどの段階から紡錘車が使用されてくるのか現在のところ不明である。今後の調査で中期前半以前の紡錘車の出土に期待したい。

### 弥生時代後期～古墳時代前期（土師器と弥生土器の混在する時期）

集落数の増加とともに133個（形不明16個含む）と多く出土している。弥生時代の特徴である三角形と長方形を呈する土製の紡錘車がこの時期ではしだいに減少し、古墳時代以降に主流となる薄台形と厚台形が増加してゆく段階である。しかしこの段階では約7：1の割合で弥生時代の主流である三角形や長方形が多く、薄台形や厚台形は少ない。材質は圧倒的に土製が多く石製は117個中わずか9個である。

紡錘車が多く出土するのは、多くの弥生時代土器を伴う段階であり、S字状口縁甕を主体とする段階での出土は少ない。このことは、S字状口縁甕を持つ段階の集落が確認された新田町下田中遺跡で、ほとんど紡錘車が出土していないことからのもその傾向が伺える。

三角形は10個出土し土製が9個で石製が1個である。飯土井二松遺跡では側面が段々畑状に整形されている。

長方形は92個出土し土製が88個で石製が4個である。県内東部の遺跡では十王台系の土器を出土する遺跡があり、そこから出土したものは土製であり、上下や側面に円形刺突紋やその他の文様が刻まれている。有馬条里遺跡2では骨製の物が出土しており、県内唯一の例である。

薄台形は7個出土し、土製が5個で石製が2個である。石製の材質は蛇紋岩と滑石片岩である。この時期以降石製の薄台形が主流となってゆく。

厚台形は8個出土し、土製が6個で石製が2個である。石製の材質は蛇紋岩と軽石である。薄台形同様この時期以降石製の厚台形が主流となってゆく。

### 古墳時代

紡錘車の歴史の中で最大の変革期である。従来の三角形と長方形が薄台形と厚台形に変化し、材質が土製から石製に変化する。

### 中期

三角形は前期の4個から1個に、長方形は29個から4個に減少し、この時期以降主流となる薄台形は6個から24個に大きく増加している。材質では前期の土製が38個から4個と減少し石製は6個から29個へと大きく増加している。また弥生時代～古墳時代前期までと古墳時代中期～平安時代までの2時期区分で見ると

下の表のようになる。

第20表 時代別形態比較一覧表

	三角形	長方形	薄台形	厚台形	鉄	合計
弥生～古墳時代前期	10	95	7	8	0	120
古墳中期～平安時代	0	44	297	217	97	655
合計	10	139	304	225	97	775

#### 後期前半

平安時代前期の224個と奈良時代の176個に次ぐ157個を出土する時期である。この段階から鉄製の紡錘車が登場する。どのような形で鉄製が導入されてゆくのは明かでないが、珍しい例として高崎市石原稲荷山古墳の出土がある。これは紡輪部分は石で作られているが、中心棒である紡茎部分に鉄が使用されて、鉄と石が合体して一つの紡錘車が作られているのである。現物を見る機会はまだないが、紡輪部分の茎の大きさに興味がある。通常石製の紡錘車は、中央に紡茎を差し込むために穴が開けられており、その径は6～8mmが多い。鉄製の紡錘車の紡輪の径は錆びていて不明瞭な物が多いが、4mm前後が多いようである。そのため仮に直接紡輪に紡茎をセットするのなら穴は小さいと思われる。鉄製は後期から細く使用され、平安時代になると一気に増加する。

長方形は4個と少なく、土製と石製が各2個である。

厚台形は84個と大量に出土している。石製が73個と多く、土製が11個である。薄台形は48個で石製が47個、土製が1個である。中期から台形が採用されてゆくわけであるが、最初は薄台形が用いられ、後期前半や後期後半の段階では厚台形が多く採用されていた。この傾向は奈良時代以降になると逆転し、薄台形が多く使用されてゆくようになる。

この段階の特色をあげるなら石製紡錘車未製品の出土である。県内で現在までで54個確認され中央に穴の開けられていない3個以外全て銅川流域で出土している。

#### 後期後半

59個が出土している。鉄製は4個出土しており、長方形は全く出土していない。薄台形が16個、厚台形は31個、未製品は4個と全体に少量である。これはこの時期の住居数が少ないためで、今後住居数の増加と共に紡錘車の数も増えてゆくものと思われる。

#### 奈良時代

179個が出土している。この数は平安時代前期の224個より少ないが、発掘された住居数の割合から見ると最も出土率の高い時代と思われる。鉄製の紡錘車は5個しか出土しておらず、本格的に使用されてくるのは平安時代以降であることを示している。長方形は12個出土しており、この段階に現在のところ唯一であるが土器の破片を再利用した転用紡錘車が登場している。それは須恵器壺の破片を利用したものであり、このような土器や須恵器からの転用は、大部分が平安時代になってから行われる現象である。

薄台形が85個、厚台形は55個、未製品が20個と多く出土している。

#### 平安時代

この時期以降鉄製の紡錘車が全体の中で次第に比率を高めてゆくようになる。古墳時代中期に続く第2の

## 第7章 調査成果の整理とまとめ

大きな変革期である。鉄製は古墳時代後期から奈良時代にかけて平均して3%以下であったものが、平安時代前半になると22%、平安時代中頃では40%、平安時代後半になると47%と次第に他の石製や土製を含む全体の中で比率的に高くなってゆく。

### 前期

224個が出土している。この数は約100年を時間幅とした時期区分の中で最も多い数となっている。その中で鉄製が49個出土しており、この時期をもって大量の鉄製の紡錘車が使用されてくることを物語っている。長方形は21個出土しており、土器の破片を再利用した転用紡錘車が増加してくる。薄台形は98個、厚台形は32個出土している。薄台形と比較すると厚台形の減少傾向を示している。未製品は8個と少量である。

### 中期

73個が出土している。平安時代前半に比較すると数は少ないが、発掘された住居数が少ないため、住居に伴う比率では減少していないと思われる。鉄製は29個出土しており、多くの鉄製紡錘車が使用されてくる。長方形は確認されていない。薄台形は25個、厚台形は12個出土している。薄台形と比較すると厚台形はやはり少量である。未製品は確認されていない。

### 後期

発掘される住居数が少なく、不明な点が多いが総数で17個が出土している。平安時代前期や中期に比較するならば減少しているが、住居数が少ないためであって、住居に伴う比率では減少していないと思われる。鉄製は8個、長方形は3個出土している。薄台形は1個、厚台形は3個出土している。未製品は1個確認されている。

### おわりに

以上これまで収集してきた資料と、編年図をもとに簡単な解説をしてきた。今後の調査の進展により、紡錘車の編年が変わる可能性もあるが、基本的にはこのような変化をたどっているものと思われる。今後も別の視点から紡錘車の研究に取り組んでゆきたい。なお今回弥生時代～古墳時代前期の問題に関して、大木伸一郎・友廣哲也両氏にご教示いただいた。

紡錘車に関する研究史やその他の問題については、以下の「紡錘車の基礎研究(1)」と「紡錘車の基礎研究(2)」のなかで詳しく触れている。また編年で使用した報告書については、本報告書中の付表「群馬県内出土の紡錘車一覧表」の中で掲載している。

註 中沢恒 香山秀幸 関口功一「古代布生産と在地社会」[群馬の考古学] (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988  
香山秀幸「矢田遺跡出土の紡錘車から」[矢田遺跡] (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990  
中沢恒「紡錘車の基礎研究(1)」[研究紀要] (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996  
中沢恒「紡錘車の基礎研究(2)」[専修考古学] 専修大学考古学会 1996

## 第6節 科学分析

## 矢田遺跡出土炭化材同定

バリノ・サーヴェイ

## 1. 試料

試料は1点で、古墳時代後期のものとされる485号住居跡から検出された石製紡錘車の芯棒である。

## 2. 方法

試料を乾燥させたのち、木口・柾目・板目三断面を作成、走査型電子顕微鏡で観察・同定した。同時に、顕微鏡写真図版(図版1)も作成した。

## 3. 結果

紡錘車の芯穴の径は約5mmであったが、芯棒はその径に合う小枝を利用したのではなく、より大径の材を削り出して作られたものであった。試料はカバノキ属の一種に同定された。その主な解剖学的特徴や一般的性質などはつぎのようなものである。

・カバノキ属の一種 (*Betula* sp.) カバノキ科

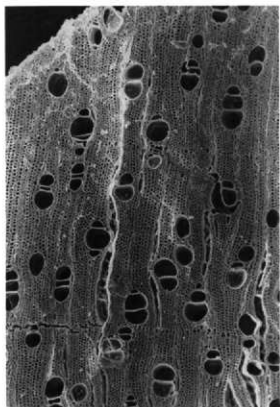
散孔材で、管孔は単独または放射方向に2~4個が複合、横断面では楕円形、階段穿孔を有し、段(bar)数は10前後、壁孔は密に対列状~交互状に配列する。放射組織は同性、1~4細胞幅、1~30細胞高。柔組織はターミナル状および散在状~短接線状。年輪界はやや不明瞭。

カバノキ属は、シラカンバ (*Betula platyphylla* var. *japonica*)、ダケカンバ (*B. ermanii*) など11種が自生し、主として本州中北部・北海道の山地・高山・寒冷地などに生育する落葉高木~低木である。このうちミズメ (*B. grossa*) は日本固有種で、本州(岩手県以南)・四国・九州の山地に生育するミズメの材は重硬・強韌で、加工は困難ではなく、各種の道具・器具材、木地、家具材などに用いられる。梓弓に使われるアズサを本種とする見解もある。

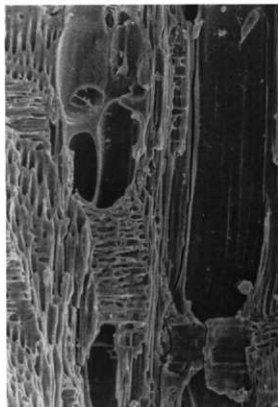
紡錘車芯棒の同定例は、県内はもちろん全国的にもほとんどない。そうした中で、奈良県布留遺跡では古墳時代のもっとされるヒノキ製の石製紡錘車芯棒が同定されている(伊東ほか 1987による)。類例がほとんどないため断定的なことは言えないが、それぞれの地域で、材の強度と加工や入手のしやすさの兼ね合いから樹種が選ばれているものかもしれない。

## 引用文献

伊東隆夫・山口和徳・林 昭三・布谷知夫・島地 謙 1987 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途、「木材研究・資料」、第23号、42-210



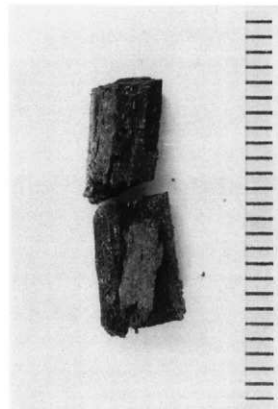
木口



柁目



板目



同定前の状態

## 矢田遺跡の213号住居跡から出土した炭化材の樹種

植田弥生 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

当遺跡は群馬県多野郡吉井町矢田字天王原他に位置し、鑛川右岸の標高150～160mの上位段丘面に位置する遺跡である。縄文時代前期の遺物・縄文中期の集落・古墳時代前期～奈良・平安時代の集落が発掘されている。当報告では、平安時代(10C後半)の213号住居跡から出土した炭化材の樹種同定結果を記す。依頼を受けた炭化材は複数の破片であるが、213号住居跡の東縁のほぼ1箇所に集中して出土したものである。

樹種同定は炭化材の3方向の破断面の組織を走査電子顕微鏡で観察し行った。横断面(木口)は炭化材を手で割り新鮮な面を出す。接線断面(板目)と放射断面(柾目)は片刃の剃刀を炭化材に軽くあて弾くように割り新鮮な面を出す。この3断面の試料を直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子製 JSM T-100型)で観察・写真撮影をした。

### 2. 同定の結果

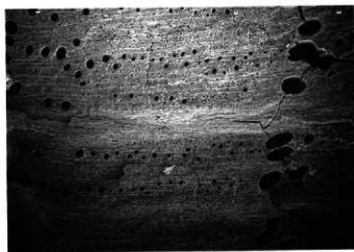
すべての炭化材片はコナラ属コナラ亜属クヌギ節であった。クヌギ節の材は関東地方では住居跡からよく出土する材である。以下に同定の根拠を記す。

コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Quercus subgen. Quercus sect. Prinus* ブナ科 図版2 a-c

年輪の始めに大形の管孔が1～2層配列し、その後小型・厚壁の管孔が単独で径を減じながら放射方向に配列し、広放射組織があり、接線状・網状の柔組織が顕著な環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は同性、単列のものと複合状のものが、道管との壁孔は櫛状・交互状である。

クヌギ節は落葉性のドングリをつける仲間でクヌギとアベマキが属する。両種とも暖帯の山林に普通の高木でクヌギは二次林に多く、関東ではクヌギ、瀬戸内海沿岸地方にはアベマキが多い。

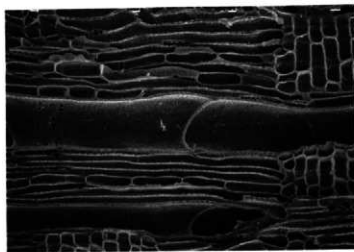




a : コナラ属のクヌギ節 横断面 barD 1 mm



b : 同上 接線断面 gar : 0.1mm



c : 同上 放射断面 bar : 0.1mm

## 矢田遺跡から出土した大型植物化石

新山雅広 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

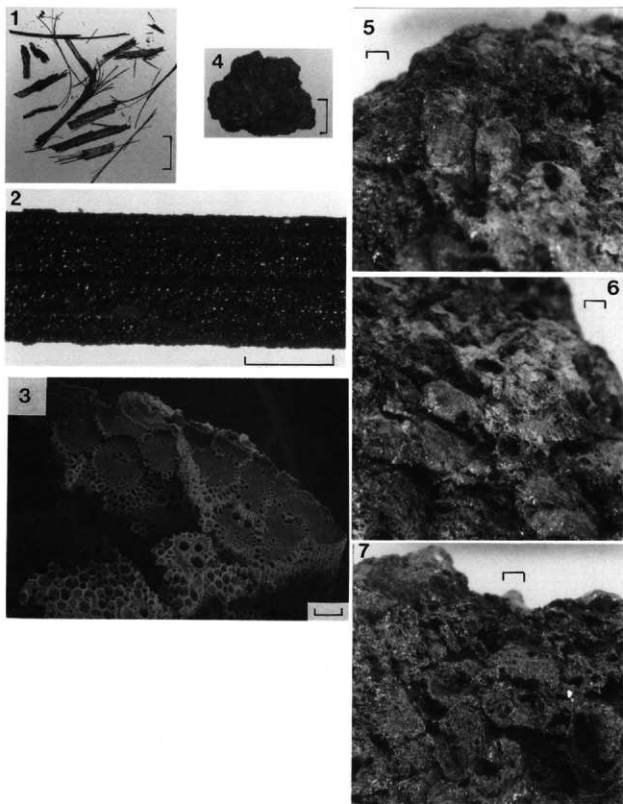
矢田遺跡は群馬県多野郡吉井町に所在し、鍋川右岸の標高150~160mの上位段丘面に位置している。今回は、本遺跡より出土した8世紀前半および8世紀後半と考えられている2試料の大型植物化石についての検討を行った。なお、同定にあたって、流通科学大学の南木睦彦助教にご指導して頂いた。ここに感謝致します。

### 2. 出土した大型植物化石

試料は112住・25 (8世紀後半) とH617掘方フク土 (8世紀前半) の2試料である。112住-25は炭化した種子が塊状に集合しており、一部もしくは全てがイネの炭化胚乳である。H617掘方フク土は炭化したイネ科である。

112住-25の試料は長さ4mm程度、幅2mm程度の炭化した種子が塊状に集合しているが、大半のものは保存状態が悪く同定不能である。しかし、一部には、種子の構造が確認できるものがあり、概形、大きさとあわせてイネと同定できる。この塊状種子には穎と思われるものがみられず、脱殻された状態であることがわかる。従って、調理途上もしくは調理済みの段階であり、この塊状種子はおにぎりである可能性もある。

H617掘方フク土の試料は、草本性の程がほぐれた炭化した繊維状のものであった。この炭化繊維の断面の組織は、維管束柱が散在する不整中心柱である。この維管束柱は、2~3個の小型の管孔があり、周囲は維管束鞘に囲まれている。以上の組織がみられることからイネ科の草本性のものであることは判ったが、試料が断片的であり、属または種をつきとめるまでには至らなかった。



出土した大型植物化石（スケールは1mm、1、4は1cm、3は0.2mm）

1～3、イネ科（H617掘方フク土） 4～7、イネ炭化胚乳、(112住-25)

## 付表 群馬県内出土の紡錘車一覧表

矢田遺跡からは115個の紡錘車が出土した。この数は県内約1200個中約1割近い数字であり、特別に出土量が多い事を示している。発掘調査段階からこの出土量の多いこと、文字の書かれた紡錘車が多いことに注目し資料収集を行った。その結果を中沢 悟・春山秀幸・関口功一「古代布生産と在地社会」『群馬の考古学』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 で文献と考古の成果をもとに成果をまとめた。その中で600個の県内出土の紡錘車を集成した。その後、『多胡蛇黒遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993 の中に付表として842個の紡錘車を集成した。矢田遺跡の整理事業終了に伴い、これまで集成した1246個の資料をここに提示する。

- (1) 市町村名 掲載は市町村番号順とした。
- (2) 材質 材質は報告書に記載されていた材質名を使用した。記載されていないものの中で、事業団保管のものの中には飯島静男氏に見ていただき記載したものもある。
- (3) 形状 形状は古来より、紡錘車の形については外形の特徴から円筒形・截頭円錐形・円盤形・偏平円盤形・饅頭形・笠形・算盤玉形・碁石形等区別され呼称されてきた。どのような呼称が最も適当なのかはわからないが、ここでは新たな試みとして比較的わかりやすい断面形態での違いに注目し、以下の名称で呼称することとした。紡錘車の中で最も多い截頭円錐形は断面形が台形である。厚いものと薄いものがあるため、薄台形と厚台形と分けた。円筒形や偏平円盤形は断面形が長方形と思われる。饅頭形と笠形は断面形が三角形と思われる。台形の狭い面の径と広い面の径を広径・狭径とし、厚さの違いを分類の基準として三角形・長方形・厚台形・薄台形・菱形の5種類とした。形の決定は視覚では一性に欠けるため、次のような数式をパソコンに条件設定し自動的に決定できるようにした。  
 If ((広径 $\leq$ 0) or (狭径 $\leq$ 0), "", If ((広径-狭径) $\leq$ 広径/10,"長方形", If ((広径-狭径) $\geq$ 0.7 $\times$ 広径,"三角形", If (厚さ/広径 $\geq$ 0.4,"厚台形", If (厚さ/広径 $<$ 0.4,"薄台形", "E"))))
- (4) 最大径区分 広径4cm未満を小、4～5cm未満を中、5～6cm未満を大、6cm以上を特大とした。
- (5) 重量区分 30g未満を軽量、30～50g未満を中量、50～70gを重量、70g以上を最重量とした。
- (6) 時期 基本的に報告書に記載された時期を使用した。記載されていない場合は、筆者の判断により便宜上時期を記入した。誤認もあると思われるので、掲載した遺物はすべて文献に記載したので、正確には報告書で確認して欲しい。
- (7) 遺跡遺物番号 市町村の中での遺跡番号と遺跡内での紡錘車番号。

第7章 調査成果の整理とまとめ

山形村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状・出土位置・土層	規格・厚さ・径	規格・厚さ・径 cm	規格・厚さ・径 cm	原属区分	保存状態	時期	備考
前橋市	堂野	C-4号住居	石(硬砂岩)	厚台形 1 中	4.1	4.1	1.1	米製品	9世紀後半	0010101	
前橋市	堂野	C-8号住居	土	厚台形 1 大	5.2	3.4	1.5, 0.9	瓦形	9世紀後半	0010102	
前橋市	堂野	包袋跡	石(石炭層風化)	厚台形 1 大	5.2	3.2	2.0, 0.8	粉片	不明	0010103	遺跡より磨石製存在片出土
前橋市	鳥辺G・H-I	I-8号住居	石(硬砂岩)	厚台形 1 大	5.1	4.1	0.9	瓦形	10世紀前半	0020101	
前橋市	鳥辺G・H-I	H-20号住居	石(燧石炭山層)	厚台形 1 特大	7.2	3.7	3.1, 1.1	瓦形	9世紀後半	0020102	両四方型出石の磨石出土
前橋市	鳥辺G・H-I	G-8号住居	石(硬砂岩)	厚台形 1 中	4.9	4.1	0.9	瓦形	10世紀前半	0020103	
前橋市	鳥辺G・H-I	G-6号住居	鉄	1 特大	6.7	3.8	0.8	10世紀前半	0020104	10世紀後半	鳥辺Gの磨石出土
前橋市	鳥辺G・H-I	G-20号住居	石(燧石炭山層)	厚台形 1 特大	6.3	3.9	20.9	一部欠損	9世紀後半	0020105	鳥辺Gの磨石出土
前橋市	鳥辺G・H-I	G-9号住居	鉄	1 大	5.4	0.5	1.2	48.5 中	9世紀後半	0020106	鳥辺Gの磨石出土
前橋市	鳥辺G・H-I	I-9号住居	石(硬砂岩)	厚台形 1 中	4.0	2.9	1.4, 0.8	9世紀後半	0020107	不明	
前橋市	鳥辺G・H-I	K-39号住居	鉄	1 大	5	0.5	1	鉄戸鏝・鉄輪	9世紀後半	0020108	
前橋市	鳥辺G・H-I	K-65号住居	石(硬砂岩)	厚台形 1 中	4.4	3.2	0.8	瓦形	7世紀後半	0020109	
前橋市	鳥辺G・H-I	H区工堀跡	石(硬砂岩?)	厚台形 1 中	4.3	3.3	1.4, 0.7	8世紀	0020104		
前橋市	鳥辺G・H-I	K-71号住居	鉄	1 中	4.4	0.3	0.3	16.3 軽	10世紀後半	0020105	東側面や骨材本コビー
前橋市	鳥辺I・M・N-O	M-21号住居	鉄	1 中	4.4	0.3	0.3	20.6 軽	10世紀後半	0020101	埋土より出土
前橋市	鳥辺I・M・N-O	M-39号住居	石(燧石炭山層)	厚台形 1 小	3.8	2.7	2.2, 0.8	7世紀後半	0020102		
前橋市	鳥辺I・M・N-O	L-185号住居	石(硬石)	長方形 2 中	4.8	1.7	1.1, 0.8	43.5 中	9世紀後半	0020103	鳥辺Iの磨石出土
前橋市	鳥辺I・M・N-O	L-185号住居	土	長方形 2 特大	6.4	6.4	0.9, 0.9	瓦形	9世紀後半	0020104	埋土より出土
前橋市	鳥辺I・M・N-O	LK重石台座	石(硬石)	厚台形 1 中	4.2	2.4	2.2, 0.7	瓦形	不明	0020105	重砂片の転用
前橋市	鳥辺I・M・N-O	H区	石(燧石炭山層)	厚台形 1 特大	7.2	6.2	3.1, 1.1	111 積重層	不明	0020106	
前橋市	鳥辺I・M・N-O	H区	石(燧石炭山層)	厚台形 1 特大	7	4	3.1, 1.4	48.7 中	不明	0020107	不明
前橋市	鳥辺I・M・N-O	K区	石(硬石)	厚台形 1 中	4	1.5	1.8, 0.5	瓦形	不明	0020108	不明
前橋市	鳥辺A・B・C・D・E・F	F-3号住居	鉄	1 大	5	0.4	0.5	27.4 軽	9世紀後半	0020101	
前橋市	鳥辺A・B・C・D・E・F	F-21号住居	土	厚台形 1 大	5	0.7	0.7	9世紀後半	0020102		
前橋市	鳥辺A・B・C・D・E・F	F-117号住居	石(燧石炭山層)	厚台形 1 中	4.6	2.8	1.9, 0.8	53 重層	9世紀後半	0020103	土師器底面の転用
前橋市	鳥辺A・B・C・D・E・F	基礎	石(不明)	厚台形 1 大	5.1	3.8	1.4, 0.9	41.7 中	不明	0020104	不明
前橋市	前田	I-17号住居	石(硬石)	厚台形 1 中	4.5	3.4	1.0, 0.8	35.4 中	不明	0020101	
前橋市	前田	18号住居	石(硬石片)	厚台形 1 中	4.6	3	1.6, 0.8	粉片	不明	0020102	
前橋市	前田	E-FG-15号ラフ	石(不明)	厚台形 1 中	4.5	2.5	1.4, 0.7	瓦形	不明	0020103	
前橋市	前田	H-15号住居	不明	厚台形 2 中	4.5	1.6	1.7, 0.6	瓦形	不明	0020104	
前橋市	内込遺跡群目	H-15号住居	不明	厚台形 2 大	5.2	3.8	1.4, 0.6	瓦形	不明	0040201	
前橋市	内込遺跡群目	H-17号住居	不明	厚台形 1 大	5.4	4.6	1.4, 0.6	瓦形	不明	0040202	
前橋市	内込遺跡群目	H-18号住居	不明	厚台形 1 特大	6.8	5.3	1.4, 0.6	瓦形	不明	0040203	
前橋市	内込遺跡群目	H-19号住居	土	長方形 3 特大	6.3	6.3	2.4, 0.7	瓦形	4世紀	0040204	
前橋市	内込遺跡群目	H-20号住居	土	長方形 3 特大	7.2	7.1	2.1, 0.9	瓦形	4世紀	0040205	
前橋市	内込遺跡群目	H-14号住居	土	長方形 1 特大	7.1	7.1	2.5	粉片	4世紀	0040206	
前橋市	内込遺跡群目	35号住居	土	長方形 1 大	5.5	5.4	1.7, 0.6	37 中	4世紀	0040207	

付表 群馬県内出土の紡錘車一覧表

前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	中	4.4	4.4	1.3	0.7	13	横	約15	4	磨製		0040102	
前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	中	4.6	4.5	1.2	0.6	34	中	寛形	4	磨製		0040103	
前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	中	4	3.9	2	0.7	26	横	一部欠損	4	磨製		0040104	
前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	特大	6.5	6.4	1.3	0.7	32	中	横	不明			0040105	
前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	中	4.6	3.2	2.2	0.6	43	中	寛形	不明			0040106	
前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	大	5.8	4.8	1.5	0.6	41	横	寛形	4	磨製		0040107	
前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	中	4.3	3.9	1.7	0.8	37	中	寛形	4	磨製		0040108	
前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	小	3.9	3.6	2	0.6	29	中	寛形	4	磨製		0040109	
前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	小	3.9	3.6	1.5	0.6	26	横	寛形	4	磨製		0040110	
前橋市	内庭遺跡群IV	土	長方形	1	特大	6	6	3	0.5	10.5	横	寛形	3C~4C			0040111	
前橋市	茨城丸	鉄	三角形	1	中	4.2	1.2	0.9	0.4	5.1	横	磨片	4	磨製		0050101	
前橋市	飯土井一本松	石(燧石)	扇形	1	大	5.4	4.6	1.8	1	68.4	横	寛形	9	磨製		0060102	
前橋市	飯土井一本松	石(燧石)	扇形	1	小	3.2	2.5	1.8	0.8	20.8	横	寛形	8	磨製		0060103	
前橋市	飯土井一本松	石(燧石)	扇形	2	大	5.3	5.1	1.3	0.8	27.8	横	寛形	8	磨製		0060104	
前橋市	飯土井一本松	石(燧石)	扇形	2	中	4	2.6	1.5	0.7	24	横	寛形	8	磨製		0060105	
前橋市	茨城上川久保	石(燧石)	扇形	1	中	4.9	1.5	1	0.7			寛形	9	磨製		0070101	
前橋市	茨城上川久保	石(燧石)	扇形	1	特大	6	3.4	2.4	1			寛形	6	磨製		0070102	
前橋市	茨城上川久保	石(燧石)	扇形	1	特大	6.3	4.5	1.8	1			約15	不明		0070103		
前橋市	茨城上川久保	石(燧石)	扇形	1	特大	6.4	3.6	1.9	1			約15	不明		0070104		
前橋市	下東西	石(燧石)	扇形	1	特大	6.1	5.2	1.6	0.9	85.8	横	寛形	9	磨製		0080101	
前橋市	下東西	石(燧石)	扇形	1	中	4.7	2.8	4				寛形	8	磨製		0080102	
前橋市	下東西	鉄	扇形	1	大	5.5	0.4	0.4				扇形のみ	不明		0090101		
前橋市	茨城北原	鉄	長方形	1	小	3.4	3.3	1.3	0.7	6	横	寛形	不明			0090102	
前橋市	茨城北原	鉄	長方形	1	中	4.8	3.1	1.2	0.7	44.8	中	寛形	8	磨製		0100101	
前橋市	二宮千重	石(燧石)	扇形	1	小	3.9	3.1	1.6	0.7	41.7	中	寛形	不明			0100102	
前橋市	茨城北原	石(燧石)	扇形	1	中	4.8	3.4	1.5	0.6	32	横	寛形	6	磨製		010101	
前橋市	茨城北原	石(燧石)	扇形	1	小	3.5	2.5	2.6	0.8	47.5	中	寛形	6	磨製		010102	
前橋市	茨城北原	石(燧石)	扇形	1	中	4.6	2.7	1.9	0.7	36.8	中	寛形	11	磨製		010103	
前橋市	茨城北原	石(燧石)	扇形	1	大	5.2	3.1	1.2	0.7	48.2	中	寛形	6	磨製		010104	
前橋市	茨城北原	石(燧石)	扇形	2	中	4	3.2	1.8	0.8	13.6	横	約15	6	磨製		010105	
前橋市	茨城北原	石(燧石)	扇形	2	中	4.2	2.1	1.4	0.8	29.9	横	寛形	6	磨製		010106	
前橋市	茨城北原	石(燧石)	扇形	2	中	3.8	2.7	1.8	0.7	42.2	中	寛形	6	磨製		010107	
前橋市	茨城北原	石(燧石)	扇形	2	中	4.6	2.3	1.3	0.7	33.3	中	寛形	6	磨製		010108	
前橋市	茨城北原	石(燧石)	扇形	1	中	4	1.9	0.9	0.5	17.6	横	寛形	6	磨製		010109	
前橋市	茨城北原	土	長方形	1	小	3.1	3	1.2	0.6			約15	2~3世紀			010110	
前橋市	茨城北原	土	長方形	1	大	5	0.8	0.7	19.3	横	寛形	不明				010111	
前橋市	茨城北原	鉄	長方形	1	中	4	4	0.8	0.8			約15	不明			010112	
前橋市	茨城北原	土	長方形	1	大	5.9	5.8	2	0.6	64.4	横	寛形	不明				010113
前橋市	茨城北原	土	長方形	1	大	5	5	1.2		15.2	横	磨片	不明				010114

第7章 調査成果の整理とまとめ

市町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構 面高 土厚	遺構 面高 土厚	幅長 幅長 幅長	幅長 幅長 幅長	重量 重量 重量	保存状態	時期	備考	遺跡番号 番
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	14号住居	石(礎石)	礎石	1	小	3.8	2.7	2.3	0.6	不明		013031
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	20号住居	石<埋>	溝	2	中	4.3	3.1	1.5	0.9	8 礎石後半		013032
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	20号住居	石<埋>	溝	2	中	4.5	3.5	1.4	0.8	8 礎石後半	「下」の文字の痕跡あり	013033
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	20号住居	石(礎石)	長方形	1	特大	7.8	7.8	1.4	40	中	「口」の代「口」の跡あり 円形穴状	013034
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	9号住居	土	礎	1	大	5.8	0.3	0.4	約1階のみ	9 礎石後半		013035
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	57号住居	石(礎石)	溝	1	大	5.4	4.8	1.4	0.8	10 礎石後半		013036
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	62号住居	石(礎石)	溝	1	中	4.1	3.8	1.3	0.6	8 礎石後半		013037
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	62号住居	石(礎石)	溝	3	中	4.8	3.2	1.6	0.9	8 礎石後半		013038
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	65号住居	石(礎石)	溝	3	中	4.9	3.6	1.2	0.8	8 礎石後半		013039
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	65号住居	石(礎石)	溝	3	大	5.8	3.6	1.6	0.9	8 礎石後半		013040
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	69号住居	石<埋>	溝	1	中	4.7	3.5	1.2	0.8	10 礎石		013041
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	81号住居	石(礎石)	溝	1	小	3.8	2.4	1.1	0.6	7 礎石後半		013042
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	長方形	1	中	4.8	4.8	1.1	0.6	14 礎	遺	013043
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	中	4.3	2.6	1.3	0.6	42 中	遺	013044
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	小	3.7	3.1	2.2	0.9	15 礎	遺	013045
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	中	4.9	2.6	1.2	0.8	18 礎	遺	013046
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	中	4.7	2.6	1.6	0.6	42 中	遺	013047
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	中	4.3	3.5	1.5	0.7	不明		013048
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石<埋>	溝	1	大	5.3	3.7	1.9	0.9	不明		013049
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石<埋>	溝	1	中	4.4	4.1	1.3	0.7	不明		013050
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	土	溝	1	特大	6.2	6.1	1.4	0.8	不明		013051
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	中	4.8	4.1	1.6	0.8	66.3 遺	遺	013052
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	特大	6.4	3.6	2.6	0.8	118.4 遺	遺	013053
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	中	4.1	3.6	1.9	18.3 遺	遺		013054
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	大	5.1	3.6	1.8	0.7	不明		013055
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	小	3.8	2.4	1.3	0.7	29.5 遺	遺	013056
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石<埋>	溝	1					不明			013057
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	小	4.5	3.1	1.3	0.9	不明		013058
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	中	4.7	3.7	0.9	0.8	不明		013059
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	中	4.1	3.1	1.2	0.9	不明		013060
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石<埋>	溝	1					不明			013061
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	1	特大	7.3	6.5	2.3	0.9	約1階のみ		013062
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	土	溝	1	特大	8.0	0.7			約1階のみ		013063
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	土	溝	3	小	4.4	3.8	1.4	0.8	不明		013064
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	3	小	3.7	2.7	1.5	0.9	不明		013065
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	石(礎石)	溝	3	特大	6.1	6.1	2.5	0.9	不明		013066
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	土	溝	1	大	5.1	0.6	0.6	0.5	不明		013067
熊鷹市	熊鷹市小学校日・曜	10号住居	土	溝	1	中	4.2	4.1	1.3	0.8	不明		013068

付表 群馬県内出土の訪鎌車一覧表

信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-212号住居	石 (かんらん岩)	扇台形	1	小	3.2	1.5	1.5	0.7	完形	9世紀後半	0180208
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-77号住居	石 (凝灰岩)	扇台形	1	大	5.6	4.5	1.4	0.9	完形	9世紀後半	0180209
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-79号住居	石 (凝灰岩)	扇台形	1	小	2.9	4.7	1.6	1	完形	不明	0180210
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-217号住居	石 (凝灰岩)	扇台形	1	小	3.9	2.4	1	0.8	完形	9世紀後半	0180211
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-122号住居	石 (かんらん岩)	扇台形	1	中	4.3	2.8	2.1	0.6	完形	7世紀後半	0180212
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-129号住居	石 (角閃石(斑石))	扇台形	1	大	5.7	4.5	2.2	1.2	完形	9世紀後半	0180213
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-140号住居	石 (凝灰岩)	扇台形	1	中	4.3	3	2.4	0.8	完形	8世紀後半	0180214
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-140号住居	石 (不明)	扇台形	1	中	4.7	3.1	1.6	0.7	完形	8世紀後半	0180215
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-157号住居	石 (かんらん岩)	扇台形	1	中	4.1	2.1	2.2	0.6	完形	7世紀後半	0180216
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-191号住居	石 (凝灰岩)	扇台形	1	中	4.2	2.9	1.5	0.7	完形	9世紀後半	0180217
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-194号住居	石 (かんらん岩)	扇台形	1	中	4.6	3.1	1.5	0.9	完形	8世紀後半	0180218
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-209号住居	石 (凝灰岩)	扇台形	1	中	3.8	3.3	1.5	0.7	完形	7世紀後半	0180219
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-245号住居	鉄	扇台形	1	中	4.1	1	0.4	0.6	欠損部→鉄蝕	11世紀後半	0180220
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-253号住居	石 (凝灰岩)	扇台形	1	大	5.6	4	1.5	0.9	完形	9世紀後半	0180221
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-344号住居	石 (かんらん岩)	扇台形	1	中	4.4	3.6	1.1	0.8	完形	9世紀後半	0180222
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-345号住居	石 (横石片岩)	長方形	1	中	4.1	4.1	0.9	0.9	完形	9世紀後半	0180223
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-350号住居	石 (横石)	扇台形	1	中	4.1	3	1.4	0.8	完形	8世紀後半	0180224
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-487号住居	石 (凝灰岩)	扇台形	1	中	4.7	3	1.2	0.8	完形	8世紀後半	0180225
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-487号住居	石 (横石片岩)	扇台形	1	中	4.3	3.1	2	0.8	完形	9世紀後半	0180226
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-216号住居	鉄	扇台形	1	小	3.4	0.4	0.6	0.6	欠損部→鉄蝕	9世紀後半	0180227
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	鶴立社跡地Ⅰ	石 (不明)	扇台形	1	小	3.8	2.6	1.4	0.6	不明	不明	0180228
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	鶴立社跡地Ⅱ	石 (かんらん岩)	扇台形	1	中	4.3	3	2.2	0.6	完形	8世紀後半	0180229
信濃市	方冑車部出土物Ⅱ	H-123号住居	石 (かんらん岩)	扇台形	1	小	3.9	2.5	1.2	0.6	22.8粒 扇形片	8世紀後半	0180101
信濃市	引込塚	3号住居	石 (横石)	扇台形	1	大	5	2	1.7	0.7	6粒 扇形片	6世紀	0180101
信濃市	木水	元徳社跡地Ⅰ	石 (横石)	扇台形	1	小	3.3	2.1	1.6	0.6	完形	6世紀後半	0180101
信濃市	元徳社跡地Ⅱ	石 (不明)	扇台形	1	小	3.6	0.4	0.6	0.6	欠損部→鉄蝕	11世紀以前	0180102	
信濃市	元徳社跡地Ⅲ	土	扇台形	1	小	3.1	0.7			不明	不明	0180103	
信濃市	天徳	29号住居	鉄	扇台形	1	中	4.4	0.6	0.7		横片	不明	0200101
信濃市	天徳	2号井戸	石 (不明)	扇台形	1	中	4.8	3.2	2	0.8	完形	10世紀後半	0200102
信濃市	寺田	D-2号塚	石 (横石)	長方形	1	中	4.6	4.6	1.7	0.7	一部欠損	不明	0201001
信濃市	寺田	C-2号塚	土	長方形	1	大	5.6	0.8	0.3		約片	不明	0201002
信濃市	寺田	D-6号塚	土	長方形	1	特大	6.3	5.8	1	0.9	約片	不明	0201004
信濃市	寺田	C-4号塚	石 (不明)	扇台形	1	中	4.5	2.4	2.1	0.8	約片	不明	0201001
信濃市	越田→西大室	3号住居	石 (不明)	扇台形	1	中	4.5	2.5	1.8	0.9	完形	不明	0201002
信濃市	越田→西大室	6号住居	石 (不明)	扇台形	1	中	4.8	2.5	2.3	0.4	完形	不明	0201002
信濃市	高田→西大室	6号住居	土	三角形	1	特大	5.5	1.5	1.2	0.6	完形	2～3世紀	0201003
信濃市	高田→西大室	9号住居	土	長方形	1	大	5.2	5.2	1.5	0.7	完形	2～3世紀	0201003
信濃市	高田→西大室	11号住居	石 (不明)	扇台形	1	中	3.6	1.2	0.9		不明	不明	0201001
信濃市	高田→西大室	11号住居	石 (不明)	扇台形	1	中					不明	不明	0201002
信濃市	高田→西大室	11号住居	不明	扇台形	1	中					不明	不明	0201003
信濃市	高田→西大室	11号住居	不明	扇台形	1	中					不明	不明	0201004



第7章 調査成果の整理とまとめ

市町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構の 出土状況 土層	遺構の 位置 関係	規模 長さ 幅 高さ	遺構 区分	保存状態	時期	備考	
前橋市	間原遺跡	4号住居	石(磨石)	磨石形	1	中	4.4 2.8 1.5 0.7	中 塚	完形	6世紀	磨石に古銅製の埋めあり	
前橋市	草作	H-29住居	炭	磨石形	1	大	5.1 0.2 0.2	中 塚	残片のみ	10世紀後半		
前橋市	前田	水堀	石(不明)	磨石形	1	中	4.6 3.1 0.7 0.9	完形	残片のみ	不明	丸形磨石	
前橋市	角田	水堀	石(不明)	磨石形	1	中	4.1 2.7 1.2 1	完形	完形	不明	丸形磨石	
前橋市	山王塚寺	田	石(伊賀石(灰山石))	磨石形	1	中	4.3 2.2 2.2	完形	完形	不明		
前橋市	菅原安居	H-6号住居	土	長方形	2	大	5.8 5.8 2 0.4	完形	10世紀後半	高台座の配用(土磨石)		
前橋市	菅原安居	H-6号住居	土	長方形	2	大	5.5 5 1.8 0.6	完形	高台座の配用(土磨石)	10世紀後半		
前橋市	鶴谷I	30号住居	石(磨石)	磨石形	1	中	4.1 2.7 1.8 0.8	完形	完形	不明	「灰目」文字彫刻、遺跡内に石製製品	
前橋市	鶴谷II	29号住居	不明	磨石形	1	小	3.9 2.3 1.2 0.8	完形	完形	不明	遺跡内に石製製品出土	
前橋市	鶴谷III	1号住居	石(磨石)	磨石形	1	小	3.6 1 1.8 0.3	完形	完形	不明		
前橋市	小瀬川IV	52号住居	石(磨石)	磨石形	1	小	3.6 2.4 1.6 0.7	完形	完形	6世紀後半		
前橋市	小瀬川V	DH9	不明	磨石形	1	小	3.3 1.7 1 0.6	完形	完形	不明		
前橋市	小瀬川V	1号住居	石(伊賀石)	磨石形	1	中	4 2.6 0.9 0.7	完形	完形	8世紀後半		
前橋市	瓦葺品原	E区6号住居	石(磨石)	磨石形	1	小	3.5 1.5 1.9 0.7	完形	完形	6世紀後半	新形石製製品出土	
前橋市	今井山	1区11号住居	石(磨石)	磨石形	1	小	3.8 1.8 1.5 0.7	23号棟	完形	7世紀後半	磨石面に磨刻文	
前橋市	元郷社寺田I	1区2面1号溝	土	長方形	1	大	5.8 5.5 1.2 0.7	完形	完形	不明	土磨石造り	
前橋市	元郷社寺田II	4区2面1号溝	土	長方形	1	大	5.6 5.2 0.8 0.5	完形	完形	不明	須磨郡高倉配用	
前橋市	元郷社寺田III	V区田圃	土	磨石形	4	特大	7.2 4.8 0.8 0.4	59.6遺	完形	10世紀後半	須磨郡高倉配用	
前橋市	元郷社寺田IV	V区田圃	土	磨石形	4	特大	6.3 5.1 1.2 1.2	14.8棟	完形	10世紀後半	須磨郡高倉配用	
前橋市	元郷社寺田V	V区田圃	土	磨石形	4	特大	4.8 4.2 1.5 0.9	14.8棟	完形	10世紀後半	須磨郡高倉配用	
前橋市	二之宮宮堂	御膳M56	土	長方形	1	小	3.4 3.4 0.7 0.4	遺片	完形	不明		
前橋市	元郷大日尊	A区29号住居	石(磨石)	磨石形	1	大	5.1 3.8 2.3 0.8	10遺	完形	8世紀後半	下部は孔に閉って同じ でいる部分も認められ ている部分も認められ ている	
前橋市	元郷大日尊	B区3号住居	石(磨石)	磨石形	1	中	4.4 3.1 1.5 0.8	45中	完形	8世紀後半		
前橋市	今井道	8土	炭	磨石形	1	大	5.2 0.2 0.4	完形	完形のみ	不明		
前橋市	地田原	15号住居	石(磨石)	磨石形	1	大	5.7 3.9 1.8 0.9	44.7中	完形	10世紀後半	磨石の調査は丁寧に裏まわっている	
前橋市	元郷宮原	6号住居	石	磨石形	1	大	5.7 3.8 1.7 0.9	59.7中	一部欠損	不明		
前橋市	高久保	3号住居	石(伊賀石)	磨石形	1	中	4.4 3.3 1.9 0.9	40.3遺	完形	9世紀	E区田圃面、鉄釘は中央付近、磨石と下溝溝 へ下溝溝下溝溝など 上部表面とも磨石	
前橋市	橋保遺跡VI	3号住居	土	磨石形	1	大	5.2 3.8 1.2 0.6	40.3中	完形	4世紀後半	外部埋まいがき	
前橋市	橋保遺跡VII	5号住居	土	磨石形	1	大	4.6 0.9 0.9	31.3中	一部欠損	不明		
前橋市	橋保遺跡VIII	IE-19	土	磨石形	1	大	5.6 1.9	14.5中	破片	不明	断面形状	
前橋市	橋保遺跡IX	IE-28	土	磨石形	1	中	4.5 3.3 1.7 0.9	14.5中	破片	不明	断面形状	
前橋市	元郷上ノ場I	4区14号住居	土	磨石形	1	中	4.4 2.9 1.7 0.6	完形	完形	3世紀後半		
前橋市	元郷上ノ場II	6区2号住居	土	磨石形	1	中	4.4 3.8 1.4 0.6	完形	完形	3世紀後半		
前橋市	元郷上ノ場III	2区57号住居	土	長方形	1	中	4.2 3.8 1.4 0.6	磨片	磨片	3世紀後半		
前橋市	元郷上ノ場IV	2区33号住居	土	磨石形	1	中	4.9 3.2 1.4 0.6	磨片	磨片	3世紀後半		
前橋市	元郷上ノ場V	1区42号住居	石(かみん石)	磨石形	1	大	5.6 2.8 1 0.8	完形	完形	3世紀後半		
前橋市	元郷上ノ場VI	2区9号住居	土	磨石形	2	中	4.3 3.4 2.1 1	43.8中	磨片	磨片	8世紀後半	
前橋市	元郷上ノ場VII	2区9号住居	石(磨石)	磨石形	2	大	5.2 3.2 2 1	73.8遺	完形	8世紀後半		

付表 群馬県内出土の防鉢車一覧表

発掘地	石室内出土品	8号住居	土	1	中	4.7	1.7	0.5	完形	8世紀後半	0150101
高崎市	熊野塚(1)	表層	石(螺旋状)	三角形	1	中	4.5	1.2	1.5	0.7	不明
高崎市	熊野塚(1)	47号住居	石(螺旋状)	薄台形	1	大	5	3.3	1.4	0.8	51.2
高崎市	熊野塚(1)	66号住居	土	1	1	1.2					17
高崎市	熊野塚(1)	75号住居	鉄	2	1	8.8					8.8
高崎市	熊野塚(1)	81号住居	石(螺旋状)	薄台形	2	中	4.8	3.1	1.6	0.8	56.4
高崎市	熊野塚(1)	81号住居	石(螺旋状)	薄台形	2	中	4.1	3.2	0.8	35.3	49
高崎市	熊野塚(1)	144号住居	石(薄台)	薄台形	1	中	4.1	1.9	0.6	40	中
高崎市	熊野塚(1)	168号住居	石(螺旋状)	薄台形	1	中	4.2	2	1.4	0.7	33.6
高崎市	熊野塚(1)	4区7号住居	石(螺旋状)	三角形	1	大	5.5	1.4	1.6	0.6	35.1
高崎市	熊野塚(1)	4区10号住居	鉄	1	特大	6.4	0.6	0.5	55	重量	鉄口蓋+鉄輪
高崎市	熊野塚(1)	4区18号住居	土	長方形	1	大	4.9	1.4	0.8	36.9	中
高崎市	熊野塚(1)	33号溝	土	薄台形	1	小	2.8	1	0.4	0.3	3.3
高崎市	熊野塚(1)	遺構外	鉄	1	小	0.1					不明
高崎市	熊野塚(1)	遺構外	鉄	1	小	3	0.6	0.6			不明
高崎市	熊野塚(1)	1区6号住居	石(螺旋状)	薄台形	1	中	4.5	2.4	1.6	0.6	47.5
高崎市	熊野塚(1)	1区122号住居	石(螺旋状)	厚台形	1	中	4.7	2.7	1.9	0.7	53
高崎市	熊野塚(1)	2区58号住居	鉄	1	中	4.2	0.8	0.7			鉄口蓋+鉄輪
高崎市	熊野塚(1)	2区57号溝	石(不詳)	薄台形	1	中	4.9	3.3	1	0.9	39.7
高崎市	熊野塚(1)	4区4号住居	土	長方形	1	特大	7.3	7.2	1	0.9	61.6
高崎市	熊野塚(1)	4区21号住居	石(螺旋状)	長方形	1	中	4.7	4.7	1.4	0.8	55.5
高崎市	熊野塚(1)	4区50号住居	鉄	1	中	4	0.9	0.7			鉄口蓋+鉄輪
高崎市	熊野塚(1)	4区19号溝	土	長方形	1	大	5	5	0.4	0.7	19.3
高崎市	熊野塚(1)	5区23号土坑	鉄	1	中	4	0.8	0.3			鉄口蓋のみ
高崎市	熊野塚(1)	5区50号土坑	鉄	1	中	4.5	0.7	0.3			鉄口蓋のみ
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	中	4.6	4.2	0.8	0.7	粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	5	4.5	1		粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	5	4.6	1		粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	5.2	4.8	0.9		粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	5.2	5.2	1.3	0.7	粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	5.8	5.8	1		粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	特大	6	5.6	1.5		粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	4.5	4.5	1		粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	5	4.8	1.2	0.8	粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	5.5	5.2	1.1		粉片
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	中	3.9	3.9	1.5	0.7	56.3
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	中	4.7	1.5	0.6	34	重量
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	5	4.6	1.8	0.6	41.4
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	大	5.3	5.3	1.1	0.6	28.1
高崎市	新保1	大溝	土	長方形	15	中	4.2	4.2	0.8		18
高崎市	新保1	114号住居	土	長方形	1	大	5.3	5.3	1.3	0.7	31.4

第7章 調査成果の整理とまとめ

市町村名	遺跡名	出土遺構	村	形状	遺構 出土 土器分	遺構 最大 長さ	遺構 最大 幅	遺構 厚さ	遺構 位置	遺構 形状	時期	備	番号
福岡市	新築日	1359号住居	土	長方形	1 大 5.5 5.3 1.2 0.6	5.5	5.3	1.2	0.6	窪形	2～3世紀		0602002
福岡市	新築日	263号住居	土	長方形	1 大 5.3 5.3 1.4 0.5	48.2	中 窪形			窪形	2～3世紀		0602003
福岡市	新築日	141号住居	土	長方形	1 大 5.5 5.5 1 0.6	33.3	中 窪形			4里形	4世紀		0602004
福岡市	新築日	151号住居	石(礎石等)	長方形	1 小 3.9 3.9 0.9 0.2	13.5	縦 窪形			窪形	4世紀前半		0602005
福岡市	新築日	282号住居	土	長方形	1 特大 6.1 6.1 1.2 0.9					窪形	4世紀		0602006
福岡市	新築日	1号住居遺蹟	石(礎石)	三角形	1 小 3.8 1.1 0.3	14.4	縦 窪形			窪形	2～3世紀		0602007
福岡市	新築日	109号講	石(礎石等)	三角形	1 中 4.9 0.6 1.4 0.2	20.3	縦 窪形			窪形	2～3世紀		0602008
福岡市	新築日	2号遺蹟群	土(礎石)	長方形	1 特大 8 8 2.1 0.9	190.3	縦 窪形			窪形	4世紀		0602009
福岡市	新築日	包含割	石(礎石等)	長方形	13 小 3.8 3.8 1 0.2	16	縦 窪形			窪形	弥生～古墳		0602010
福岡市	新築日	包含割	石(礎石等)	三角形	13 小 5.2 1 1.9 0.3	29	中 窪形			窪形	弥生～古墳		0602011
福岡市	新築日	包含割	土	長方形	13 大 5.3 5.3 1.5 0.6					一部欠損	弥生～古墳		0602012
福岡市	新築日	包含割	土(礎石)	長方形	13 特大 6.7 6.7 1.9 0.9	72.2	縦 窪形			窪形	弥生～古墳		0602013
福岡市	新築日	包含割	土(礎石)	三角形	1 大 5.6 1.2 2.1 0.7	49.6	中 窪形			窪形	弥生～古墳		0602014
福岡市	新築日	包含割	土	長方形	13 特大 10.7 10.7 1.3 1.1					窪形	弥生～古墳		0602015
福岡市	新築日	包含割	土	長方形	13 大 5.5 5.3 1.5 0.7					窪形	弥生～古墳		0602016
福岡市	新築日	包含割	土	長方形	13 中 4.9 4.7 1.5 0.7					窪形	弥生～古墳		0602018
福岡市	新築日	包含割	土	長方形	13 中 4.8 4.6 1.2 0.7					窪形	弥生～古墳		0602019
福岡市	新築日	包含割	土	長方形	13 大 5 4.8 1 0.8					窪形	弥生～古墳		0602020
福岡市	新築日	包含割	土	長方形	13 中 4 3.9 0.8 0.4					窪形	弥生～古墳		0602022
福岡市	下野田	4号住居	厚台形	1 中 4.6 3.4 2 0.6	43.9	中 窪形				窪形	9世紀後半		0604011
福岡市	下野田	表棟	厚台形	1 大 5.1 4.2 2.3 0.8	28.3	縦 窪形				窪形	不明		0604012
福岡市	中尾	C 62号住居	厚台形	1 中 4.4 2.9 1.2 0.8	34.3	中 窪形				窪形	9世紀後半		0604013
福岡市	中尾	D 61号住居	石(礎石)	1 大 5.7 4.7 1.8 0.7	75.4	縦 窪形				窪形	8世紀後半		0604017
福岡市	中尾	D 64号住居	鉄	1 中 4.1 0.3 0.4						窪形(鉄)	9世紀後半		0604018
福岡市	中尾	D 68号住居	石(礎石)	1 中 4 3.4 1.3 0.7	37.2	中 窪形				窪形	9世紀後半		0604019
福岡市	中尾	E 67号住居	石(礎石)	1 中 4.5 2.8 1.4 0.8	44.5	中 窪形				窪形	不明		0604015
福岡市	中尾	井戸9	長方形	1 中 4 1.1 0.6 0.2	23.9	縦 窪形				窪形	不明		0604016
福岡市	田隈	寺33号住居	石(礎石)	1 中 4.4 2.6 2 0.7	30.4	中 窪形				窪形	6世紀前半		0604014
福岡市	田隈	462号住居	石(礎石)	1 大 5.3 1 0.8	36	中 窪形				窪形	5世紀前半		0604015
福岡市	角島	5区3号住居	石(礎石)	1 中 4.1 2.1 1 0.8	27.2	縦 窪形				窪形	5世紀前半		0604017
福岡市	角島	5区14号住居	石(礎石)	1 大 5.1 4.8 0.6 0.6	16.3	縦 窪形				窪形	11世紀前半		0604018
福岡市	角島	6区3号住居	石(礎石)	1 中 4.2 3.3 1.8 0.6	47.2	中 窪形				窪形	6世紀後半		0604019
福岡市	下野野	1地区BC538号住	石(礎石)	1 大 5 3 1.7 0.5	42.4	中 窪形				窪形	10世紀		0604015
福岡市	下野野	1地区BC538号住	鉄	1 小 3.6 0.3 0.2						長尺(鉄)	9世紀後半		0604016
福岡市	下野野	3区4号住居	石(礎石等)	1 中 3.8 3.8 1.3 0.7	33.2	中 窪形				窪形	9世紀後半		0604017
福岡市	下野野	4区14号住居	石(礎石)	1 中 4.8 3 1.8 0.8	66.2	縦 窪形				窪形	9世紀後半		0604018

付表 群馬県内出土の訪鎌車一覧表

高崎市	下巻野目	5区1号住居	石(横石)	厚台形	1号	4.5	2.7	1.8	0.6	6世紀前半	6080203
高崎市	熊野野目地区河原	廻廊式遺構 6	石(横石)	厚台形	1号	4.5	2.7	2.3	0.7	不明	6090101
高崎市	熊野野目地区河原	14号住居	石	厚台形	1号	3.2	0.2	0.2	0.1	中央部に小穴あり、形骸等としては疑問	6090102
高崎市	新田中野目	9号住居	土	小	5.2	3.2	0.9	0.9	0.9	9世紀後半	6100101
高崎市	新田中野目	166号住居	土	薄台形	1号	4.2	2.1	0.9	0.7	裏面に細かい網目状	6100102
高崎市	新田中野目	167号住居	土	長方形	1号	5.2	3.0	0.8	0.7	2～3世紀	6100103
高崎市	新田中野目	169号住居	土	長方形	2号	5.1	5.1	1.4	0.6	2～3世紀 片残存	6100104
高崎市	新田中野目	169号住居	土	長方形	2号	4.8	2.4	1.7	0.6	5世紀後半	6100105
高崎市	八幡中屋	住居跡	石(C形)	薄台形	1号	4.1	1.8	0.9	0.8	不明	6110101
高崎市	八幡中屋	住居跡	石(C形)	薄台形	1号	3.9	1.6	1.4	0.8	不明	6110102
高崎市	八幡中屋	住居跡	石(C形)	薄台形	1号	4.1	1.8	1.7	0.8	不明	6110103
高崎市	八幡中屋	住居跡	石(C形)	厚台形	1号	4.1	2.1	1.7	0.8	一部欠損	6110104
高崎市	八幡中屋	住居跡	石(C形)	薄台形	1号	4.5	2.4	1.2	0.6	不明	6110105
高崎市	八幡中屋	住居跡	石(C形)	厚台形	1号	4.3	2.4	2.2	0.6	不明	6110106
高崎市	石原原田山	支取	石(横石)	厚台形	1号	3.5	2.8	1.8	0.8	不明	6110107
高崎市	引間	41号住居	土	薄台形	1号	4.4	1.7	0.6	0.6	形骸は断片、形見と形跡とも痕が遺棄されていた	6120101
高崎市	引間	45号住居	土	薄台形	1号	4.2	0.8	0.8	0.6	5世紀後半	6130101
高崎市	天押	表塚	石(C形)	厚台形	1号	4.8	2.8	2	0.8	2～3世紀	6130102
高崎市	天押	表塚	石(C形)	厚台形	1号	4.8	2.8	2	0.8	不明	6130103
高崎市	兼形	3号住居	土	薄台形	1号	5.4				新設	6150101
高崎市	大島原	2号住居	石(C形)	薄台形	4号	4.7	2.7	1.8	0.9	5世紀後半	6160101
高崎市	大島原	2号住居	石(C形)	薄台形	4号	4.5	2.4	1.5	0.6	5世紀後半	6160102
高崎市	大島原	2号住居	石(C形)	薄台形	4号	4.7	2.3	0.9	0.9	5世紀後半	6160103
高崎市	大島原	2号住居	石(C形)	厚台形	4号	4.1	2.1	1.8	0.9	5世紀後半	6160104
高崎市	大八木田原(2)	1号住居	石(C形)	薄台形	1号	4.1	1.3	1.2	0.6	5世紀後半	6170101
高崎市	大八木田原(2)	表塚	石(C形)	長方形	1号	2.9	2.9	0.6	0.6	不明	6180101
高崎市	日高	1号(1号)形跡遺構 2構	石(C形)	三角形	1号	4.9	1	0.2	0.2	2～3世紀 広面に網目状の文様あり、形跡等としては疑問	6190101
高崎市	日高	8号住居跡	土	長方形	1号	6.6	6.6	1.3	0.9	不明	6200101
高崎市	倉賀野万巻寺 2	3号古墳	石(横石)	薄台形	1号	4.3	2.5	1.2	0.4	裏面に「ス」状の網目あり、上部に管状あり	6210201
伊勢崎市	青土原之北	6号住居	石(C形)	薄台形	1号	5.1	3.6	1.7	0.7	8世紀後半	6210101
伊勢崎市	青土原之北	41号住居	石(C形)	薄台形	1号	4.9	1.7	0.8	0.8	9世紀後半	6210102
伊勢崎市	青土原之北	43号住居	石(横石)	薄台形	1号	5.1	3.6	1.5	0.8	裏面側に「廻」「美」の文字跡	6210103
伊勢崎市	土橋木光山	地下式土	石(横石)	薄台形	1号	3.6	2	1.8	0.6	文字の断片 断文不明	6220101
伊勢崎市	土橋木光山	2号住居	石(横石)	薄台形	1号	4.4	2.1	1.5	0.8	9世紀後半	6230101
伊勢崎市	土橋木光山	7号住居	石(横石)	薄台形	2号	5.4	4.5	2.1	0.9	9世紀後半	6230102
伊勢崎市	土橋木光山	7号住居	土	薄台形	2号	6	4	1.6	0.9	9世紀後半	6230103
伊勢崎市	土橋木光山	8号住居	石(横石)	薄台形	1号	5.5	4	1.9	0.9	9世紀後半	6230104
伊勢崎市	土橋木光山	12号住居	石(横石)	薄台形	1号	4.9	3.9	1.4	0.8	9世紀後半	6230105
伊勢崎市	土橋木光山	36号住居	石(横石)	薄台形	1号	5.2	3.6	1.5	0.9	9世紀後半 網目文字「王」	6230106
伊勢崎市	土橋木光山	37号住居	石(横石)	薄台形	1号	5	3.6	1.5	0.9	9世紀後半 網目文字「王」「矢」等	6230107
伊勢崎市	土橋木光山	91号住居	石(横石)	薄台形	1号	5.4	4	1.3	0.9	10世紀後半 網目文字「●」	6230108



付表 群馬県内出土の紡錘車一覽表

太田市	小城田	土	1特大	6.7	5.6	1	0.9			9世紀後半	0600104
太田市	小城田	土	1大	5.6	4.2	1.6	0.9			不明	0600105
太田市	柳影	石<9号>	1							不明	0600101
太田市	成塚(仁七郎地)	土	1大	5.1	3	1.4	1			9世紀後半	0600101
太田市	成塚(仁七郎地)	土	1大	5.3	3.9	1.4	0.9	43	中葉	9世紀後半	0600102
太田市	成塚(仁七郎地)	土	1長方形	2大	6	6	1	40.3	中葉	9世紀後半	0600103
太田市	成塚(仁七郎地)	石(磨石)	1中	4	3.1	2.1	0.7			6世紀後半	0600104
太田市	成塚(仁七郎地)	石(磨石)	1中	5.2	3.2	1.6	0.7			8世紀後半	0600105
太田市	西馬尾(東山古墳群)	土	1大	5.2	1	2.1	0.5			4世紀後半	0610101
太田市	柳影	土	1大	5.7	3.8	1.4	0.9			9世紀後半	0620101
太田市	大妻	石<9号>	1中	4.5	2.7	2	0.5	47.5	中葉	9世紀後半	0610101
沼田市	大妻	土	1特大	6.3	0.4	0.6				9世紀後半	0610102
沼田市	大妻	土	1特大	6.4	6	1.4	0.7			9世紀後半	0610103
沼田市	大妻	石<9号>	1中	4.7	3	1.4	0.7	63.4	中葉	9世紀後半	0610104
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.5	3.1	1.6	0.7	40.1	中葉	9世紀後半	0620101
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.8	4.1	1.4	0.7	39.4	中葉	約1号	0620102
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1大	5.4	4.6	2.1	0.7	29.2	最重葉	9世紀後半	0620103
沼田市	戸塚諏訪	土	1特大	6.5	0.2	0.3	23.4	最重葉	9世紀後半	0620105	
沼田市	戸塚諏訪	土	1中	4.9	3.4	1.7	0.7	59.1	最重葉	9世紀後半	0620106
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.8	3.5	1.2	0.7	46.3	最重葉	9世紀後半	0620107
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.9	3.9	1.6	0.7	67	最重葉	9世紀後半	0620001
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1小	3.8	2.8	1.4	0.6	32	中葉	9世紀後半	0620002
沼田市	戸塚諏訪	石	1中	4.9	2.6	1.7	0.9	61	最重葉	9世紀後半	0620003
沼田市	戸塚諏訪	土	1大	5.9	3.4	1.8	0.8	31	中葉	9世紀後半	0620004
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.8	3.8	1.5	0.8	61.3	最重葉	9世紀後半	0620005
沼田市	戸塚諏訪	土	1大	5.5	1.5	1.4	0.5	40.3	中葉	4世紀後半	0620006
沼田市	戸塚諏訪	土	1中	4.5	4.2	0.8	0.6	17.6	最重葉	不明	0620007
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.75	3.79	1.25	0.9			9世紀後半	0620008
沼田市	戸塚諏訪	土	1小	2.2	1.9	0.6	0.3	46.5	中葉	9世紀後半	0620009
沼田市	戸塚諏訪	土	1大	5.5	3.8	1.6	0.8	52	最重葉	9世紀後半	0620010
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.8	3.7	1.3	0.9	52	最重葉	9世紀後半	0620011
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.4	3	1.7	0.8	52	最重葉	9世紀後半	0620012
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.7	3.6	1.3	0.8	50	最重葉	9世紀後半	0620013
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.4	3.9	1.6	0.9	54	最重葉	9世紀後半	0620014
沼田市	戸塚諏訪	石(磨石)	1中	4.2	4.1	0.8	0.7	17	最重葉	2号	0620015
沼田市	戸塚諏訪	石<9号>	1中	4.8	3.4	1.2	0.9	46	中葉	約1号	0620016
沼田市	赤島田	不明	1大	5.4	5.4	1.8				2号	0620017
沼田市	赤島田	不明	1中	4.5	1.5	1.3	0.9			2号	0620018
沼田市	町田小沢	不明	1中	4.8	3.6	1.3	0.8			9世紀後半	0650101
沼田市	町田小沢	土	1大	4.8	0.8	0.6	0.6	32	中葉	9世紀後半	0650201
沼田市	石巻	土	1大	5.6	5.6	1.3	0.7			不明	0670101

第7章 調査成果の整理とまとめ

市町村名	遺跡名	出土遺構	材	取	形状	遺構区分 土数分	幅(cm)	長さ(cm)	高さ(cm)	遺構区分	成形形態	時期	備	考
須田市	石巻	B区6層	土	長方形	1	大 5.4 5.4 1.2	0.7	35.3	中 重	完成	不明			070102
須田市	石巻	B区6層	土	長方形	1	中 4.7 4.7 1	0.6	29.8	中 重	約分	不明			070103
須田市	石巻	B区6層	土	長方形	1	大 5.2 5.2 1.1	0.7	26	中 重	約分	不明			070104
須田市	石巻	B区6層	土	長方形	1	大 5.7 5.7 1	0.7		中 重	完成	不明			070105
須田市	石巻	B区6層	土	長方形	1	中 4.3 4.3 1.1	0.7		中 重	完成	不明			070106
須田市	石巻	B区6層	土	長方形	1	大 5.2 5.1	1	0.5	中 重	破片	不明			070107
須田市	石巻	B区6層	土	長方形	1	中 4.2 2.2 1	0.6	18.2	中 重	約分	不明			070108
須田市	石巻	B区6層	石(砂岩)	長方形	1	中 4 3.9 (1)	0.7		中 重	約分	不明			070109
須田市	石巻	B区6層	石(砂岩)	長方形	1	中 4.8 3.9 1.2	0.8	44.6	中 重	完成	不明			070110
須田市	石巻	AK14号住居	土	長方形	1	中 4 3	1	0.6	11.3	中 重	完成	4世紀		070111
須田市	石巻	BK29号住居	土	長方形	1	中 4 4	0.8 0.5		中 重	完成	2~3世紀		上土台	070112
須田市	石巻	CK4号住居	石(礫石)	厚台形	2	小 3.6 1.7 2.4	0.6	44.1	中 重	完成	6世紀前半			070113
須田市	石巻	CK4号住居	石(礫石)	厚台形	2	中 3.5 2.6 2.4	0.6	59	中 重	完成	6世紀後半			070114
須田市	石巻	BK10号住居	土	長方形	1	大 5.2 3.5 1.4	0.7	34	中 重	完成	4世紀後半			070115
須田市	石巻	AK4号住居	鉄	長方形	1	中 4.3	0.2 0.4		中 重	鉄片残・鉄屑	約分			070116
須田市	石巻	CK12号住居	石(砂岩)	厚台形	1	中 4.4 3.9 1.4	0.6	45	中 重	完成	9世紀後半			070117
須田市	石巻	CK16号住居	鉄	長方形	2	大 6.1	0.2 0.3		中 重	鉄片残のみ	9世紀後半			070118
須田市	石巻	DK12号住居	鉄	長方形	3	特大 7.6 7	1 0.8		中 重	鉄片残・鉄屑	9世紀後半		尺幅22.6cm	070119
須田市	石巻	DK16号住居	土	厚台形	3	大 5.1 3.2 1.2	0.7	26.2	中 重	完成	9世紀後半		片状部配用	070120
須田市	石巻	DK17号住居	土	厚台形	3	大 5.4	0.4 0.6		中 重	完成	9世紀後半		砂状土	070121
須田市	石巻	AK10号住居	土	長方形	1	大 5.5 5.4 1.1	0.3	43.8	中 重	完成	鉄片残・鉄屑	2~3世紀		070122
須田市	石巻	AK12号住居	土	長方形	2	小 3.4 3.1 1.1	0.5	12	中 重	完成	鉄片残のみ	2~3世紀		070123
須田市	石巻	AK12号住居	土	長方形	2	小 3.9 3.7 0.7	0.3	0.9	中 重	完成	鉄片残のみ	2~3世紀		070124
須田市	石巻	AK12号住居	土	長方形	1	中 4.8 4.8 1.1	0.7	25	中 重	完成	鉄片残のみ	2~3世紀		070125
須田市	石巻	BK16号住居	土	長方形	1	大 5.7 5.6 0.9	0.5	32	中 重	完成	鉄片残・鉄屑	2~3世紀		070126
須田市	下川田平井	8号住居跡	土	厚台形	2	中 4 2.3 1.7	0.7	34.3	中 重	完成	不明			070127
須田市	下川田平井	8号住居跡	鉄	厚台形	2	大 5.5	0.5	16	中 重	鉄片残のみ	9世紀後半		跡面にノミを用いた敷石状の層目あり	080102
須田市	新田十二原	11号住居跡	土	厚台形	1	中 4 2	0.6 0.7	47	中 重	完成	不明		厚さ0.4~0.6	080102
須田市	新田十二原	11号住居跡	鉄	厚台形	1	中 4.4	0.4 0.4	11	中 重	完成	鉄片残のみ	9世紀後半		090101
須田市	新田十二原	不明	不明	厚台形	1	中 4.4 3.4 1.6	0.8	55	中 重	完成	不明		跡面が土質	090102
須田市	新田十二原	不明	不明	厚台形	1	大 5.3 5.1 0.9	0.9	34	中 重	完成	不明		角のとれた台形を呈す	090103
須田市	新田十二原	不明	不明	長方形	1	大 5.3 5.1 0.9	0.9	34	中 重	完成	不明		断面扁平の長方形を呈す	090104
須田市	有馬2	254号住居	石(礫石)	厚台形	1	大 5 1	0.3 0.7		中 重	約分	4世紀			010201
須田市	有馬2	254号住居	石(礫石)	厚台形	1	特大 4.8	1.2 0.6		中 重	約分	2~3世紀		遺構部状の土塊、1.5cm程度の土の層層を有す	010202
須田市	有馬2	包舎跡	土	長方形	1	中 4.7	1.2 0.6		中 重	約分	不明			010203
須田市	有馬2	包舎跡	土	長方形	1	中 4.3 4.3 1.2	0.5		中 重	約分	不明			010204
須田市	有馬2	388号住居	土	長方形	1	中 4.1 4	0.7 0.3		中 重	完成	不明			020101
須田市	有馬東部1	382号住居	石(砂岩)	長方形	1	小 3.8 3.8 1.5	0.6		中 重	完成	4世紀後半			030102
須田市	有馬東部2	1号住居	石(礫石)	厚台形	1	中 4.7 3.5 1.9	0.7	50	中 重	完成	9世紀後半			040201

付表 群馬県内出土の紡錘車一覽表

群馬県 有馬系群 2	13号住居	鉄	2	小	3.8	0.2	0.4	0.2	0.4	銅片断+鉄軸	9世紀後半	0602022
群馬県 有馬系群 2	20号住居	鉄	2	小	3	0.3	0.3			銅片断+鉄軸	10世紀後半	0602023
群馬県 有馬系群 2	113号住居	石 (燧石/石英山岩)	薄片形	1	特大	6.7	3.2	2	0.7	59	重量	0602034
群馬県 有馬系群 2	186号住居	鉄	1	特大	6.8	0.5	0.7			10世紀後半		0602035
群馬県 有馬系群 2	126号住居	土	長方形	1	特大	7.6	7	1.1	70.8	段重	10世紀後半	0602036
群馬県 有馬系群 2	231号住居	石 (燧石)	薄片形	1	小	4.1	2.4	2.1	0.6	55.5	重量	0602037
群馬県 有馬系群 2	260号住居	石 (燧石)	薄片形	1	小	3.9	2.4	1.8	0.6	38	重量	0602038
群馬県 有馬系群 2	342号住居	石 (燧石)	薄片形	1	小	3.2	3	1.8	0.8	1.1	重量	0602039
群馬県 有馬 1次大塚B	15号住居	石 (燧石)	薄片形	1	小	4.4	2.1	1.2	0.6	46.5	重量	0603101
群馬県 有馬 1次大塚B	10号住居	鉄	1	特大	12.5	0.4	1.1			銅片断+鉄軸	10世紀後半	0603102
群馬県 有馬 1次大塚B	107号住居	石 (燧石)	薄片形	1	小	3.9	2.1	1.9	0.6	42.3	重量	0603103
群馬県 有馬系群	114-20号住居	鉄	1	大	5.1	0.8	0.7			6世紀後半	0604101	
群馬県 有馬系群	114-25号住居	石 (燧山岩)	薄片形	1	大	5.1	3	1.6	0.9	54	重量	0604102
群馬県 有馬系群	E-23ラック	石 (燧山岩)	薄片形	1	大	4.5	3.7	1.4	0.9	40	重量	0604103
群馬県 有馬系群	HD-37号土坑	石 (燧石)	薄片形	1	小	4.3	3.3	1.1	0.9	32	重量	0604104
群馬県 神宮寺西	1号住居	石 (燧石)	長方形	2	中	4.5	4.5	0.7	0.3	12	重量	0605101
群馬県 神宮寺西	1号住居	石 (燧石)	長方形	2	特大	7	7	0.8		10	重量	0605102
群馬県 神宮寺西	3号住居	石 (燧山岩)	長方形	1	大	5.2	5.2	0.8	0.6	39	重量	0605103
群馬県 中村	6号住居	不明	長方形	1	特大	8.5	8.5	2.2		64	重量	0606101
群馬県 中村	7号住居	不明	長方形	2	小	3.6	3.6	0.9	0.8	19	重量	0606102
群馬県 中村	7号住居	不明	長方形	2	小	3.8	3.1	1.1	0.5	11	重量	0606103
群馬県 中村	25号住居	不明	薄片形	1	小	3.9	2.3	1.7	0.7	36	重量	0606104
群馬県 中村	31号住居	不明	薄片形	1	小	4.5	2.8	1	0.9	10.1	重量	0606105
群馬県 中村	3号住居	不明	薄片形	1	小	3.8	2.7	2.1	0.8	48	重量	0606106
群馬県 八木部神田 3	4.54号住居跡	石 (燧石)	薄片形	1	大	5.2	4.2	3.2	0.8	56	重量	0607101
群馬県 八木部神田-神原	7住	石 (燧石/石英山岩)	薄片形	1	特大	9.8	4.4	3.3	1	180	重量	0608101
群馬県 八木部神田-神原	28住	石 (燧石/石英山岩)	薄片形	2	特大	4.4	5.6	4.6	0.7	175	段重量	0608102
群馬県 八木部神田-神原	136住	石 (燧山岩)	薄片形	2	中	4.8	3.8	1.2	0.7	49	重量	0608103
群馬県 八木部神田-神原	136住	石 (燧山岩)	薄片形	2	中	4.7	3.8	1.6	0.7	44	重量	0608104
群馬県 八木部神田-神原	不明	不明	薄片形	1	中	4.4	3.4	2.3	0.6	52	重量	0608105
群馬県 八木部神田-神原	16号墓L D 2	石 (燧石/燧山岩片岩)	薄片形	1	中	4.5	3.4	1.4	0.6	30	重量	0608106
群馬県 八木部神田-神原	6号倉	土	薄片形	1	特大	4.2	1.5	0.8		25	重量	0608107
群馬県 八木部神田-神原	45住	鉄	長方形	1	中	3.9	0.4	0.4		11	重量	0608108
群馬県 八木部神田-神原	144住	鉄	長方形	1	大	5.8	5.6	0.4	0.2	25	重量	0608109
群馬県 八木部神田-神原	152住	鉄	長方形	1	特大	6.4	5.6	0.6	0.8	50	重量	0608110
群馬県 竹野	EH-1号住居	石 (燧石)	薄片形	6	中	4.2	2.8	1.4	0.8		重量	0610101
群馬県 竹野	EH-1号住居	石 (燧石)	薄片形	6	特大	6.5	3.8	3.1			重量	0610102
群馬県 竹野	EH-1号住居	石 (燧石)	薄片形	6						重量	0610103	
群馬県 竹野	EH-1号住居	石 (燧石)	薄片形	6						重量	0610104	
群馬県 竹野	EH-1号住居	石 (燧石)	薄片形	6						重量	0610105	
群馬県 竹野	EH-1号住居	石 (燧山岩)	薄片形	6						重量	0610106	

上下面は磨かれ、側面は面取りされている





付表 群馬県内出土の訪鍾車一覧表

調査年	産地	13号住居	石(磨石)	取付形	1 中	4.2	2	1.8	0.8	定形	6世紀前半
群馬県	内沢	9 トレンチ	石(磨石)	取付形	1 中	4.2	2	1.8	0.8	一部欠損	不明
群馬県	内沢	2区2区クワッド	石(不明)	取付形	1 中	4.2	1.4	0.6		不明	不明
群馬県	界上郷入	1号住居	砥	取付形	1 中	4.2	0.7	0.6		約法	不明
群馬県	田圃上平	10号住居	石(磨石)	磨石形	1 中	4.6	3.4	1.6	0.7	15.3粒 黒川層+黒砂	8世紀後半
群馬県	田圃上平	11号住居	石(磨石)	磨石形	1 木	5.1	3.1	1.1	0.5	40.4粒 黒川層	8世紀後半
群馬県	田圃上平	19号住居	石(磨石)	取付形	1 小	3.8	2.7	2.1	0.6	33粒 中層	8世紀後半
群馬県	内沢	AIS1号住居	土	取付形	1 中	4.2	1.9	1.8	0.8	27粒 黒川層	6世紀半
群馬県	内沢	13号倉	石(不明)	取付形	1 中	4.2	1.4	0.7		約法	6世紀
群馬県	内沢	5号倉	砥	取付形	1 中	4.1	0.3	0.5		黒川層+黒砂	6世紀
群馬県	内沢	B-40号住居	土	取付形	1 中	4.2	4.2	1		11粒 磨石	2~3世紀
群馬県	内沢	B-42号住居	土	取付形	2 特大	8.4	8.4	1.8		63粒 磨石	2~3世紀 大層
群馬県	内沢	B-42号住居	土	取付形	2 特大	8	8	1.1		16粒 磨石	2~3世紀
群馬県	内沢	B-49号住居	土	取付形	1 中	4	1.4	0.6		15粒 磨石	2~3世紀
群馬県	内沢	B-101号住居	土	取付形	1 中	4.6	3.5	1.2	0.5	15粒 磨石	2~3世紀
群馬県	内沢	B-101号住居	土	取付形	2 大	5.4	3.3	1.2	0.6	45粒 中層	2~3世紀
群馬県	内沢	B-108号住居	土	取付形	2 大	5.5	5.4	1.3	0.8	55粒 磨石	2~3世紀
群馬県	内沢	B-25クワッド	土	取付形	1 小	3.8	3.7	1.6	0.5	27粒 磨石	2~3世紀
群馬県	内沢	DN区5号住居	石(磨石(磨石配装))	取付形	1 中	4.5	2.9	1.8	0.8	52.5粒 中層	8世紀後半
群馬県	内沢	DN区29号住居	石(磨石(磨石配装))	取付形	1 中	4.7	3.8	1.6	0.7	54粒 中層	8世紀後半
群馬県	内沢	RE区3号住居	石(磨石)	取付形	1 大	5.1	5.1	1	0.7	4.5粒 磨石	8世紀後半
群馬県	内沢	RE区11号住居	石(磨石)	取付形	1 小	3.9	3.4	0.7	0.8	19粒 磨石	7世紀後半
群馬県	内沢	RE区16号住居	石(磨石)	取付形	1 中	4	3.4	1	0.5	13.4粒 磨石	9世紀後半
群馬県	内沢	41号住居	砥	取付形	1 大	5.2	0.4	0.4		20粒 磨石	9世紀後半
群馬県	内沢	143号住居	石(磨石)	取付形	1 中	4.3	1.1	0.4		25.6粒 磨石	7世紀後半
群馬県	内沢	163号住居	土	取付形	1 大	5.5	4.8	2.2	0.8	59.4粒 中層	一部欠損
群馬県	内沢	178号住居	土	取付形	1 中	4.2	4	0.9	0.6	19.8粒 磨石	7世紀後半
群馬県	内沢	67号住居	土	取付形	1 大	5.6	1.2	0.35	0.5	36.5粒 中層	6世紀後半
群馬県	内沢	106号住居	土	取付形	1 木	5.3	4.4	1.7	0.45	56.8粒 磨石	6世紀後半
群馬県	内沢	124号住居	石(磨石)	取付形	1 中	4.6	3.4	1.6	0.7	46.1粒 磨石	6世紀後半
群馬県	内沢	129号住居	石(磨石)	取付形	1 中	4.4	2.4	2	0.7	約法	6世紀後半
群馬県	内沢	136号住居	石(磨石)	取付形	1 特大	8.2	1.7	0.7		50.4粒 磨石	7世紀
群馬県	内沢	136号住居	土	取付形	1 大	5.4	4.8	1.5	0.7	54粒 磨石	7世紀後半
群馬県	内沢	343号住居	石(磨石)	取付形	1 中	4.9	4.2	0.7	0.7	21.2粒 磨石	一部欠損
群馬県	内沢	368号住居	石(磨石)	取付形	1 大	5.2	4.8	1	0.6	31.6粒 磨石	6世紀後半
群馬県	内沢	不明	不明	取付形	1 小	3	2.8	1	0.7	11.9粒 磨石	8世紀後半
群馬県	内沢	3号住居	不明	取付形	2 中	4.2	1.3	0.9	0.8	定形	5世紀後半
群馬県	内沢	12号住居	石(磨石)	取付形	1 小	3.8	2	2	0.6	定形	6世紀
群馬県	内沢	15号住居	土	取付形	1 小	3.8	2	2	0.6	定形	6世紀
群馬県	内沢	17号住居	土	取付形	2 大	5	3.1	1.6	0.4	一部欠損	2~3世紀

第7章 調査成果の整理と考へ

市町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構の 高さ 土層 区分	遺構の 長さ 幅	孔径	数量 区分	保存状態	時期	備	考
宮城県	千足	7号住居	土	長方形	2 中	4.5	1.6	0.7	完形	2～3世紀		
宮城県	千足	28号住居	石(燧石)	厚方形	1 小	3.9	2.4	0.7	48中 完形	6世紀		側面と上面に遺構の痕跡あり
宮城県	千足	29号住居	石(燧石)	厚方形	1 小	4.8	0.9		7中 完形	6世紀		
宮城県	千足	29号住居	石(燧石)	厚方形	1 大	5.5	2.8	1.1	50中 完形	6世紀		未製品
宮城県	千足	29号住居	石(燧石)	厚方形	1 大	3.4	1.6	2.0	50中 完形	6世紀		
宮城県	千足	29号住居	石(燧石)	厚方形	1 大	5	2.2	0.8	80中 完形	6世紀		
宮城県	千足	1号墳	石(燧石)	厚方形	2 大	5.1	2.7	0.8	35中 完形	5世紀後半		上下面遺構、下面やや粗い遺構、遺構、穴積
宮城県	千足	1号墳	石(燧石)	厚方形	2 大	4.2	1.3	0.7	35中 完形	5世紀後半		上面やや粗い遺構、上・下面に遺構
宮城県	千足	2号井戸	石(燧石)	厚方形	1 中	4.4	2.2	0.6	49中 完形	不明		
宮城県	千足	グランド	石(燧石)	厚方形	1 中	4	1.2	0.6	16中 完形	8世紀		
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	2 小	1.9	1.1	0.9	16中 完形	不明		未製品
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	2 小	3.4	1.8	2.0	25中 完形	6世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石	厚方形	1 中	4.8	3.2	0.6	62.7中 完形	不明		
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	1 中	4.6	4.4	0.8	29.3中 完形	不明		
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	1 中	5.4	3.4	1.8	45.8中 完形	8世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	1 中	4.3	3.2	1.4	45.8中 完形	7世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	3 大	6.3	3.4	2.0	86.5中 完形	7世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	3 大	5.3	3.4	2.0	84中 完形	7世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	3 特大	7	1.5	0.8	82中 完形	7世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	2 大	3.4	1.8	0.7	84中 完形	7世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	2 大	5.2	3.4	1.6	56中 完形	7世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	1 中	4.4	2.2	2.0	50.5中 完形	7世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	1 中	4.8	2.4	0.9	9.9中 完形	7世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	1 大	5.3	3.1	0.6		7世紀後半		燧石製土器、一帯土器あり
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	3		1.7		燧石	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	3		1.7		燧石	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	3		0.5		燧石	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	1 小	3.5	3.5	1.4	19中 完形	5世紀後半		
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	2		1.1		燧石	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	2 中	4.1	4.1	1.7	20中 完形	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	4 中	4.2	3.4	0.8	8中 完形	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	4 小	2.3	0.7		燧石	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	4 中	5.4	5.4	1.1	34中 完形	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	4 中	4.7	1.5		燧石	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	土	長方形	1		1.3		燧石	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	土	三脚形	2 中	4.5	1.3	1.4	26中 完形	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	土	三脚形	2 中	4.2	2.2		燧石	2～3世紀		
宮城県	千足	36号住居	石(燧石)	厚方形	1 中	4	1.6	0.9	0.6中 完形	5世紀後半		
宮城県	千足	36号住居	土	厚方形	1 中	4	1.6	1.9	0.7	23中 完形	2～3世紀	



第7章 調査成果の整理とまとめ

市町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状・用途・内出程度・土質	遺構の位置・埋没深さ	埋没状況	保存状態	時期	備考
伊多郡御油村	西郷	32号住居	土	長方形 2	大 5.5 3.5 1.6 0.6	54.6重 重	完形	1世紀	表層に土層の構成を編
伊多郡御油村	西郷	33号住居	土	長方形 1	大 5.2 2.2 2.1		部分	1世紀	表層に土層の構成を編
伊多郡御油村	西郷	F4-4号住居	土	長方形 1	大 4.2 4.1 1.3 0.5		完形	2～3世紀	
伊多郡御油村	堀端	F4-6号住居	土	長方形 3	大 2.6 2.4 1 0.3	7.7軽 重	完形	2～3世紀	埋没が小さい。遺構車としては疑問
伊多郡御油村	堀端	F4-6号住居	土	長方形 3	大 5.9 1.5 0.6	49中 重	完形	2～3世紀	
伊多郡御油村	堀端	F4-6号住居	土	厚台形 3	大 4.5 3.8 2 0.5		部分	2～3世紀	
伊多郡御油村	堀端	F4-10号住居	石(頁岩)	薄台形 1	大 5.2 4 1.5 0.7		部分	5世紀後半	
伊多郡御油村	堀端	F4-12号居	土	長方形 1	大 3.5 1.5 0.6		部分	5世紀後半	
伊多郡御油村	堀端	F4-10号住居	土	長方形 2	大 3.9 3.7 1.5 0.8	24軽 重	完形	2～3世紀	
伊多郡御油村	堀端	F4-10号住居	土	長方形 2	大 6.8 1 1.5 0.8	96.5最重 重	完形	2～3世紀	
伊多郡御油村	堀端	F5-17号住居	石(角閃石(変口岩))	薄台形 1	大 5.6 4.4 1.5 0.8		完形	8世紀後半	
伊多郡御油村	前田P-1	2号住居	土	厚台形 1	大 4.4 2.8 4.2 0.7		完形	6世紀後半	
伊多郡御油村	前田P-1	表層	土	厚台形 1	大 5.2 3 2.9 0.6		部分	不明	
伊多郡御油村	前田P-1	41号住居	不明	1			4世紀		
伊多郡御油村	前田P-1	8号住居	石(燧石)	薄台形 1	大 4.5 3.2 1.6 0.7	50重 重	完形	8世紀後半	
伊多郡御油村	前田P-1	16号住居	土	薄台形 1	大 2.2 5.6 2.5 0.6		一部欠損	4世紀	
伊多郡御油村	前田P-1	27号住居	石(燧石)	厚台形 1	大 3.9 3.1 1.7 0.9	42中 重	完形	9世紀後半	
伊多郡御油村	前田P-1	04遺構	石	厚台形 1	大 5.1 4 2.2 0.9	71最重 重	完形	6世紀	
伊多郡御油村	八丁大道上	04遺構	石(板状岩)	厚台形 1	大 4.2 2.1 1.5 0.6		完形	6世紀	遺跡内より多量の白土出土
伊多郡御油村	八丁大道上	表層	石(板状岩)	厚台形 1	大 4.4 3.2 1.6 0.6		完形	6世紀後半	
伊多郡御油村	八丁大道上	表層	石(板状岩)	厚台形 1	大 4.1 2.1 2 0.5		完形	不明	
伊多郡御油村	本郷	遺小遺1号住居跡	土	長方形 1	大 5.1 5 1.5 0.7		完形	2～3世紀	孔辺は軽い層状
伊多郡御油村	本郷	第3号A区跡	土	三角形 1	大 5 0.8 1.7 0.8		完形	2～3世紀	左右不対称。孔辺に軽い層状
伊多郡御油村	本郷	遺小遺2号住居跡	土	長方形 1	大 4.3 1.4 0.6		完形	2～3世紀	孔辺に軽い層状
伊多郡御油村	本郷	ERSB22	石(不明)	厚台形 1	大 4.2 2.1 1.5 0.6		完形	不明	
伊多郡御油村	本郷	ERSB22	石(板状岩)	厚台形 1	大 3.9 2.1 1.8 0.6		完形	不明	
伊多郡御油村	本郷	AGSH7	鉄	長方形 1	小 3.7 0.2 0.6	13.6軽 重	完形	6世紀後半	
伊多郡御油村	本郷	FG55号住居	鉄	厚台形 1	大 5.4 0.2 0.5	29.3軽 重	部分欠損のみ	不明	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	FG55号住居	鉄	厚台形 1	大 2.1 2.1 0.7	261最重 重	部分欠損のみ	10世紀後半	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	FG57号住居	鉄	厚台形 1	大 4.6 0.2 0.6	261最重 重	完形	9世紀後半	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	GS21号住居	鉄	2	特大 6	261最重 重	完形	9世紀後半	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	GS21号住居	土	2	特大 6	261最重 重	完形	9世紀後半	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	GS29号住居	土	厚台形 1	大 5.9 2.8 1.3 0.9	42.8中 重	完形	9世紀後半	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	GS56号住居	土	厚台形 1	小 3.3 2.6 1.6 0.7	29.8軽 重	部分欠損	9世紀後半	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	GS66号住居	土	厚台形 1	大 4.3 0.3 0.5	19.1軽 重	部分欠損のみ	9世紀後半	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	GS103号住居	土	長方形 1	特大 6.8 6.8 2.8 0.9		完形	9世紀	体の形状を転用
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	HS656号住居	土	薄台形 1	大 4.6 0.3 0.5	15.7軽 重	部分欠損	不明	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(2)	HS128号住居	石(燧石)	薄台形 1	小 3.6 3 1 0.6	22軽 重	部分欠損	不明	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(3)	HS130号住居	石(板状岩)	薄台形 1	小 3.8 2.2 1.4 0.6	40中 重	部分欠損	不明	
伊多郡御油村	上野原分寺中園(4)	CS37号住居	石(板状岩)	薄台形 1	大 5.1 2.1 1.2 0.7	39.5中 重	部分欠損	7世紀後半	

付表 群馬県内出土の紡錘車一覧表

群馬県郡市町	上部区分号(欄(4))	CX番号(注)	鉄	1 中	4.8	0.3	30.7	中 量	胴子盤・鉄輪	10世紀後半	0010402		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(4)	CX70号住居	石(板状石)	1 小	3.8	2.1	0.7	42.3 <td>中 量</td> <td>9世紀後半</td> <td>0010403</td>	中 量	9世紀後半	0010403		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(4)	CX76号住居	鉄	1 中	4.5	0.2	0.5	14.2	軽 量	不明	0010404		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(4)	CX78号住居	鉄	1 特大	7.3	3.5	0.3	139.6	最重量	木製品	0010405		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	BC100号住居	鉄	1 中	4.8	0.2	0.5	6.5	軽 量	胴子盤のみ	0010501		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	BC118号住居	石(板状石)	1 大	5.2		0.8			9世紀後半	0010502		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	AE118号住居	石(棒石)	1 中	4.4	2.4	1.7	0.5	約分	7世紀後半	0010503		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	BC122号住居	土	1 特大	6	6	0.8			不明	0010504		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	BC122号住居	土	1 特大	5.7	3.4	1.6	0.8	約分	不明	0010506		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	BC122号住居	土	1 特大	6.4	0.3	0.8	50.7	最重量	不明	0010507		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	BE681号住居	土	1 特大	8	7.9	0.9	0.7	72.2	最重量	不明	0010508	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	BE78号住居	石(板状石)	1 大	5.1	3.2	1.5	0.9	60	最重量	不明	0010509	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	BE96号住居	石(棒石)	1 中	4.2	2.3	1.6	0.7	49	中 量	不明	0010510	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(5)	BE119号住居	石(棒石)	1 中	4	3	1.6	0.6	40	中 量	不明	0010511	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(6)	AG53号住居	石(棒石)	1 中	4.6	4	1	0.8	35.3	中 量	9世紀後半	0010601	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(6)	AG54号住居	石(板状石)	1 中	4.2	3	2	0.8	59.3	最重量	9世紀後半	0010602	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(6)	AG59号住居	石(棒石)	1 小	3.9	2.4	1.9	0.7	42.2	中 量	8世紀後半	0010603	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(6)	ZX65号住居	石(棒石)	1 小	2.4	1.5	0.7	0.3	完形	6世紀後半	0010604		
群馬県群馬町	上部区分号中欄(6)	AG土瓦	土	1 長方形	6.6	6.4	1	0.8	46.6	中 量	不明	0010605	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(7)	BE76号住居	鉄	1 中	4.3	4.3	0.3	0.4	23	軽 量	胴子盤・鉄輪	9世紀後半	0010701
群馬県群馬町	上部区分号中欄(7)	BE78号住居	石(板状石)	1 中	4.5	3.2	1.7	0.7	49	中 量	8世紀後半	0010702	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(7)	BE78号住居	石(棒石)	1 中	4.1	3	1.9	0.5	19.4	軽 量	約分	不明	0010704
群馬県群馬町	上部区分号中欄(7)	BE78号住居	石(板状石)	1 小	3.4	1.6	2		31.4	中 量	木製品	不明	0010705
群馬県群馬町	上部区分号中欄(7)	BE78号住居	石(安山片管風状石)	1 大	5.2	3	1.6	0.5	19.3	軽 量	約分	不明	0010706
群馬県群馬町	上部区分号中欄(7)	表裏	石(板状石)	1 大	5.5	4	1	0.5	49.9	中 量	一帯欠損	不明	0010707
群馬県群馬町	上部区分号中欄(7)	表裏	石(板状石)	1 中	4.4	2.1	2	0.6	52.7	最重量	不明	0010708	
群馬県群馬町	上部区分号中欄(7)	表裏	石(かんらん石)	1 大	5.9	1.6	0.9	68	最重量	約分	不明	0010709	
群馬県群馬町	区分	BE77号住居	土	1 大	5.5		2	0.8		9世紀	不明	003101	
群馬県群馬町	区分	CX10号住居	石(棒石)	1 小	3.9	3.3	2.1	0.6	32.9	中 量	完形	9世紀	003102
群馬県群馬町	区分	CX13号住居	鉄	1 小	3.6	0.2	0.3			不明	不明	003103	
群馬県群馬町	区分	CX50号住居	石(棒石)	1 小	3.4	2.7	0.8	0.6	14.9	軽 量	一帯欠損	不明	003104
群馬県群馬町	区分	CJ681号住居	石(板状石)	1 中	4	2.3	2	0.9	51.1	最重量	9世紀後半	003105	
群馬県群馬町	区分	CJ684号住居	石(板状石)	1 小	3.6	1.8	0.8	23.5	軽 量	一帯欠損	9世紀	003106	
群馬県群馬町	区分	BE12号住居	石(棒石)	1 小	3.6		0.6	16.6	軽 量	約分	不明	003107	
群馬県群馬町	北照	11号住居	石(緑色滑石片岩)	1 中	3.1	3.1	1	0.8	30.7	中 量	完形	10世紀後半	003101
群馬県群馬町	北照	18号住居	石(板状石)	1 大	5.5	4.7	0.9	68	最重量	4.7	8世紀後半	003102	
群馬県群馬町	北照	27号住居	石(棒石)	2 大	5.9	1.4	0.9	58.1	最重量	9世紀後半	003103		
群馬県群馬町	北照	27号住居	石(板状石)	2 中	4.5	3.6	2.2	0.9	78	最重量	完形	9世紀後半	003104
群馬県群馬町	北照	32号住居	鉄	1 中	4.8					胴子盤・鉄輪	10世紀後半	003105	

第7章 調査成果の整理とまとめ

市町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺跡の 平面形状	径長 cm	厚さ cm	位置 cm	遺構 区分	発掘 時期	備考
群馬県群馬町	北屋	57号住居	石(凝灰岩)	溝台形	1	大 5.3	4.3	2.1	0.7	9世紀後半	
群馬県群馬町	北屋	60号住居	石(凝灰岩)	溝台形	1	中 4.8	2.7	2	0.8	9世紀後半	
群馬県群馬町	北屋	90号住居	鉄	2	中 4.7					溝台形+敷物	
群馬県群馬町	北屋	98号住居	鉄	2	大 5.3					溝台形のみ	
群馬県群馬町	北屋	99号住居	鉄	1	物大 6.1	0.3				溝台形のみ	
群馬県群馬町	三ツ寺1	西辺溝列	石(横石)	溝台形	1	大 5.6	3	2	0.8	6世紀後半	石製焼品出土
群馬県群馬町	三ツ寺1	黒色砂質土	石(凝灰岩)	溝台形	1	大 5.1	3	1	0.8	5世紀	
群馬県群馬町	三ツ寺2	1区1号住居	土	溝台形	1	中 4.4	2.4	3	0.6	28.3中層	
群馬県群馬町	三ツ寺2	3区6号住居	石(横石)	溝台形	1	中 4.1	2.3	1.9	0.6	22.7中層	
群馬県群馬町	三ツ寺2	3区30号住居	土	溝台形	1	中 4.1	4.1	1.5	0.7	27.3中層	2~3世紀
群馬県群馬町	三ツ寺2	3区31号住居	石(横石)	溝台形	1	小 3.9	2.4	1.7	0.7	28.5中層	7世紀後半
群馬県群馬町	三ツ寺2	3区62号住居	石(横石)	溝台形	1	中 4.3	2.8	1.8	0.7	42.9中層	6世紀後半
群馬県群馬町	三ツ寺2	4区41号住居下	石(横石)	溝台形	1	中 4.4	2.3	1.2	0.6	32.4中層	6世紀後半
群馬県群馬町	三ツ寺2	4区72号住居	石(横石)	溝台形	1	小 3.4	2.2	1.3	0.6	29.4中層	6世紀後半
群馬県群馬町	三ツ寺2	5区41号住居	石(横石)	溝台形	1	中 4.2	3.1	1.8	0.6	28.9中層	6世紀後半
群馬県群馬町	三ツ寺3	60号住居	石(角形石/灰田岩)	長方形	1	中 4.9	4.9	1.2	0.7	18.1中層	6世紀後半
群馬県群馬町	上野原分今湯遺跡	井樋点	鉄	1	小 3.5	0.2	0.3			溝台形+敷物	不明
群馬県群馬町	西浦北	D-8男住居	土	長方形	1	大 5.4	5.4	0.7	0.9	初号	
群馬県群馬町	西浦北	D-3	土	長方形	1	中 4.3	4.3	1.2	0.6	完形	
群馬県群馬町	西浦北	D-2	土	長方形	1	大 5.4	5.1	0.9		完形	600102
群馬県群馬町	保原田7(1)	10号住居	土	長方形	1	大 5.4	5.1	0.9		完形	600101
群馬県群馬町	保原田7(2)	西浦分2	石(不明)	溝台形	1	中 4.8	4.3	0.8	0.4	完形	600201
群馬県群馬町	保原田東	7区6号住居	石(横石)	溝台形	1	大 5.2	2.9	1.5	0.7	完形	609101
群馬県群馬町	保原田東	7区第11号住居	鉄	長方形	1	中 4.7	4.7	0.3	0.6	溝台形+敷物	609102
群馬県群馬町	井出村東	28号住居	石(不明)	溝台形	1	小 3.1	2.1	1.4	0.5	完形	610010
群馬県群馬町	井出村東	48号住居	土	溝台形	1	中 4.2	2.4	1.5	0.6	完形	610012
群馬県群馬町	保原田北東前田跡	E-5号住居	石(横石)	長方形	1	大 5.5	5.5	1.5	0.7	完形	610013
群馬県群馬町	保原田北東前田跡	G-6号住居	土	溝台形	1	中 4.1	2.2	2.2	0.7	完形	613101
群馬県群馬町	保原田北東前田跡	K-3号住居	鉄	溝台形	1	物大 6.6	0.4	0.6		溝台形+敷物	613102
群馬県群馬町	保原田北東前田跡	D-2号住居	石(凝灰岩)	溝台形	2	中 4.2	3.2	1.7	0.9	完形	613103
群馬県群馬町	保原田北東前田跡	D-2号住居	石(横石)	溝台形	2	中 4.2	3.5	1.4	0.6	不明	613104
群馬県群馬町	保原田北東前田跡	H-4号住居	石(横石)	溝台形	1	中 3.8	2.1	1.5	0.8	完形	613105
群馬県群馬町	小湊	H-12号住居	石(不明)	溝台形	1	中 4.1	3.3	1.5	0.8	完形	613101
群馬県群馬町	小湊	H-31号住居	石(不明)	溝台形	1	中 4.1	2.5	2	0.7	完形	613102
群馬県群馬町	保原田	27号住居	石(凝灰岩)	溝台形	1	中 4.1	3	2.1	0.7	45.8中層	
群馬県群馬町	保原田	15号住居	鉄上	溝台形	1	小 3.8	2.2	1.4	0.7	40.2中層	
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614010
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614011
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614012
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614013
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614014
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614015
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614016
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614017
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614018
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614019
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614020
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614021
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614022
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614023
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614024
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614025
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614026
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614027
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614028
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614029
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614030
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614031
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614032
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614033
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614034
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614035
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614036
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614037
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614038
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614039
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614040
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614041
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614042
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614043
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614044
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614045
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614046
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614047
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614048
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614049
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614050
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614051
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614052
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614053
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614054
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614055
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614056
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614057
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614058
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614059
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614060
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614061
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614062
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614063
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614064
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614065
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614066
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614067
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614068
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614069
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614070
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614071
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614072
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614073
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614074
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	小 3.8	2.2	2	0.7	不明	614075
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	大 5.3	5.1	1	0.8	完形	614076
群馬県群馬町	保原田	24号住居跡	土	長方形	1	中 4.4	4.4	0.7	0.9	完形	614077

付表 群馬県内出土の紡錘車一覧表

群馬県高岡町	礎上	29号住居跡	石	厚台形	1	中	4.2	2.4	2	0.7	況形	6世紀後半	ほぼ全周縁部形状の加工無し	0320103	
群馬県高岡町	礎上	60号住居跡	石	扁台形	1	中	4.1	3.1	1.6	0.7	况形	7世紀前半	輪郭の大部分が削れているが、断面はほぼ全周縁部形状の加工無し	0320104	
群馬県高岡町	礎上	75号住居跡	石	扁台形	1	中	4.4	3.6	1.2	0.9	一部欠損	7世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320105	
群馬県高岡町	礎上	90号住居跡	石	扁台形	1	中	4.4	3.6	1.3	0.7	况形	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320106	
群馬県高岡町	礎上	107号住居跡	石	厚台形	1	特大	4.7	3.7	3.2	0.8	况形	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320107	
群馬県高岡町	礎上	125号住居跡	石	厚台形	3	中	4.2	3.5	2.1	0.7	2017最長	6世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320108	
群馬県高岡町	礎上	125号住居跡	石	厚台形	3	中	4.2	3.5	2.5	0.7	2017最長	6世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320109	
群馬県高岡町	礎上	125号住居跡	石	厚台形	3	中	4.8	3.3	2.2	0.8	况形	6世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320110	
群馬県高岡町	礎上	138号住居跡	石	扁台形	1	中	4.1	3.4	1.4	0.9	况形	7世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320111	
群馬県高岡町	礎上	149号住居跡	石	厚台形	1	中	4.2	2.2	2.0	0.7	况形	7世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320112	
群馬県高岡町	礎上	151号住居跡	石	厚台形	1	中	4.7	1.4	0.6	211最長	一部欠損	6世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320113	
群馬県高岡町	礎上	3号住居跡	石	厚台形	1	中	4.3	2.8	1.5	0.8	約分	8世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320114	
群馬県高岡町	礎上	4号住居跡	石	厚台形	1	中	4.3	2.9	2.4	0.8	况形	8世紀前半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320101	
群馬県高岡町	礎上	29号住居跡	石	厚台形	1	小	3.8	2.1	1.7	0.8	一部欠損	5世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320102	
群馬県高岡町	礎上	4号住居跡	石	厚台形	1	中	4.1	1.6	0.7	32.6中	一部欠損	6世紀前半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320101	
群馬県高岡町	礎上	31号住居跡	石	厚台形	1	中	4.1	1.6	0.7	32.6中	一部欠損	7世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320101	
群馬県高岡町	礎上	39号住居跡	鉄	扁台形	2	大	5.4	3.2	1.6	0.5	10世紀後半	27.6cm	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320102	
群馬県高岡町	礎上	49号住居跡	石	厚台形	2	中	4.4	3.2	1.6	0.5	7最長	况形	8世紀前半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320104
群馬県高岡町	礎上	49号住居跡	石	厚台形	2	中	4.2	2.6	2.0	0.7	53.3最長	况形	8世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320105
群馬県高岡町	礎上	60号住居跡	石	厚台形	1	小	3.3	1.3	0.7	27.7最長	况形	8世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320106	
群馬県高岡町	礎上	67号住居跡	鉄	厚台形	1	小	3.8	0.3	0.6	11.1最長	鉄片断のみ	9世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320101	
群馬県高岡町	礎上	29号住居跡	土	厚台形	1	中	4.9	0.3			鉄片断のみ	7世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320102	
群馬県高岡町	礎上	38号住居跡	土	厚台形	1	中	4.7	3.6	2.1	0.6	42.9中	况形	8世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320103
群馬県高岡町	礎上	31号住居跡	鉄	厚台形	1	中	4.4	3.5	2.3	13.3最長	鉄片断のみ	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320101	
群馬県高岡町	礎上	51号住居跡	石	扁台形	1	中	4.8	3.9	1.4	0.8	况形	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320101	
群馬県高岡町	礎上	58号住居跡	鉄	厚台形	2	中	4.7	0.2	0.5		鉄片断のみ	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320103	
群馬県高岡町	礎上	58号住居跡	鉄	厚台形	2	中	4.4	3.3	2.9	21.2最長	鉄片断のみ	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320103	
群馬県高岡町	礎上	61号住居跡	土	厚台形	1	中	4.8	3.2	2.9	9	10世紀後半	况形	8世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320104
群馬県高岡町	礎上	75号住居跡	土	厚台形	2	中	4.6	0.2		20.6最長	鉄片断のみ	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320105	
群馬県高岡町	礎上	92号住居跡	石	扁台形	1	大	5.7	5.4	1.7	0.7	7最長	約分	7世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320106
群馬県高岡町	礎上	94号住居跡	鉄	厚台形	1	中	4	0.2		7最長	鉄片断のみ	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320106	
群馬県高岡町	礎上	118号住居跡	石	厚台形	1	中	4	2.8	1.6	0.9	43.3中	况形	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320109
群馬県高岡町	礎上	2区テラッド	土	厚台形	1	中	4.9	3.4	2.4	0.9	74最長	况形	不明	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320110
群馬県高岡町	礎上	2区テラッド	土	厚台形	1	特大	7.9	6.8	1.4	1.5	硬片	不明	不明	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320111
群馬県高岡町	礎上	21号住居跡	土	長方形	1	特大	6.4	5.6	0.4	0.9	25最長	約分	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320113
群馬県高岡町	礎上	75号住居跡	鉄	厚台形	1	小	3.6	0.2	0.2		鉄片断のみ	9世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320114	
群馬県高岡町	礎上	80号住居跡	鉄	厚台形	1	大	3.8	0.2	0.5	20最長	鉄片断のみ	10世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320115	
群馬県高岡町	礎上	20号住居跡	石	長方形	1	大	5.1	5	1.7	0.7	9世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320101		
群馬県高岡町	礎上	1区29号住居跡	石	長方形	1	中	4.4	4.3	0.7	0.8	8世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320101		
群馬県高岡町	礎上	2区29号住居跡	石	厚台形	2	中	4.2	3.2	1.6	0.8	45.7中	况形	9世紀後半	断面がほぼ全周縁部形状の加工無し	0320102



第7章 調査成果の整理とまとめ

町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構・土壌	横径・縦径	埋没深	埋没厚	瓦葺	瓦葺区分	残存状態	時期	備	考	遺跡番号
北野郡高井町	金竹西	2区23号住居跡	石(板敷石)	溝台形	1 中 4.2 3.3 1.7 0.8 2 大 5.3 3.3 1.7 0.8	3.3	1.7	0.8	73.4	遺構中	完形	9世紀後半	文字の縁取りあり	000403	
北野郡高井町	金竹西	2区36号住居跡	石(溝石)	溝台形	1 中 4.2 3.6 1.7 0.6 2 大 5.8 3.6 1.7 0.6	3.6	1.7	0.6			一部欠損	7世紀後半	多くの東部系片や遺物の出土	000404	
北野郡高井町	金竹西	1区9号住居	土	溝台形	1 中 5.8 4 2 0.8	5.8	4	0.8			粉土	9世紀後半		000405	
北野郡高井町	藤平・河玉	2区19号住居跡	石(板敷石)	溝台形	2 中 4.1 2.9 1.5 0.7 3 大 4.1 2.9 1.5 0.7	4.1	2.9	1.5	40.4	中層	完形	6世紀後半	高井川上流の礫石がある	000406	
北野郡高井町	藤平・河玉	2区19号住居跡	石(溝石)	溝台形	2 中 4.3 3.1 1.8 0.7 3 大 4.3 3.1 1.8 0.7	4.3	3.1	1.8	70	遺構中	完形	7世紀後半	土層にわずかな穴がある	000407	
北野郡高井町	川根	1区10号住居跡	石(溝石)	溝台形	1 特大 10 6.6 3.6 3.1 2 大 10 6.6 3.6 3.1	10	6.6	3.6			一部欠損	9世紀後半		000408	
北野郡高井町	川根	50号住居	不明	溝台形	1 大 5.7 3.7 1 0.8 2 大 5.7 3.7 1 0.8	5.7	3.7	1			不明	不明		000409	
北野郡高井町	川根	74号住居	不明	溝台形	1 中 4.8 4.8 1.1 0.6 2 大 4.8 4.8 1.1 0.6	4.8	4.8	1.1	0.6		一部欠損	6世紀後半		000410	
北野郡高井町	東吹上	1号住居	土	溝台形	2 特大 6.4 3.3 2.2 0.9 3 大 6.4 3.3 2.2 0.9	6.4	3.3	2.2			完形	6世紀後半		000411	
北野郡高井町	入野	3号住居	土	溝台形	1 中 4.3 3.2 0.7 0.5 2 大 4.3 3.2 0.7 0.5	4.3	3.2	0.7	6.6	遺構中	完形	5世紀		000412	
北野郡高井町	入野	15号住居	石(溝石)	溝台形	1 小 3.5 1.9 2.1 0.7 2 大 3.5 1.9 2.1 0.7	3.5	1.9	2.1	38.9	中層	完形	6世紀		000413	
北野郡高井町	入野	3号住居	石(溝石)	溝台形	1 中 4.2 1.8 1.9 0.8 2 大 4.2 1.8 1.9 0.8	4.2	1.8	1.9	38.5	中層	完形	7世紀後半	側面に埋む瓦葺による三角文が描かれている	000414	
北野郡高井町	入野	6号住居	石(溝石)	溝台形	1 小 3.4 2.2 1.8 0.8 2 大 3.4 2.2 1.8 0.8	3.4	2.2	1.8	38.5	中層	完形	6世紀後半	側面に瓦葺の残り文様	000415	
北野郡高井町	入野	21号住居	石(板敷石)	溝台形	1 中 4.2 2.2 2.1 0.6 2 大 4.2 2.2 2.1 0.6	4.2	2.2	2.1	6.6	中層	完形	6世紀後半		000416	
北野郡高井町	入野	1号土坑	土	溝台形	1 中 4.3 0.3 0.7 0.2 2 大 4.3 0.3 0.7 0.2	4.3	0.3	0.7			遺構中	10世紀		000417	
北野郡高井町	御田	2号住居	石(溝石)	溝台形	1 中 4.2 2.1 2.1 0.6 2 大 4.2 2.1 2.1 0.6	4.2	2.1	2.1	40	中層	完形	7世紀後半	中心の幅がずれている	000418	
北野郡高井町	御田	5号住居	石(板敷石)	溝台形	2 特大 6.8 5 1.4 0.8 3 大 6.8 5 1.4 0.8	6.8	5	1.4	100	最重層	完形	8世紀後半	灰い顔面	000419	
北野郡高井町	御田	5号住居	石(板敷石)	溝台形	2 大 5.4 3.2 2.2 0.7 3 大 5.4 3.2 2.2 0.7	5.4	3.2	2.2	80	最重層	完形	8世紀後半	灰面顔取り	000420	
北野郡高井町	熊鷹	4区21号住居	石(板敷石)	溝台形	2 特大 7.8 6.2 1.6 0.8 3 大 7.8 6.2 1.6 0.8	7.8	6.2	1.6	120	最重層	完形	6世紀後半		000421	
北野郡高井町	熊鷹	4区21号住居	石(板敷石)	溝台形	2 特大 7.5 6.6 2.2 0.8 3 大 7.5 6.6 2.2 0.8	7.5	6.6	2.2	66.3	最重層	完形	7世紀後半	「下層…」の文字縁取りあり	000422	
北野郡高井町	熊鷹	5区41号住居	石(溝石)	溝台形	1 中 4.4 2.2 1.9 2 大 4.4 2.2 1.9	4.4	2.2	1.9			本築品	7世紀後半	米煮品	000423	
北野郡高井町	熊鷹	6区12号住居	土	溝台形	1 中 4.9 3.2 2.6 1 0.9 2 大 4.9 3.2 2.6 1 0.9	4.9	3.2	2.6	1	0.9	破片	2～3世紀	灰田へらむき	000424	
北野郡高井町	熊鷹	2区16号住居	石(溝石)	溝台形	1 中 4.6 3 2.2 0.6 2 大 4.6 3 2.2 0.6	4.6	3	2.2	0.6		完形	10世紀		000425	
北野郡高井町	熊鷹	2区25号住居	土	溝台形	1 中 4.9 0.4 0.5 2 大 4.9 0.4 0.5	4.9	0.4	0.5	14	最重層	完形	不明		000426	
北野郡高井町	熊鷹	2区35号住居	石(溝石)	溝台形	1 中 4.8 1.2 0.6 2 大 4.8 1.2 0.6	4.8	1.2	0.6			粉土	8世紀後半		000427	
北野郡高井町	熊鷹	2区13号土坑	石(溝石)	溝台形	1 中 4.7 1.4 0.6 2 大 4.7 1.4 0.6	4.7	1.4	0.6			一部欠損	不明		000428	
北野郡高井町	熊鷹	2号住居	石(溝石)	溝台形	2 中 4.2 8 1.2 0.6 3 大 4.2 8 1.2 0.6	4.2	8	1.2	32	中層	完形	8世紀後半		000429	
北野郡高井町	熊鷹	2号住居	石(溝石)	溝台形	2 中 4.4 1.4 2.2 0.6 3 大 4.4 1.4 2.2 0.6	4.4	1.4	2.2	56	最重層	完形	7世紀後半		000430	
北野郡高井町	熊鷹	2号住居	石(溝石)	溝台形	1 中 4.1 1.7 1.6 0.7 2 大 4.1 1.7 1.6 0.7	4.1	1.7	1.6	33.2	中層	完形	7世紀後半		000431	
北野郡高井町	東沢	32号住居	石(溝石)	溝台形	1 中 4.4 2.3 2 0.6 2 大 4.4 2.3 2 0.6	4.4	2.3	2	40.6	中層	完形	不明		000432	
北野郡高井町	東沢	9号住居	石(溝石)	溝台形	1 中 4.2 2.6 1.8 0.6 2 大 4.2 2.6 1.8 0.6	4.2	2.6	1.8	36.6	中層	完形	7世紀後半		000433	
北野郡高井町	羽田倉	42号住居	石(溝石)	溝台形	1 中 4.4 2.5 2.2 0.6 2 大 4.4 2.5 2.2 0.6	4.4	2.5	2.2	66	最重層	完形	6世紀後半		000434	
北野郡高井町	羽田倉	74号住居	石(溝石)	溝台形	1 小 3.8 2.4 1.8 0.8 2 大 3.8 2.4 1.8 0.8	3.8	2.4	1.8	36	中層	完形	7世紀後半		000435	
北野郡高井町	羽田倉	88号住居	土	溝台形	2 特大 7.1 5.3 1.7 0.8 3 大 7.1 5.3 1.7 0.8	7.1	5.3	1.7	28	最重層	一部欠損	9世紀後半	側面に溝状の縁取り	000436	
北野郡高井町	羽田倉	88号住居	石(板敷石)	溝台形	2 大 5.2 3 1.5 0.7 3 大 5.2 3 1.5 0.7	5.2	3	1.5	0.7	88	最重層	約法		000437	

付表 群馬県内出土の訪鐘車一覧表

多野郡吉井町	須田倉	113号住居	石(磨製安山岩)	1	特大	6	2.5	100	最重	水製品	8世紀後半	水製品	000106	
多野郡吉井町	須田倉	117号住居	石(磨製安山岩)	1	大	5.8	2.1	101	最重	水製品	10世紀前半	水製品	000107	
多野郡吉井町	須田倉	118号住居	石(磨石)	厚台形	4	中	4.9	2.7	1.1	79	最重	水製品	8世紀後半	
多野郡吉井町	須田倉	118号住居	石(磨石)	厚台形	4	中	4.3	2.1	1.3	0.7	42	中	磨製	000109
多野郡吉井町	須田倉	118号住居	石(磨石)	厚台形	4	中	4.2	3.2	1.5	0.7	50	重	磨製	000110
多野郡吉井町	須田倉	118号住居	石(磨石)	厚台形	4	中	4	1.7	0.9	6	軽	水製品	000111	
多野郡吉井町	須田倉	122号住居	石(褐色片岩)	厚台形	3	特大	6	4.2	1.4	0.7	32	中	磨製	000112
多野郡吉井町	須田倉	122号住居	石(褐色片岩)	3	中	3	0.6	1	3.3	軽	水製品	8世紀後半	000113	
多野郡吉井町	須田倉	122号住居	石(褐色片岩)	3	小	3.5	2.4	0.6	0.6	8.1	軽	水製品	000114	
多野郡吉井町	須田倉	128号住居	石(褐色片岩)	厚台形	1	小	3.5	2.4	0.6	0.6	8.1	軽	水製品	000115
多野郡吉井町	須田倉	134号住居	石(褐色片岩)	厚台形	1	中	4.1	1.9	30	中	磨製	水製品	000116	
多野郡吉井町	須田倉	69号住居	石(磨製安山岩)	厚台形	4	大	5.7	3	1.3	0.8	59	重	磨製	000117
多野郡吉井町	須田倉	69号住居	石(磨製安山岩)	厚台形	4	中	4.1	4	1.2	0.9	56	重	磨製	000118
多野郡吉井町	須田倉	69号住居	石(磨製安山岩)	厚台形	4	中	4.4	2.4	1.2	0.7	85	重	磨製	000119
多野郡吉井町	須田倉	69号住居	石(磨製安山岩)	厚台形	4	中	4.1	3.6	1.1	0.5	15	軽	水製品	000120
多野郡吉井町	須田倉	2号溝	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	000121	
多野郡吉井町	須田倉	2区グランド	石(磨石)	厚台形	1	中	4.1	3.3	0.9	0.8	23	軽	水製品	000122
多野郡吉井町	須田倉	2区グランド	石(磨石)	1	小	0.6	6.3	軽	磨製	不明	不明	不明	000123	
多野郡吉井町	須田倉	2区グランド	石(磨製安山岩)	厚台形	1	大	5.7	3.9	1.3	0.8	47.3	中	磨製	000124
多野郡吉井町	須田倉	2区グランド	石(磨製安山岩)	厚台形	1	大	5.2	4	1.3	2.1	軽	磨製	不明	000125
多野郡吉井町	須田倉	2区グランド	石(磨製安山岩)	厚台形	1	大	5.1	3.6	1.3	0.7	17	軽	磨製	000126
多野郡吉井町	須田倉	2区グランド	石(磨製安山岩)	厚台形	1	中	4.3	3.6	1.7	0.8	27	軽	磨製	000127
多野郡吉井町	久田遺跡1	59号住居	石(磨製安山岩)	厚台形	1	中	4.6	3.1	1.9	0.7	48.2	中	磨製	000128
多野郡吉井町	久田遺跡1	75号住居	石(磨製安山岩)	厚台形	1	中	4.6	2.9	1.3	0.7	42.3	中	磨製	000129
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	磨	厚台形	1	中	4.7	3.2	1.9	0.7	52.3	重	磨製	000130
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	2	小	3.9	2.1	1.1	0.7	27.6	軽	磨製	000131
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	2	特大	7.1	5	1.8	0.8	145.9	最重	磨製	000132
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	2	中	4.3	2.7	2.1	0.7	55.4	重	磨製	000133
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	磨	厚台形	2	中	4.2	0.2	9.9	軽	磨製	磨製	000134	
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	1	中	4.5	2.1	2.2	0.8	54	重	磨製	000135
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	磨	2	中	4.1	0.1	0.2	6.1	軽	磨製	磨製	000136	
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	2	中	4.1	3.5	0.7	0.6	9.2	軽	磨製	000137
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(褐色片岩)	厚台形	1	大	5.1	3.3	0.8	42.7	中	磨製	000138	
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	1	中	4.4	3.1	1.6	0.8	54.8	重	磨製	000139
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	1	中	4.4	3.6	1	0.7	32.4	中	磨製	000140
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	2	中	4.7	3.1	1	0.7	30.2	中	磨製	000141
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	2	中	4.2	3.8	1.7	0.7	25.8	軽	磨製	000142
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	1	中	4.7	1.8	0.7	66.3	重	磨製	000143	
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	1	中	4.1	3.4	1.7	0.7	29	中	磨製	000144
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(磨製安山岩)	厚台形	3	中	4.6	3.4	1.4	0.9	51.5	重	磨製	000145
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(褐色片岩)	厚台形	1	中	4.1	0.8	63.3	重	水製品	10世紀後半	000201	
多野郡吉井町	久田遺跡1	矢田遺跡1	石(褐色片岩)	厚台形	1	中	4.1	0.8	63.3	重	水製品	10世紀後半	000202	



付表 群馬県内出土の紡錘車一覧表

多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	大	5.1	3.1	1.9	0.7	75.4	横置	定形	8	0100712	石(礫石)は自然の形状を帯びて磨かれたものと思われる。磨面は少なく、磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	大	5.2	2.9	1.4	0.7	44.9	中	定形	8	0100713	磨面は少なく、磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	特大	9	8.5	1.2	1.1	124.5	横置	定形	8	0100714	磨面は少なく、磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	中	4.1	3.2	1.4	0.6	38.1	中	定形	8	0100715	ほとんど磨面されていないと思われる。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	3	中	4.7	3.6	0.7	0.7	13.3	横	不定形	8	0100716	ほとんど磨面されていないのではないかと推定されている。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	3	大	4.2	3.8	0.9	0.5	20.3	横	不定形	8	0100717	ほとんど磨面されていないのではないかと推定されている。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	3	大	5.4	3.6	0.8	0.5	36.7	中	定形	8	0100718	ほとんど磨面されていないのではないかと推定されている。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.4	2.7	2.2	0.7	60.9	横	不定形	7	0100719	磨面に放射状の磨目が多く得つ
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	小	3.9	2.7	2.1	0.7	47.7	中	定形	8	0100720	
多野郡古井町	糸田遺跡群	土(土層埋)	長方形	1	小	3.6	3.4	0.8	0.6	16.2	横	不定形	8	0100721	
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.2	2.9	1.6	0.7	35.3	中	定形	8	0100722	
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	特大	6.2	5.9	1.1	0.8	32.8	横	不定形	8	0100723	
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	特大	7.7	4.7	1.8	0.7	67.5	横	不定形	7	0100724	
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	中	4.2	2.5	1.7	0.6	46.2	中	定形	7	0100725	
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	中	4.3	2.4	1.9	0.7	45.2	中	定形	7	0100726	
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	中	4.1	1.6	1.5	0.6	34	中	不定形	7	0100727	
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	中	4.4	2.9	1.9	0.5	64	横	不定形	7	0100728	石(礫石)は上下両面の磨かれたものであるが、磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	特大	8.3	7.7	1.7	1.1	119.5	横置	定形	8	0100729	ほとんど磨面されていない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.2	3.2	1.2	0.6	28.7	横	不定形	8	0100731	
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	大	5.1	2.6	1.4		59.3	横	未製品	8	0100732	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.9	2.6	2	0.7	65	横	不定形	8	0100733	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.3		0.6		23.3	横	不定形	7	0100734	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.1	2.1	1.5	0.6	32.2	中	一部欠損	8	0100735	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	大	5.2	2.9	2	0.6	72.4	横置	定形	8	0100736	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	小	3.6	2.4	1.5	0.6	29.6	横	不定形	8	0100737	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	大	5	2.6	2	0.7	71.5	横置	定形	8	0100738	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	中	4.6	2.3	1.9	0.7	59.3	横	不定形	8	0100739	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.3	2.6	1.9	0.7	51.1	横	不定形	8	0100740	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.1	3.8	1.6	0.6	33.2	中	定形	8	0100741	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.1	3.4	1.1	0.7	36.7	中	不定形	8	0100742	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	中	4.8	2.8	1.5	0.8	51	横	不定形	8	0100743	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	2	小	3.4	2.8	1.5	0.5	33.4	中	不定形	8	0100744	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	大	5.2	2.9	1.4		46.8	中	未製品	8	0100745	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	小	3.5	2.6	1.1	0.7	12.7	横	不定形	8	0100746	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	小	3.8	3.4	0.9	0.6	22.2	横	一部欠損	8	0100747	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	特大	7.3	7.2	1.9	0.9	159.7	横置	定形	7	0100748	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	大	5.1	2.7	1.8	0.7	62.1	横	不定形	8	0100749	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	大	5.1	4.7	1.1	0.7	53.9	横	不定形	8	0100750	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	大	5.1	3.5	1.9	0.6	56.5	横	不定形	8	0100751	磨面がほとんどない。
多野郡古井町	糸田遺跡群	石(礫石)	溝台形	1	中	4.8	3.4	1.1	0.7	61.2	横	不定形	8	0100801	不明

第7章 調査成果の整理とまとめ

市町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状 寸法	最大 長さ cm	最大 幅 cm	厚さ cm	重量 g	重量 区分	保存状態	時期	備 考		
多野郡吉井町	矢田遺跡	69-34C1ピット1	石(磨石)	薄台形	中	4.8	3.4	1.7	0.7	46.6g	中	未完成品		
多野郡吉井町	矢田遺跡	69-10	石(磨石)	大	5.2	2.1			77.6g	中	不明			
多野郡吉井町	矢田遺跡	20-16G	石(磨石)	小	3.8	2.7	1.8	0.7	42.3g	中	不明			
多野郡吉井町	矢田遺跡	27-8G	石(磨石)	大	5.7	4.4	2.7	0.8	76.7g	最重	一部欠損			
多野郡吉井町	矢田遺跡	31-8G	石(磨石)	小	3.7	1.5	0.4	27.2g	最重	不明	不明			
多野郡吉井町	矢田遺跡	43-6G	石(磨石)	中	4.4	2.2	1.2	0.5	29.8g	最重	不明	上下両面に厚みが僅かずつ減落している		
多野郡吉井町	矢田遺跡	72-3G	石(磨石)	中	4.3	4			23.3g	最重	不明	下部の60度を突いているが、中心が凸を穿つた		
多野郡吉井町	矢田遺跡	76-31G	石(磨石)	小	3.4	2.6	1.7	0.7	36.2g	中	不明	破りたての状態で発見された		
多野郡吉井町	矢田遺跡	G79少イノ付足	石	厚台形	小	4.8	2.8	2.3	0.6	59.3g	最重	不明		
多野郡吉井町	矢田遺跡		石	厚台形	中	4.7	3.1	0.8	29.2g	最重	不明			
多野郡吉井町	矢田遺跡	表層	長方形	特大	6	5.7	1.1	0.6	25.4g	最重	不明			
多野郡吉井町	矢田遺跡	表層1	石(磨石)	厚台形	中	4.5	2.3	2.2	0.6	59.3g	最重	不明		
多野郡吉井町	矢田遺跡	表層2	石(磨石)	厚台形	大	5.8	4.3	1.7	0.9	56.5g	最重	不明		
多野郡吉井町	矢田遺跡	表層3	石(磨石)	厚台形	中	4.7	1.4	0.7	34.2g	中	不明	全体の片割れが脱落し、正確な形状・寸法は不明		
多野郡吉井町	矢田遺跡	表層4	石(磨石)	厚台形	小	3.7	2	0.6	59.3g	最重	不明			
多野郡吉井町	矢田遺跡	表層17	石(磨石)	大	5.3	4.7	1.9		69.4g	最重	不明	中心の丸は削いでいない		
多野郡吉井町	矢田遺跡	表層	石(磨石)	厚台形	大	5.1	3.6	1.9	0.7	76.7g	最重	不明	側面に磨滅状の痕跡が多く認められる	
多野郡吉井町	神原遺跡	神原下層	石(磨石)	長方形	中	4.2	4	1	0.7	32.1g	中	不明		
多野郡吉井町	神原遺跡	1号住居	石(磨石)	薄台形	3	特大	6.4	5.5	2	101.8g	最重	不明	未製品	
多野郡吉井町	神原遺跡	1号住居	石(磨石)	薄台形	3	小	3.2	1.8	0.5	1.7g	最重	不明	6世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	1号住居	石(磨石)	厚台形	3				2.1g	最重	不明	6世紀後半		
多野郡吉井町	神原遺跡	神原遺跡	石(磨石)	厚台形	1	号住居		2.5	14.9g	最重	不明	6世紀後半		
多野郡吉井町	神原遺跡	65号住居	石(磨石)	薄台形	1	中	4.7	3.6	1	36.6g	中	不明	8世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	2号住居	石(磨石)	薄台形	1	中	4.9	3.5	1.5	0.8	63g	最重	不明	9世紀後半
多野郡吉井町	神原遺跡	3号住居	石(磨石)	薄台形	1	中	4.7	1.3	0.7	16.4g	最重	不明	10世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	1号住居	石(磨石)	薄台形	1	中	4.7	3.2	1.3	18.4g	最重	不明	10世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	47号住居	石(磨石)	薄台形	1	中	4.2	3.2	0.7	26g	中	不明	9世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	64号住居	石(磨石)	薄台形	2	大	3.9	2.9	1.7	0.6	41.1g	中	不明	8世紀後半
多野郡吉井町	神原遺跡	65号住居	石(磨石)	薄台形	2	大	5.6	3.8	1.2	0.7	65.7g	最重	不明	8世紀後半
多野郡吉井町	神原遺跡	82号住居	石(磨石)	薄台形	1	中	4	2.2	1.2	0.7	23.2g	最重	不明	9世紀後半
多野郡吉井町	神原遺跡	111号住居	石(磨石)	薄台形	1	中	4.2	2.4	2.3	0.5	61.5g	最重	不明	9世紀後半
多野郡吉井町	神原遺跡	112号住居	石(磨石)	薄台形	1	中	4.7	1.8		79.3g	最重	不明	9世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	113号住居	石(磨石)	長方形	1	中	4.4	3.3	1.8	71.7g	最重	不明	9世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	114号住居	石(磨石)	長方形	1	中	4.2	2		31.7g	最重	不明	長方形を呈しており裏面未製品?	
多野郡吉井町	神原遺跡	116号住居	石(磨石)	長方形	1	大	5	3.5	0.6	19.5g	最重	不明	裏面に磨滅状の痕跡がみられ長さ15.3cm	
多野郡吉井町	神原遺跡	127号住居	石(磨石)	長方形	1	特大	6.2	6.2	1.6	96.2g	最重	不明	8世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	138号住居	石(磨石)	厚台形	1					5.4g	最重	不明	8世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	131号住居	石(磨石)	厚台形	1	小	3.8			6.5g	最重	不明	8世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	166号住居	鉄	1	特大	7.7	3.7		33.1g	最重	不明	不明	10世紀後半	
多野郡吉井町	神原遺跡	172号住居	鉄	1	特大	6.2	2.1		6.2g	最重	不明	不明	不明	

付表 群馬県内出土の防鎧車一覧表

多野郡吉井町	神原富士塚	174号住居	石(燧石片)	溝台形	1	中	4.5	3.3	1.8	0.6	45.1	中	定形	8世紀前半	0130123
多野郡吉井町	神原富士塚	6号溝	石(燧石片)	溝台形	1	中	4.8	1.8	0.7	47.5	中	約片	不明	0130124	
多野郡吉井町	神原富士塚	8号溝	石(燧石片)	溝台形	1	大	4.7	3.4	1.3	0.7	82.6	重	定形	不明	0130125
多野郡吉井町	神原富士塚	R-6グリップ	石(燧石)	溝台形	1	大	5.1	2.9	1.8	0.8	97.5	重	定形	不明	0130126
多野郡吉井町	神原富士塚	T-30グリップ	石(燧石)	溝台形	1	大	5.6	1.8	1.3	51.3	重	未製品	不明	0130127	
多野郡吉井町	神原富士塚	グリップ2区画探	石(燧石)	溝台形	1	大	5.1	1.8	1.3	86.9	重	未製品	不明	0130128	
多野郡吉井町	多野郡	9号住居	石(燧石)	溝台形	1	中	4.9	4.4	1.1	0.6	59	重	定形	8世紀前半	0130131
多野郡吉井町	多野郡	14号住居	石(燧石片)	溝台形	2	大	4.3	3	1	0.8	28	軽	定形	8世紀前半	0130132
多野郡吉井町	多野郡	14号住居	石(燧石片)	溝台形	2	大	5.8	4.5	2.3	135	最重	未製品	不明	0130133	
多野郡吉井町	多野郡	15号住居	石(燧石片)	長方形	1	大	5	4.6	1.2	29	軽	定形	11世紀前半	0130134	
多野郡吉井町	多野郡	39号住居	石(燧石片)	溝台形	1	大	4.6	4	1.4	0.9	41	中	定形	9世紀前半	0130142
多野郡吉井町	多野郡	48号住居	石(燧石片)	長方形	1	中	4.9	4.6	1.4	47	中	未製品	不明	0130145	
多野郡吉井町	多野郡	48号住居	七	厚台形	1	中	4.4	2.7	2.3	0.8	43	中	定形	8世紀前半	0130146
多野郡吉井町	多野郡	52号住居	石(燧石片)	溝台形	1	大	5.7	1.8		34	中	未製品	不明	0130147	
多野郡吉井町	多野郡	54号住居	石(燧石片)	溝台形	1	特大	4.4	4.7	1.5	0.9	94	最重	定形	8世紀前半	0130148
多野郡吉井町	多野郡	63号住居	石(燧石片)	厚台形	2	特大	8.6	3.3	352	最重	未製品	不明	0130149		
多野郡吉井町	多野郡	63号住居	石(燧石片)	厚台形	2	大	5.3	3.4	2.8	0.6	73	最重	約片	8世紀前半	0130110
多野郡吉井町	多野郡	78号住居	石(燧石片)	溝台形	1	特大	6	1.9	169	最重	未製品	不明	0130111		
多野郡吉井町	多野郡	82号住居	石(燧石片)	溝台形	1	中	1.3	0.7	48	中	未製品	不明	0130112		
多野郡吉井町	多野郡	92号住居	石(燧石片)	溝台形	3	小	3.7	0.9	2	1	軽	定形	不明	0130114	
多野郡吉井町	多野郡	92号住居	石(燧石片)	溝台形	3	小	4.8	1.2	20	軽	定形	不明	0130115		
多野郡吉井町	多野郡	92号住居	石(燧石片)	溝台形	3	中	4.8	1.3	20	軽	定形	不明	0130116		
多野郡吉井町	多野郡	94号住居	石(燧石片)	溝台形	1	大	5	2	1.3	0.8	50	重	定形	8世紀前半	0130117
多野郡吉井町	多野郡	94号住居	石(燧石片)	溝台形	2	中	4.5	3.6	1.4	0.8	50	軽	定形	8世紀前半	0130118
多野郡吉井町	多野郡	97号住居	石(燧石片)	溝台形	2	中	4.8	1.5	1.9	0.7	42	中	定形	不明	0130119
多野郡吉井町	多野郡	107号住居	石(燧石片)	溝台形	1	特大	7.6	3.4	242	最重	未製品	不明	0130120		
多野郡吉井町	多野郡	113号住居	石(燧石片)	厚台形	1	特大	3.8	2.2	1.6	0.6	37	中	定形	8世紀前半	0130121
多野郡吉井町	多野郡	131号住居	鉄	溝台形	1	特大	6.8	0.2	3.2	軽	鉄片僅のみ	不明	0130122		
多野郡吉井町	多野郡	134号住居	石(燧石片)	溝台形	1	中	4.4	0.5	9	軽	定形	不明	0130123		
多野郡吉井町	多野郡	140号住居	石(燧石片)	溝台形	1	特大	6.2	1.8	85	最重	未製品	不明	0130124		
多野郡吉井町	多野郡	147号住居	土	溝台形	1	小	3.5	2	2	0.9	20	軽	定形	不明	0130125
多野郡吉井町	多野郡	147号住居	石(砂)	長方形	1	中	4	1.6	0.9	29	軽	定形	不明	0130126	
多野郡吉井町	多野郡	148号住居	石(燧石片)	溝台形	1	中	4.1	1.8	1.6	0.7	43	中	定形	8世紀前半	0130127
多野郡吉井町	多野郡	150号住居	石(燧石片)	溝台形	2	中	4.4	2.7	1.3	0.8	49	中	定形	8世紀前半	0130128
多野郡吉井町	多野郡	152号住居	石(燧石片)	溝台形	2	中	4.4	1.9	55	最重	未製品	不明	0130129		
多野郡吉井町	多野郡	162号住居	石(燧石片)	溝台形	1	小	3.9	1.4	0.5	29	軽	定形	不明	0130130	
多野郡吉井町	多野郡	2号溝	石(燧石片)	溝台形	1	特大	7.7	3	69	最重	未製品	不明	0130131		
多野郡吉井町	多野郡	1-13グリップ	鉄	溝台形	1	特大	6.8	0.2	21	軽	鉄片僅+鉄軸	不明	0130132		
多野郡吉井町	多野郡	R-14グリップ	石(燧石片)	溝台形	1	大	5.1	3	1.4	0.7	54	重	一部欠損	不明	0130133
多野郡吉井町	多野郡	L-13グリップ	石(燧石片)	溝台形	1	大	5.2	0.7	30	中	未製品	不明	0130134		
多野郡吉井町	多野郡	K-14グリップ	石(燧石片)	溝台形	1	大	5.5	1.5	0.5	85	最重	未製品	不明	0130135	

第7章 調査成果の整理とまとめ

山形村名	遺跡名	出土遺構	材	形状	溝様式 土数分	法位置 cm	厚さ cm	径 cm	埋蓋 形状	保存形態	時期	備	調査番号		
多野郡吉野町	多比良遺跡	L-14グリッド	石(砂岩)	長方形	1	小	3.3	3.2	0.7	0.5	12 軒	瓦葺	不明	0130136	
多野郡吉野町	多比良遺跡	L-15グリッド	石(凝灰岩)	長方形	1	小	3.9	0.8	20 軒	瓦葺	不明		0130137		
多野郡吉野町	多比良遺跡	Q-35グリッド	石(凝灰岩)	1	特大	5.5	2.3	130	最重畳	未製品	不明		0130138		
多野郡吉野町	多比良遺跡	R-38グリッド	石(凝灰岩)	1	大	5	2.3	55	最重畳	未製品	不明		0130139		
多野郡吉野町	多比良遺跡	24号住居跡	土	厚台形	1	小	3.9	2.9	1.6	0.7	9 世紀後半	瓦葺	瓦葺	0140101	
多野郡吉野町	黒馬遺跡	24号住居跡	石(凝灰岩)	厚台形	1	中	4.5	1.9	1.6	0.7	9 世紀後半	瓦葺	瓦葺	0140102	
多野郡吉野町	白石相伝	81瓦	瓦	厚台形	1	特大	7.8	0.3	10 軒	最重畳	瓦葺	瓦葺	0150201		
多野郡吉野町	多比良遺跡	11号住居	石(凝灰)	厚台形	1	中	2.4	1.4	0.5	32.1	中	瓦葺	8世紀前半	0160101	
多野郡吉野町	多比良遺跡	H-27号住居	石(凝灰)	厚台形	1	中	4.8	3.2	1.5	0.7	60 軒	瓦葺	6～8世紀	0170101	
多野郡吉野町	多比良遺跡	H-99号住居	石(凝灰)	厚台形	1	中	4.2	2.6	1.9	0.7	50 軒	瓦葺	一部欠損	0170102	
多野郡吉野町	多比良遺跡	H-116号住居	石(砂岩)	長方形	3	大	5.2	1.3	0.8	42.2	中	瓦葺	8世紀後半	0170103	
多野郡吉野町	多比良遺跡	多比良遺跡	石(凝灰岩)	長方形	3	大	5.4	3.6	2	0.7	89.8	最重畳	瓦葺	0170104	
多野郡吉野町	多比良遺跡	H-116号住居	石(凝灰岩)	厚台形	3	大	5.3	3.1	1.2	0.8	43.8	中	瓦葺	0170105	
多野郡吉野町	多比良遺跡	DKH-113号住居	石(凝灰)	厚台形	1	中	4.1	2.9	1.9	0.9	41	中	瓦葺	0170106	
多野郡吉野町	多比良遺跡	DKH-114号住居	石(凝灰岩)	厚台形	1	中	4.1	1.8	2.5	0.7	49.1	中	瓦葺	0170107	
多野郡吉野町	多比良遺跡	FKH-115号住居	土	厚台形	1	小	3.6	2	1.3	0.6	26 軒	瓦葺	6世紀後半	0170108	
多野郡吉野町	多比良遺跡	FKH-116号住居	土	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0170109		
多野郡吉野町	多比良遺跡	V-2号住居	土	長方形	3	中	4.2	1.5	0.7	43.4	中	瓦葺	3～4世紀	0170110	
多野郡吉野町	多比良遺跡	V-2号住居	土	長方形	3	中	5	4.9	1.5	0.7	43.4	中	瓦葺	3～4世紀	0170111
多野郡吉野町	多比良遺跡	V-2号住居	土	長方形	3	中	4.8	4.7	1	0.6	25.2	最重畳	瓦葺	3～4世紀	0170112
多野郡吉野町	多比良遺跡	V-4号住居	土	長方形	2	小	3.9	3.8	1.3	0.6	23.8	最重畳	一部欠損	0170113	
多野郡吉野町	多比良遺跡	V-4号住居	土	長方形	2	中	4.1	1.1	0.7				0170114		
甘栗郡砂岩町	高島井	8号住居	石(砂岩)	厚台形	1	中	4.9	2.1	2.1	0.5			0180102		
甘栗郡砂岩町	高島井	9号住居	石(凝灰)	厚台形	1	中	4.4	2.8	2.2	0.7			0180103		
甘栗郡砂岩町	古立相伝	19号住居跡	瓦	厚台形	1	中	5.1	0.4					0620101		
甘栗郡砂岩町	古立相伝	69号住居跡	土	長方形	1	特大	6.4	5.8	1.3	0.8			0620102		
甘栗郡砂岩町	八木遺跡	4号住居跡	土	長方形	1	中	4.9	4.5	1.6	0.6			0620104		
甘栗郡砂岩町	八木遺跡	6号住居跡	土	長方形	1	中	5.1	4.9	0.9	0.7			0620105		
甘栗郡砂岩町	八木遺跡	15号住居	土	長方形	1	中	4.9	4.7	1.4	0.3			0620106		
甘栗郡砂岩町	八木遺跡	25号住居跡	土	長方形	1	小	3.7	3.4	0.6	0.6			0620107		
甘栗郡砂岩町	八木遺跡	28号住居跡	土	長方形	2	中	4.3	4.1	0.7	0.5			0620108		
甘栗郡砂岩町	八木遺跡	29号住居跡	土	長方形	2	中	3.5	3.2	1.1	0.4			0620109		
甘栗郡砂岩町	八木遺跡	24号住居跡	土	厚台形	2	中	4.2	2.5	0.9	0.6			0620110		
甘栗郡砂岩町	笹	10号住居	石(凝灰)	厚台形	1	特大	6.1	2.2					0610101		
甘栗郡砂岩町	笹	11号住居	石(凝灰)	厚台形	1	特大	7.2	1.6					0610102		
甘栗郡砂岩町	笹	IV-11号住居	石(凝灰)	厚台形	1	中	4.3	2.1	1.8	0.7			0610103		
甘栗郡砂岩町	笹	IV-11号住居	石(凝灰)	厚台形	1	中	4.3	4.3	0.6				0610104		
甘栗郡砂岩町	甘栗遺跡	6号住居	石(凝灰岩)	厚台形	1	大	5	2.6	1.5	0.6	53.9	最重畳	瓦葺	0620101	
甘栗郡砂岩町	甘栗遺跡	9号住居	石(凝灰)	厚台形	1	中	4	2.8	1.9	0.8	17.8	最重畳	瓦葺	0620102	

付表 群馬県内出土の紡錘車一覽表

群馬都計表町	群馬県	21号住居	石(磨石)	1	中	大	1	中	大	61.5	重	承	取	品	6	世紀	出	所	品	名	0020102	
群馬都計表町	群馬県	27号住居	石(磨石)	1	中	大	1	中	大	4.9	3.5	2.1	0.6	56.9	磨	6	世紀	高	中	水	取	品
群馬都計表町	群馬県	30号住居	石(磨石)	1	大	5.2	4.1	1	0.7	36.4	中	重	取	品	7	世紀	中	東	白	玉	珠	取
群馬都計表町	群馬県	31号住居	石(磨石)	1	中	4.3	3.6	1.3	0.7	39.1	中	重	取	品	7	世紀	中	東	北	武	治	の
群馬都計表町	群馬県	38号住居	石(磨石)	1	中	4.1	1.7	1.7	0.6	31.3	中	重	取	品	4	世紀	中	東	右	賀	模	取
群馬都計表町	群馬県	40号住居	石(磨石)	1	特	大	6.6	4.3	2.7	159	超	重	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	取
群馬都計表町	群馬県	65号住居	石(磨石)	1	中	4.9	2.6	1.7	0.9	47.7	中	重	取	品	不明							
群馬都計表町	群馬県	75号住居	石(磨石)	1	小	3.8	1.2	2	0.6	27.5	軽	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	取	
群馬都計表町	群馬県	76号住居	石(磨石)	1	中	4.5	2.5	2	0.6	51.5	重	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	取	
群馬都計表町	群馬県	81号住居	石(磨石)	3	大	5.1	3.1	1.5	0.7	45.1	中	重	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	
群馬都計表町	群馬県	81号住居	石(磨石)	3	大	5.1	1.7	1.4	0.6	37.3	中	重	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	
群馬都計表町	群馬県	83号住居	石(磨石)	1	中	4.2	2.1	0.6	22.7	軽	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	取		
群馬都計表町	群馬県	84号住居	石(磨石)	1	中	4.1	2.5	1.4	0.8	29.3	軽	取	品	5	世紀	中	東	右	賀	模	取	
群馬都計表町	群馬県	93号住居	石(磨石)	1	中	4.3	1.9	0.9	0.9	35.8	軽	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	取	
群馬都計表町	群馬県	93号住居	石(磨石)	2	大	5	2.5	1.8	0.6	33.4	中	重	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	
群馬都計表町	群馬県	100号住居	石(磨石)	1	大	3.7	1.3	1.2	0.8	21.8	軽	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	取	
群馬都計表町	群馬県	白倉下源・天引山原IV	石(磨石)	1	大	5	0.9	0.9	11	軽	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	取		
群馬都計表町	群馬県	白倉下源・天引山原IV	石(磨石)	1	大	4.2	2.4	1.1	0.6	53.5	重	取	品	6	世紀	中	東	右	賀	模	取	
群馬都計表町	群馬県	白倉下源・天引山原III	土	三角	1	大	5.1	1.2	0.6	10.5	軽	取	品	2	〜	3	世紀					
群馬都計表町	群馬県	白倉下源・天引山原III	土	三角	1	中	4.6	1.3	0.6	10.5	軽	取	品	2	〜	3	世紀					
群馬都計表町	群馬県	白倉下源・天引山原III	土	三角	2	中	4.2	4.1	1.4	0.7	29	重	取	品	2	〜	3	世紀				
群馬都計表町	群馬県	天引山原III	土	長	1	中	3.1	1.6	2.1	0.8	19	重	取	品	2	〜	3	世紀				
群馬都計表町	群馬県	天引山原III	石(磨石)	1	中	4.2	2	1.3	0.6	27.6	軽	取	品	4	世紀							
群馬都計表町	群馬県	109号遺構	石(磨石)	2	小	(4.0)	1.2						2	〜	3	世紀						
群馬都計表町	群馬県	129号遺構	石(磨石)	1	小	3.5	0.6	0.6					3	世紀								
群馬都計表町	群馬県	168号遺構	石(磨石)	2	小	2.6	2.5	0.8					10	重								
群馬都計表町	群馬県	168号遺構	石(磨石)	1	中	(3)	0.7						5	軽								
群馬都計表町	群馬県	133号遺構	石(磨石)	2	小	(3)	0.6						1	軽								
群馬都計表町	群馬県	150号遺構	石(磨石)	2	中	(2)	0.4						5	軽								
群馬都計表町	群馬県	天引山原III	牛衣砂	1	中	4.8	3.6	3	0.6				66	重								
群馬都計表町	群馬県	167号住居	石(磨石)	1	中	4.3	3.2	1.8	0.7				64	重								
群馬都計表町	群馬県	17号住居	石(磨石)	1	中	4.5	3	2	0.8				64	重								
群馬都計表町	群馬県	去鴨川	石(磨石)	2	中	4.2	2.7	1.8	0.4				40	中								
群馬都計表町	群馬県	4号住居	石(磨石)	2	大	5.2	4.2	2.8					64	重								
群馬都計表町	群馬県	8号住居	石(磨石)	2	中	4.1	2.5	3	0.6				23	軽								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	石(磨石)	1	小	3.9	0.8	0.4					7	世紀	中	東	右	賀	模	取		
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	0.8	0.4					7	世紀	中	東	右	賀	模	取		
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	中	4	0.2	0.7					15	軽								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	大	5.6	0.6	0.6					62	重								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	大	5.6	3.5	1.5	0.8				59	重								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	中	4	0.2	0.7					15	軽								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	大	5.6	0.6	0.6					62	重								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	大	5.6	3.5	1.5	0.8				59	重								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中								
群馬都計表町	群馬県	松葉屋字寺	土	1	小	3.9	1.2	2.2	0.7				43	中					</			



第7章 調査成果の整理とまとめ

町町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状・出土状況	位置・埋没状況	埋没状況	遺存状態	時期	備考	調査番号
津水郡北井田町	松井田上遺構跡	E-50号住居	石(横石)	溝台形 1 中	4.8 3.5 1.5 0.9	33 重	完形	8世紀後半	遺構が埋没している状態のため、正確な年代は不明	0010105
津水郡北井田町	松井田上遺構跡	1号点不明	石(横石)	溝台形 1 中	4.4 2.2 2.1 0.7	23 重	完形	不明		0010106
津水郡北井田町	愛宕山	3号住居	石(不明)	溝台形 2 小	4.3 2.2 2.5 0.4			8世紀後半		0020101
津水郡北井田町	愛宕山	4号住居	石(不明)	溝台形 2 小	2.3 2.3 0.6		約分	8世紀後半		0020102
津水郡北井田町	愛宕山	4号住居	鉄	溝台形 2 大	5.3 3.3 0.3 0.5		完形	8世紀後半		0020103
津水郡北井田町	愛宕山	4号住居	土	溝台形 2 大	5.3 4.3 1.8 0.6		完形	8世紀後半		0020104
津水郡北井田町	高野原	2号住居	土	溝台形 4 小	5.8 5.1 1.5 0.6	28.1 軽	一部欠損	4世紀		0010101
津水郡北井田町	高野原	2号住居	土	溝台形 4 小	3 3 0.9 0.6	6.1 軽	完形	4世紀		0010102
津水郡北井田町	高野原	2号住居	土	溝台形 4 大	5.2 4.6 1.2 0.6	40.4 中	完形	4世紀		0010103
津水郡北井田町	高野原	2号住居	土	溝台形 4 中	4.8 4.3 1.2 0.6	0.3 軽	約分	4世紀		0010104
津水郡北井田町	高野原	3号住居	土	溝台形 1 中	5.4 4 1.7 0.6	52.4 重	完形	4世紀		0010105
津水郡北井田町	高野原	5号住居	土	溝台形 2 中	5.3 5 1.4 0.9	56.1 重	完形	4世紀		0010106
津水郡北井田町	高野原	5号住居	土	溝台形 2 中	4.2 1.5 0.6 27.9 重	完形	完形	4世紀		0010107
津水郡北井田町	高野原	5号住居	土	溝台形 2 中	4.5 4.4 1.1 0.6	26.5 中	完形	4世紀		0010108
津水郡北井田町	高野原	6号住居	土	溝台形 1 大	5.1 5.1 1.7 0.6	51 重	完形	4世紀		0010109
津水郡北井田町	高野原	7号住居	土	溝台形 2 大	5.9 4.9 1.1 0.6	34.8 中	完形	2～3世紀		0010110
津水郡北井田町	高野原	11号住居	土	溝台形 2 大	5.8 5.8 1.2 0.6	160	破片	2～3世紀	在原本遺跡のため、時期決定に疑問	0010111
津水郡北井田町	高野原	11号住居	土	溝台形 1 中	4.2 3.1 1.1 0.8	29.7 軽	完形	6世紀前半		0010112
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ60	石(横石)	溝台形 1 中	4.2 2.4 1.9 0.6	44.4 中	完形	6世紀前半		0010101
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ60	石(横石)	溝台形 1 小	3.9 2.1 1.5 0.6	35.5 中	完形	6世紀		0010102
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ77	土	溝台形 1 中	4.5 3.8 1.7 0.8	30.8 中	完形	不明	円筒形・土器質	0020201
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ18	土	溝台形 1 中	5.1 3.1 1 0.8	34.9 中	完形	6世紀前半	土器質	0020202
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ51	石(横石)	溝台形 1 小	3.9 2.7 1.8 0.6	38.9 中	完形	6世紀前半	土器質	0020203
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ63	石(横石)	溝台形 1 小	3.9 2.1 1.4 0.6	209 中	完形	不明	遺構が埋没している状態のため、正確な年代は不明	0020204
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ77	土	溝台形 1 小	3.9 2.1 2.4 0.6	209 中	完形	不明	土器質	0020205
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ76	石(横石)	溝台形 1 中	4 3.6 1.9 0.6	42.2 中	完形	8世紀後半	遺構が埋没している状態のため、正確な年代は不明	0020206
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ79	石(横石)	溝台形 1 小	3.5 3.6 1.5 0.9	70.1 軽	完形	8世紀後半	遺構が埋没している状態のため、正確な年代は不明	0020207
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ83	石(横石)	溝台形 1 小	3.8 1.5 1.6 0.6	27.6 軽	完形	6世紀前半	御前に溝子取の文様を色紙状に発行	0020208
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ98	石(横石)	溝台形 1 中	3.7 2 2 0.8	33.2 中	完形	7世紀前半		0020209
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ14	土	溝台形 1 大	5.8 2.5 0.6	54.7 中	完形	6世紀前半	土器質 御前に溝子取の文様を色紙状に発行	0020210
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ32	石(横石)	溝台形 1 中	4.3 2.1 2.2 0.7	33.6 中	完形	6世紀後半		0020211
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ69	石(横石)	溝台形 1 小	3.6 2.4 2.1 0.7	30.4 中	完形	6世紀後半		0020212
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ31	石(横石)	溝台形 1 小	3.8 2.1 1.8 0.6	40.1 中	完形	6世紀後半		0020213
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ57	石(横石)	溝台形 1 小	3.9 1.7 1.6 0.6	25.9 軽	完形	9世紀前半		0020214
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ71	石(横石)	溝台形 1 小	2.1 1.3 0.7	32.2 中	完形	6世紀後半		0020215
津水郡北井田町	御-鎌倉	SJ95	石(横石)	溝台形 1 中	4.2 2.1 1.8 0.6	40.2 中	完形	6世紀後半		0020216
津水郡北井田町	御-鎌倉	SD58C	石(横石)	溝台形 1 中	4.2 2.4 2.3 0.6	56.9 重	完形	不明		0020217
津水郡北井田町	御-鎌倉	2号点・2号6	石(横石)	溝台形 1 中	4.5 2.4 2.1 0.7	50.5 重	完形	不明	御前に溝跡にノミを用いた痕跡が認められる	0020218
津水郡北井田町	御-鎌倉	SD45	石(横石)	溝台形 1 中	4.4 3.9 1.2 0.6	34.2 中	完形	不明		0020219

付表 群馬県内出土の鉄鋳造一覽表

群馬県前橋市	後田日	石(板状形)	厚台形	1	中	4.6	3	2.5	0.7	78.2	鐵鑄	定形	不明	0602028
群馬県前橋市	後田日	石(板状形)	厚台形	1	大	5.2	2.9	2.5	0.6	56.6	重 定形	不明	0602021	
群馬県前橋市	後田日	土	厚台形	1	特大	6.2	2.4	0.7	41.6	中 重	一部欠損	不明	0602022	
群馬県前橋市	後田日	土	長方形	1	小	3.9	3.6	2	0.7	37.4	中 定形	不明	0602023	
群馬県前橋市	後田日	土	長方形	1	大	5.6	5.1	1.6	0.6	24.2	中 定形	不明	0602024	
群馬県前橋市	十二坂	土	長方形	1	大	5.4	5.2	1.7	0.7	46.3	中 定形	4 世紀	0602010	
群馬県前橋市	村主	石(楕圓形)	薄台形	1	中	4.5	3.8	1.5	0.8	65	中 定形	6 世紀後半	0604010	
群馬県前橋市	村主	石(楕圓片形)	長方形	1	特大	6.3	6.3	0.4	0.8	52.4	重 厚口内蓋+鉄輪	10世紀後半	0604012	
群馬県前橋市	藤田東	土	長方形	1	中	4.5	2.4	1.5	0.9		厚口内蓋	9世紀後半	0604011	
群馬県前橋市	藤田東	土	7号住居	1	特大	4.5	0.2	0.5		厚口内蓋+鉄輪	9世紀後半	0604012		
群馬県前橋市	藤田東	土	3号住居	2	中	4.4	1.2	1.5	0.7	27.9	輪	2~3世紀	0604011	
群馬県前橋市	藤田東	土	7号住居	2					0.9	輪		0604012		
群馬県前橋市	藤田東	土	1号住居	1	特大	6.4	0.2	0.5			9世紀後半	0604013		
群馬県前橋市	藤田東	土	OG2層	1	大	5.9	0.8	0.5		34	中 定形	9世紀後半	0604011	
群馬県前橋市	藤田東	土	OG2層	1	特大	7.4	0.7	0.5			輪	不明	0604012	
群馬県前橋市	藤田	土	三角形	1	特大	6.1	3.2	1.7	0.6	45.7	中 定形	2~3世紀	0604011	
群馬県前橋市	藤田	土	長方形	1	大	5.9	5.9	0.4	0.8	73	最重層	鉄口蓋+鉄輪	10世紀後半	0604010
群馬県前橋市	余吾宮前1	土	薄台形	1	中	4.8	2.6	1.6	0.7	55	重 定形	10世紀後半	0604012	
群馬県前橋市	余吾宮前1	土	長方形	1	大	5	5	1	0.6			4世紀	0604013	
群馬県前橋市	中郷	土	厚台形	2	中	4.2	2.8	2	0.4		定形	4世紀	0604011	
群馬県前橋市	中郷	土	NY1号住居	1	厚台形	2	小	3.6	2.4	1.6	0.6	定形	4世紀	0604011
群馬県前橋市	下郷向井	土	15号住居	1	中	4.9	3.5	1.3	0.7		定形	不明	0604011	
群馬県前橋市	下郷向井	土	27号住居	1	中	4	2.8	1.5	0.6		定形	6世紀後半	0604012	
群馬県前橋市	下郷向井	土	27号住居	2	中	4	2	1.4	0.6		定形	6世紀後半	0604013	
群馬県前橋市	下郷向井	土	33号住居	1								不明	0604014	
群馬県前橋市	下郷向井	土	2号住居	1	中	4.5	3	1.5	0.6		定形	9世紀後半	0604011	
群馬県前橋市	岡山古賀津北通+重畳	土	15号住居	1								不明	0604012	
群馬県前橋市	岡山古賀津北通+重畳	土	厚台形	1	中	4.2	2.1	1.8	0.6		輪	不明	0604013	
群馬県前橋市	多田山東	土	厚台形	1	中	4.4	2.9	1.4	0.6		9~10世紀	不明	0604011	
群馬県前橋市	多田山東	土	7号住居	1	中	4	2.5	1.6	0.8		輪	4世紀後半	0604012	
群馬県前橋市	多田山東	土	43号住居	1	中	4	3.8	0.8	0.6		定形	4世紀後半	0604013	
群馬県前橋市	多田山東	土	49号住居	1	中	4.3	2.5	1.5	0.4		定形	不明	0604014	
群馬県前橋市	下郷平根	土	厚台形	1	小	3.8	2.1	0.7	0.7	40.7	中 定形	6世紀後半	0604015	
群馬県前橋市	今井	石(楕圓形)	厚台形	1	小	3.6	1.8	1.4	0.6		定形	6世紀後半	0604011	
群馬県前橋市	今井	石(楕圓形)	厚台形	1	小	3.6	2	1.6	0.6		定形	6世紀後半	0604012	
群馬県前橋市	今井	土	11号住居	1	中	4	2.4	2.2	0.6		定形	6世紀後半	0604013	
群馬県前橋市	藤田	土	1号住居	1	中	4.4	2.8	1.6	0.4		一部欠損	6世紀後半	0604014	
群馬県前橋市	藤田	土	6号住居	1	中	4.7	3.6	1.5	0.8		定形	9世紀後半	0604015	
群馬県前橋市	藤田	土	31号住居	2	中	4	2.8	1.6	0.8		定形	9世紀後半	0604016	
群馬県前橋市	藤田	不明	長方形	2	大	5.4	5.2	1.4	0.8		定形	9世紀後半	0604017	

第7章 調査成果の整理とまとめ

自治体名	遺跡名	出土遺構	材質	形状・出土位置	遺構・出土位置	用途	規模	埋蔵	現存形態	時期	備考
佐渡郡津和野町	御田	40号住居	不明	厚板形 1 中 4.5 2.8 1.6 0.6	1 中 4.5 2.8 1.6 0.6	中 32.5	中	7世紀	発掘	7世紀	060108
佐渡郡津和野町	五日午清木田	6号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 3.1 1.2 0.8	1 中 3.1 1.2 0.8	中 18.9	中	7世紀後半	一部欠損	7世紀後半	060109
佐渡郡津和野町	五日午清木田	9号住居	石(礎石)	厚板形 1 小 3.6 2.3 1.3 0.5	1 小 3.6 2.3 1.3 0.5	中 51.9	中	7世紀後半	一部欠損	7世紀後半	060102
佐渡郡津和野町	下郷名跡	II15号住居	石(礎石)	厚板形 2 中 4.3 2.6 2.0 0.7	2 中 4.3 2.6 2.0 0.7	中 51.3	中	8世紀	周囲にノミを用いた彫刻	8世紀	061010
佐渡郡津和野町	下郷名跡	II15号住居	土	厚板形 2 中 4.3 2.3 2.4 0.7	2 中 4.3 2.3 2.4 0.7	中 52	中	8世紀	発掘	8世紀	061012
佐渡郡津和野町	下郷名跡	II22号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 4.5 4 1.2 0.7	1 中 4.5 4 1.2 0.7	中 33.3	中	9世紀後半	発掘	9世紀後半	061013
佐渡郡津和野町	下郷名跡	II40号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 4.5 3.6 3.1 0.8	1 中 4.5 3.6 3.1 0.8	中 51.9	中	4世紀	2号住居の礎石を転用しているため、築成は5世紀の初	4世紀	061014
佐渡郡津和野町	下郷名跡	II40号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 4.5 3.9 2.4 0.8	1 中 4.5 3.9 2.4 0.8	中 62.6	中	10世紀後半	発掘	10世紀後半	061015
佐渡郡津和野町	下郷名跡	II53号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 4.8 3.2 2.1 0.9	1 中 4.8 3.2 2.1 0.9	中 61	中	10世紀後半	発掘	10世紀後半	061016
佐渡郡津和野町	下郷名跡	IV 3号溝	土	長方形 1 中 4.7 4.7 1 0.8	1 中 4.7 4.7 1 0.8	中 23.4	中	不明	不明	不明	061017
佐渡郡津和野町	下郷名跡	溝	石(礎石)	厚板形 1 中 4.2 2.2 1.2 0.6	1 中 4.2 2.2 1.2 0.6	中 38.6	中	不明	不明	不明	061018
佐渡郡津和野町	西今井	7号住居	石(礎石)	厚板形 1 小 3.5 2.6 1.4 0.8	1 小 3.5 2.6 1.4 0.8	中 32	中	8世紀後半	発掘	8世紀後半	062010
佐渡郡津和野町	西今井	22号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 3.5 2.4 1.2 0.7	1 中 3.5 2.4 1.2 0.7	中 37	中	9世紀後半	発掘	9世紀後半	062011
佐渡郡津和野町	西今井	80号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 4.2 3 1 0.8	1 中 4.2 3 1 0.8	中 26	中	9世紀	発掘	9世紀	062013
佐渡郡津和野町	西今井 (丸川)	87号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 4.2 3 1.4 0.8	1 中 4.2 3 1.4 0.8	中 26	中	9世紀後半	不明	9世紀後半	062021
佐渡郡津和野町	西今井 (丸川)	165号住居	土	厚板形 1 中 4.8 4 1.8 0.7	1 中 4.8 4 1.8 0.7	中 71	中	9世紀後半	遺跡部での転用	9世紀後半	062022
佐渡郡津和野町	上郷名跡(津谷)	1号台所	土	厚板形 1 中 4.6 2.8 1.6 0.7	1 中 4.6 2.8 1.6 0.7	中 30.7	中	9世紀後半	不明	9世紀後半	063011
佐渡郡津和野町	三ツ木	日 1号住居	石(礎石)	厚板形 1 小 3.3 1.6 1.4 0.8	1 小 3.3 1.6 1.4 0.8	中 56.1	中	6世紀後半	不明	6世紀後半	064011
佐渡郡津和野町	三ツ木	49号住居	石(礎石)	厚板形 1 小 3.6 2.9 1.4 0.8	1 小 3.6 2.9 1.4 0.8	中 16.7	中	6世紀後半	不明	6世紀後半	065011
佐渡郡津和野町	三ツ木	68号住居	土	厚板形 1 大 5.6 2.9 2.4 0.6	1 大 5.6 2.9 2.4 0.6	中 64.4	中	6世紀後半	不明	6世紀後半	065012
佐渡郡津和野町	三ツ木	150号住居	土	厚板形 1 大 5.7 3.6 2.3 0.9	1 大 5.7 3.6 2.3 0.9	中 68.2	中	7世紀後半	不明	7世紀後半	065013
佐渡郡津和野町	三ツ木	216号住居	土	厚板形 1 大 5.7 3.6 2 0.8	1 大 5.7 3.6 2 0.8	中 77.1	中	9世紀後半	遺跡部での転用	9世紀後半	065014
佐渡郡津和野町	三ツ木	129溝	石(礎石)	厚板形 1 中 4.5 3.5 1.9 0.7	1 中 4.5 3.5 1.9 0.7	中 77	中	不明	不明	不明	065015
佐渡郡津和野町	三ツ木 (丸川)	100号住居	土	1 特大 6.9 4.7 1.8 0.8	1 特大 6.9 4.7 1.8 0.8	中 11	中	約5	約5	不明	065016
佐渡郡津和野町	十三冠塚	29号住居	石(礎石)	長方形 2 大 5.1 4.7 1.4 0.7	2 大 5.1 4.7 1.4 0.7	中 1	中	不明	不明	不明	066011
佐渡郡津和野町	十三冠塚	29号住居	土	大 5 0.4 0.6	大 5 0.4 0.6	中 1	中	不明	不明	不明	066012
佐渡郡津和野町	上之平八王子	II1-30号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 4.4 2.4 1.4 0.9	1 中 4.4 2.4 1.4 0.9	中 51.9	中	9世紀後半	不明	9世紀後半	061011
佐渡郡津和野町	上之平八王子	II4-127号住居	石(礎石)	厚板形 1 小 3.6 1.8 1.5 0.6	1 小 3.6 1.8 1.5 0.6	中 43	中	9世紀後半	不明	9世紀後半	061012
佐渡郡津和野町	上之平八王子	II4-142号住居	石(礎石)	厚板形 1 小 3.6 1.8 1.5 0.8	1 小 3.6 1.8 1.5 0.8	中 43	中	9世紀後半	不明	9世紀後半	061013
新潟県津和野町	小舟田	327号住居	石(礎石)	厚板形 1 小 3.6 1.9 1.6 0.8	1 小 3.6 1.9 1.6 0.8	中 63	中	7世紀後半	約5	7世紀後半	061011
新潟県津和野町	小舟田	150号住居	土	厚板形 3 大 5.1 4 1.8 0.7	3 大 5.1 4 1.8 0.7	中 68	中	6世紀後半	不明	6世紀後半	061012
新潟県津和野町	小舟田	150号住居	石(礎石)	厚板形 3 大 5.2 2.9 2.2 0.7	3 大 5.2 2.9 2.2 0.7	中 51	中	6世紀後半	不明	6世紀後半	061013
新潟県津和野町	小舟田	160号住居	土	厚板形 3 大 5.1 2.5 2.3 0.6	3 大 5.1 2.5 2.3 0.6	中 68	中	8世紀後半	不明	8世紀後半	061014
新潟県津和野町	小舟田	207号住居	石(礎石)	厚板形 3 大 5.9 3.1 2.4 0.8	3 大 5.9 3.1 2.4 0.8	中 72.5	中	8世紀後半	不明	8世紀後半	061015
新潟県津和野町	小舟田	221号住居	石(礎石)	厚板形 1 小 3.5 2.1 2.2 0.7	1 小 3.5 2.1 2.2 0.7	中 43.3	中	6世紀後半	不明	6世紀後半	061016
新潟県津和野町	敷原	A-1号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 4.8 2.5 2.3 0.7	1 中 4.8 2.5 2.3 0.7	中 59.1	中	7世紀後半	不明	7世紀後半	061011
新潟県津和野町	敷原	A-8号住居	石(礎石)	厚板形 1 中 4.7 2.5 2.1 0.9	1 中 4.7 2.5 2.1 0.9	中 59.1	中	7世紀後半	不明	7世紀後半	061012
新潟県津和野町	敷原	B-9号住居	石(礎石)	長方形 1 大 5 4.9 1.4 0.9	1 大 5 4.9 1.4 0.9	中 48.7	中	不明	不明	不明	061013
新潟県津和野町	敷原	2号溝	不明	長方形 1 大 5.7 5.6 0.9 0.6	1 大 5.7 5.6 0.9 0.6	中 約5	中	不明	不明	不明	061014

付表 群馬県内出土の防錘車一覧表

新田郡新田町	新田	4号住居	石(横石)	横台形	2	大	5.1	2.4	1	0.8	完形	5世紀前半	横面にノミを用いた縁部	003101
新田郡新田町	東田	5号住居	石(横石)	横台形	2	大	5.2	2.4	1.2	0.6	完形	5世紀前半	側面に同心円の痕の痕を持つ	003102
新田郡新田町	古	62地区2号住居	石(縦政石)	横台形	1	大	5	3.4	1.5	1	完形	9世紀後半	広瀬と狭間に「甲」「人」「口」中国」の文字縁部	003103
新田郡新田町	下田中道・下田中川久保	遺跡外	石(縦政石)	横台形	1	大	5.2	3.6	1.6	1	25% 横 跡付	9～10世紀		003104
邑楽郡飯倉町	伊勢ノ水・小泉呂	3号住居	不明	厚台形	1	特大	7.8	4.8	4.3	0.9	完形	不明	横面にノミを用いた縁部	003105
邑楽郡飯倉町	伊勢ノ水・小泉呂	10号住居	不明	厚台形	1	大	5.8	4.3	2.2	1	完形	不明	横面にノミを用いた縁部	003106
邑楽郡飯倉町	伊勢ノ水・小泉呂	4号住居	石(横石)	厚台形	1	特大	6	2.4	3	0.8	跡付	6世紀後半		003107



付表 群馬県内出土の訪鍾車一覽表

- 「新野(2)」—上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第14集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 「藤崎寺遺跡(堀1分堀)」—上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第15集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
- 「新野遺跡1発生・古墳時代大規模」—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 「新保遺跡2発生・古墳時代大規模」—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 「下野田・滝川A遺跡 滝川B・C遺跡」—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第17集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- 「中根(橋本編)」—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第6集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 「田沼遺跡(第4分堀)」—上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第9集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 「南橋遺跡」—上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第12集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 「下野野遺跡1地区・寺前地区(1)(縄文時代・古墳時代編1)」—上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第11集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 「下野野遺跡2地区(縄文時代 古墳時代)」—上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第6集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 「熊野堂遺跡第3地区(西谷遺跡)」—泉道柏木沢・高崎線改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
- 「新保田中村前遺跡2」—一般国道14号(川谷川)改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2分冊— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 「八幡中原遺跡」—中学校建設に伴う調査概観—高崎市文化財調査報告書第31集— 高崎市教育委員会 1982
- 「石原稲荷山古墳」—高崎市文化財調査報告書第23集— 高崎市教育委員会 1981
- 「引間遺跡」—高崎市文化財調査報告書第5集— 高崎市教育委員会 1979
- 「山鳥・天神遺跡」—高崎市文化財調査報告書第56集— 高崎市教育委員会 1984
- 「兼助遺跡」—群馬県史料編2 原始古代2 発生、土部— 1986
- 「大島原遺跡」—群馬県史料編2 原始古代2 発生、土部— 1986
- 「八木薮田遺跡(2)」—高崎市文化財調査報告書第55集— 高崎市教育委員会 1984
- 「日高遺跡(4)」—昭和56年度埋蔵文化財調査事業に伴う日高・新保田中地区の調査概観 高崎市文化財調査報告書第34集— 高崎市教育委員会 1982
- 「日高遺跡」—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
- 「八幡遺跡」八幡住宅団地造成に伴う調査報告 高崎市教育委員会 1989
- 「倉賀野万福寺日遺跡」発掘調査報告書1994
- 「行方春名遺跡」北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 1995
- 「沢川芦田戸遺跡」1994
- 「書上古井寺遺跡書上-上野之池遺跡上榎木町田遺跡」—一般国道17号(上武道路)改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 「上榎木光畑遺跡」—一般国道17号(上武道路)改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 「榎下八幡遺跡」—一般国道17号(上武道路)改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 「書上木上遺跡」—一般国道17号(上武道路)改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 「中根遺跡」—早立伊勢崎商業高校セミナーハウス建設に伴う発掘調査— 群馬県教育委員会 1985
- 「八幡町遺跡(B地区)」—伊勢崎都市開発計画道路3・3・3号北部環状線建設工事に伴う発掘調査報告書— 伊勢崎市教育委員会 1987
- 「原之城遺跡発掘調査報告書」 伊勢崎市教育委員会 1987
- 「西太田遺跡」 伊勢崎市教育委員会 1983
- 「伊勢崎・東(あずま)流通団地遺跡」 群馬県企業局 1982
- 「志町田遺跡」—土地改良事業上野田地区に伴う発掘調査概観— 1995
- 「太田市八幡遺跡(一)」—群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第105集— 1990
- 「成塚石橋遺跡2」—一般国道14号(川谷川)改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
- 「成塚・上・東遺跡」—国道122号(太田バイパス)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1980
- 「太田東部遺跡群」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 「加茂遺跡」—国道122号(太田バイパス)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書III— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
- 「小坂田遺跡」—国道122号(太田バイパス)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
- 「群馬・太田市町跡跡南地区発掘調査概観」 駒形調査委員会 1983
- 「成塚住宅団地遺跡1」—成塚住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 太田市教育委員会 1990
- 「埋蔵文化財発掘調査年報2」太田市教育委員会 1992
- 「成塚川流域遺跡群」(駒形遺跡・矢崎遺跡・稲荷宮遺跡)発掘調査概観
- 「大妻遺跡・金山古墳群」—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第7集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 「戸塚遺跡(奈良・平安時代)」—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第30集— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 「戸塚遺跡日遺跡」沼田市教育委員会1992
- 「戸塚遺跡日遺跡」沼田市教育委員会1993
- 「戸塚遺跡IV遺跡 沼田北部地区遺跡群III」—平成3年度東部市場整備事業沼田北部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 沼田市教育委員会1994
- 「沼田古田遺跡」—波辺科産業株式会社工場移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 沼田市埋蔵文化財調査委員会 1988
- 「奈良地区遺跡群(奈良田遺跡)」—土地改良総合整備事業奈良地区に係る埋蔵文化財発掘調査の概観— 沼田市教育委員会 1990
- 「奈良地区遺跡群(奈良田遺跡)」—土地改良総合整備事業奈良地区に係る埋蔵文化財発掘調査の概観— 沼田市教育委員会 1991
- 「町田小沢遺跡」—有限会社戸部組産業廃棄物中埋地施設設置に係る埋蔵文化財発掘調査報告書— 沼田市埋蔵文化財発掘調査委員会 1990
- 「町田小沢日遺跡」産業廃棄物最終処分場建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書1994
- 「石塚遺跡(本編)」—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書K-C・7— 沼田市教育委員会 1985
- 「下野田下原遺跡下野田平遺跡」—一般国道17号(前田バイパス)改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993

## 第7章 調査成果の整理とまとめ

- 【町田十二 沼田北部地区道路群目】平成2年度県営はちまき事業沼田北部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 沼田市教育委員会 1993
- 【有馬遺跡2(本文編)】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第32集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 【有馬条理遺跡1(本文編)】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第29集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 【有馬条理遺跡2(本文編)】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第35集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
- 【有馬遺跡1 大久保日遺跡】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第26集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 【有馬条理遺跡 神地区 第2分掘平安時代】一渋川市発掘調査報告書第7集一 渋川市教育委員会 1983
- 【神宮寺西遺跡発掘調査報告書】一渋川市発掘調査報告書第21集一 渋川市教育委員会 1988
- 【中村遺跡(本文編)】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書(KC-3)一 渋川市教育委員会 1986
- 【八木原神田田遺跡】一渋川市発掘調査報告書第32集一 群馬県渋川市教育委員会1993
- 【平田中原・南原遺跡】一渋川市発掘調査報告書一 第41集 1994
- 【F1 群馬県藤岡市竹沼遺跡】藤岡市教育委員会 1978
- 【藤岡市遺跡群分布調査(2) 美土里地区】(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 【湯井遺跡】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第2集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981
- 【本郷山遺跡】一塩尻市川内川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 【上栗原遺跡下大塚遺跡中大塚遺跡(本文編)】一主要地方道前橋・具藤線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 【本郷尺地遺跡】一塩尻市川内川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- 【B4 株木遺跡】一群馬市前橋市跡小林一立石塚第1期事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一 群馬市教育委員会 1984
- 【A1 組之辻遺跡(本文編)】一国道254号線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一 藤岡市教育委員会 1982
- 【森・中+1中2遺跡】一上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第2集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 【早比良平野遺跡 白石根坪遺跡】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第20集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 【幾石の巻跡東平井埋蔵遺跡東平井宮正前遺跡東平井土井下遺跡西平井久保田遺跡】一船道神田・吉井停車場騒音改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 【伊勢塚古墳 十二天塚古墳】群馬県藤岡市教育委員会 1988
- 【本宮・藤土遺跡発掘調査報告書】富岡市教育委員会 1981
- 【上田藤土遺跡・原田藤土遺跡発掘調査報告書】富岡市教育委員会 1984
- 【内区遺跡発掘調査報告書】富岡市教育委員会 1982
- 【野上堀之内遺跡・堀之内城遺跡】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第7集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
- 【田根川上遺跡】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第2集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 【内区諏訪前遺跡・内区日野町地遺跡】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第12集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 【横瀬古墳群】一昭和62-63年度筑波地区土地改良総合整備事業に伴う横瀬古墳群の発掘調査報告書一 富岡市教育委員会 1990
- 【南蛇井増光寺遺跡1(本文編)】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第14集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 【南蛇井増光寺遺跡2(本文編)】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第19集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
- 【南蛇井増光寺遺跡3(本文編)】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第22集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 【南蛇井増光寺遺跡Ⅳ】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第33集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996
- 【南蛇井増光寺遺跡Ⅴ】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第44集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997
- 【前橋遺跡・内出1遺跡・丹生城西遺跡・五分一遺跡・千足遺跡】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書一 富岡市教育委員会 1992
- 【下高瀬上之原遺跡】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第27集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 【上丹生寺塚・山ノ上遺跡 久保田遺跡報告書】富岡市教育委員会1996
- 【小野仏堂遺跡発掘調査報告書】富岡市教育委員会 1995
- 【七日市坂古前遺跡発掘調査報告書】富岡市教育委員会 1994
- 【中高瀬古山遺跡】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第32集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995
- 【宮崎城】富岡市教育委員会 1995
- 【内宮日向坂遺跡 下高瀬寺山遺跡 下高瀬前田遺跡】一岡越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第31集一 1995
- 【和田遺跡】タイコントリッククラブゴルフ場造成事業に伴う発掘調査報告書 1994
- 【一ノ宮出遺跡】発掘調査報告書 1994
- 【根本塚遺跡】一安中市特別老人ホーム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一 安中市教育委員会 1990
- 【新寺地区遺跡群】一一般市道橋本停車場砂浜山線特設改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一 安中市教育委員会 1991
- 【九十九川治岸遺跡群3】一平成3・4年度県営宮園場整備事業九十九川地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一 1994
- 【橋保沢中ノ山遺跡1】一岡越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第22集一 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 【谷内遺跡】二ツ房浮石層下の古墳時代集落一 勢多郡赤城村教育委員会 1975
- 【富士見遺跡部・田中田遺跡・窪谷遺跡・見取遺跡】一昭和58-59年度県営宮園場整備事業富士見地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一 1986
- 【富士見遺跡部・向吹張遺跡・岩之下遺跡・田中遺跡・菅沼遺跡】一昭和60-61年度県営宮園場整備事業富士見地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一 1987
- 【白川遺跡 由森遺跡 久保田遺跡】一昭和62年度県営宮園場整備事業富士見地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一 群馬県勢多郡富士見村教育委員会 1989
- 【天孫山遺跡】一天孫山遺跡発掘調査報告書1 主要地方道前橋・大関支線(別称大関・イノキ)建設の事前埋蔵文化財発掘調査報告書 勢多郡天孫山町教育委員会 1981
- 【白藤古墳群】一船川村文化財報告第10集一 船川村教育委員会 1989
- 【西沼遺跡】一船川村文化財報告第11集一 船川村教育委員会 1990
- 【船塚遺跡】一昭和55年度県営宮園場整備事業船塚地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書(2)一 船川村教育委員会 1988
- 【船田F1】一昭和55年度県営宮園場整備事業に伴う発掘調査報告(1)一 船川村文化財報告第2集 船川村教育委員会 1983

付表 群馬県内出土の紡錘車一覧表

「南天空道跡 発掘調査報告書(図説編)」 新道村教育委員会 1981

「奉印道跡」-里積み集落の発掘調査- 新里村教育委員会 1985

「水沼道跡(倉部村誌別冊1975

「生原・青龍寺前道跡」 箕郷町教育委員会 1986

「海行A・B道跡」-早宮園地整備に伴う生沼道跡群の調査- 箕郷町教育委員会 1988

「上野国分寺・尼寺中間地域(2)本文編」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書20集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988

「上野国分寺・尼寺中間地域(3)本文編」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書24集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989

「上野国分寺・尼寺中間地域(4)本文編(1)」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書33集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

「上野国分寺・尼寺中間地域(5)本文編」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書35集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991

「上野国分寺・尼寺中間地域(6)本文編」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書37集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992

「上野国分寺・尼寺中間地域(7)本文編」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書38集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992

「関分堤道跡」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書34集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

「北野道跡(本部編)」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書(KC-1)- 群馬町教育委員会 1986

「三ツツ上道跡(本分編)」-上越新幹線開区埋蔵文化財発掘調査報告書第8集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988

「三ツツ中道跡 資料編1」-上越新幹線開区埋蔵文化財発掘調査報告書第13集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

「三ツツ中道跡」-飯沼田道跡・中風天降塚古墳(第1分冊)-上越新幹線開区埋蔵文化財発掘調査報告書第5集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985

「上野国分寺隣接地域発掘調査報告書」-奈良・平安時代の歴史区画等の調査- 群馬県教育委員会 1979

「西越北道跡」-群馬町埋蔵文化財発掘調査報告書第25集- 群馬町教育委員会 1989

「保田道跡群」-第7次発掘調査報告(1)群馬町埋蔵文化財発掘調査報告書第24集- 群馬町教育委員会 1989

「西谷分道跡群(西谷2道跡)」-土地改良組合整備事業西谷分地区に於ける埋蔵文化財発掘調査報告 群馬町埋蔵文化財発掘調査報告書第28集 群馬町教育委員会 1990

「保田東道跡」-群馬町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集- 群馬町教育委員会 1986

「井手村東道跡」-上越新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3分冊の2 抄録編- 群馬町井手村東道跡調査会 1983

「保田西・天神前道跡」-群馬町埋蔵文化財発掘調査報告書第21集- 群馬町教育委員会 1988

「中津道跡調査概要」-群馬町埋蔵文化財発掘調査報告書第6巻- 群馬町教育委員会 1983

「小池道跡」-群馬町埋蔵文化財調査報告書第33集- 群馬町教育委員会 1992

「三ツツ中道跡」-飯沼田道跡・中風天降塚古墳(第2分冊)-上越新幹線開区埋蔵文化財発掘調査報告書第5集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985

「堤上道跡本文編」-群馬町埋蔵文化財調査報告書第37集- 群馬県群馬町教育委員会1995

「藤沼西道跡」-群馬町埋蔵文化財調査報告書第39集- 群馬町教育委員会 1995

「黒馬平道跡1」-磐石下の古墳時代集落の調査- 子持村文化財調査報告書2集 北群馬郡子持村教育委員会 1985

「白井道跡1」-一般国道117(磐城バイパス)改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994

「大久保入道跡1区」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書K-C-2(第1分冊)- 北群馬郡吉岡村教育委員会 1986

「大久保入道跡2区」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書K-C-2(第2分冊)- 北群馬郡吉岡村教育委員会 1986

「七市道跡・滝沢道跡・水塚道跡」-上野国分寺道跡(新潟編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書K-C-2(第3分冊)- 北群馬郡吉岡村教育委員会 1986

「金竹西道跡」-主要地方道前橋-伊香保線道路改良工事に伴う発掘調査報告書 吉井町教育委員会 1994

「熊野・辺玉道跡」-主要地方道前橋-伊香保線道路改良工事に伴う発掘調査報告書 吉井町教育委員会 1995

「川内道跡調査報告書」 吉井町教育委員会 1986

「川内道跡発掘調査報告書」 吉井町教育委員会 1982

「東沢上道跡」-群馬県立博物館研究報告書第8集- 吉井町教育委員会 1974

「入野道跡」-拓殖高等学- 吉井町教育委員会 1982

「入野道跡(図説編・本文編)」-入野中学校校舎新築に伴う埋蔵文化財調査報告書- 吉井町教育委員会 1985

「榊田道跡発掘調査報告書」-吉井町文化財調査報告書第21集- 吉井町教育委員会 1989

「黒馬道跡群発掘調査報告書(3)図説編・本文編」 吉井町教育委員会 1984

「黒馬道跡群発掘調査報告書(4)」 吉井町教育委員会 1985

「黒馬道跡群発掘調査報告書(5)」 吉井町教育委員会 1985

「椿谷道跡群発掘調査報告書」 吉井町教育委員会 1989

「東沢道跡・折友道跡」 吉井町教育委員会 1987

「長根引田倉道跡(本文編)」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第3集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

「矢田道跡」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第4集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

「矢田道跡I」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第6集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991

「矢田道跡II」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第9集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992

「矢田道跡IV」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第17集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993

「矢田道跡V」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第24集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994

「矢田道跡VI」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第34集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996

「矢田道跡VII」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第45集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997

「矢田道跡VIII」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第43集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997

「神保下道跡」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992

「神保下上道跡(本文編)」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993

「多湖道跡古墳群・奈良・平安時代の集落跡の調査(本文編)」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第15集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993

「黒馬東道跡」-上野国分寺道跡(上越編)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第29集- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995



## 第7章 調査成果の整理とまとめ

- 「黒川中西道跡(2)―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第25集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 「多比良平野道跡・白石根平道跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第20集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 「多比良高野道跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第40集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997
- 「群馬県農業部抄裁時 抄裁部道跡群(2)―発掘調査報告書― 抄裁町教育委員会 1989
- 「古立山道跡 古立中村道跡 八木連井武道跡 八木港友道跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 抄裁町道跡調査会1990
- 「門前道跡―鶴川武蔵における滑石製品出土道跡の研究― 群馬県立博物館 1966
- 「甘楽町埋蔵文化財発掘調査報告書甘楽町北部地区に於ける埋蔵文化財発掘調査報告書第6集 甘楽町教育委員会 1989
- 「白倉下原道跡・天引内原道跡①―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第26集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 「天引内原道跡②―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第39集―1996
- 「善度寺早道場道跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第29集―1994
- 「天神道跡・天神日道跡・西原道跡・松基菩提寺道跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 「松井田工業団地道跡(遺構編) 松井田町教育委員会 1990
- 「愛宕山道跡(高桑台)群馬県史 資料編2 原始古代2― 群馬県 1986
- 「門前道跡・外海戸道跡 高野原道跡―公共開発関連出土品等整理報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 「前道跡・鎌倉道跡―関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第28集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 「後田道跡2(本文編)―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第23集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 「十二原・大原・前中原道跡―上越新幹線区埋蔵文化財発掘調査報告書第1集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
- 「大原2道跡・村主道跡―一般国道17号線(月夜野・イバス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 「藪田東道跡―国道291号踏切改良工事地域埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 「城平道跡・源次道跡―一般国道17号線(月夜野・イバス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
- 「新1・2・3道跡―上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第7集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 「藪田道跡―上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第4集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 「大竹道跡―関越自動車道(新潟線)月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書 1985
- 「赤井宮前道跡1―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第8集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 「中郷道跡・長井坂道跡―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書(KC-2) 昭和村教育委員会 1985
- 「下輪向井道跡発掘調査外報―今井南郡土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告 群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告13― 赤堀村教育委員会 1980
- 「鶴山古墳群及び北道、東風道跡発掘調査概報―伊勢崎北部土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告 群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告20― 赤堀村教育委員会 1982
- 「多田山道跡発掘調査概報―今井北部土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告 群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告17― 赤堀村教育委員会 1981
- 「下輪牛伏道跡―身体障害者スポーツセンター建設予定地埋蔵文化財発掘調査報告書 ― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 「今井柳田山道跡発掘調査概報―今井南郡土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告 群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告18― 赤堀村教育委員会 1981
- 「五豆子新水田道跡(古代・中近世)一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
- 「八寸大造道跡―一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 「下野名原道跡(本文編)―一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
- 「今井井道跡―一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- 「西今井道跡―早川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 「上野名原神谷道跡・三室間ノ谷道跡―一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
- 「三ツ木道跡―一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 「三ツ木道跡―早川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 「辻崎十三室塚道跡―(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第134集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 「上之手八王子道跡 群馬県佐波郡五村町教育委員会 1991
- 「小内田前道跡―一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 「栗岡伏道跡―一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
- 「東田道跡―新田町文化財調査報告書第9― 新田町教育委員会 1987
- 「台道跡―高尾西郷塚関係事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 新田町文化財調査報告書第10冊― 新田町教育委員会 1988
- 「下田中道道跡・下田中川久保道跡―国道354号改築(改良)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集― (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 「伊勢ノ木・小保呂道跡発掘調査報告書 板倉町教育委員会 1985

## 第7節 まとめ

矢田遺跡の調査対象面積は約90,000㎡である。発掘調査は昭和61年度から開始され、平成2年度中頃で土地問題の未解決等部分を残してほぼ終了し、残された一部は平成3年度で終了した。整理事業は平成元年度より調査と平行して行うこととし、これまでに『矢田遺跡』『矢田遺跡II』『矢田遺跡III』『矢田遺跡IV』『矢田遺跡V』『矢田遺跡VI』の6冊の報告書が刊行されてきた。本報告書の『矢田遺跡VII』をもって旧石器時代の遺構と遺物・縄文時代から平安時代のすべての住居の報告が終了する。住居以外の遺構と遺物は『矢田遺跡VIII』で本報告書とともに刊行される。

本報告書をもって古墳時代から平安時代までの住居のすべてが終了する。そこでこれまで報告されてきた古墳時代から平安時代までの住居について、第7章第1節「古墳～平安時代の住居について」の中で検討した。この中で時期不明や住居状況を含めた750軒の住居の基礎資料を19ページにわたり一覧表でまとめた。報告書の番号も表示し、7冊に分かれた住居の検索にも使用できるようにした。第2節では新潟大学的小林先生より玉稿をいただき「矢田遺跡における6世紀後半集落の成立」を載せることが出来た。

出土土器については第3節「矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について」の中で「矢田遺跡VI」で明かにした弥生時代終末期から古墳時代前期・中期・後期にわたる土器編年の統編を試みた。

第4節では「矢田遺跡における紡錘車の所有形態について」で律令期において急激に増加した紡錘車の所有形態について触れた。第5節では「群馬県内出土紡錘車の編年」で紡錘車の形や材質がどのように変化してきたかについて記述した。紡錘車編年図を2枚作成し付図として添付したので付表として掲載した1246個の「群馬県出土の紡錘車一覧表」とともに今後の紡錘車の研究に役立てて欲しい。

実質的な調査期間約4年半の期間と7年間の整理期間が全て終了し、矢田遺跡の調査は終了した。調査終了により一体何が明らかになったのかと問われると、一抹の不安がある。以下に思いつくまま明らかになった成果について記してみた。

- ◎ 発掘された750軒の住居数は県内でも特に多く、矢田地域の古墳時代後期から平安時代までの中心的な集落であった。
- ◎ 出土した土器により、従来吉井町で明らかにされてきたこの地域の土器編年を、補強しある程度明確なものとする事が出来た。
- ◎ 「八田郷」と書かれていた多くの紡錘車や墨書土器等の文字資料により、発掘されて地域が、奈良・平安時代において『続日本紀』や『倭名類聚』に記載されていた上野国多胡郡八田郷と呼ばれていた行政区域であったことが明らかにされた。
- ◎ 115個という県内最大出土量の紡錘車の分析から矢田遺跡では律令時代特に7世紀後半から8世紀後半の時期には、おそらく調庸布の生産に必要な糸を、日常生活に必要とされる約4倍の紡錘車を使用し大量に糸生産を行っていた。
- ◎ 平安時代11世紀の住居121号住居より出土した炭化したおそらく染色されていたであろう絹の布の存在から、矢田遺跡の住民は高級織物の存在を知り所有していたことが明らかにされた。

多胡郡の郡衙は多胡碑の作られている周辺に想定されているが、現状では不明である。多胡碑周辺は低地であり、現在までの発掘調査で確認された住居は、平安時代後半が多く多胡郡が建郡されたころの集落は確認されていない。

多胡郡の問題は今回の関越道上位越自動車道建設に伴う多くの発掘調査が終了し、刊行された多くの報告

## 第7章 調査成果の整理とまとめ

書の分析により、今後しだいに明らかにされてゆくものと思われる。矢田遺跡も本年刊行される『矢田遺跡VII』『矢田遺跡VIII』の報告書をもって終了するが、8冊の報告書の分析は今後の作業となろう。

最後に、関係機関はもとより、酷暑や厳寒の中で実際の調査に従事した発掘作業員及び遺構・遺物の整理作業に携わった整理補助員等多くの方々への協力を感謝してまとめとしたい。

## 発掘報告書抄録

フリガナ	ヤタイセキ
書名	矢田遺跡Ⅶ
副書名	関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第45集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第220集
編著者名	中沢 悟 小林 昌二
編集機関	群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784- 2
発行年月日	西暦1997年3月25日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
矢 田	多野郡吉井町大字矢田・大字多胡	103632	10005-0124	361427	1385945	19860401-19900827 19911105-19911126	90,000	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
矢 田	集 落	古墳時代中期	竪穴住居跡 3	土師器甕・坏	古墳時代後期～奈良・平安時代を中心とした集落址 奈良時代を主としこれまで報告できなかった古墳時代・平安時代の竪穴住居跡と時期不明及び住居状遺構を報告 今回は住居跡編最終刊行
		古墳時代後期	竪穴住居跡 40	須恵器坏	
		奈良時代	竪穴住居跡 125	須恵器坏蓋	
		平安時代	竪穴住居跡 7	石製紡錘車	
		時期不明	竪穴住居跡 21		
			住居状遺構 13		



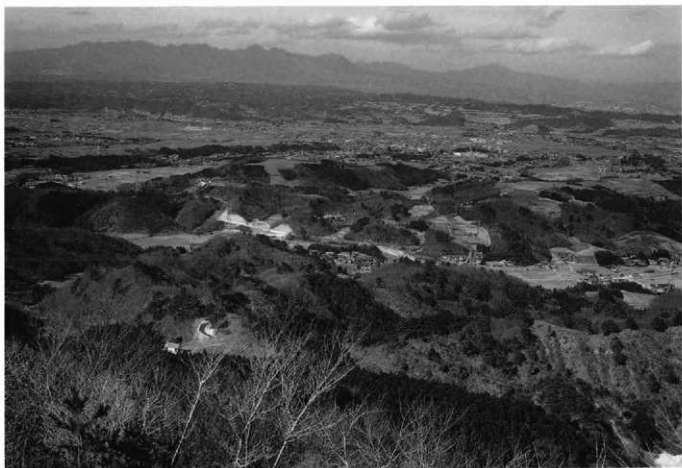
# 写 真 图 版





矢田遺跡全景航空写真（合成）（上が東）





矢田遺跡遠景（牛伏山から）



調査終了間近の矢田遺跡（西から）（平成2年11月）



第4・5次調査区（南側丘陵上から）



第1・3次調査区（東から）



第1～第4次調査区住居群（西から）



第4次調査区住居群（西から）



第1次調査区航空写真 (昭和61年9月)



第2次調査区航空写真 (昭和61年9月)



第3次調査区航空写真 (昭和61年12月)



第3次調査区航空写真 (昭和62年3月)



第4次調査区航空写真(昭和62年10月)



第5次調査区航空写真(昭和63年3月)



第5・6次調査区航空写真(昭和63年10月)



第7次調査区航空写真(平成元年2月)



第7次調査区航空写真 (平成元年6月)



第8次調査区航空写真 (平成元年12月)





第8次調査区航空写真（北側は榑谷戸遺跡）（平成元年8月）



第7・8次調査区航空写真（平成元年9月）



第8次調査区航空写真(当初未買地区)(平成2年5月)



第9次調査区航空写真(平成2年3月)



第10次調査区航空写真（平成2年5月）



第11次調査区航空写真（平成2年6月）



第12次調査区東側航空写真（矢田遺跡最東端）（平成2年8月）



第12次調査区西側航空写真（平成3年11月）



2号住居跡全景 (西から)



2号住居跡新東廂 (西から)



2号住居跡旧北廂 (南から)



9号住居跡全景 (西から)



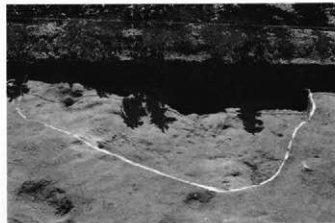
9号住居跡貯蔵穴付近遺物出土状況 (西から)



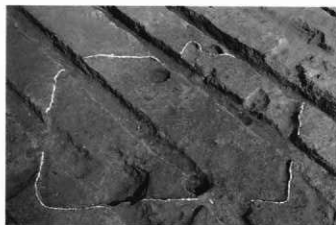
9号住居跡 (西から)



9号住居跡床下全景 (西から)



10号住居跡全景



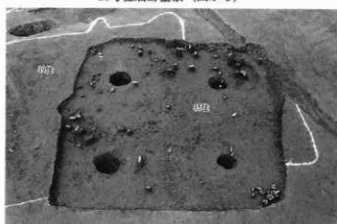
26号住居跡全景（西から）



28号住居跡全景（西から）



28号住居跡床下全景（西から）



35号住居跡全景（西から）



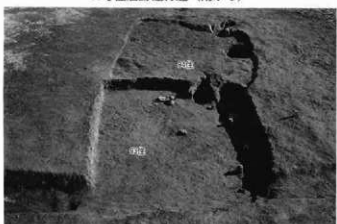
35号住居跡南西コーナー遺物出土状況（北から）



35号住居跡窟付近（南から）



35号住居跡床下全景（西から）



93号住居跡全景（西から）



93号住居跡貯蔵穴付近 (西から)



93号住居跡竈 (西から)



93号住居跡床下全景 (北から)



128号住居跡全景 (西から)



128号住居跡床下全景 (西から)



161号住居跡全景 (西から)



161号住居跡床面中央部付近 (北から)



161号住居跡竈 (西から)



161号住居跡床下全景 (西から)



166号住居跡全景 (西から)



166号住居跡貯蔵穴付近 (西から)



166号住居跡新東竈 (西から)



166号住居跡新東竈 (東燧道部方向から)



166号住居跡全景 (遺物除去後) (西から)



166号住居跡床下全景 (西から)



178号住居跡全景 (西から)





178号住居跡遺物出土状況（南西から）



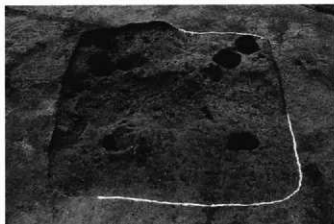
178号住居跡床下全景（南から）



193号住居跡全景（西から）



193号住居跡竈左袖付近遺物出土状況（西から）



193号住居跡床下全景（西から）



286号住居跡全景（西から）



286号住居跡遺物出土状況（東から）



286号住居跡遺物出土状況（南から）



286号住居跡遺物出土状況（北から）



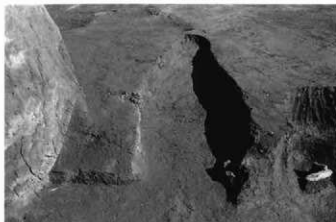
286号住居跡床下全景（南から）



291号住居跡全景（南から）



291号住居跡断セクション（南から）



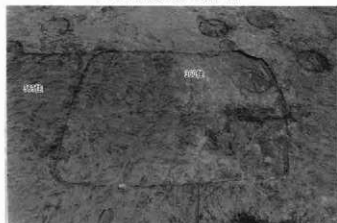
291号住居跡断（南から）



345号住居跡全景（南から）



345号住居跡断（西から）



360号住居跡全景（西から）



365号住居跡全景（西から）



365号住居跡遺物出土状況（西から）



365号住居跡竈（西から）



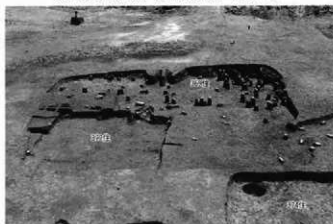
365号住居跡竈袖石（西から）



365号住居跡全景（遺物除去後）（西から）



365号住居跡床下全景（西から）



369号住居跡全景（西から）



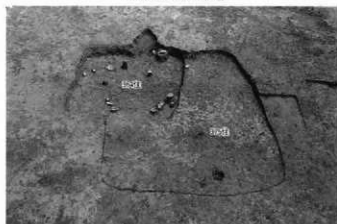
369号住居跡新北竈（南から）



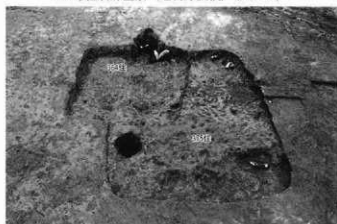
369号住居跡旧東端



369号住居跡全景（遺物除去後）（西から）



375号住居跡全景（西から）



375号住居跡床下全景（西から）



411号住居跡全景（西から）



411号住居跡竈（西から）



411号住居跡竈断剖セクション（西から）



411号住居跡床下セクション（西から）



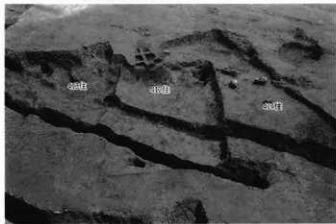
412号住居跡全景 (西から)



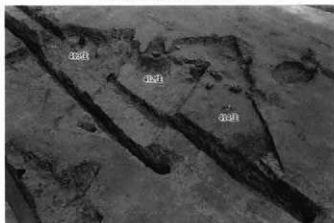
412号住居跡紡車出土状況 (西から)



412号住居跡竈 (西から)



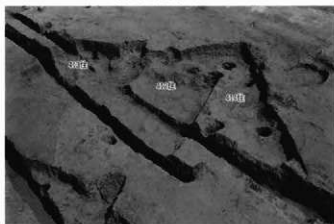
412号住居跡床下全景 (西から)



414号住居跡全景 (西から)



414号住居跡竈 (西から)



414号住居跡床下全景 (西から)



440号住居跡全景



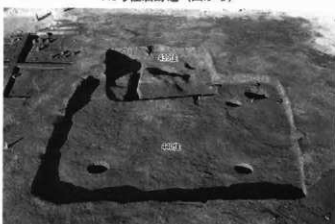
440号住居跡遺物出土状況 (西から)



440号住居跡竈 (西から)



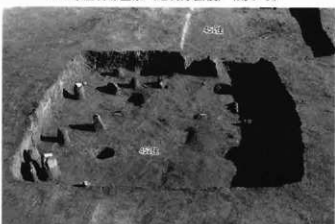
440号住居跡遺物出土状況 (北西から)



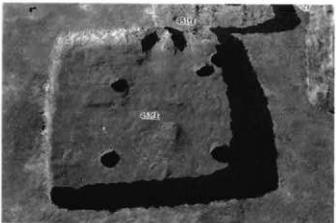
440号住居跡全景 (遺物除去後) (南から)



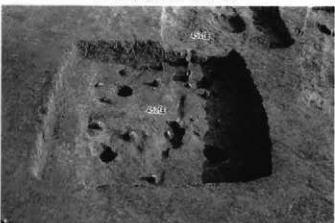
440号住居跡床下セクション (南から)



452号住居跡全景 (西から)



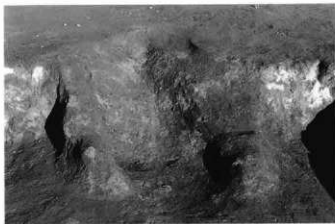
452号住居跡全景 (遺物除去後) (西から)



452号住居跡床下全景 (西から)



463号住居跡全景（西から）



463号住居跡竈（西から）



468号住居跡全景（西から）



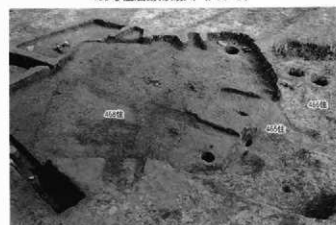
468号住居跡遺物出土状況（西から）



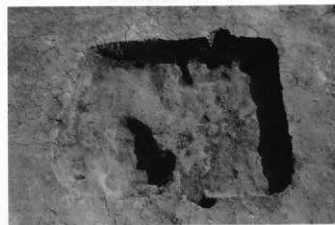
468号住居跡貯蔵穴（西から）



468号住居跡竈（西から）



468号住居跡全景（遺物除去後）（西から）



470号住居跡全景（西から）



470号住居跡セクション (南から)



470号住居跡床下セクション (南から)



472号住居跡全景 (西から)



472号住居跡壺 (西から)



474号住居跡全景 (南から)



484号住居跡全景 (西から)



484号住居跡電セクション (西から)

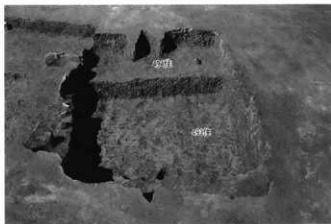


484号住居跡壺付近 (西から)





484号住居跡竈掘り方（西から）



494号住居跡全景（東から）



503号住居跡全景（西から）



503号住居跡竈（西から）



503号住居跡床下全景（南から）



537号住居跡全景（西から）



537号住居跡床下全景（西から）



542号住居跡全景（西から）



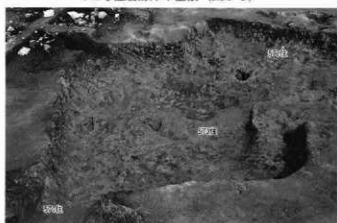
542号住居跡遺物出土状況（南から）



542号住居跡床下全景（西から）



573号住居跡全景（西から）



573号住居跡床下全景（西から）



636号住居跡全景（西から）



636号住居跡電付近（西から）



636号住居跡遺物出土状況（北から）



636号住居跡全景（遺物除去後）（西から）



636号住居跡床下全景（西から）



714・715号住居跡全景（西から）



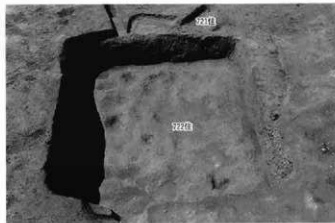
714号住居跡南壁面付近遺物出土状況（北から）



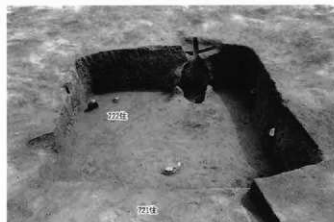
714号住居跡壘（南から）



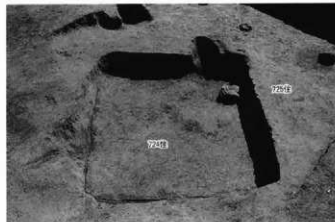
714・715号住居跡床下全景（南から）



721・722号住居跡全景（東から）



722号住居跡全景（西から）



724号住居跡全景（西から）



724号住居跡遺付近 (西から)



729号住居跡全景 (西から)



729号住居跡遺セクション (南から)



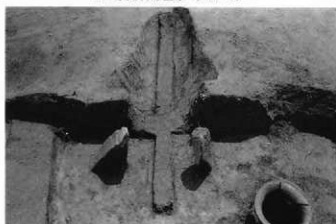
729号住居跡遺 (西から)



734号住居跡全景 (西から)



734号住居跡遺 (西から)



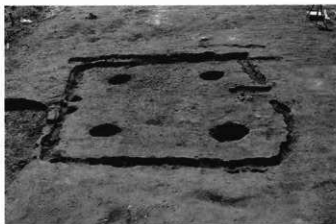
734号住居跡遺セクション (西から)



751号住居跡全景 (西から)



11号住居跡全景 (西から)



11号住居跡全景 (遺物除去後) (東から)



11号住居跡窟 (南から)



11号住居跡床下全景 (西から)



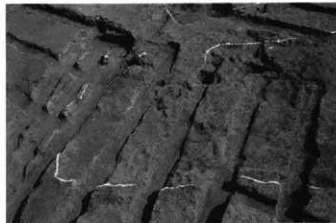
19号住居跡全景 (西から)



19号住居跡貯蔵穴 (西から)



24号住居跡全景 (西から)



25号住居跡全景 (西から)



29号住居跡全景（西から）



29号住居跡床下全景（西から）



61号住居跡全景（西から）



61号住居跡南西コーナー遺物出土状況（北東から）



61号住居跡新東廬（西から）



61号住居跡旧北廬周辺（南東から）



61号住居跡床下全景（西から）



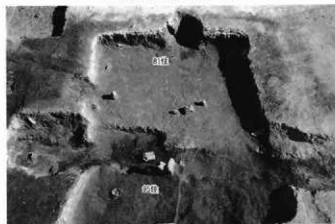
80号住居跡全景（西から）



80号住居跡竈（南から）



80号住居跡床下全景（西から）



81号住居跡全景（西から）



81号住居跡貯蔵穴付近（北西から）



81号住居跡竈（西から）



81号住居跡床下全景（南から）



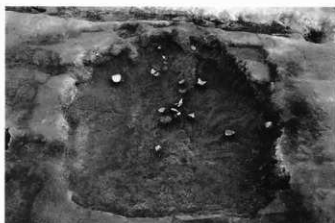
82号住居跡全景（西から）



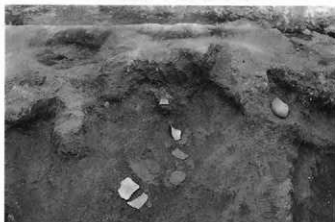
82号住居跡竈（西から）



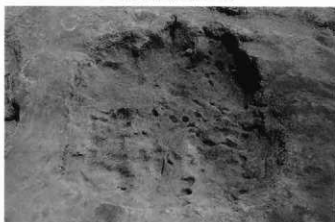
82号住居跡床下全景（南から）



84号住居跡全景（西から）



84号住居跡窟（西から）



84号住居跡床下全景（西から）



88号住居跡全景（西から）



88号住居跡窟（西から）



88号住居跡床下全景（西から）



95号住居跡全景（西から）





95号住居跡床下全景 (南から)



96号住居跡全景 (西から)



96号住居跡遺物出土状況 (西から)



96号住居跡床下全景 (西から)



110号住居跡全景 (西から)



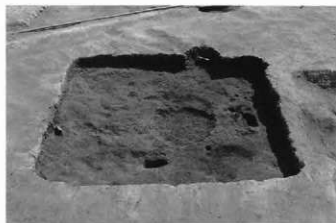
110号住居跡床下全景 (西から)



112号住居跡全景 (西から)



112号住居跡遺 (西から)



112号住居跡床下全景 (西から)



116号住居跡全景 (西から)



116号住居跡床下全景 (西から)



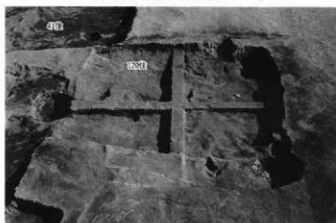
120号住居跡全景 (西から)



120号住居跡貯蔵穴付近 (北西から)



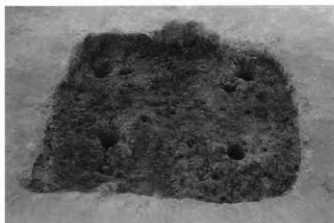
120号住居跡壺 (北西から)



120号住居跡床下セクション (西から)



131号住居跡全景 (西から)



131号住居跡床下全景（西から）



136号住居跡全景（西から）



136号住居跡竈付近（北から）



136号住居跡床下全景（西から）



159号住居跡全景（西から）



159号住居跡床下全景（西から）



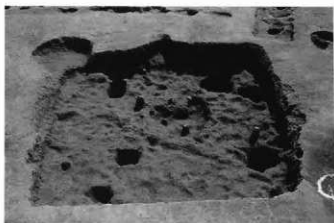
169号住居跡全景（西から）



169号住居跡貯蔵穴（西から）



169号住居跡窟 (西から)



169号住居跡床下全景 (西から)



170号住居跡全景 (西から)



172号住居跡全景 (西から)



172号住居跡窟 (西から)



172号住居跡窟 (北から)



172号住居跡床下全景 (西から)



174号住居跡全景 (西から)



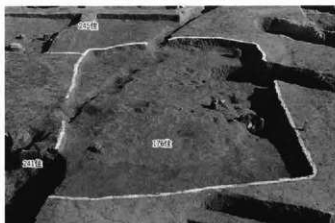
174号住居跡貯蔵穴付近 (西から)



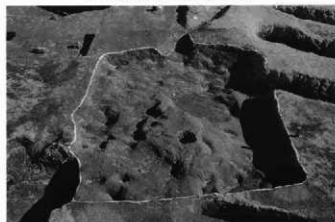
174号住居跡窟 (西から)



174号住居跡床下全景 (西から)



176号住居跡全景 (西から)



176号住居跡床下全景 (西から)



179号住居跡全景 (西から)



179号住居跡北側付近 (西から)



179号住居跡南西コーナー付近 (北東から)



179号住居跡北東コーナー付近（南西から）



179号住居跡竈（西から）



179号住居跡竈（南西から）



179号住居跡竈（北西から）



179号住居跡竈（上から）



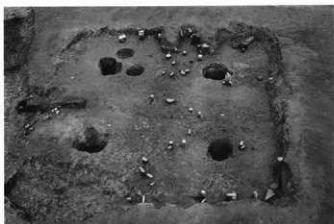
179号住居跡竈中心部（西から）



179号住居跡竈左袖断面（北から）



179号住居跡床下全景（西から）



180号住居跡全景（南から）



180号住居跡北東コーナー付近（西から）



180号住居跡竈（南東から）



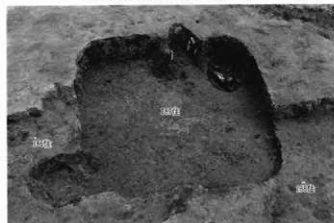
180号住居跡床下全景（南から）



185号住居跡床下全景（南から）



187号住居跡遺物出土状況（西から）



187号住居跡全景（西から）



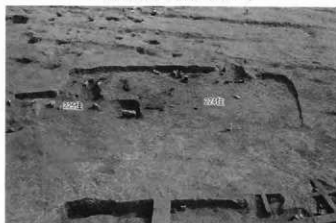
187号住居跡竈（西から）



167号住居跡床下全景（西から）



222号住居跡全景（西から）



224号住居跡全景（西から）



224号住居跡竈（西から）



241号住居跡全景（西から）



241号住居跡南壁付近（北西から）



241号住居跡竈（1）（西から）



241号住居跡竈（2）（西から）





246号住居跡全景（西から）



246号住居跡貯蔵穴（上から）



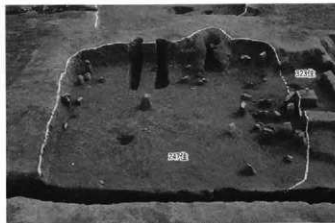
246号住居跡竈付近（南から）



246号住居跡竈（西から）



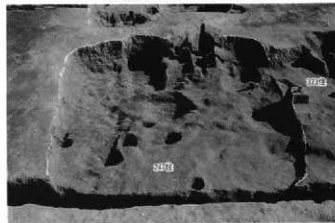
246号住居跡床下全景（西から）



247号住居跡全景（西から）



247号住居跡竈（西から）



247号住居跡床下全景（西から）



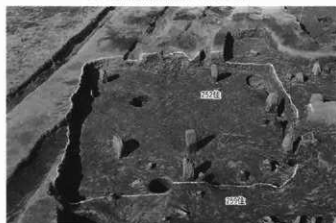
248号住居跡全景（西から）



248号住居跡竈付近（西から）



248号住居跡床下全景（西から）



252号住居跡全景（南から）



252号住居跡床下全景（南から）



253号住居跡全景（南から）



253号住居跡竈（西から）



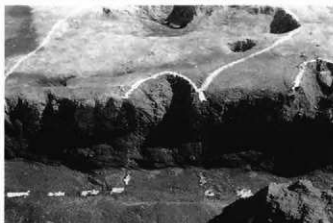
253号住居跡床下全景（南から）



254号住居跡全景（西から）



254号住居跡新東室（西から）



254号住居跡旧東室（西から）



254号住居跡床下全景（西から）



273号住居跡全景（西から）



273号住居跡窟（西から）



273号住居跡床下全景（西から）



299号住居跡全景（南から）



299号住居跡窟 (南から)



299号住居跡床下全景 (西から)



315号住居跡全景 (南から)



315号住居跡窟 (南から)



315号住居跡床下全景 (南から)



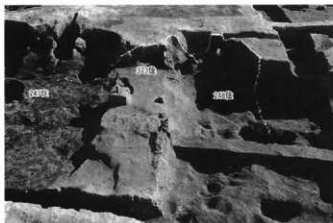
322号住居跡全景 (西から)



322号住居跡窟 (西から)



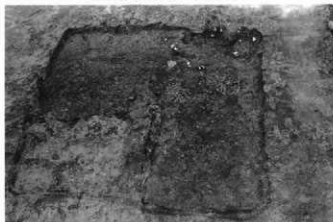
322号住居跡床下全景 (西から)



323号住居跡全景 (西から)



323号住居跡竈 (西から)



336号住居跡全景 (西から)



336号住居跡竈北側遺物出土状況 (西から)



336号住居跡竈 (西から)



341号住居跡全景 (西から)



349号住居跡全景 (西から)



349号住居跡竈(1) (西から)



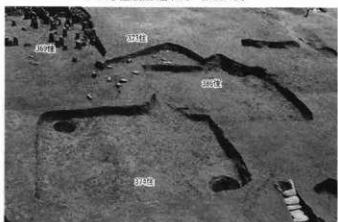
349号住居跡竈(2) (西から)



349号住居跡竈(3) (西から)



349号住居跡竈(4) (上から)



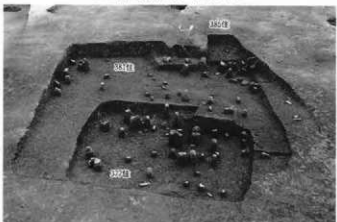
373号住居跡全景 (西から)



378号住居跡全景 (西から)



378号住居跡竈 (西から)



381号住居跡全景 (西から)



381号住居跡竈(1) (西から)



381号住居跡竈(2) (西から)



381号住居跡竈(3) (西から)



381号住居跡復元竈(1) (西から)



381号住居跡復元竈(2) (北西から)



390号住居跡全景 (西から)



390号住居跡右袖付近遺物出土状況 (南から)



390号住居跡竈付近 (西から)



392号住居跡全景 (西から)



392号住居跡窟 (西から)



392号住居跡床下全景 (西から)



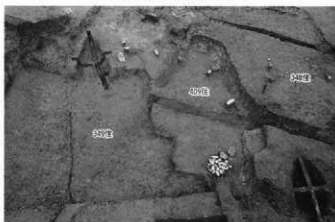
399号住居跡全景 (南から)



399号住居跡窟 (南から)



399号住居跡床下全景 (南から)



409号住居跡全景 (西から)



413号住居跡全景 (西から)



429号住居跡全景 (南から)





431号住居跡全景（西から）



436号住居跡全景（西から）



436号住居跡床下全景（西から）



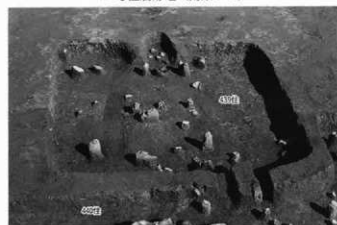
438号住居跡全景（南から）



438号住居跡竈（南東から）



438号住居跡床下全景（南から）



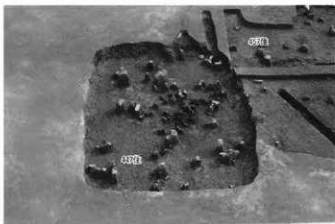
439号住居跡全景（南から）



439号住居跡竈（南から）



439号住居跡床下全景（南から）



447号住居跡全景（西から）



447号住居跡遺物出土状況（西から）



447号住居跡竈（西から）



447号住居跡床下全景（西から）



455号住居跡全景（南から）



455号住居跡竈（南から）



458号住居跡全景（西から）



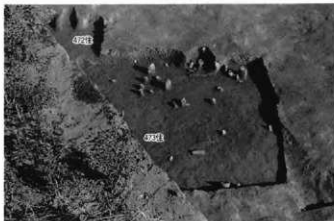
458号住居跡遺物出土状況（西から）



458号住居跡竈（西から）



458号住居跡全景（遺物除去後）（西から）



473号住居跡全景（西から）



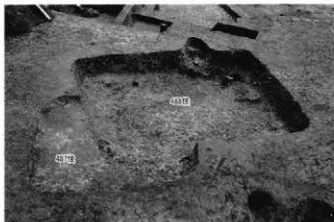
473号住居跡竈（西から）



473号住居跡床下全景（西から）



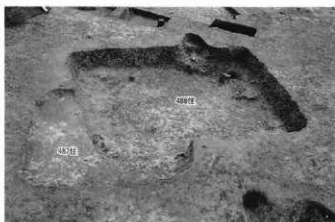
487号住居跡全景（西から）



488号住居跡全景（西から）



488号住居跡竈付近 (西から)



488号住居跡床下全景 (西から)



490号住居跡全景 (西から)



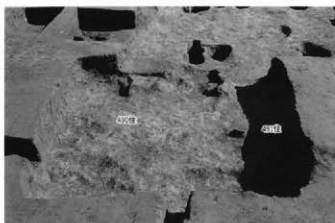
490号住居跡左袖外側遺物出土状況 (西から)



490号住居跡右袖外側遺物出土状況 (西から)



490号住居跡 (西から)



490号住居跡床下全景 (西から)



493号住居跡全景 (西から)



493号住居跡遺物出土状況(南から)



493号住居跡床下全景(西から)



496号住居跡全景(西から)



496号住居跡竈(1)(西から)



496号住居跡竈(2)(西から)



496号住居跡竈掘り方セクション(西から)



496号住居跡床下全景(西から)



507号住居跡全景(西から)



507号住居跡竈付近（西から）



507号住居跡床下全景（西から）



516号住居跡全景（東から）



516号住居跡床下全景（東から）



522号住居跡全景（南から）



522号住居跡竈（南から）



522号住居跡竈断面セクション（南から）



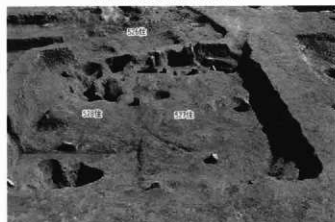
522号住居跡床下全景（南から）



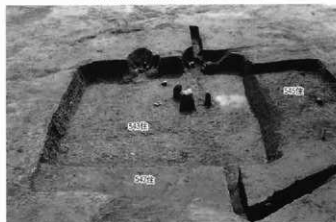
527号住居跡全景（西から）



527号住居跡遺物出土状況（西から）



527号住居跡床下全景（西から）



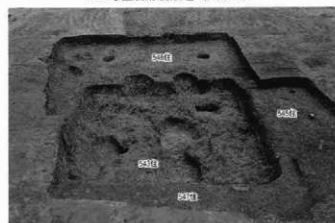
543号住居跡全景（西から）



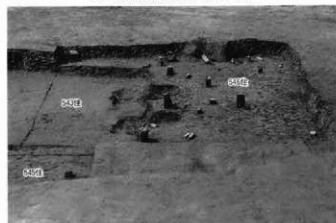
543号住居跡新東電（西から）



543号住居跡旧東電（西から）



543号住居跡床下全景（西から）



546号住居跡全景（南から）



546号住居跡南壁面付近遺物出土状況（北から）



546号住居跡竈（南から）



550号住居跡全景（東から）



550号住居跡竈（南から）



551号住居跡全景（西から）



551号住居跡床下全景（西から）



552号住居跡全景（西から）



552号住居跡竈（西から）





552号住居跡電掘り方(1) (西から)



552号住居跡電掘り方(2) (南から)



552号住居跡電掘り方(3) (北から)



552号住居跡床下全景 (西から)



555号住居跡全景 (北から)



557号住居跡全景 (西から)



557号住居跡遺物出土状況 (西から)



557号住居跡電 (西から)



559号住居跡全景（南から）



559号住居跡竈（南から）



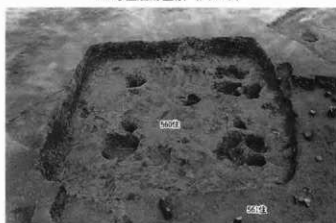
559号住居跡床下全景（南から）



560号住居跡全景（西から）



560号住居跡竈（西から）



560号住居跡床下全景（西から）



565号住居跡床下全景（西から）



565号住居跡南東部分遺物出土状況（北から）



565号住居跡竈(1) (南から)



565号住居跡竈(2) (南から)



571号住居跡全景 (西から)



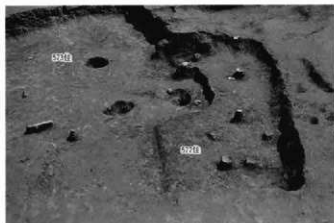
571号住居跡遺物出土状況 (北から)



571号住居跡竈 (西から)



571号住居跡床下全景 (西から)



572号住居跡全景 (南から)



572号住居跡床下全景 (南から)



577号住居跡床下全景（西から）



577号住居跡窟（西から）



583号住居跡全景（南から）



583号住居跡床下全景（南から）



593号住居跡全景（西から）



593号住居跡窟（西から）



594号住居跡全景（西から）



594号住居跡床下全景（西から）



598号住居跡全景 (南から)



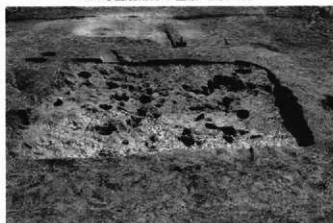
599号住居跡全景 (南から)



599号住居跡床下全景 (南から)



605号住居跡全景 (西から)



605号住居跡床下全景 (西から)



611号住居跡全景 (西から)



611号住居跡窟 (西から)



611号住居跡床下全景 (西から)



614号住居跡全景 (西から)



616号住居跡床下全景 (西から)



616号住居跡電付近 (西から)



617号住居跡全景 (南から)



617号住居跡全景 (西から)



617号住居跡遺物出土状況 (西から)



617号住居跡竪 (南から)



617号住居跡床下全景 (西から)



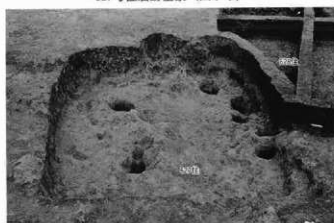
618号住居跡全景（東から）



627号住居跡全景（西から）



627号住居跡竈（西から）



627号住居跡床下全景（西から）



628号住居跡全景（西から）



628号住居跡遺物出土状況（西から）



628号住居跡貯蔵穴付近遺物出土状況（北から）



628号住居跡遺物出土状況（東から）



628号住居跡新東室 (西から)



628号住居跡電掘り方 (西から)



628号住居跡床下全景 (西から)



634号住居跡全景 (西から)



634号住居跡貯蔵穴付近 (西から)



634号住居跡貯蔵穴 (西から)



634号住居跡 (西から)



634号住居跡床下全景 (西から)





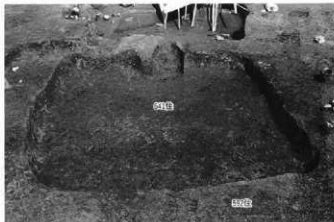
639号住居跡全景（西から）



639号住居跡竈（西から）



639号住居跡床下全景（西から）



641号住居跡全景（西から）



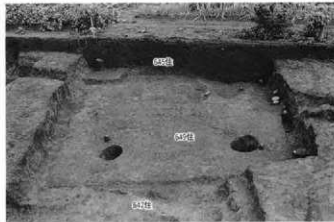
645号住居跡全景（東から）



648号住居跡全景（西から）



648号住居跡床下全景（西から）



649号住居跡全景（西から）



655号住居跡全景 (西から)



655号住居跡竈 (西から)



665号住居跡全景 (西から)



671号住居跡全景 (西から)



671号住居跡床下全景 (西から)



701号住居跡全景 (西から)



710号住居跡全景 (北から)



713号住居跡全景 (西から)



713号住居跡床下全景 (西から)



717号住居跡全景 (南から)



717号住居跡新北竈 (南から)



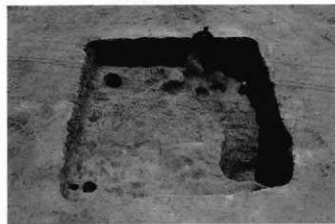
717号住居跡床下全景 (南から)



727号住居跡全景 (西から)



727号住居跡竈左袖外側部分遺物出土状況 (西から)



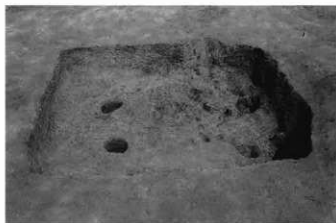
727号住居跡床下全景 (西から)



728号住居跡全景 (西から)



728号住居跡竈 (西から)



728号住居跡床下全景 (西から)



730号住居跡全景 (西から)



730号住居跡竈 (西から)



730号住居跡床下全景 (西から)



731・736号住居跡全景 (西から)



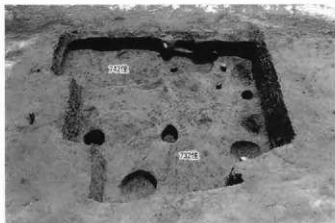
731号住居跡遺物出土状況 (北から)



731・736号住居跡床下全景 (西から)



732・742号住居跡全景（西から）



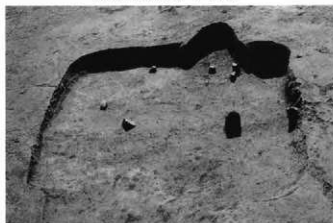
732・742号住居跡床下全景（西から）



733号住居跡全景（西から）



733号住居跡床下全景（西から）



737号住居跡全景（西から）



737号住居跡床下全景（西から）



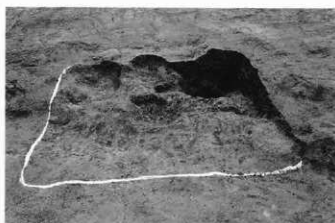
744号住居跡全景（西から）



744号住居跡貯蔵穴遺物出土状況（上から）



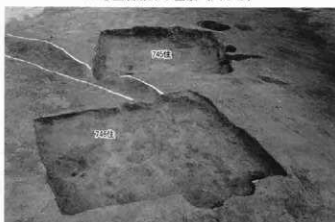
744号住居跡窟 (西から)



744号住居跡床下全景 (西から)



745号住居跡全景 (南から)



745・746号住居跡床下全景 (南から)



745号住居跡全景 (南から)



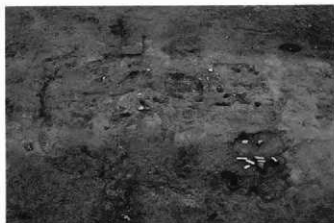
746号住居跡南壁面付近遺物出土状況 (南から)



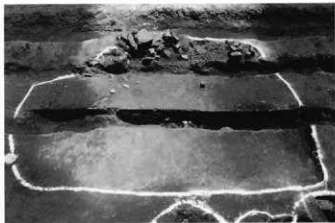
746号住居跡床下全景 (西から)



749号住居跡全景 (東から)



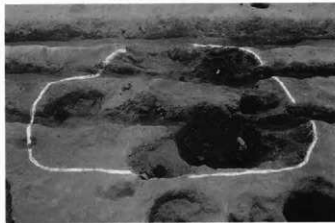
20号住居跡全景 (西から)



213号住居跡全景 (西から)



213号住居跡竈 (西から)



213号住居跡床下全景 (西から)



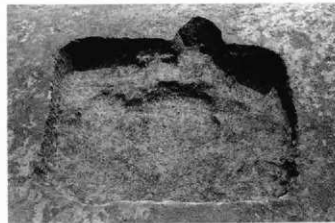
366号住居跡全景 (西から)



366号住居跡遺物出土状況 (西から)



366号住居跡竈 (西から)



366号住居跡床下全景 (西から)



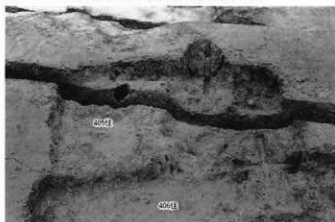
405号住居跡全景（西から）



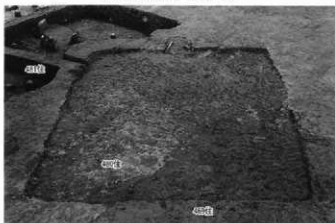
405号住居跡遺物出土状況（北から）



405号住居跡竈（西から）



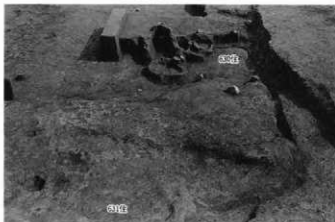
405号住居跡床下全景（西から）



480号住居跡全景（西から）



480号住居跡竈（西から）



630号住居跡全景（西から）



630号住居跡竈（西から）





688号住居跡全景 (南から)



688号住居跡床下全景 (南から)



27号住居跡全景 (南から)



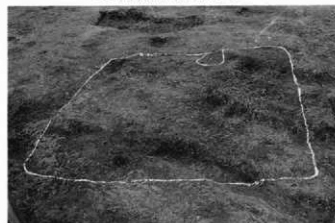
103号住居跡全景 (西から)



192号住居跡全景 (西から)



195号住居跡全景 (南から)



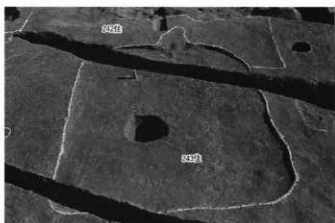
204号住居跡全景 (西から)



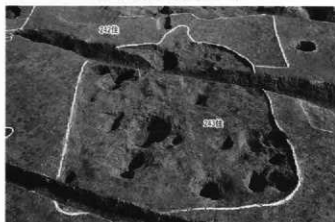
215号住居跡全景 (西から)



242号住居跡全景（西から）



243号住居跡全景（西から）



243号住居跡床下全景（西から）



279号住居跡全景（西から）



301号住居跡全景（南から）



497号住居跡全景（西から）



569号住居跡全景（西から）



597号住居跡全景（南から）



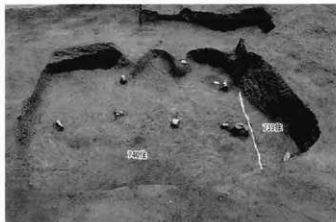
712号住居跡全景 (西から)



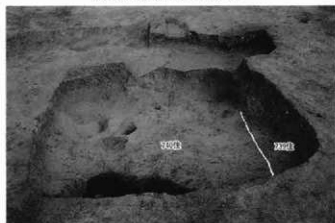
712号住居跡窟 (西から)



735号住居跡全景 (西から)



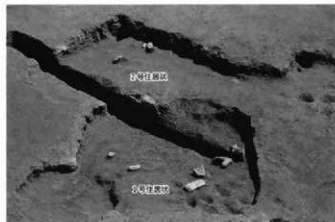
740号住居跡全景 (西から)



740号住居跡床下全景 (西から)



743号住居跡全景 (西から)



1・2号住居状遺構 (西から)



4号住居状遺構 (南から)



6号住居状遺構 (西から)



10号住居状遺構 (西から)



11号住居状遺構 (西から)



13号住居状遺構 (南から)



17号住居状遺構 (西から)



23号住居状遺構 (西から)



327号住居覆土を掘り込んで作られた24号住居状遺構 (南から)



24号住居状遺構 (南から)



群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告第220集

## 矢田遺跡Ⅶ

関越自動車道(上越線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第45集

平成9年3月18日印刷  
平成9年3月25日発行

編集/群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話(0279)52-2511(代表)

発行/群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村大字下箱田784-2  
電話(0279)52-2511(代表)

印刷/朝日印刷工業株式会社